令和4年度（2022年度）

講義概要

医学部看護学科

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

国立大学法人
滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

■目　次■

【講義概要】

第１学年

一般教養科目Ⅰ	生物学	1
	生命活動の物理学	4
	生命活動の化学	6
	ランダム現象の数理	8
	生涯発達論	10
	情報科学	12
	アカデミック・スキル	16
一般教養科目Ⅱ	現代社会と科学	18
	社会学	20
	医療社会学	22
	芸術学	23
	歴史学	25
	心理学	27
	文化人類学	29
	スポーツ科学実践	31
	医療イノベーションの基礎	32
外国語科目	英語Ⅰa	35
	英語Ⅰb	37
	英語実習Ⅰa	39
	英語実習Ⅰb	41
	ドイツ語a	43
	ドイツ語b	45
	フランス語a	47
	フランス語b	49
	中国語a	51
	中国語b	53
専門基礎科目Ⅰ	解剖生理学Ⅰ	55
	解剖生理学Ⅱ	57
	病理学	59
	感染症学・免疫学	60
	医学概論	62
専門看護科目Ⅰ	フィジカルアセスメント	64
	看護学概論Ⅰ	67
	看護学概論Ⅱ	69
	看護過程Ⅰ	71
	基礎看護技術Ⅰ	73
	基礎看護技術Ⅱ	76
専門看護科目Ⅲ	医療の倫理Ⅰ	79
専門看護科目実習	早期体験実習	81
	基礎看護学実習Ⅰ	84

第２学年

一般教養科目Ⅰ	臨床心理学	87
一般教養科目Ⅱ	教育学	89
	法学	91
	家族社会学	93

	哲学	95
	地域文化論	97
	地域論	99
	運動科学実践	101
	基礎科学研究	102
	人間科学研究	104
専門基礎科目Ⅰ	生化学・栄養学	106
	薬物治療学	108
	診断と治療Ⅰ	110
	診断と治療Ⅱ	112
	病態生理学特論	114
専門基礎科目Ⅱ	保健医療行政論	116
	社会福祉・社会保障論	118
	地域保健看護学	120
	地域ケアシステム論	122
	疫学	124
	保健統計学	126
	環境保健学	128
専門看護科目Ⅰ	看護過程演習Ⅰ	129
	看護過程演習Ⅱ	131
	基礎看護技術演習Ⅲ	133
専門看護科目Ⅱ	成人保健看護学概論	136
	成人保健看護学各論	138
	老年保健看護学概論	140
	老年保健看護学各論	142
	小児保健看護学概論	144
	小児保健看護学各論	146
	ウィメンズヘルス学	148
	母性看護学概論	150
	母性看護学演習	152
	精神保健看護学概論	156
	精神保健看護学各論	158
	在宅看護学概論	160
	在宅看護学各論	162
専門看護科目Ⅲ	医療の倫理Ⅱ	164
	看護学研究方法論	166
専門看護科目実習	基礎看護学実習Ⅱ	168

第３学年

外国語科目	医療英語	170
専門看護科目Ⅰ	看護倫理	172
	看護管理論	174
専門看護科目Ⅱ	成人保健看護学演習Ⅰ	176
	成人保健看護学演習Ⅱ	179
	老年保健看護学演習	182
	小児保健看護学演習	186
	精神保健看護学演習	189
	在宅看護学演習	192
	地域医療展開論	194
	地域医療展開論演習	196

専門看護科目Ⅲ	看護実践特別演習	198
専門看護科目実習	母性看護学実習	200
	小児保健看護学実習	202
	成人保健看護学実習Ⅰ	204
	成人保健看護学実習Ⅱ	205
	老年保健看護学実習Ⅰ	206
	老年保健看護学実習Ⅱ	207
	精神保健看護学実習	208
	在宅看護学実習	209
	統合看護学実習	210
	地域医療展開論実習Ⅰ	211
保健師課程	公衆衛生看護活動論Ⅰ	212
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	214
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	215
	公衆衛生看護学演習	216
助産師課程	助産学概論	218
	新生児学	220
	助産診断・技術学Ⅰ	222
	周産期病態学Ⅰ	225
	周産期病態学Ⅱ	227
保健師・助産師課程	健康教育演習	229

第４学年

専門看護Ⅲ	法医看護学	231
	看護統合実践特論	233
	看護学研究	235
	国際看護実践	236
専門看護科目実習	母性看護学実習	237
	小児保健看護学実習	239
	成人保健看護学実習Ⅰ	241
	成人保健看護学実習Ⅱ	242
	老年保健看護学実習Ⅰ	243
	老年保健看護学実習Ⅱ	244
	精神保健看護学実習	245
	在宅看護学実習	246
	統合看護学実習	247
	地域医療展開論実習Ⅱ	248
保健師課程	公衆衛生看護学実習Ⅰ	249
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	250
助産師課程	助産診断・技術学Ⅱ	251
	助産学実習	254
	マタニティサイクル支援実習	255
	ウィメンズヘルス実習	256

第１学年

生　物　学

1　担当教員名

教　　授　平田多佳子（生命科学講座（生物学））
助　　教　里岡大樹（生命科学講座（生物学））
助　　教　岡村永一（動物生命科学研究センター）
特任助教　武藤真長（動物生命科学研究センター）
特任助教　松本翔馬（動物生命科学研究センター）

2　配当学年等

第１学年　前期　２単位

3　学修目標

ヒトを含め多くの生物は、１つの細胞から成長、分裂を繰り返してできた細胞の共同体である。「生命とは何か」、「生物としてのヒトとは何か」を考えるために、生命の基本単位である「細胞」を理解することから始め、生命活動の設計図である遺伝情報の維持や発現のしくみについて学習する。そして、組織、器官、個体、集団といった視点からも生物を捉える。これらの学習を通して、個々の生物を特徴づける多様性とすべての生物に共通する恒常性を対照させながら、生命体を統一的に理解し、「生物としてのヒト」の理解につなげることを目標とする。授業の目標項目を以下に示す。

１）生物の特徴、分類、誕生を概説できる。
２）細胞の基本構造と機能を概説できる。
３）生物を構成する物質の種類と機能を説明できる。
４）栄養の摂取と代謝の過程、酵素の機能と調節を説明できる。
５）遺伝様式、ゲノムと染色体、DNAの複製と修復を概説できる。
６）転写と翻訳の過程を説明できる。
７）細胞周期と細胞分裂の過程を説明できる。
８）生物の増殖様式と動物の発生過程を概説できる。
９）動物の組織の種類、その構造と機能を説明できる。
10）器官と器官系を概説できる。
11）ホルモンによる生体調節機構を説明できる。
12）神経系の構成、神経の伝導と伝達を説明できる。
13）自然免疫と獲得免疫の機構を説明できる。
14）微生物の種類とその感染症を概説できる。
15）癌の特徴と原因、老化の過程を概説できる。
16）生物学を応用した技術・医療を概説できる。

4　授業概要

生命の基本単位である細胞について、その構造と機能を学習し、生命体を構成する物質や物質代謝の基本を学ぶ。次に、遺伝の法則について学習し、生命の設計図である遺伝子の複製、発現やその調節について学ぶ。さらに、組織・器官といった生物の構成単位についても学び、それをふまえて、ホルモン、神経系による調節や恒常性維持といった個体レベルでの調節や生体防御機構の基本を学習する。また、癌や老化のメカニズム、生物学を応用した技術や医療についても学習する。

１コマの授業に対して、60分の予習（教科書該当箇所の通読）と60分の復習（レポート課題）を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり60分の復習をすることが望まれる。

5　授業内容

前半（第２回～第７回）では主に、細胞、分子、遺伝、代謝など生物学としての基礎的な内容を学ぶ。後半（第８回～第14回）では主に、発生や個体レベルでの調節について学ぶ。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月15日㈮	2	里　岡 平　田	イントロダクション 生物学の基礎 （教科書１章）	講義の概要 生物とは	看2・看3
第２回	令和４年４月22日㈮	2	里　岡	細胞（教科書２章）	細胞の構造、細胞小器官、細胞の運動	看2・看3
第３回	令和４年５月６日㈮	2	〃	生物を構成する物質 （教科書３章）	物質の構成単位、生体物質の分類と性質	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第４回	令和４年５月20日㈮	2	里　岡	栄養と代謝 （教科書４章）	栄養の摂取、代謝、酵素、 エネルギー代謝、代謝経路	看2・看3
第５回	令和４年５月27日㈮	2	〃	遺伝とDNA （教科書５章）	遺伝現象、ゲノムと染色体、 DNAの複製と修復	看2・看3
第６回	令和４年６月３日㈮	2	〃	遺伝情報の発現 （教科書６章）	転写とRNA、転写調節、タンパク質合成	看2・看3
第７回	令和４年６月10日㈮	2	〃	細胞の増殖と死 （教科書７章）	細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、 細胞の死	看2・看3
第８回	令和４年６月17日㈮	2	〃	生殖、発生、分化 （教科書８章）	生物の増殖様式、動物の発生、分化・再生	看2・看3
第９回	令和４年６月24日㈮	2	〃	動物の組織と器官 （教科書９、10章）	筋肉、血液、器官系 （消化系、循環系、呼吸系、排出系、感覚系）	看2・看3
第10回	令和４年７月１日㈮	2	〃	内分泌系と 神経系による生体調節 （教科書11、12章）	内分泌器官とホルモン、 細胞内情報伝達、神経系の構成、 神経興奮の伝導、神経間伝達	看2・看3
第11回	令和４年７月８日㈮	2	〃	免疫系による生体防御 （教科書13章）	自然免疫、獲得免疫、医療における免疫	看2・看3
第12回	令和４年７月15日㈮	2	武　藤	微生物と感染症 （教科書14章）	微生物の種類、細菌、真核微生物、ウイルス	看2・看3
第13回	令和４年７月22日㈮	2	岡　村	癌と老化 （教科書15章）	癌の特徴・原因・生成と進展、老化と寿命	看2・看3
第14回	令和４年７月29日㈮	2	松　本	生物学の医療への応用 （教科書16章）	バイオテクノロジー、再生医療	看2・看3
第15回	令和４年８月１日㈪	2	里　岡	復習	復習	看2・看3
第16回	令和４年８月５日㈮	2	里　岡 平　田	試　験 （11：00～12：30）		①
第17回	令和４年９月21日㈬	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式をとる。プロジェクターを使い、教科書に沿って進める。毎回レポート課題を課し、その提出をもって授業への出席とする。また、各回の授業時までに教科書の該当箇所を読んでおくこと。

7　評　価　方　法

目標項目の全範囲を対象とした筆記試験を学期末に行う。筆記試験を85％、レポートを15％として評価し、合計が60％以上を合格とする。

8　テ　キ　ス　ト

【教科書】

「医療・看護系のための生物学　改訂版」田村隆明 著　裳華房

9　テキストISBN番号

978-４-7853-5233-２

10　参考文献

【参考書】

「Essential 細胞生物学　原書第５版」中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇 監訳　南江堂

11　オフィスアワー（授業相談）

質問や相談があれば、随時受け付けます。一般教養棟３階生物学教員室に来室するかメール等で連絡してください。

12　学生へのメッセージ

生物学は専門課程で履修するすべての科目の基本となる科目です。授業を通して生物学の基本概念と大局観を身につけ、自分自身でしっかりした生物学の基盤を作ってください。「生物としてのヒト」についてじっくり考えてみましょう。

13　授業用E-mail

hsatooka@belle.shiga-med.ac.jp

生命活動の物理学

1　担　当　教　員　名

教　　授　目　良　　裕（生命科学講座（物理学））

2　配　当　学　年　等

第１学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

人体には重力が働いている。それだけではなく、内部にテコを備えていてこれを利用して効果的な動きを可能にしている。このような人体に働く力について理解を深め、負担の少ない身体の動かし方を考える。また、血液の流れ、熱、音や光の感覚器官など、人体に関わる物理現象を理解する。

医療の場では、様々な計測機器や治療用機器が使用される。計測機器に関しては、何（どのような物理量）を、どのような測定原理で計測しているのかを理解する。治療用機器に対しても同様の理解を深めることを目標とする。

・項目別学習目標

⑴ 運動の法則、および運動方程式を理解し、応用できる。
⑵ 様々な運動を記述できる。
⑶ 回転運動を記述できる。
⑷ エネルギーと運動量を説明でき、応用できる。
⑸ 摩擦がある運動を説明できる。
⑹ 圧力を理解し、説明できる。
⑺ ベルヌーイの定理を理解し、応用できる。
⑻ 熱、仕事の概念を理解し、説明できる。
⑼ 体温調節に関係する熱的現象を説明できる。
⑽ 音の三要素、超音波、ドップラー効果を説明できる。
⑾ 光の反射、屈折、結像公式を説明できる。
⑿ 光の干渉・回折現象を説明できる。
⒀ クーロンの法則を説明できる。
⒁ 電場、電位の概念を説明できる。
⒂ オームの法則を説明できる。
⒃ コンデンサーの原理、性質を説明できる。
⒄ ビオ・サバールの公式を説明できる。
⒅ 電磁誘導、ファラデーの法則を理解し、説明できる。

4　授　業　概　要

医療の場にある物理現象を理解することを目的として、力学（圧力を含む）、熱、音・光、電磁気の基礎を学ぶ。また、授業の最後に行う演習課題で実際に問題を解くことにより、更に理解を深める。

１コマの授業に対して、講義資料を用いた30分の予習と演習課題を含む90分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり60分の復習を行うことが望まれる。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月11日㈪	3	目　良	力と運動⑴	力、力のつり合い、運動方程式	看2・看3
第２回	令和４年４月18日㈪	3	〃	力と運動⑵	速度、加速度、等速直線運動、落下運動、円運動	看2・看3
第３回	令和４年４月25日㈪	3	〃	回転運動	回転運動とトルク、テコの原理	看2・看3
第４回	令和４年５月２日㈪	3	〃	エネルギーと運動量⑴	エネルギー、運動量	看2・看3
第５回	令和４年５月９日㈪	3	〃	エネルギーと運動量⑵	摩擦力、牽引	看2・看3
第６回	令和４年５月16日㈪	3	〃	圧力⑴	気体の圧力、大気圧、陰圧、陽圧、静水圧	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第７回	令和４年５月23日㈪	3	目　良	圧力(2)	ベルヌーイの定理、血圧	看2・看3
第８回	令和４年５月30日㈪	3	〃	熱エネルギーと温度	仕事と熱、熱機関、温度計、比熱、融解、蒸発	看2・看3
第９回	令和４年６月６日㈪	3	〃	体温調節	熱産生、放熱、平衡温、体温計	看2・看3
第10回	令和４年６月13日㈪	3	〃	波動(1)	波動、可聴音、超音波	看2・看3
第11回	令和４年６月20日㈪	3	〃	波動(2)	光（反射、屈折、レンズ、医療への応用）	看2・看3
第12回	令和４年６月27日㈪	3	〃	波動(3)	光（干渉、回折）	看2・看3
第13回	令和４年７月４日㈪	3	〃	電磁気(1)	静電気、電流、オームの法則、電力	看2・看3
第14回	令和４年７月11日㈪	3	〃	電磁気(2)	コンデンサー、生体の電気現象	看2・看3
第15回	令和４年７月25日㈪	3	〃	電磁気(3)	磁気、電磁誘導、コイル	看2・看3
第16回	令和４年８月８日㈪	2	〃	試　験 （11：00～12：30）		①
第17回	令和４年９月20日㈫	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、板書およびプロジェクターによる説明を主とし、WebClassに資料を掲載する。講義中もしくは終了後に簡単な演習問題を出題する。

7　評　価　方　法

学期末に行う筆記試験を80%、演習課題提出を20%として評価する。場合に応じてレポートを課すこともある。

8　テ　キ　ス　ト

参考書：ベッドサイドを科学する ―看護に生かす物理学―　平田雅子著　学研
　　医療系のための物理　佐藤幸一・藤城敏幸著　東京教学社

9　参　考　文　献

教科書：医療系の基礎としての物理　廣岡秀明ほか、学術図書出版

10　オフィスアワー（授業相談）

一般教養棟４階廊下のホワイトボードに掲示する。掲示された日程以外を希望する場合及び掲示が無い場合は、口頭かメール（mera@belle.shiga-med.ac.jp）で相談すること。

11　授業用E-mail

mera@belle.shiga-med.ac.jp

生 命 活 動 の 化 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　古 荘 義 雄（生命科学講座（化学））　　非常勤講師
高 橋 知 子

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

医療の世界は、人体を構成する物質をはじめとして、取り扱う薬品や素材などの無数の化学物質に取り囲まれています。さらに日進月歩の医療分野では、医療者が自ら新たな知識を取り入れて消化し、専門分野で役立てていく力が求められています。本講義では、基礎的な化学知識を生命活動や生体成分、薬品、栄養、環境などの分野と密に関連させて理解を進めていくことにより、化学的視点を通した人間の生命活動への興味を喚起し、自ら継続して学んでいくための土台を作ることを目標としています。

4 授 業 概 要

本講義では、医療分野に必要となる基礎的な化学知識を厳選して学習し、さらに様々な話題を取り入れながら生命活動や医療、身のまわりの事象との繋がりを重視して授業を進めます。また、演示実験による実物の提示や分子模型、画像などを活用して、多面的な理解を深めることで講義内容の定着を図ります。

１コマの授業に対して、30分の予習（教科書の該当箇所を読む）と90分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり60分の復習を行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

第１回目のガイダンスにて本講義の目標・進め方を提示します。前半（第１回から第７回）で空気の化学、水の化学、体液の調節機能および体内での酸化還元反応について学んでいきます。第８回で復習を兼ねた中間試験を課し、学習内容の定着を図ります。後半（第９回から第15回）は、生命活動に関連する有機化合物の基礎を学び、生体関連分子・医用系化合物などの性質について理解を深めていきます。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	1	高　橋	ガイダンス 空気の化学１	この授業の目標・進め方 空気の構成成分を考える －窒素、不活性ガスの話	看2・看3
第２回	令和４年４月19日㈫	1	〃	空気の化学２	なぜ、息をするのか？ －酸素、二酸化炭素の話	看2・看3
第３回	令和４年４月26日㈫	1	〃	水の化学１	水の変化 －化学反応とは？　化学反応式　モルの考え方	看2・看3
第４回	令和４年５月10日㈫	1	〃	水の化学２	水分子を知る －構造、化学結合、溶解の化学	看2・看3
第５回	令和４年５月17日㈫	1	〃	水の化学３	体液の調節機能 －浸透圧　溶液の濃度　単位	看2・看3
第６回	令和４年５月24日㈫	1	〃	酸と塩基	体液の調節機能 －中和　pH　強弱　緩衝溶液	看2・看3
第７回	令和４年５月31日㈫	1	〃	酸化と還元	体内の酸化還元反応	看2・看3
第８回	令和４年６月７日㈫	1	〃	中間試験		看2・看3
第９回	令和４年６月14日㈫	1	〃	有機化学の基礎１	有機化合物とは？ －脂肪族炭化水素	看2・看3
第10回	令和４年６月21日㈫	1	〃	有機化学の基礎２	お酒を飲むとどうなるか？ －官能基とその反応	看2・看3
第11回	令和４年６月28日㈫	1	〃	有機化学の基礎３	医薬品を中心に －芳香族炭化水素　異性体と薬	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第12回	令和４年７月５日㈫	1	高　橋	生体の構成成分１	核酸と脂質 －DNAとRNA　中性脂肪とコレステロール	看2・看3
第13回	令和４年７月12日㈫	1	〃	生体の構成成分２	アミノ酸とタンパク質　－酵素と触媒反応	看2・看3
第14回	令和４年７月19日㈫	1	〃	生体の構成成分３	糖類　－体内の糖類とその代謝	看2・看3
第15回	令和４年７月26日㈫	1	〃	合成高分子化合物	有機医療用材料　－プラスチックと合成繊維	看2・看3
第16回	令和４年８月２日㈫	1	〃	試験 （９：00～10：30）		①
第17回	令和４年９月20日㈫	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

主にプロジェクター―を用いて授業を進行し、講義ノートとして配布するプリントに内容を記録する。授業の進捗状況により、講義内容が前後する場合がある。

7　評　価　方　法

基本的に、中間・最終試験の点数+出席点の総合点数で評価し、60点以上で合格とする。また、授業中に出席確認を兼ねた小テストを実施し、成績評価の参考にする。ただし、特別な理由のない欠席が授業回数の半分を超える場合には、試験の受験資格を与えない。

8　テ　キ　ス　ト

コ・メディカル化学 －医療・看護系のための基礎化学－, 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二 共著

9　参　考　文　献

看護系で役立つ化学の基本，有本淳一・西沢いづみ著，化学同人
系統看護学講座「化学」，杉田良樹著，医学書院

10　オフィスアワー（授業相談）

毎週火曜日の11：50～12：50を基本としますが、それ以外の時間帯でも随時対応します。その際は、電話、メール等で事前にアポイントを取って下さい。

11　学生へのメッセージ

化学は今後学んでいく様々な専門科目の理解の土台となるものですが，既習の化学で苦手意識を持っているという声も多く聞かれます。今後の専門分野の学習との橋渡しとなるよう、分野横断的な話題を広く取り入れて進めますので、ぜひ興味を持って取り組んで欲しいと思います。

ランダム現象の数理

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　川　北　素　子　（生命科学講座（数学））

2　配　当　学　年　等

第１学年　前期　２単位

3　学　　修　　目　　標

複数個の事象や数値の集合がデータである。看護研究で得られたデータを解析することは、エビデンスを得るために大切である。本講義は、

１．論理的思考・数学的方法に慣れるようにする。

２．実験・観測・アンケートなどで得られたデータを、分かり易く使い勝手が良いように整理できるようにする。

３．多分正しい・正しいかも知れない、などの不完全な情報に基づいて、もっとも合理的な意思決定が出来るための数学的基礎を作る。同時に、からだの生化学・栄養学・環境論等を理解する基礎を整えることを目的とする。

なおデータのねつ造、改ざん、盗用は研究活動の不正行為という認識に立ち、個人情報を含むデータを扱う場合は、個人情報保護、プライバシー保護に留意すること。

4　授　　業　　概　　要

実験や観測で得られたデータの表現からスタートする。数理科学の基礎である１変数関数、線形代数を学びながら、確率空間、確率変数の定義と基本的性質、二項分布、正規分布等の種々の分布の性質、計算法などを経て、推測統計の基礎理論へと進む。 実際のデータを例示しながら講述と演習を行う。

１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。予習では、教科書や参考書を読み疑問点を整理する。復習では、演習問題を積極的に解くことで、データを活用する力がつく。

5　授　　業　　内　　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月15日㈮	1	川　北	授業計画、導入	棒グラフ、折れ線グラフ、ヒートマップなどのデータ表現、チャート化によるデータの図表表現を学ぶ。	看2・看3
第２回	令和４年４月22日㈮	1	〃	標本データの記述	データの種類として量的変数と質的変数があり、ヒストグラムによりデータの分布が表現できる。代表値として平均値、中央値、最頻値があるが、平均値と最頻値は等しくないことが多い。	看2・看3
第３回	令和４年５月６日㈮	1	〃	１変数関数	１変数関数の微分・積分、指数関数、対数関数を学ぶ。	看2・看3
第４回	令和４年５月20日㈮	1	〃	確率	集合、ベン図、順列、組み合わせ、事象の確率、条件つき確率を定義する。	看2・看3
第５回	令和４年５月27日㈮	1	〃	演習	具体的なデータからグラフを作成し、データの分布や代表値を求める。	看2・看3
第６回	令和４年６月３日㈮	1	〃	離散型確率分布	離散型確率分布について、期待値、データのばらつきである分散、標準偏差を定義し、具体的計算できるようにする。	看2・看3
第７回	令和４年６月10日㈮	1	〃	連続型確率分布	連続型確率分布について、期待値、データのばらつきである分散、標準偏差を定義し、具体的計算できるようにする。	看2・看3
第８回	令和４年６月17日㈮	1	〃	二項分布	二項分布の定義や具体例の計算を行う。	看2・看3
第９回	令和４年６月24日㈮	1	〃	正規分布	正規分布の定義や性質を紹介する。	看2・看3
第10回	令和４年７月１日㈮	1	〃	正規分布の演習	正規分布のデータから確率などを計算する。	看2・看3
第11回	令和４年７月８日㈮	1	〃	母集団と標本抽出	全数調査、国勢調査、標本調査、母集団からの無作為抽出する方法を学ぶ。	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第12回	令和４年７月15日㈮	1	川　北	標本平均の分布	中心極限定理（一般的な条件のもとで、標本が大きくなると標本平均が正規分布に近づく。）を学び、演習を行う。	看2・看3
第13回	令和４年７月22日㈮	1	〃	線形代数	ベクトル、行列、行列の基本的な演算を定義して、その応用を紹介する。	看2・看3
第14回	令和４年７月29日㈮	1	〃	相関	線形相関、相関係数、散布図を定義して、それらを用いて２種類のデータの間の関連を調べる。	看2・看3
第15回	令和４年８月１日㈪	1	〃	演習	実際のデータを使って、標本分布や相関係数などの計算する。	看2・看3
第16回	令和４年８月５日㈮	1	〃	定期試験 （９：00～10：30）		①
第17回	令和４年９月21日㈬	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

対面授業に加え、グループ学習も取り入れる。グループ学習では、提示された具体的なデータを可視化したり、どのような分布に近いか議論して、分析結果をレポートにまとめる。またeラーニングによりレポート回収を行う。

7　評　価　方　法

レポート30%、定期試験70%の合計が60%以上を合格とする。

8　テ　キ　ス　ト

「確率統計序論　第三版」東海大学出版部、道家　暎幸，土井　誠，山本　義郎著

9　テキストISBN番号

978-４-486-02124-７

10　参考文献

「データサイエンスの基礎」講談社、濱田悦生著
「データサイエンスのための数学」講談社、椎名洋、姫野哲人、保科架風著

11　オフィスアワー（授業相談）

随時相談に応じます。

12　学生へのメッセージ

ICT（情報通信技術）の発展に伴って膨大なデータが蓄積され、データそのものが価値を持つ時代になりました。数理・データサイエンスはあらゆる学問や産業分野に応用される可能性を持っています。看護学科の皆さんは、看護研究するときの大切な基礎理論となりますので、是非授業をしっかりと理解し、グループ学習では積極的にデータ解析を行ってほしいと思います。分からないことがあったら、いつでも質問してください。

13　授業用URL

http://www.shiga-med.ac.jp/~kawakita/lectures.html

生 涯 発 達 論

1 担 当 教 員 名

准 教 授　小 島 隆 次（医療文化学講座（心理学））

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

本授業は、乳幼児期から高齢期までの人の発達過程や変化の諸相に関する発達心理学における基礎知識を習得することを第一義とします。また、受講生が本授業で課される様々な課題を適切にこなすことで、論理的に考え、批判する能力が養われ、習得した知識を日常生活でどのように応用していくのかを考えられるようになることも目指します。

そして、上記目標の達成に伴い、結果的に受講生が以下の目標を達成できるようになることを学習目標とします。

１．発達心理学諸分野の基礎知識を身に着けること
２．発達心理学諸分野の基礎知識を様々な日常の場面で活用する態度を身に着けること
３．様々な事象に対して、批判的・発展的に考える態度を身に着けること

4 授 業 概 要

本授業は、人の生涯発達という視点を加味して、発達心理学において扱われる主要なトピック（個々のテーマなどについては授業スケジュールを参照してください）を幅広く教授します。また、授業を受講することで、受講生が論理的に考え、批判する能力を養いつつ、論理的・批判的思考と日常における人の思考・行動特性との関係性について考察する契機を得られるようにしたいと思います。

【準備学修等について】
文科省の大学設置基準に基づき、他の授業と同様に本授業においても、１コマ（90分）の授業に対して180分程度の課外学習（予復習）が想定されていますが、本授業では指定の授業課題に取り組むことによって、基本的にこの基準はクリアされるようにしています。

5 授 業 内 容

授業内容は以下の授業内容の各授業における内容を参照してください。基本的には、一般的な生涯発達論や発達心理学分野で扱われることの多いトピックを紹介する内容になります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月13日㈬	2	小　島	ガイダンス	本授業の受講方法や基本方針などを説明。	看2・看3
第２回	令和４年４月20日㈬	2	〃	発達理論概説	心理学における発達概念と代表的な発達理論を概説。	看2・看3
第３回	令和４年４月27日㈬	2	〃	遺伝と環境	心理学や行動科学分野における遺伝や環境の扱いについて概説。	看2・看3
第４回	令和４年５月11日㈬	2	〃	乳児期の認知能力	胎児期を含め、乳児期の認知能力の発達的変化について概説。	看2・看3
第５回	令和４年５月18日㈬	2	〃	幼児期の認知能力	幼児期の認知能力の発達的変化について概説。	看2・看3
第６回	令和４年５月25日㈬	2	〃	児童期の認知能力	児童期の認知能力の発達的変化について概説。	看2・看3
第７回	令和４年６月１日㈬	2	〃	乳児期の社会性	乳児期の他者との関わり方の発達的変化について概説。	看2・看3
第８回	令和４年６月８日㈬	2	〃	幼児期の社会性	幼児期の他者との関わり方の発達的変化について概説。	看2・看3
第９回	令和４年６月15日㈬	2	〃	児童期の社会性	児童期の他者との関わり方の発達的変化について概説。	看2・看3
第10回	令和４年６月22日㈬	2	〃	中高年期の認知能力	中高年期における認知能力の変化について概説。	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第11回	令和４年６月29日㈬	2	小　島	中高年期の社会性	中高年期における他者との 関わり方の変化について概説。	看2・看3
第12回	令和４年７月６日㈬	2	〃	青年期の諸問題	青年期において見られる自我同一性の問題や 他者・社会との関わりに関する心理的問題に ついて概説。	看2・看3
第13回	令和４年７月13日㈬	2	〃	発達障害	発達障害について概説。	看2・看3
第14回	令和４年７月20日㈬	2	〃	死生観	生死の意味づけの意味について考える。	看2・看3
第15回	令和４年７月27日㈬	2	〃	まとめ	授業で扱った内容全般を振り返りつつ、 適宜受講生へのフィードバックを行う。	看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はオンデマンドでのオンライン受講を基本的な授業形式とします。
授業資料や授業課題については、授業webサイトや授業課題システムから、電子的に配布・実施します。
受講生には、授業開始前に授業関連情報をメールあるいはWeb Classで通知しますので、情報を確認して下さい。

毎回の授業において、受講生は、提供された授業資料の内容を理解した上で、所定の授業課題に取り組むというのが、基本的な流れになります。

7　評　価　方　法

評価は、単位認定と単位評価の二段階で行います。

まず、単位認定に際しては、各授業で必要に応じて課される授業課題に対する得点（合計100点満点）で判断をします。60点以上で単位認定とします。

次に、認定された単位に対して相対評価を行い、これを最終評価とします。

授業課題の内容・回数・配点など、評価方法の詳細等については、初回授業（ガイダンス）及び授業用webサイトで配布する授業ガイドでより詳細に説明しますので、受講予定の方は、初回授業に参加するか、授業ガイドを必ず手に入れてください。

8　テ　キ　ス　ト

特に指定しない。修学に必要な資料は全てwebで配布します。

9　参　考　文　献

配布資料やwebにて適宜示します。

10　オフィスアワー（授業相談）

オフィスアワー情報は授業時に通知します。もちろん、個別にメール等でアポイントメントを取っていただければ、適宜対応します。

11　学生へのメッセージ

教授活動の迅速かつ適切な形成的改善のために、単位認定と評価の方法を含めた本授業における様々な規則等は、原則としてシラバス記載の内容よりも、授業webサイトを通じて配布される様々な文書に記される規定を最優先としますので、必ず授業webサイトを定期的に確認するようにしてください。また、本授業の単位認定に関しては、いわゆる救済策の類は一切存在しませんので、この点も注意して下さい。

12　授業用URL

http://kojima-lab.net/lecture_etc/index.html

13　授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

情 報 科 学

1 担 当 教 員 名

准 教 授　本 山 一 隆（情報総合センター）
教　　授　芦 原 貴 司（情報総合センター）
助　　教　重 歳 憲 治（マルチメディアセンター）
特任助教　門 田 陽 介（情報総合センター）
特任助教　福 江　　慧（医学・看護学教育センター）

非常勤講師
小 森　　優（地域医療機能推進機構　滋賀病院　顧問（非常勤））

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

・一般学習目標

医学学習に必要となる情報リテラシーおよび研究や臨床での活用につながる情報技術の習得、ならびにそれらの基礎となる概念の理解。

・個別学習目標

⑴ コンピュータの構造と動作の概要を理解し、基本的な操作が行える
⑵ オペレーティングシステムの役割とファイルの概念を理解し、操作できる
⑶ ネットワークの基本動作とインターネットの成り立ちを理解し、情報通信に必要な基本操作が行える
⑷ インターネット上で最も活用されているWeb（ホームページ）や電子メールの仕組みを理解し、情報の収集と発信、コミュニケーションの手段として活用できる
⑸ 情報活用に際して起こりうるセキュリティ面での危険性を理解して対応し、日常だけでなく、医療情報管理や個人情報保護の観点から発生しうる問題がわかる
⑹ 文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトウェアなどの日常作業に用いるアプリケーションが活用できる
⑺ これらのアプリケーションに共通する「オブジェクト」の概念を理解し、各局面で応用できる
⑻ コンピュータにおける静止画、動画データの基本構造と処理過程を理解し、基本的なデータ操作が行える
⑼ 情報を処理する際のフロー（流れ）の考え方、表現法を理解し、小規模なプログラミングの経験を持つ
⑽ 医療における情報技術の活用状況を把握し、習得した知識との関連付けができる

4 授 業 概 要

医学分野における情報化の進展は、臨床現場においては電子カルテを始めとして業務の効率化や医療ミスを防ぐための有効な手段となっており、診療支援に欠くことのできないものになっている。また、研究分野でも、遺伝子、タンパク質を扱う分野にとどまらず情報技術は不可欠なものになっている。看護学を目指す者も、否応なくこうした領域のコンピューターシステムを扱わなければならなくなる。その際に、基本となる情報技術、情報科学の基礎を持っているか否かで、習得効率や有効活用のレベルが大きく異なる。勉学の面でも、爆発的な医学知識の増大は今後も続き、こうした医学知識の習得や、実践のための取捨選択を限られた時間に全うするには、情報を扱う技術が重要な役割を果たすことになる。

本講義「情報科学」では、臨床や医学研究、学習に用いられる情報技術の共通かつ必須の部分、いわゆるコンピュータリテラシーを一通り習得する。現在では、学校授業や日常生活でこれらを習得している可能性が高いので、早期に最低限のスキルに到達することを目的とする。講義では各人１台のコンピュータが割り当てられる。講義内容は毎回のトピックスの解説と実習で構成され、実践技術の実習を通して情報科学の基礎知識の理解を目的としている。また、単なるコンピュータ利用技術の習得にとどまらぬよう、実習課題などには医学医療を意識した題材を用いている。また、道具としてのコンピュータをより理解するため、プログラミングの学習も行う。ブラウザ上で動作し、簡易にプログラム作成ができるPythonを用いる。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。

5 授　業　内　容

下記の「授業内容」の内容に沿って講義、演習を行うが、進捗状況次第で順序や内容を変更することがある。
講義とは別にマルチメディアセンターが主催している講習会もあるので活用してほしい。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月５日㈫	4	芦原、本山、重歳、門田、福江、図書館、マルチメディアセンター職員	図書館・マルチメディアセンター合同ガイダンス ４月５日㈫ 15：00～17：00	学内でのネットワーク、コンピュータの利用に必要な最低限の手続きを行い、利用方法を学ぶ。（メールアドレス、パスワード設定、メール利用、学内PC利用など） A講義室、B講義室、顕微鏡実習室に集合すること。	臨3 MMC
第２回	令和４年４月12日㈫	2	芦原、本山 重歳、門田 福江	Introduction	学生生活で必要となる文書作成や表計算をはじめ、データサイエンスやAIにいたるまで、ICTは医学分野にとどまらず、我々の生活に深い関わりを持っている。 情報科学を学ぶ意義について確認するとともに、ファイルの概念や印刷方法などコンピュータ操作の基本を学ぶ。 学内の情報環境と利用方法、ルールについても説明する。	MMC
第３回	令和４年４月19日㈫	2	本山、重歳 門田、福江	文書作成	学生生活の中で多用されるワープロソフトによる文書作成の基本技術を学習する。その中で図形をはじめとする様々なオブジェクトの概念と操作法を学ぶ。	MMC
第４回	令和４年４月26日㈫	2	非常勤講師 小　森 （マルチメディアセンター） 図書館職員	図書検索システム入門	ネットワークを駆使して文献（図書や論文など）を手早く見つけ出す。図書館の効率的な利用方法やオンラインジャーナル、電子ブックについても解説する。	MMC
第５回	令和４年５月10日㈫	2	本山、重歳 門田、福江	図形描画 プレゼンテーション	分かりやすい図を添えることで、説得力のあるレポートやプレゼンテーションを作成することができる。図形描画をはじめとした、文書作成とスライド作成での応用技術を学ぶ。PDFファイルへの変換などについても触れる。	MMC
第６回	令和４年５月17日㈫	2	〃	データの分析と可視化（基礎編）	表計算ソフトウェアの概念、作表と自動計算、表データからのグラフ作成、グラフの基礎知識等を学ぶ。	MMC
第７回	令和４年５月24日㈫	2	〃	データの分析と可視化（応用編）	大量のデータを分析し、そこから有益な情報を導き出すデータサイエンスの基礎を学ぶ。集計データを扱う際の前処理（文字列加工）と初歩的な統計処理を試みる。	MMC
第８回	令和４年５月31日㈫	2	〃	画像処理	画像データの基本知識を学習する。画像の回転縮小や写真合成など簡単な画像処理を、医療画像を題材に実習する。	MMC
第９回	令和４年６月７日㈫	2	〃	動画処理の仕組みと加工	日常扱うことが多くなった動画データの基本知識と加工技術を習得する。	MMC
第10回	令和４年６月14日㈫	2	〃	インターネットの仕組み	インターネットが機能するための仕組み、メール、webの挙動と特性を学ぶ。	MMC

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第11回	令和４年６月21日㈫	2	本山、重歳 門田、福江	情報セキュリティ１	コンピュータウイルスやネットワーク・サーバへの不正侵入、フィッシングなど、現実に目の前にあるインターネット上の「脅威」について学習する。	MMC
第12回	令和４年６月28日㈫	2	〃	情報セキュリティ２	IPAが提供するビデオ教材による学習および擬似ウイルス感染による体験学習ほかを学ぶ。	MMC
第13回	令和４年７月５日㈫	2	芦　原	保健医療情報１	病院情報システムと看護のあり方について学ぶ。	MMC
第14回	令和４年７月12日㈫	2	〃	保健医療情報２	個人情報保護について学ぶ	MMC
第15回	令和４年７月19日㈫	2	本山、重歳 門田、福江	web（ホームページ）による情報発信	webの仕組みを理解し、ホームページを形作るHTMLを学習する。自己紹介のホームページ作成を通して、webの基本を学ぶ。	MMC
第16回	令和４年７月26日㈫	2	〃	AI技術の基礎	AI（人工知能）は、医療に限らず、現代社会の様々な分野で利用されている。AI技術についての基礎的な知識を身につける。	MMC
第17回	令和４年８月２日㈫	2	本　山	試　験 （11：00～12：30）		MMC
第18回	令和４年９月21日㈬	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		MMC

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義はマルチメディアセンター（MMC）演習室及びブラウジング室において、口述と実習を交えて進める。講義資料は全てeLearningサーバ（授業用URLを参照）に掲載されており、紙による講義資料は基本的に配布しない。資料は講義中に参照するほか、講義時間外でも参照し、予復習することができる。紙での資料を希望するものは、各自がプリンタで印刷すること。講義中はプロジェクタ映像と共に、机上のサブモニター上にも映像が提示され、スライドや実際の操作画面等が必要に応じて映し出される。

講義時間中に行う演習は、１人１台のコンピュータが割り当てられており、受講者自身による操作演習が課せられる。大部分の演習時間で講師以外に実習を補助する教員がつく。

各自のデータのためにファイルサーバ上に５GBの保存領域が割り当てられている。実習課題でもあるホームページなどは、ここに作成する。保管容量が不足する場合は、クラウドに各自のデータを退避させれば、自宅のコンピュータで利用することも可能である。なお、センター内ではプリンター印刷が一定量まで自由に利用できるよう用意されている。

実習が中心のため、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底した上で対面で実施することを想定しているが、感染拡大の状況によっては内容を変更してリモート配信を中心とすることもありえる。

7　評　価　方　法

各テーマ毎に、演習課題の提出、または小テストへの回答をeLearningシステム上で行う。回答に時間を要する課題については、宿題として課する場合がある。また、学期末には試験を行う。

成績評価は、演習課題、小テスト、宿題、学習態度等による平常点と期末試験（eLearningによる試験もしくは課題レポート）を統合して行う。

評価の割合は、期末試験を70%、平常点を30%とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義はスライドを基に進められる。講義レジメとしてスライド内容を毎回eLearningシステムに掲載する。スライドに書かれていない内容や不明点など書き残しながら、聴講すること。

特定の教科書は用いない。以下に参考文献をあげるので、必要に応じて参照されたい。これらを含めた参考図書は、図書館の開架書庫や演習室内の書架、センター事務室に置かれているので、利用すると良い。図書以外に参考になるホームページも多数あり、講義中に紹介する。

・コンピュータやその上で動く個々のプログラムの使い方については、巷にたくさんの本が出ているので、参考にすると良い。講義中の演習に用いるコンピュータ環境は、OSにWindows10、ワープロ、表計算、プレゼンテーション作成にMicrosoft Office2016、動画加工にムービーメーカー、WebブラウザにChromeやFirefoxなどからなっている。
　これらについての参考書籍が図書館や演習室書架に置かれているので、必要に応じて読むと良い。

9　参　考　文　献

・基礎的な情報科学の参考書

情報理論や計算機の構造などの情報科学の基礎については以下の２冊を紹介しておく。これらは情報科学の基礎を広く扱ってるが、医学部基礎教養としてはやや高度な内容なので、講義内容以上に学習したい場合に参考にすると良い。

八村広三郎：計算機科学の基礎（近代科学社）

上林弥彦：情報科学の基礎理論（昭晃堂）

・コンピュータリテラシーに関する参考書

寺沢幹雄、松田高行、福田収：情報基礎と情報処理（オーム社）

コンピュータリテラシー全般がコンパクトにまとめて書かれている。講義では、この内容の半数程度をカバーしているので、不足部分を参照すると良い。

久保田裕、佐藤英雄：知っておきたい情報モラルＱ＆Ａ（岩波書店）

情報モラルは、ネットワークを利用し始めると身近に起こる問題であるが、合法であるか否か、マナーに反しているか否かの判断は非常に難しい。実例が挙げられており、一読の価値がある。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業に関連した質問、相談は、マルチメディアセンター教員室で随時可能である。不在の場合があるので、予めメールで問い合わせる方が良 い。メールでの質問も受付ける。また、コンピュータ操作等基本的な質問は、マルチメディアセンターのサービスとして図書館カウンターでも受け付けている。

11　学生へのメッセージ

医学､医療への情報技術の浸透は急速に進んでおり､これらに携わる人は情報機器の利用を避けて通ることはできなくなっている。一方では､情報技術そのものの発達も速く､時代と共に使わなければならない機器の姿も変わり続けている。講義で学んだコンピュータの使い方も、将来仕事で使う時には形が変わっているいるに違いない。

講義で用いるコンピュータは2017年３月に新たに設置されたもの（CPUにCorei５､OSにWindows10を装備したノートPC）である。将来、臨床の場等で活用するであろう機器は上記のものとは違ったものになる。しかし、これらを使って学んでゆく「情報を扱う」技術や考え方は変わらないので､それらの基本をしっかり理解していれば､どの時代にも対応してゆける｡「コンピュータに使われる」ことなく、その恩恵を享受するために、情報機器を使いこなす「センス」をこの講義を通じて習得されることを期待する。

ほとんどの学生が、コンピュータの一種であるスマートフォンを日常的に利用しており、既にネットワークとコンピュータの環境の中に暮らしているといえる。講義では、スマートフォンにはできない（使いにくい）利用法やスマートフォンにも共通する情報の仕組みについて学んでゆく。

講義で学ぶ基本的なリテラシーは高校などで既に習得している部分もある。レポートや発表など、他の科目ですぐに実用しなければならなくなるので、復習すると同時に、利用経験の少ない同級生がいれば、教えてあげることで自己確認するといった積極的な態度で受講してほしい。

学内で学生が自由に利用できるコンピュータは、マルチメディアセンター以外にも、食堂、看護学科棟ピロティーなどにもある。授業休憩時間等に必要に応じて活用してほしい。自身の所有しているノートPC、タブレット、スマートフォンは、登録をすれば学内でのネットワークが利用可能となる。教室を始め学内主要箇所には無線LAN（WiFiスポット）が設置されている。他の講義でも、それぞれの情報機器の使用ルールに従って、活用すると良い。

12　授業用URL

http://latte.shiga-med.ac.jp/

13　授業用E-mail

motoyama@belle.shiga-med.ac.jp

アカデミック・スキル

1　担当教員名

教　　授　室寺義仁（医療文化学講座（哲学））
教　　授　兼重　　努（医療文化学講座（文化人類学））
教　　授　宮松直美（臨床看護学講座）
准教授　小島隆次（医療文化学講座（心理学））

2　配当学年等

第１学年　後期後半　１単位

3　学修目標

大学の各授業において課せられるレポートを作成するに当たり、大学生として相応しいレポートを完成できるように、受講生の皆さんが「学士力」を身に付けることを目指します。

4　授業概要

アカデミック・ライティング（学術的な記述）のためにはスキル（技法）を習得する必要があります。そこで、まず第一に、そのスキルが、対社会的に、あるいは、同業者集団内、例えば、医療人の仲間内において、なぜ必要とされるのか、看護学分野の研究倫理の初歩から学びます。そして、分かり易い文章を書くには、まず言葉に出会う、ということから始め、文献引用の際の決まりごとや著作権などについて理解を深めます。その上で、プロトコール（臨床研究／実験計画手順書）などの作成についての基礎知識を学習します。

受講生にとって、講義を聞いて、その内容を、まず聞き取る力（聴聞力）、次いで、教材資料を読み解く力（読解力）を高めることが出来ること、同時に、興味関心を広げて、考えを深める力（思考力）を繰り返す力（継続力）を習慣化することが出来ること、そして、自ら問いを立て（構想力）、その問いを読み手に分かるように論理的に記述すること（表現力）が出来るようになること、これら一連の能力を開発することを目的としています。

各講義を担当する講師によって、それぞれの講義内容に応じたレポート課題が提示されます。受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の大きな<内容>に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を進めておくことが望まれます。そして、講義を聞き、知識・考えを広め、レポートを作成する過程で考えを深めて、自らの考えを客観的合理的に記述することが求められます。

5　授業内容

「学士力」を身に付けるために、レポート課題への取り組み方の姿勢、課題内容についての関連文献の検索の仕方、並びに、先行研究文献を引用するときの標準的な規則などについての理解を深めます。研究倫理の初歩についても学習します。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月７日㈬	1	宮　松	専門職に求められる学術的記述とは(1)	学識を有する専門職者に求められる論述能力について	看2・看3
第２回	令和４年12月21日㈬	1	〃	専門職に求められる学術的記述とは(2)	学識を有する専門職者に求められる研究倫理について	看2・看3
第３回	令和５年１月４日㈬	1	室　寺	分かり易い文章の書き方(1)	看護師を目指す者として、受講生各自が大切にしている言葉を題材として	看2・看3
第４回	令和５年１月11日㈬	1	〃	分かり易い文章の書き方(2)	（同上）	看2・看3
第５回	令和５年１月18日㈬	1	兼　重 附属図書館職員	学術的引用の作法(1)	文献資料を用いて論ずるときの引用の仕方などについて	看2・看3
第６回	令和５年１月25日㈬	1	兼　重	学術的引用の作法(2)	（同上）	看2・看3
第７回	令和５年２月１日㈬	1	小　島	実験・調査の方法(1)（オンデマンド）	実験計画の立て方、アンケートなどにおける質問の作り方について	看2・看3
第８回	令和５年２月８日㈬	1	〃	実験・調査の方法(2)（オンデマンド）	（同上）	看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

基本、講義形式の対面授業。

7　評　価　方　法

授業担当の各教員から提示される課題レポート、あるいは、小テストやコメントシートなどの提出をもって評価します。レポートの提出は、基本的にWebClassの所定の画面から行って下さい。但し、教員から別途指示がある場合には、その指示に従って下さい。

対面での授業実数の３分の２を超える出席回数が認められることを前提とします（事情により出席できなかった場合は、WebClassを介しての課題提出もって出席に数えます)。その上で､各教員（４名）の評価点数を合算して100点満点評価します。なお、レポートの提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」＞「マイレポート」で各自で確認して下さい。

8　テ　キ　ス　ト

指定テキストはありません。それぞれの授業の中で参考図書などについて紹介する予定です。

9　オフィスアワー（授業相談）

授業用E-mailアドレス宛に、授業相談のためのアポイントメントを取る相談メールを送って下さい。適宜、対応します。【室寺】

各講義担当の他の教員についても、予め、メールでの相談を行って下さい。

10　学生へのメッセージ

医学部看護学科を修了するときには身に備わっている「学士」の「能力」を修得するための基本的技法を学びます。客観的で合理的な記述の仕方、学術的な記述の仕方を学習しましょう。

11　授業用E-mail

murojiji@belle.shiga-med.ac.jp

現代社会と科学

1 担当教員名

教　　授　目良　　裕（生命科学講座（物理学））
教　　授　久津見　　弘（臨床研究開発センター）
教　　授　古荘義雄（生命科学講座（化学））
教　　授　平田多佳子（生命科学講座（生物学））
教　　授　宇田川　　潤（解剖学講座（生体機能形態学部門））
教　　授　縣　　保年（生化学・分子生物学講座（分子生理化学部門））
教　　授　扇田久和（生化学・分子生物学講座（分子病態生化学部門））
教　　授　伊藤　　靖（病理学講座（疾患制御病態学部門））
教　　授　一杉正仁（社会医学講座（法医学部門））
教　　授　相見良成（基礎看護学講座）
教　　授　宮松直美（臨床看護学講座）
准教授　尾松万里子（生理学講座（細胞機能生理学部門））
准教授　寺島智也（生化学・分子生物学講座（再生・修復医学部門））
准教授　旦部幸博（病理学講座（微生物感染症学部門）
准教授　本山一隆（情報総合センター）

2 配当学年等

第１学年　前期　２単位

3 学修目標

科学と技術が人類の生き方に大きな影響力をもつ現代において、科学や技術の成果を享受するだけでなく、責任ある市民としてまた医療人として現代社会に関与するための科学知識と素養を備えること、すなわち科学的な思考方法を社会的目的のために用いる能力が求められる。本講義では、科学的な思考方法、その有効さと限界の一端を知ることを学習目標とする。

以下に各回の目標を列挙する。

1）研究者（広い意味での専門的技術者）が「やってなはならないこと（＝研究不正）」を理解する
2）ナノスケールの物質が持つ特異な性質と、その応用について学ぶ。
3）医療製品の有効性・安全性を科学するレギュラトリーサイエンスの重要性を理解する。
4）スーパーコンピュータが自然現象の解明、災害の予測、製品開発等の様々な分野で利用され、人々の生活に変化をもたらすことを理解する。
5）がんの免疫療法について理解する。
6）現代社会における遺伝的背景と生活や医療への関連性について理解する。
7）妊娠中のストレスと子どもの生後の疾患発症リスクとの関係を科学的に説明できる。
8）発酵の利用やバイオテクノロジー、感染症など微生物の正負両面について学ぶ
9）我が国における外因死の現状を理解し効果的予防対策の重要性を理解する。
10）文明化に伴い現代社会で増えている病気について，生命進化の視点からその原因を考える。
11）インフルエンザウイルスの生物学的特徴を理解し、感染制御方法を考察する。
12）血管病変の発症について、基礎的な事項を理解できる。
13）脂肪細胞の生理的意義に対する考え方が文明の進歩に従って変化してきたことを理解する。
14）組織化学法を例にあげ、形態学的研究法の意義と限界について考える。
15）公衆衛生の実践や臨床判断に不可欠である疫学の基本的な概念および方法論を理解する。

4 授業概要

新聞・雑誌・テレビなどマスコミにも登場する身の回りの科学事象を通して、「サイエンスとは」を理解しようとする総合的授業である。

１コマの授業に対して、講義資料を用いた30分の予習と90分の復習（レポート課題を含む）を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり60分の復習を行うことが望まれる。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月13日㈬	1	古　荘	ガイダンス 講義	研究不正	看2･看3
第２回	令和４年４月20日㈬	1	目　良	講義	ナノテクノロジー	看2･看3
第３回	令和４年４月27日㈬	1	久津見	講義	レギュラトリーサイエンス	看2･看3
第４回	令和４年５月11日㈬	1	本　山	講義	スーパーコンピュータの発達と社会への貢献	看2･看3
第５回	令和４年５月18日㈬	1	縣	講義	がんの免疫療法 － PD-１抗体療法とT-iPS細胞	看2･看3
第６回	令和４年５月25日㈬	1	寺　島	講義	遺伝子と現代社会：人類はどこへ向かうのか？	看2･看3
第７回	令和４年６月１日㈬	1	宇田川	講義	妊娠中のストレスと子どもの健康	看2･看3
第８回	令和４年６月８日㈬	1	旦　部	講義	人類社会と微生物	看2･看3
第９回	令和４年６月15日㈬	1	一　杉	講義	社会を守る -エビデンスに基づく事故予防対策-	看2･看3
第10回	令和４年６月22日㈬	1	平　田	講義	ヒトへの進化と文明の病	看2･看3
第11回	令和４年６月29日㈬	1	伊　藤	講義	なぜパンデミックは起こるのか？	看2･看3
第12回	令和４年７月６日㈬	1	扇　田	講義	血管は年齢と共に老いる－動脈硬化にまつわる話－	看2･看3
第13回	令和４年７月13日㈬	1	尾　松	講義	脂肪細胞と文明の進歩	看2･看3
第14回	令和４年７月20日㈬	1	相　見	講義	研究方法をブラックボックスにしないで！	看2･看3
第15回	令和４年７月27日㈬	1	宮　松	講義	Evidence based medicine時代の科学：疫学ことはじめ	看2･看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式で行う。必要に応じて，視聴覚機器を使用する。

7　評　価　方　法

各講義毎に行う小テスト、レポート、コメントシートを、各回担当教員がそれぞれ評価し、15回分合計して成績を評価する。全回出席を前提とする。

8　テ　キ　ス　ト

教科書は使用しない。必要に応じて資料プリントを配布し，参考図書等を紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

各回の担当教員が異なるので、世話人教員宛て（授業用E-mail）連絡してください。

10　学生へのメッセージ

医学科･看護学科教員による医学科･看護学科の合同講義です。広い分野にわたる話題をオムニバス形式で提供しますが、統一テーマ「サイエンスとは」、「テクノロジーとは」および「科学的思考法とは」を、各講師の話から考えてもらえればと思っています。

11　授業用E-mail

mera@belle.shiga-med.ac.jp

社　会　学

1　担当教員名

非常勤講師　LADMIRAL　Guillaume　Andre Jean Rene

2　配当学年等

第１学年　前期　２単位

3　学修目標

現代社会学のおもな項目を取り上げ、それぞれについての基本的な考え方を理解し、習得します。現在日本社会がどのような変化を遂げてきたかを理解することを通じて、社会問題についての基礎知識を身につけます。同時に情報の扱い方やレポート・論文の書き方についても習得します。

4　授業概要

「近代化」(産業化､都市化など) にともなって生じる様々な社会変化や社会問題を理解することが社会学の目標の一つです。教育、労働、結婚、家族、老いなどのいくつかのトピックを取り上げ、社会学的な観点から解説します。

5　授業内容

各授業の冒頭で、授業に関する質疑応答および提出された小課題に対するコメントを行った後、その日の項目の説明を行います。小課題は、授業の資料の要約と、関連する専門用語の定義の記述です。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月15日㈮	4	LADMIRAL	１．イントロダクション	授業全体の紹介 方法論：レポートの書き方について 説明と指導	看2・看3
第２回	令和４年４月22日㈮	4	〃	２．人口学入門	人口転換、少子化高齢化の原因	看2・看3
第３回	令和４年５月６日㈮	4	〃	３．「近代」･「近代化」とは何か	産業革命、都市化、政治制度、イデオロギー	看2・看3
第４回	令和４年５月20日㈮	4	〃	４．病気、医療、死因の小史	伝染病から悪性新生物へ、 予防から医療へ、 死亡率の低下と経済成長の関連	看2・看3
第５回	令和４年５月27日㈮	4	〃	５．病気の長期的社会的影響	1918年スペイン風邪などが 人々の人生に及ぼした影響	看2・看3
第６回	令和４年６月３日㈮	4	〃	６．社会とは何か	「社会」、「個人」、「集団」、 「ネットワーク」	看2・看3
第７回	令和４年６月10日㈮	4	〃	７．社会分化と社会成層	社会階級と階層化	看2・看3
第８回	令和４年６月17日㈮	4	〃	８．権力関係	権力と支配とはなにか？ 権力と制度	看2・看3
第９回	令和４年６月24日㈮	4	〃	９．家族の歴史社会学	家族の類型と家族の変容過程 「近代家族」の成立と 現代の家族の有様	看2・看3
第10回	令和４年７月１日㈮	4	〃	10．結婚と就業と家族	結婚と離婚の歴史変動と現状、 家族と法律 男女で異なる働き方、 性別役割分業の実態	看2・看3
第11回	令和４年７月８日㈮	4	〃	11．貧困と福祉１	貧困と高齢化	看2・看3
第12回	令和４年７月15日㈮	4	〃	12．貧困と福祉２	社会保障システムと不平等	看2・看3
第13回	令和４年７月22日㈮	4	〃	13．データ分析を理解する １：代表値､分布､相関係数	自殺、性別役割分業、 新型コロナウイルス感染症感染拡大の要因などの事例	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第14回	令和４年７月29日㈮	4	LADMIRAL	14.　データ分析を理解する２：回帰分析と因果構造	自殺、性別役割分業、 新型コロナウイルス感染症感染拡大の要因などの事例	看2・看3
第15回	令和４年８月１日㈪	4	〃	15.　まとめ レポートの書き方について 個人相談・指導	受講者がそれぞれレポートの課題とレポートの構成を発表し、 教員と受講者でコメントしあう	看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業形式：講義
視聴覚機器の活用：プロジェクタを使用します。

7　評　価　方　法

平常点（小課題）50％、期末レポート50％で評価します。出席は基本的に、授業ごとに提出していただく小課題で確認します。期末レポートについては、参考文献を参照しながら、授業で取り扱った項目について、書いてもらいます。

8　テ　キ　ス　ト

毎回資料を配布します。

9　オフィスアワー（授業相談）

電子メールでラドミラル（ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp）宛てご連絡ください。

10　授業用E-mail

ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp

医 療 社 会 学

1 担 当 教 員 名

非常勤講師　馬　込　武　志（東大阪大学　教授）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　２単位

3 学 修 目 標

医療におけるトピックを社会学的に分析することにより、自身の立場や考えを相対化し、今までとは異なる物事を見るための視点を獲得することができる。このことにより、自身の思考の柔軟性が高まる。

4 授 業 概 要

わが国では、21世紀になってから医療制度や医療者-患者関係が急速に変化してきている。どのような変化が見られるのか、なぜ変化してきているのかを、様々なトピックを通して社会学の視点から明らかにしていくことを授業の狙いとしている。

5 授 業 内 容

現代医療における言説や現象をとりあげ、現実に起こっている問題を示しながら、その問題の原因と解決方法について共に考える。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	教室
第１回	令和４年10月７日㈮	2	馬　込	オリエンテーション …授業の進め方について	看2･看3
第２回	令和４年10月14日㈮	2	〃	病人役割	看2･看3
第３回	令和４年10月21日㈮	2	〃	提供される情報、されない情報	看2･看3
第４回	令和４年11月４日㈮	2	〃	カルテ開示について	看2･看3
第５回	令和４年11月11日㈮	2	〃	自己決定と求助権	看2･看3
第６回	令和４年11月18日㈮	2	〃	犠牲者（患者）非難について	看2･看3
第７回	令和４年11月25日㈮	2	〃	看護師について考えました	看2･看3
第８回	令和４年12月２日㈮	2	〃	医療と差別	看2･看3
第９回	令和４年12月９日㈮	2	〃	医療過誤について	看2･看2
第10回	令和４年12月23日㈮	2	〃	医療はマジックだ！	看2･看3
第11回	令和５年１月６日㈮	2	〃	健康の多様性	看2･看3
第12回	令和５年１月20日㈮	2	〃	「正当な」文化としての健康	看2･看3
第13回	令和５年１月27日㈮	2	〃	調査はなぜ捏造されたのか？	看2･看3
第14回	令和５年２月３日㈮	2	〃	メタボリックの失敗	看2･看3
第15回	令和５年２月８日㈬	2	〃	看護師という仕事	看2･看3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評 価 方 法

レポート試験を行ないます。また、平常点も加味したいと思います。

8 テ キ ス ト

特にありません。参考文献などは適宜お示しいたします。

9 オフィスアワー（授業相談）

授業前後

10 学生へのメッセージ

みなさんと一緒に授業を作り上げて行きたいと思います。

芸　術　学

1　担当教員名

非常勤講師　秋　丸　知　貴（上智大学グリーフケア研究所　特別研究員）

2　配当学年等

第１学年　前期　２単位

3　学修目標

本講義は、これまで人類が生み出した代表的な芸術作品を通じて、人間の芸術的創造力を様々な角度から分析する。それにより、芸術に関する一般的な基礎知識や美的感受性を身に付けると共に、伝統的・国際的な文化理解を深めることを目標とする。毎回、芸術鑑賞を楽しみつつ、将来の医療人（医学科・看護学科共に）として一生役立つ、芸術を通じて人間の心をより深く考察する機会としたい。

4　授業概要

主に、西洋と日本の美術史を古代から現代まで概観する。特に、それらの芸術作品が誕生する背景となったそれぞれの個人と時代・社会の関係を理解する。順序は下記の通りだが、内容によっては回をまたがることがある。

事前に下記参考文献の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

5　授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月13日㈬	1	秋　丸	1）イントロダクション	芸術とは何か？ ―原始美術と現代美術	A・B
第２回	令和４年４月20日㈬	1	〃	2）西洋美術史①	古代エジプト・古代ギリシャの美術	A・B
第３回	令和４年４月27日㈬	1	〃	3）西洋美術史②	中世・ルネサンスの美術	A・B
第４回	令和４年５月11日㈬	1	〃	4）西洋美術史③	マニエリスム・北方ルネサンスの美術	A・B
第５回	令和４年５月18日㈬	1	〃	5）西洋美術史④	バロック・ロココの美術	A・B
第６回	令和４年５月25日㈬	1	〃	6）西洋美術史⑤	新古典主義・ロマン主義の美術	A・B
第７回	令和４年６月１日㈬	1	〃	7）西洋美術史⑥	印象主義・象徴主義の美術	A・B
第８回	令和４年６月８日㈬	1	〃	8）西洋美術史⑦	フォーヴィズム・キュビズム・ダダイズム・シュールレアリズム・20世紀の美術	A・B
第９回	令和４年６月15日㈬	1	〃	9）日本美術史①	縄文時代・弥生時代・古墳時代の美術	A・B
第10回	令和４年６月22日㈬	1	〃	10）日本美術史②	飛鳥時代・白鳳時代・奈良時代の美術	A・B
第11回	令和４年６月29日㈬	1	〃	11）日本美術史③	平安時代・鎌倉時代の美術	A・B
第12回	令和４年７月６日㈬	1	〃	12）日本美術史④	室町時代・安土桃山時代の美術	A・B
第13回	令和４年７月13日㈬	1	〃	13）日本美術史⑤	江戸時代の美術	A・B
第14回	令和４年７月20日㈬	1	〃	14）日本美術史⑥	幕末・明治時代の美術	A・B
第15回	令和４年７月27日㈬	1	〃	15）日本美術史⑦	大正時代・昭和時代・平成時代・令和時代の美術・アウトサイダーアート	A・B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

パワーポイントを用いた講義を行う。ただし、講義中に質問に対する回答を求める場合がある。毎回、受講者は授業後に講義内容に関するコメントシートを提出する。

7　評価方法

毎回のコメントシートを60％、中間レポート（論述式）を20％、期末レポート（論述式）を20％として総合評価する。受講態度に問題がある場合は、程度に応じて10～40点減点する。特別な理由のない限り、５回欠席者は不可とする。

知識の度合いではなく、自分の感じたことや考えたことを自分自身の言葉で表現することを評価基準とする。

8　参　考　文　献

教科書は指定しない。参考文献は下記の３冊の他、適宜講義中に紹介する。
高階秀爾監修『増補新装　カラー版　西洋美術史』美術出版社、2002年
辻惟雄監修『増補新装　カラー版　日本美術史』美術出版社、2002年
秋丸知貴『ポール・セザンヌと蒸気鉄道――近代技術による視覚の変容』晃洋書房、2013年

9　オフィスアワー（授業相談）

原則、毎週水曜日の12：00～12：50。メールで事前にアポイントを取ることが望ましい。

10　授業用E-mail

tomoki_akimaru@yahoo.co.jp

歴　史　学

1　担当教員名

非常勤講師　目　黒　杏　子

2　配当学年等

第１学年　前期　２単位

3　学修目標

中国宋代（13世紀）の医学と司法に関する歴史史料の講読を体験し、当該分野の歴史に関する理解を深める。

4　授業概要

本講義では、中国南宋時代（1127～1276年）に編纂された『洗冤集録』の講読を中心として、当該期における検視の実態や、その背景にある社会の諸相を考える。『洗冤集録』は、当時の司法官僚の手になる検視マニュアルであり、世界最初の法医学書ともいわれる。この文献に記された、当時の検視の手順や当事者の守るべき心得を知ることで、法医学の黎明期における具体的な状況に関する知識を身につけ、医学と司法の関係史について考える基礎を築くのが、本講義の目的である。同時に、漢文で書かれた歴史史料を読みこなす作業を体験し、教養としての歴史学と漢文訓読の基礎を学ぶ。履修要件はとくにないが、中国の歴史や古典漢文に興味をもっていることが望ましい。各回の講義後、その回の内容に関連した漢文講読の宿題を出すので、90分程度の時間をかけて復習と宿題とに取り組んでほしい。

5　授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月13日㈬	3	目　黒	第１講	授業の概要の説明と漢文を読むための基礎知識の確認	①
第２回	令和４年４月20日㈬	3	〃	第２講	漢文史料とその訓読の方法について①	①
第３回	令和４年４月27日㈬	3	〃	第３講	漢文史料とその訓読の方法について②	①
第４回	令和４年５月11日㈬	3	〃	第４講	『洗冤集録』の講読、解説と討論①	①
第５回	令和４年５月18日㈬	3	〃	第５講	『洗冤集録』の講読、解説と討論②	①
第６回	令和４年５月25日㈬	3	〃	第６講	『洗冤集録』の講読、解説と討論③	①
第７回	令和４年６月１日㈬	3	〃	第７講	『洗冤集録』の講読、解説と討論④	①
第８回	令和４年６月８日㈬	3	〃	第８講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑤	①
第９回	令和４年６月15日㈬	3	〃	第９講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑥	①
第10回	令和４年６月22日㈬	3	〃	第10講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑦	①
第11回	令和４年６月29日㈬	3	〃	第11講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑧	①
第12回	令和４年７月６日㈬	3	〃	第12講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑨	①
第13回	令和４年７月13日㈬	3	〃	第13講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑩	①
第14回	令和４年７月20日㈬	3	〃	第14講	『洗冤集録』の講読、解説と討論⑪	①
第15回	令和４年７月27日㈬	3	〃	第15講	講読内容の総括と全体の討論	①

6　授業形式・視聴覚機器の活用

受講生の発表と教員の講義、及び受講生同士の討論をまじえたかたちで授業を進める。

7　評価方法

発表や討論における積極性を平常点（50％）として評価する他、期末にレポートを課す（50％）。

8　テキスト

教科書は指定しないが、高校の漢文の教科書や漢和辞典を参考書・工具書として備えておくことが望ましい。講読に必要な史料類は、随時印刷して配布する。

9　オフィスアワー（授業相談）

教員への授業に関する相談は、随時E-mailで受けつける。時間帯などはとくに指定しない。E-mailを受け付けてから２～３日以内には返信する。

10　学生へのメッセージ

この授業では、中国宋代の検視マニュアルを実際に読みながら、その内容について、現代の検視のあり方や医学の知識と比較したり、社会や文化の違いを見出したりしながら討論することで、皆さんに歴史学の出発点を体験していただきたいと考えています。中国の歴史や社会に興味のある方々の積極的な受講を歓迎します。

11　授業用E-mail

muhei@belle.shiga-med.ac.jp

心　理　学

1　担当教員名

准　教　授　小　島　隆　次（医療文化学講座（心理学））

2　配当学年等

第１学年　後期前半　１単位

3　学修目標

本授業では、実験・認知心理学を中心として、代表的な心理学諸分野の基礎知識を習得することを第一義とします。また、受講生が本授業で課される様々な課題を適切にこなすことで、論理的に考え、批判する能力が養われ、習得した知識を日常生活でどのように応用していくのかを考えられるようになることも目指します。

そして、上記目標の達成に伴い、結果的に受講生が以下の目標を達成できるようになることを学習目標とします。

１．心理学諸分野の基礎知識を身に着けること
２．心理学諸分野の基礎知識を日常の様々な場面で活用する態度を身に着けること
３．様々な事象に対して、批判的・発展的に考える態度を身に着けること

4　授業概要

本授業は、心理学で扱われる主要なトピック（個々のテーマなどについては授業スケジュールを参照してください）を幅広く教授します。また、授業を受講することで、受講生が論理的に考え、批判する能力を養いつつ、論理的・批判的思考と日常における人の思考・行動特性との関係性について考察する契機を得られるようにしたいと思います。

5　授業内容

授業内容は以下の授業内容の各授業における内容を参照してください。基本的には、一般的な心理学諸分野で扱われることの多いトピックを紹介する内容になりますが、主として、実験心理学、認知心理学分野のトピックが中心になります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月５日㈬	1	小　島	ガイダンス	本授業の受講方法や基本方針などを説明。	看2・看3
第２回	令和４年10月12日㈬	1	〃	感覚・知覚	感覚・知覚情報の処理特性について概説。	看2・看3
第３回	令和４年10月19日㈬	1	〃	注意	視覚的注意を中心として、 注意の機構と役割について概説。	看2・看3
第４回	令和４年10月26日㈬	1	〃	学習・動機づけ	学習概念の定義と 様々な学習研究の応用について、 古典的学習理論と動機付けを中心に概説。	看2・看3
第５回	令和４年11月２日㈬	1	〃	記憶	記憶の種類とそれらの機能について 概観した上で、人の記憶特性について概説。	看2・看3
第６回	令和４年11月９日㈬	1	〃	思考・推論	人の思考特性について概説。	看2・看3
第７回	令和４年11月16日㈬	1	〃	社会性と認知	他者との関わり方や集団に対する認識が、 人の認知過程にどのような影響を もたらすのかについて概説。	看2・看3
第８回	令和４年11月30日㈬	1	〃	まとめ	授業で扱った内容全般を振り返りつつ、 適宜受講生へのフィードバックを行う。	看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はオンデマンドでのオンライン受講を基本的な授業形式とします。

授業資料や授業課題については、授業webサイトや授業課題システムから、電子的に配布・実施します。

受講生には、授業開始前に授業関連情報をメールあるいはWeb Classで通知しますので、情報を確認して下さい。

毎回の授業において、受講生は、提供された授業資料の内容を理解した上で、所定の授業課題に取り組むというのが、基本的な流れになります。

【準備学修等について】
文科省の大学設置基準に基づき、他の授業と同様に本授業においても、１コマ（90分）の授業に対して180分程度の課外学習（予復習）が想定されていますが、本授業では指定の授業課題に取り組むことによって、基本的にこの基準はクリアされるようにしています。

7　評　価　方　法

評価は、単位認定と単位評価の二段階で行います。

まず、単位認定に際しては、第２～７回の各授業で必要に応じて課される授業課題に対する得点（合計100点満点）で判断をします。60点以上で単位認定とします。

次に、認定された単位に対して相対評価を行い、これを最終評価とします。

授業課題の内容・回数・配点など、評価方法の詳細等については、初回授業（ガイダンス）及び授業用webサイトで配布する授業ガイドでより詳細に説明しますので、受講予定の方は、初回授業に参加するか、授業ガイドを必ず手に入れてください。

8　テ　キ　ス　ト

特に指定しない。修学に必要な資料は全てwebで配布します。

9　参　考　文　献

配布資料やwebにて適宜示します。

10　オフィスアワー（授業相談）

オフィスアワー情報は授業時に通知します。もちろん、個別にメール等でアポイントメントを取っていただければ、適宜対応します。

11　学生へのメッセージ

教授活動の迅速かつ適切な形成的改善のために、単位認定と評価の方法を含めた本授業における様々な規則等は、原則としてシラバス記載の内容よりも、授業webサイトを通じて配布される様々な文書に記される規定を最優先としますので、必ず授業webサイトを定期的に確認するようにしてください。また、本授業の単位認定に関しては、いわゆる救済策の類は一切存在しませんので、この点も注意して下さい。

12　授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

文 化 人 類 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　兼　重　　努（医療文化学講座（文化人類学））

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

文化人類学とは、人類の文化･社会の多様性と普遍性について研究する総合的学問です。文化人類学における文化の捉え方、視点、考え方、研究方法に関する学習を通して、他者理解、自己理解、他者の尊重につながる以下の事項を身につけることを目標とします。
①世界の諸文化の多様性を理解しようとする姿勢
②異文化を生きる人々の目を通して人生や世界を見る為の方法論の基礎

また近い将来医療人となる皆さんに有用と思われる、以下の様なスキルの習得も目指します。
③病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
④自身が所属する文化を相対化する事ができる。
⑤人々の暮らしの現場において病気・健康がどのように捉えられているかに気を配る事ができる。
⑥文化と医療の関係を考える事ができる。

4 授 業 概 要

まず、①文化人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供します。次に、②文化人類学の研究テーマのうち、医療に関するものも取り上げ、皆さんが将来医療の現場で文化人類学の素養を役立てる為のヒントについても具体的に紹介します。

毎回、授業内容の理解を確認するための小課題を出します。その他、必要に応じて宿題を出すこともあります。

【準備学修等に必要な時間目安】
※受講生は、授業受講の外に、１コマの授業当たり180分の時間を使って授業の予習・復習や宿題・レポート課題等に取り組む事が望まれます。

5 授 業 内 容

1．文化人類学とはどんな学問？
2．異文化理解の基礎知識
3．文化人類学の方法：フィールドワーク
4．実は身近にある異文化
5．民族誌を読む
6．医療の現場で文化人類学を役立てる

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月15日㈮	3	兼　重	文化人類学の目的	①文化人類学では何を学ぶのか？その目的は？ ②何故医大生が文化人類学を学ばなければならないのか？	①・②・③
第２回	令和４年４月22日㈮	3	〃	文化人類学における「文化」の捉え方	①文化人類学における「文化」の捉え方の特徴は？ ②文化人類学における「異文化」の捉え方の特徴は？	①・②・③
第３回	令和４年５月６日㈮	3	〃	文化の多様性	世界中で同一、普遍的の様に見える事象を文化人類学の視点から捉え直す	①・②・③
第４回	令和４年５月20日㈮	3	〃	異文化データ収集方法	文化人類学ではどうやってデータを集めるのか？	①・②・③
第５回	令和４年５月27日㈮	3	〃	現場に行って異文化を体験する	ビデオで疑似フィールドワーク	①・②・③

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第６回	令和４年６月３日㈮	3	兼　重	文化人類学の フィールドワーク の現場から	映像民族誌：福井勝義「東アフリカ・色と模様の世界ー無文字社会の豊かな創造力ー」	①・②・③
第７回	令和４年６月10日㈮	3	〃	課題レポート 作成に関する 注意事項	①映像民族誌：福井勝義「東アフリカ・色と模様の世界ー無文字社会の豊かな創造力ー」の補足説明 ②課題レポート作成に関する注意事項	①・②・③
第８回	令和４年６月17日㈮	3	〃	サブ･カルチャー： 実は身近にある 異文化	①サブ・カルチャーとは？ ②サブ・カルチャーとしての医療	①・②・③
第９回	令和４年６月24日㈮	3	〃	民族誌を読む⑴	マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者』	①・②・③
第10回	令和４年７月１日㈮	3	〃	民族誌を読む⑴続	マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者』	①・②・③
第11回	令和４年７月８日㈮	3	〃	民族誌を読む⑵	ロバート・F・マーフィー著 『ボディ・サイレントー病いと障害の人類学―』	①・②・③
第12回	令和４年７月15日㈮	3	〃	民族誌を読む⑵続	ロバート・F・マーフィー著 『ボディ･サイレントー病いと障害の人類学―』	①・②・③
第13回	令和４年７月22日㈮	3	〃	医療現場での 文化摩擦	医療人と患者さんの間の文化摩擦 ー「エホバの証人」信者の輸血拒否の事例ー	①・②・③
第14回	令和４年７月29日㈮	3	〃	文化人類学を 役立てる	①応用人類学とは何か ②応用人類学の実例	①・②・③
第15回	令和４年８月１日㈪	3	〃	医療の現場で 文化人類学を 役立てる	①医療人と患者さんの間のプチ異文化ーアンケートの結果よりー ②医療人類学 ③看護人類学	①・②・③

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式をとります。原則、対面で実施し、講義室で実施する授業をZoomを用いてライブで同時配信も行います。適宜、視聴覚教材（ビデオ）も活用する予定です。

7　評　価　方　法

期末の課題レポート（100点満点）。ただし、小課題や宿題の提出状況や評価・受講（出席）状況・受講態度などに問題がある場合は程度に応じて課題レポートの点数から10～40点減点します。

なお、課題レポートに剽窃（盗用）その他不正行為があった場合は単位を認定しません。詳細は授業で説明します。

8　テ　キ　ス　ト

教科書は使用しません。毎時間プリントを配布します。

9　参　考　文　献

参考文献は授業の中で適宜紹介します。

10　オフィスアワー（授業相談）

随時。ただし、事前にメールでアポイントメントをとって下さい。

11　学生へのメッセージ

文化人類学を学ぶことは医大生にとって非常に重要です。皆さんは近い将来、医療の専門家として患者さんと接します。「患者さんの立場に立った医療人になる」－よく耳にする言葉です。だが「言うは易し、行なうは難し」ではないでしょうか。

それは何故でしょうか。文化人類学の視点から見ると、同じく日本で生まれ育っていても患者の方々は医療の専門家とは「異なる文化」に属しています。「異なる文化」は我々の身近にありますが、「異なる文化」に属する人々を理解するためにはちょっとした知識や技術が必要なのです。

異文化に生きる人びとの多様な思考や行動様式を尊重・理解しようとする態度、そしてそれらを理解するための技術や方法論等の「文化人類学の素養」をしっかり身につける事により、皆さんが近い将来医療現場において色々な場面で役立てて頂ける様期待しています。

12　授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

スポーツ科学実践

1　担　当　教　員　名

非常勤講師　　河　北　純　子　（龍谷大学　非常勤講師）

2　配　当　学　年　等

第１学年　後期　１単位

3　学　　修　　目　　標

運動の合理的実践を通して、心身の健康維持・増進に役立てる方法を体験的に学ぶ。また、トレーニングの基礎的知識や方法を習得し、大学卒業後も自らのスポーツライフを実践できる能力を培うことを目標とする。より理解を深めるため、２年次「健康科学実践」と共に受講することが望ましい。

4　授　　業　　概　　要

＜実施種目＞
ピラティス，バドミントン，バスケットボール，ニュースポーツ等（進度により適宜変更有）

＜講義内容＞
体力トレーニング論，運動処方論

5　授　　業　　内　　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	内　　容
第１回	令和４年10月６日㈭	２・３	河　北	ガイダンス・ピラティスの基本理解※更衣なし
第２回	令和４年10月13日㈭	２・３	〃	バドミントン（ネット型）①　基本技術・ルールの理解①
第３回	令和４年10月20日㈭	２・３	〃	バドミントン②　基本技術・ルールの理解②
第４回	令和４年11月10日㈭	２・３	〃	バドミントン③　応用技術①
第５回	令和４年11月17日㈭	２・３	〃	バドミントン④　応用技術②
第６回	令和４年11月24日㈭	２・３	〃	バドミントン⑤　チーム戦術①・振り返り
第７回	令和４年12月１日㈭	２・３	〃	バドミントン⑥　チーム戦術②・振り返り
第８回	令和４年12月８日㈭	２・３	〃	体力測定①
第９回	令和４年12月22日㈭	２・３	〃	体力測定②
第10回	令和５年１月５日㈭	２・３	〃	バスケットボール（ゴール型）①　基本技術・ルールの理解①
第11回	令和５年１月12日㈭	２・３	〃	バスケットボール②　基本技術・ルールの理解②
第12回	令和５年１月19日㈭	２・３	〃	バスケットボール③　応用技術①
第13回	令和５年１月26日㈭	２・３	〃	バスケットボール④　応用技術②
第14回	令和５年２月２日㈭	２・３	〃	バスケットボール⑤　チーム戦術①・振り返り
第15回	令和５年２月７日㈫	２・３	〃	バスケットボール⑥　チーム戦術②・振り返り

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実技による演習形式

7　評　　価　　方　　法

平常点（授業参加度・受講態度）70％、レポート30％　但し、11/15時間に満たない場合は不可

8　オフィスアワー（授業相談）

授業日の12：00～13：00

9　授業用E-mail

a14314@mail.ryukoku.ac.jp

医療イノベーションの基礎

1　担　当　教　員　名

特任教授　松　浦　昌　宏（研究活動統括本部研究戦略推進室産学連携推進部門）
教　　授　久津見　　弘（臨床研究開発センター）
特任教授　谷　　徹（革新的医療機器・システム研究開発講座）

2　配　当　学　年　等

第１学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

医学の発展はめざましく、それに対応するように医薬品や医療機器の分野でのイノベーション（革新的な製品やサービス等）が創出されてきており、医療人の医療知識･技術と共に最先端の医療を支える両輪として働いている。この授業では、自らが医療人となった際に広い視野で物事が捉えられる視点や異分野の人とコミュニケーション力や発表能力を養うことを目標とする。具体的な授業の到達目標を以下に示す。

１）医療を取り巻く環境について調査することができる。
２）イノベーション、オープンイノベーションとは何かを説明できる。
３）バイオデザイン手法について説明できる。
４）異分野の人とコミュニケーションについて注意すべき点を説明できる。
５）産業界における製品開発の進め方を説明できる。
６）知的財産権についての基本事項について説明できる。
７）薬事規制についての基本事項について説明できる。
８）広告医学についての基本事項について説明できる。
９）テーマに応じた適切な発表方法について注意すべき点を説明できる。
10）金融に関する基本事項について説明できる。
11）研究と開発の違いについて説明できる。
12）自分自身の（医療人としての）将来像を他者に理解できるように説明できる。
13）医療とAI（人工知能）等の関係性を説明できる。

4　授　業　概　要

この授業では､16回にわたって医療人としての専門教育だけでは学べない医療を支える外的な要因（産業界の考え方､コミュニケーションの取り方、製品開発の進め方、それらに関連する知的財産権や薬事規制など）を学習する。更に、自身の考えをまとめて他の人の伝える発表の仕方を学習し、実習する。

この一連の学習は、文部科学省の「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXTプログラム）」の一環として実施する。一般的な経済活動の仕組みや視点を理解し、医療分野に限らず新しい「コト」にチャレンジし、自らの志を実現できる医療人の育成を目的とする。

１コマの授業の対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマあたり90分の復習が望まれます。

5　授　業　内　容

医療イノベーションに関連する各分野の講師を外部から招聘し、オムニバス形式で授業を行う。（全体としての授業内容に変更はないが、外部講師の都合等により各回の担当教員や項目・内容が変更になることもある。）

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月13日㈬	4	松　浦	授業科目 オリエンテーション 医療イノベーション	本科目の概要とオリエンテーション 医療分野のイノベーションの本質、実例 Society５.０と医療の関連性	①
第２回	令和４年４月20日㈬	4	松　浦 藤　岡	医療と金融	①人生に必要なお金の知識｢金融リテラシー｣とお金に関するデータの読み方 ②医療と金融の関わり	①
第３回	令和４年４月27日㈬	4	松　浦 新　名	異分野との コミュニケーション①	他者の行動を変える手法 （プレゼンテーション） 行動変容を促すために 「社会で活用されてるデータ」を基にした 「伝え方」の習得	①

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第４回	令和４年５月11日㈬	4	松　浦 谷	発想をイノベーションに繋ぐには	今までに製品化したテーマの イノベーション誕生から完成までの経験。 今後のイノベーションとして、 医療分野でのビッグデータ： 具体例として、外科系 National Clinical Data（NCD）とその可能性。	①
第５回	令和４年５月18日㈬	4	松　浦 山　田	革新的医療機器・ システム研究開発	革新的医療機器・システム研究開発の内容紹	①
第６回	令和４年５月25日㈬	4	松　浦 祇　園	デザイン思考	新しいことを発想する手法、 それを実現するための手法	①
第７回	令和４年６月１日㈬	4	松　浦 前　田	バイオデザイン総論 （医療現場のニーズ発の医療機器開発）	医療現場の新しい課題を発見し、 解決策を考え、実現する手法	①
第８回	令和４年６月８日㈬	4	松　浦 能　見	リーダーシップ論	リーダーの資質・必要性、 新しいことを実現するチームづくり	①
第９回	令和４年６月15日㈬	4	松　浦 西　井	広告医学概論	医療×クリエイティブの可能性、 新概念Street Medical、Creative Hospitalの意義、データ・AI利活用の可能性	①
第10回	令和４年６月22日㈬	4	松　浦 田　上	異分野との コミュニケーション②	他者の本音を引き出す質問の手法 （コーチング）	①
第11回	令和４年６月29日㈬	4	松　浦 久津見	薬事規制	医療に使われる製品（薬や医療機器）についての法的規制 ～AI医療機器における、薬事規制、ELSI、個人情報も含めて～	①
第12回	令和４年７月６日㈬	4	松　浦 山　本	健康投資型の医療	予防の推進や経済性の重視など、 社会課題に即した医療の在り方 ～技術の進化、データやコミュニティの活用に即して～	①
第13回	令和４年７月13日㈬	4	松　浦	研究開発と知的財産概論	研究、製品開発の流れ、市場データの読み方、企業の考え方、知的財産の基礎	①
第14回	令和４年７月20日㈬	4	〃	グループワーク （４～５人／グループ）	医療及び医療人の将来像について ～AIの進化を見据えて～	①
第15回	令和４年７月27日㈬	4	〃	プレゼンテーション①	「医療及び医療人の将来像～AIの進化を見据えて～」発表 （５分／グループ）	①
第16回	令和４年７月27日㈬	5	〃	プレゼンテーション②	「医療及び医療人の将来像～AIの進化を見据えて～」発表 （５分／グループ）	①

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、講義、グループでの作業、発表からなる。講義はプロジェクターを使い、パワーポイントで進める。資料としてパワーポイントの抜粋等をプリントとして配付する。グループでの作業は担当教員の指示に従って進め、積極的かつ建設的な発言を求める。発表実習はグループでの作業の成果をパワーポイントで発表する。

7　評　価　方　法

最終の３回は出席を必須とし、出席回数が11回以上（出席率70％以上）の場合は、期末レポート課題の提出資格を認める。なお、最終成績は期末レポート課題の評価（60％）に発表（内容、発表資料の分かりやすさ、発表の仕方）の評価（40％）を加味して評価する。

8　参　考　文　献

1．医療イノベーションの本質－破壊的創造の処方箋（碩学舎ビジネス双書）　著：クレイトン・M・クリステンセン他、訳：山本雄士他
（原著）The Innovator's Prescription：A Disruptive Solution for Health Care, Clayton M. Christensen et al.
2．BIODESIGN バイオデザイン日本語版（薬事日報社）　著：ステファノス・ゼニオス他、【監修】一般社団法人日本医療機器産業連合会他
（原著）Biodesign：The Process of Innovating Medical Technologies, Paul G. Yock et al.
3．リーン・スタートアップ　ムダのない起業プロセスでイノベーションを生みだす（日経BP社）　著：エリック・リース　訳：井口耕二
（原著）The Lean Startup：How Today's Entrepreneurs Use Continuous Innovation to Create Radically Successful Businesses, Rric Ries

9　オフィスアワー（授業相談）

質問や相談があれば、随時受け付けます。産学連携推進部門（病院D棟）に来室するかメール等で連絡してください。

10　学生へのメッセージ

医療人を目指す学生にとっても医学・看護学以外の学問や医療以外の社会活動に対する理解は必要であり、その理解が更に医学・看護学・医療への理解を深め、社会人としての全人的な能力を養う基礎となります。一見、医学・看護学や医療とは無関係のように思える学問や社会・産業界の仕組みを学習し、社会とのつながりを認識していく過程で、医療人を目指した自分自身の原点をあらためて見つめ直し、自分自身が志す医療人、研究者として成長する基盤の考え方を養ってほしいと思います。

11　授業用URL

http://ikode-sums.com/

12　授業用E-mail

ikode@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 Ⅰ a

1 担 当 教 員 名

教　　授　加　藤　　穣（医療文化学講座（英語））

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

By the end of the course, students will have acquired greater knowledge about language learning theories, and culture in the English-speaking countries.
Also, students will be able to read literary texts and passages related to nursing, write effectively and communicate in simple English.

4 授 業 概 要

The primary goal of this course is to improve students' reading and listening skills using class materials that deal with a wide range of topics including culture, science, and nursing. In order to help students prepare for more advanced courses in the later years, class activities also involve other skills; listening, speaking, and writing.
The course prepares students for independent language learning in the future.

As the first language course at college level, this class includes elements of remedial instruction.

In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

5 授 業 内 容

In learning a foreign language, quality inputs matter most. This course is designed to allow students to have quality inputs through class materials.
Students are required to take Pre-TOEFL-ITP test to assess their proficiency.

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月11日(月)	1	加　藤	Introduction	Basics about the English language Assignment：To be announced.	看2・看3
第２回	令和４年４月18日(月)	1	〃	Pre-TOEFL（ITP） 実施		看1
第３回	令和４年４月25日(月)	1	〃	Unit 1： Fine Arts (1)	The West and the East Assignment：To be announced. Writing your self-introduction	看2・看3
第４回	令和４年５月２日(月)	1	〃	Unit 3： World History (1)	The Protestant Reformation Assignment：To be announced. Writing your self-introduction	看2・看3
第５回	令和４年５月９日(月)	1	〃	Unit 4： Language Arts (1)	Literal and Figurative Language Assignment：To be announced. Writing your self-introduction	看2・看3
第６回	令和４年５月16日(月)	1	〃	Unit 5： Natural Sciences (1)	The Immune System and Disease Assignment：To be announced.	看2・看3
第７回	令和４年５月23日(月)	1	〃	Unit 6： Fine Arts (2)	Monet and Van Gogh Assignment：To be announced.	看2・看3
第８回	令和４年５月30日(月)	1	〃	Unit 8： World History (2)	America in the 1920s Assignment：To be announced. Sharing your self-introductions	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第９回	令和４年６月６日(月)	1	加　藤	Unit ９： World History (3)	Lindbergh and Chaplin Assignment：To be announced. Sharing your self-introductions	看2・看3
第10回	令和４年６月13日(月)	1	〃	Unit 10： Natural Sciences (2)	AIDS and the Prevention of Disease Assignment：To be announced. Sharing your self-introductions	看2・看3
第11回	令和４年６月20日(月)	1	〃	Unit 12： Sayings and Phrases	Let the Cat out of the Bag Assignment：To be announced.	看2・看3
第12回	令和４年６月27日(月)	1	〃	Unit 13： Fine Arts (3)	Abstractionism and Sand Painting Assignment：To be announced.	看2・看3
第13回	令和４年７月４日(月)	1	〃	Unit 17： Natural Sciences (3)	White Light and the Spectrum Assignment：To be announced.	看2・看3
第14回	令和４年７月11日(月)	1	〃	Unit 18： Language and Arts (4)	Orpheus and Eurydice Assignment：To be announced.	看2・看3
第15回	令和４年７月25日(月)	1	〃	最終試験に向けて	まとめ	看2・看3
第16回	令和４年８月８日(月)	1	〃	試 験 （９：00～10：30）		①
第17回	令和４年９月22日(木)	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業内では基本的に英語（必要に応じて日本語）を用いる。ポイントを中心に解説するほか、毎回の授業の中で基礎的な事項を確認する。個人・グループで課題に取り組む時間を設ける。提出物等については指示に従うこと。クラス内の小テストについても範囲や様態を随時指定する。オンライン受講で小テストを受けられない場合は最終試験に合わせて追試験を受けること。WebClass等で配布資料や動画のURL等を参照できるようにする予定。

7　評　価　方　法

小テスト含む平常点（30%）および定期試験の成績（70%）から総合的に評価する。①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延など）がない場合の欠席・遅刻・早退は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。 ②期末試験の得点率が60%を下回った場合は、出席率に関わらず、単位を認定しない。
TOEFL（ITP）は平常点に含むものとする（得点に応じて10%まで加点する）

8　テ　キ　ス　ト

Fundamentals, Edited with Notes by Kaoru Murata, 鶴見書店　2015年

9　参　考　文　献

授業時に適宜指示する。

10　オフィスアワー（授業相談）

随時（e-mail にてアポイントメントをとること）

11　学生へのメッセージ

I hope this course helps you learn to express ideas clearly, logically and effectively, as well as broaden your horizons, and prepares yourself for your future professional life.

12　授業用E-mail

yk227@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 Ⅰ b

1 担 当 教 員 名

教　　授　加　藤　　穣（医療文化学講座（英語））

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

By the end of the course, students will have acquired greater knowledge about language learning theories, and culture in the English-speaking countries.
Also, students will be able to understand the English spoken in natural settings, read literary texts and passages related to nursing, write effectively and communicate in simple English.

4 授 業 概 要

The primary goal of this course is to improve students' integrated language skills using class materials that deal with a wide range of topics including culture, science, and nursing. In order to help students prepare for more advanced courses in the later years, class activities also involve other skills; listening, speaking, and writing.
The course prepares students for independent language learning in the future.
The course is designed to expose students to cultures of English-speaking countries and to develop students' cultural competence.

In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

5 授 業 内 容

In learning a foreign language, quality inputs matter most. This course is designed to allow students to have quality inputs through materials on American history, health policies of the United States, lectures on FN and nursing, videos on foreigners living in Japan, science fictions featuring emerging technologies, passages from literature, film trailers. Each class consists of independent and group tasks, lectures, and assignments.
Students are encouraged to enjoy conversations with peers in English.

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月３日(月)	1	加　藤	Introduction	１aの復習 In-class writing	看2・看3
第２回	令和４年10月17日(月)	1	〃	FN quotes	Talking about FN 小テストについて解説	看2・看3
第３回	令和４年10月24日(月)	1	〃	FN quotes	小テスト	看2・看3
第４回	令和４年11月７日(月)	1	〃	FN quotes	In-class writing	看2・看3
第５回	令和４年11月14日(月)	1	〃	FN quotes	In-class writing 小テストについて解説	看2・看3
第６回	令和４年11月21日(月)	1	〃	A video on FN	小テスト	看2・看3
第７回	令和４年11月28日(月)	1	〃	A video on FN	In-class writing	看2・看3
第８回	令和４年12月５日(月)	1	〃	A passage on death and dying	小テストについて解説 In-class writing	看2・看3
第９回	令和４年12月19日(月)	1	〃	A passage on death and dying	小テスト	看2・看3
第10回	令和４年12月26日(月)	1	〃	A passage on death and dying	In-class writing	看2・看3
第11回	令和５年１月10日(火)	1	〃	A passage on death and dying	小テストについて解説 In-class writing	看2・看3
第12回	令和５年１月16日(月)	1	〃	Describing a picture	小テスト	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第13回	令和５年１月23日㈪	1	加　藤	Describing a picture	In-class writing	看2・看3
第14回	令和５年１月30日㈪	1	〃	Drawing a picture	In-class writing	看2・看3
第15回	令和５年２月６日㈪	1	〃	最終試験に向けて	まとめ	看2・看3
第16回	令和５年２月13日㈪	1	〃	試　験（９：00～10：30）		看1
第17回	令和５年３月２日㈭	2	〃	再試験（11：00～12：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業内では基本的に英語（必要に応じて日本語）を用いる。ポイントを中心に解説するほか、毎回の授業の中で基礎的な事項を確認する。個人・グループで課題に取り組む時間を設ける。提出物等については指示に従うこと。クラス内の小テストについても範囲や様態を随時指定する。オンライン受講で小テストを受けられない場合は最終試験に合わせて追試験を受けること。WebClass等で配布資料や動画のURL等を参照できるようにする予定。

7　評　価　方　法

小テスト含む平常点（30%）および定期試験の成績（70%）から総合的に評価する。①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延など）がない場合の欠席・遅刻・早退は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。 ②期末試験の得点率が60%を下回った場合は、出席率に関わらず、単位を認定しない。

8　テ　キ　ス　ト

ハンドアウトを配付する。

9　参　考　文　献

「看護英語の基本用語と表現」メジカル ビュー社。2016年

10　オフィスアワー（授業相談）

随時（e-mail にてアポイントメントをとること）

11　学生へのメッセージ

This course also helps you learn to express ideas clearly, logically and effectively, as well as broaden your horizons, and prepares yourself for your future professional life.

12　授業用E-mail

yk227@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 実 習 Ⅰ a

1 担 当 教 員 名

特任准教授　Richard Hodge　（医療文化学講座（英語））

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

The goals for this course are：
-to develop an ability to communicate with a diverse range of people in English.
-to distinguish between different styles of writing including academic, formal and informal correspondence by letter and email, and narratives.
-to acquire skills for quickly understanding the gist of written and spoken English.
-to be able to respond appropriately to different types of written and spoken English.
-to develop autonomy in language study for life-long learning.

4 授 業 概 要

Students will mainly be engaged in speaking and listening activities, with some reading and writing. Speaking activities will take place in pairs and small groups to increase opportunities for practice and build confidence. Students will also read, write, and listen to English online（e-learning）during class time and as homework.

5 授 業 内 容

Speaking：in-class pair and group practice
Listening：songs, dialogs, narratives, film clips, and online materials（e-learning）
Reading：prints, medical English, and online material
Writing：film response essays and listening reports

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月14日㈭	３・４	Hodge		Self introductions：speaking in pairs and small groups, followed by written version as homework.	看2
第２回	令和４年４月21日㈭	３・４	〃		Self introductions：due printed out for peer reading and discussion in class. Vocabulary for body parts and common action verbs.	看2
第３回	令和４年４月28日㈭	３・４	〃		１. manythings.org：pronunciation practice, grammar quizzes, and vocabulary matching. ２. elllo.org listening practice	MMC
第４回	令和４年５月12日㈭	３・４	〃		Definitions：Describing foods “hints” game.	看2
第５回	令和４年５月19日㈭	３・４	〃		Food hints continued. Hospital admissions vocabulary and dialog.	看2
第６回	令和４年５月26日㈭	３・４	〃		Hospital admissions vocabulary and dialog, continued.	看2
第７回	令和４年６月２日㈭	３・４	〃		Accident story：Practice in telling stories in formats of various length. Brainstorming to generate relevant details. Homework：Write one accident story with a moral or other life lesson in the conclusion.	看2
第８回	令和４年６月９日㈭	３・４	〃		Accident story：Small groups do peer reading and discussion in class.	看2
第９回	令和４年６月16日㈭	３・４	〃		Giving directions and describing locations.	看2

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第10回	令和４年６月23日㈭	3・4	Hodge		Directions：Students role-play giving directions to an authentic place.	看2
第11回	令和４年６月30日㈭	3・4	〃		GATTACA part I：Film on biotechnology and reproduction, discussion questions.	看2
第12回	令和４年７月７日㈭	3・4	〃		GATTACA part II：Discussion questions, and writing assignment.	看2
第13回	令和４年７月14日㈭	3・4	〃		Film essay due printed out for peer-reading, correction, and discussion in small groups.	看2
第14回	令和４年７月21日㈭	3・4	〃		Dictation practice Review for final exam	看2
第15回	令和４年７月28日㈭	3・4	〃		Oral Interview Exam	看2
第16回	令和４年８月４日㈭	2	〃	試 験 （11：00～12：30）		①
第17回	令和４年９月22日㈭	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used to activate students‘ existing knowledge of English.

7　評　価　方　法

Students will be evaluated according to their attendance and in-class participation（30%）, completed assignments and in-class exams（30%）, and the final exam（40%）. The final exam will consist of writing and listening sections based on content studied during the course. Students who are absent from more than 30% of the classes will be disqualified from taking the final exam. Normally, a score of at least 60 points on the final exam is required to pass the course. However, students who lose points for incomplete or late assignments during the semester may be required to score well above 60 points on the final exam to pass the course.

8　テ　キ　ス　ト

Prints will be supplied by the teacher. Students are required to bring a folder with all course prints and written assignments to each lesson.

9　オフィスアワー（授業相談）

Thursdays, 10：00 – 11：00, or make an appointment by email.

10　授業用E-mail

richard@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 実 習 Ⅰ b

1 担 当 教 員 名

特任准教授　Richard Hodge　（医療文化学講座（英語））

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

The goals for this course are：
-to develop an ability to communicate with a diverse range of people in English.
-to distinguish between different styles of writing including academic, formal and informal correspondence by letter and email, and narratives.
-to acquire skills for quickly understanding the gist of written and spoken English.
-to be able to respond appropriately to different types of written and spoken English.
-to develop autonomy in language study for life-long learning.

4 授 業 概 要

Students will mainly be engaged in speaking and listening activities, with some reading and writing. Speaking activities will take place in pairs and small groups to increase opportunities for practice and build confidence. Students will also read, write, and listen to English online（e-learning）during class time and as homework.

5 授 業 内 容

Speaking：in-class pair and group practice
Listening：songs, dialogs, narratives, film clips, and online materials（e-learning）
Reading：prints, medical English, and online material
Writing：film response essays and listening reports

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	３・４	Hodge		Summer dialogs	看2
第２回	令和４年10月13日㈭	３・４	〃		Summer report due	看2
第３回	令和４年10月20日㈭	３・４	〃		Drama activity：Exploring non-verbal communication	看2
第４回	令和４年11月10日㈭	３・４	〃		Introduction to TED Talks online. Instructions for semester listening reports.	MMC
第５回	令和４年11月17日㈭	３・４	〃		TED reports shared in class	看2
第６回	令和４年11月24日㈭	３・４	〃		Stanford Research into the impact of Tobacco Advertising Medlineplus.gov：medical vocabulary	看2
第７回	令和４年12月１日㈭	３・４	〃		Film viewing with discussion questions：SICKO Part I	看2
第８回	令和４年12月８日㈭	３・４	〃		Film viewing with discussion questions and writing assignment：SICKO Part II	看2
第９回	令和４年12月22日㈭	３・４	〃		１. Describing photos in English ２. Yale School of Medicine article on seeing	看2
第10回	令和５年１月５日㈭	３・４	〃		SICKO and Healthcare systems essay for peer-reading, correction, and discussion in small groups. Homework：Draft 2	看2
第11回	令和５年１月12日㈭	３・４	〃		First aid activities 1. Exploring the best practices.	看2
第12回	令和５年１月19日㈭	３・４	〃		First aid activities continued.	看2

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第13回	令和５年１月26日㈭	3・4	Hodge		First aid student demonstrations	看2
第14回	令和５年２月２日㈭	3・4	〃		Dictation practice	看2
第15回	令和５年２月７日㈫	3・4	〃		Oral interview exam	看2
第16回	令和５年２月９日㈭	2	〃	試　験 （11：00～12：30）		看1
第17回	令和５年３月２日㈭	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used to activate students' existing knowledge of English.

7　評　価　方　法

Students will be evaluated according to their attendance and in-class participation（30%）, completed assignments and in-class exams（30%）, and the final exam（40%）. The final exam will consist of writing and listening sections based on content studied during the course. Students who are absent from more than 30% of the classes will be disqualified from taking the final exam. Normally, a score of at least 60 points on the final exam is required to pass the course. However, students who lose points for incomplete or late assignments during the semester may be required to score well above 60 points on the final exam to pass the course.

8　テ　キ　ス　ト

Prints will be supplied by the teacher. Students are required to bring a folder with all course prints and written assignments to each lesson.

9　オフィスアワー（授業相談）

Thursdays, 10：00 – 11：00, or make an appointment by email.

10　学生へのメッセージ

richard@belle.shiga-med.ac.jp

ドイツ語 a

1 担当教員名

非常勤講師　川　野　正　嗣

2 配当学年等

第１学年　前期　１単位

3 学修目標

読み、聴き、書き、話すの四技能をバランスよく習得し、身近で簡単な事柄のドイツ語を理解し、自分の意見を場面や相手にふさわしい簡単なドイツ語で表現できるようにする。

4 授業概要

基本的なドイツ語運用能力を養成することを目的とします。授業前に教科書の内容を確認し、単語の意味を調べてきてください。旅行などの際に、簡単な表現を用いて他者とコミュニケーションがとれる語学力を身につけます。各回の講義に対して、単語の意味を調べるなど30分の予習と授業で習った表現の音読練習など60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。

5 授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月14日㈭	1	川　野	授業の導入と発音	授業全体の説明、発音の練習	看3
第２回	令和４年４月21日㈭	1	〃	Lektion 1	動詞の人称変化、語順	看3
第３回	令和４年４月28日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第４回	令和４年５月12日㈭	1	〃	Lektion 2	人称代名詞、冠詞	看3
第５回	令和４年５月19日㈭	1	〃	〃	冠詞、複数形	看3
第６回	令和４年５月26日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第７回	令和４年６月２日㈭	1	〃	Lektion 3	不規則変化動詞、命令形	看3
第８回	令和４年６月９日㈭	1	〃	〃	冠詞、否定文	看3
第９回	令和４年６月16日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第10回	令和４年６月23日㈭	1	〃	Lektion 4	助動詞、前置詞	看3
第11回	令和４年６月30日㈭	1	〃	〃	前置詞	看3
第12回	令和４年７月７日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第13回	令和４年７月14日㈭	1	〃	Lektion 5	分離動詞、非分離動詞	看3
第14回	令和４年７月21日㈭	1	〃	〃	接続詞、形容詞	看3
第15回	令和４年７月28日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第16回	令和４年８月４日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		看3
第17回	令和４年９月22日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

1）講義形式ですが、会話練習などのドイツ語の表現力を鍛える練習をします。グループやペアで課題をこなしてもらいます。授業中の発言、質問等を重視し、平常点として評価します。履修者は授業毎にその回の学習内容の確認と整理を行うこと（授業一回あたり最低１時間の自習が必要）。

2）聞き取り、書き取り練習をふくむリスニング練習による聴解トレーニングを行います。

7　評　価　方　法

この授業では、授業時間内の活動と表現力を重視します。授業中の積極的な発言や発表などの平常点、小テストの得点など40%と定期試験の得点60%で評価します。

8　テ　キ　ス　ト

佐藤和弘ほか『ドイツに行ってみませんか』Ver. 3、郁文堂2014年。ISBN 978-4-261-01256-9。ドイツ語の辞書については初めの時間に指示する。

9　テキストISBN番号

ISBN 978-4-261-01256-9

10　オフィスアワー（授業相談）

質問などは授業後にお願いします。または、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

11　授業用E-mail

kawano.masashi.85w@st.kyoto-u.ac.jp

ドイツ語 b

1 担当教員名

非常勤講師　川　野　正　嗣

2 配当学年等

第１学年　後期　１単位

3 学修目標

ドイツ語の読み、聴き、書き、話すの四技能をバランスよく習得し、身近で簡単な事柄についてドイツ語で理解し、自分の意見を場面や相手にふさわしい簡単なドイツ語で表現できるようにする。

4 授業概要

基本的なドイツ語運用能力を養成することを目的とします。授業前に教科書の内容を確認し、単語の意味を調べてきてください。旅行などの際に、簡単な表現を用いて他者とコミュニケーションがとれる語学力を身につけます。各回の講義に対して、単語の意味を調べるなど30分の予習と授業で習った表現の音読練習など60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。

5 授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	1	川　野	授業の導入と復習	授業全体の説明、前期の復習	看3
第２回	令和４年10月13日㈭	1	〃	Lektion 6	過去形、完了形	看3
第３回	令和４年10月20日㈭	1	〃	Lektion 7	練習問題、受動態	看3
第４回	令和４年11月10日㈭	1	〃	〃	比較級・最上級	看3
第５回	令和４年11月17日㈭	1	〃	Lektion 8	練習問題、関係代名詞	看3
第６回	令和４年11月24日㈭	1	〃	〃	再帰動詞	看3
第７回	令和４年12月１日㈭	1	〃	Lektion 9	練習問題、zu 不定詞	看3
第８回	令和４年12月８日㈭	1	〃	〃	分詞、非人称表現	看3
第９回	令和４年12月22日㈭	1	〃	Lektion 10	練習問題、接続法	看3
第10回	令和５年１月５日㈭	1	〃	〃	接続法	看3
第11回	令和５年１月12日㈭	1	〃	〃	練習問題	看3
第12回	令和５年１月19日㈭	1	〃	会話練習	会話・表現練習を実施する	看3
第13回	令和５年１月26日㈭	1	〃	〃	〃	看3
第14回	令和５年２月２日㈭	1	〃	〃	〃	看3
第15回	令和５年２月７日㈫	1	〃	口述試験		看3
第16回	令和５年２月９日㈭	1	〃	試験		看3
第17回	令和５年３月２日㈭	1	〃	再試験		看3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

1）講義形式ですが、会話練習などのドイツ語の表現力を鍛える練習をします。グループやペアで課題をこなしてもらいます。授業中の発言、質問等を重視し、平常点として評価します。履修者は授業毎にその回の学習内容の確認と整理を行うこと（授業一回あたり最低１時間の自習が必要）。

2）聞き取り、書き取り練習をふくむリスニング練習による聴解トレーニングを行います。

7　評　価　方　法

この授業では、授業時間内の活動と表現力を重視します。授業中の積極的な発言や発表などの平常点、小テストの得点など40%と定期試験の得点60%で評価します。

8　テ　キ　ス　ト

佐藤和弘ほか『ドイツに行ってみませんか』Ver. 3、郁文堂2014年。ISBN 978-4-261-01256-9。ドイツ語の辞書については初めの時間に指示する。

9　テキストISBN番号

ISBN 978-4-261-01256-9

10　オフィスアワー（授業相談）

質問などは授業後にお願いします。または、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

11　授業用E-mail

kawano.masashi.85w@st.kyoto-u.ac.jp

フランス語 a

1 担当教員名

助　川　晃　自（国際企画室　主幹）

2 配当学年等

第１学年　前期　１単位

3 学修目標

「フランス語a／b」の履修を通じて、フランス語の発音と基本的な文法を習得し、簡単な日常表現を身につけ、仏検５級に合格できるレベルを目指します。あわせて、フランス語圏に暮らす人々の暮らしと文化の多様性についても理解を深めます。

4 授業概要

初級の教科書を用いてフランス語の基礎をひとつずつ丁寧に学びながら、「読み･書き･聞く･話す」の総合的な語学力を養います。フランス語を初めて学ぶ学生が対象です。予習よりも復習を重んじ、各課ごとに宿題を課し、適宜、小テストを行います。宿題や小テスト等の準備学習を含め、各回の授業に対して45分の復習が望まれます。

5 授業内容

フランス語の基礎を段階的に学習します。文法の解説と演習を中心に進めますが、発音や聞き取りなどの音声面も重視し、必要に応じて、ペアワークやグループワークを取り入れ、視聴覚教材（映画、音楽、スライド）も用います。また時間の許すかぎり、フランス語圏の文化や社会についても紹介します。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月14日㈭	1	助　川	イントロダクション	自己紹介・発音と綴り字①	看2
第２回	令和４年４月21日㈭	1	〃	イントロダクション	発音と綴り字②	看2
第３回	令和４年４月28日㈭	1	〃	第１課	名詞の性と数・冠詞	看2
第４回	令和４年５月12日㈭	1	〃	第２課	基本動詞①	看2
第５回	令和４年５月19日㈭	1	〃	第３課	否定形・形容詞	看2
第６回	令和４年５月26日㈭	1	〃	第４課	基本動詞②	看2
第７回	令和４年６月２日㈭	1	〃	第４課	疑問形	看2
第８回	令和４年６月９日㈭	1	〃	第５課	所有形容詞	看2
第９回	令和４年６月16日㈭	1	〃	第５課	指示形容詞・疑問形容詞	看2
第10回	令和４年６月23日㈭	1	〃	第６課	不規則動詞①	看2
第11回	令和４年６月30日㈭	1	〃	第６課	不規則動詞②	看2
第12回	令和４年７月７日㈭	1	〃	第７課	不規則動詞③	看2
第13回	令和４年７月14日㈭	1	〃	第７課	疑問代名詞	看2
第14回	令和４年７月21日㈭	1	〃	第７課	疑問副詞・数詞	看2
第15回	令和４年７月28日㈭	1	〃	総復習	要点のまとめ	看2
第16回	令和４年８月４日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		看2
第17回	令和４年９月22日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看2

6　授業形式・視聴覚機器の活用

文法解説と演習を中心に進めます。必要に応じて、ビデオやスライドを用います。

7　評　価　方　法

授業内容に掲げた全項目を対象とした期末試験を行います。期末試験の成績70％、小テストの成績30％の合計が60％以上を合格とします。

①全回出席を前提とします。対面授業を基本とし、特別の理由がある場合に限り、Zoomでの参加を認めます。Zoomで参加する場合は、事前に担当教員に連絡の上、特段の事情がない限り、リアルタイムで参加してください。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延、感染症対策など）がない場合の欠席や遅刻は減点の対象とします。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしません。

②期末試験の成績が100点満点換算で60点を下回った場合は、出席率の良し悪しに関わらず、単位を認定しません。

8　テ　キ　ス　ト

『ル・フランセ・クレール［三訂版］』清岡智比古、白水社

9　テキストISBN番号

978-4-560-06138-1

10　オフィスアワー（授業相談）

質問はいつでも受け付けます。以下のアドレスへ連絡してください。

11　学生へのメッセージ

何よりも授業への積極的な参加を求めます。Zoomで参加する場合も含め、休まない、遅刻しない、復習を怠らない、この３点を心に留めて、最後まで意欲をもって取り組んでください。

12　授業用E-mail

sukegawa@belle.shiga-med.ac.jp

フランス語 b

1 担当教員名

助　川　晃　自（国際企画室　主幹）

2 配当学年等

第１学年　後期　１単位

3 学修目標

「フランス語a／b」の履修を通じて、フランス語の発音と基本的な文法を習得し、簡単な日常表現を身につけ、仏検５級に合格できるレベルを目指します。あわせて、フランス語圏に暮らす人々の暮らしと文化の多様性についても理解を深めます。

4 授業概要

初級の教科書を用いてフランス語の基礎をひとつずつ丁寧に学びながら、「読み･書き･聞く･話す」の総合的な語学力を養います。フランス語を初めて学ぶ学生が対象です。予習よりも復習を重んじ、各課ごとに宿題を課し、適宜、小テストを行います。宿題や小テスト等の準備学習を含め、各回の授業に対して45分の復習が望まれます。

5 授業内容

フランス語の基礎を段階的に学習します。文法の解説と演習を中心に進めますが、発音や聞き取りなどの音声面も重視し、必要に応じて、ペアワークやグループワークを取り入れ、視聴覚教材（映画、音楽、スライド）も用います。また時間の許すかぎり、フランス語圏の文化や社会についても紹介します。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	1	助　川	前期の復習	第１課～第７課	看2
第２回	令和４年10月13日㈭	1	〃	第８課	不規則動詞④	看2
第３回	令和４年10月20日㈭	1	〃	第８課	比較級	看2
第４回	令和４年11月10日㈭	1	〃	第８課	最上級	看2
第５回	令和４年11月17日㈭	1	〃	第９課	不規則動詞⑤	看2
第６回	令和４年11月24日㈭	1	〃	第９課	命令形	看2
第７回	令和４年12月１日㈭	1	〃	第９課	非人称構文	看2
第８回	令和４年12月８日㈭	1	〃	第10課	目的語人称代名詞	看2
第９回	令和４年12月22日㈭	1	〃	第11課	複合過去①	看2
第10回	令和５年１月５日㈭	1	〃	第11課	複合過去②	看2
第11回	令和５年１月12日㈭	1	〃	第12課	関係代名詞	看2
第12回	令和５年１月19日㈭	1	〃	第12課	強調構文	看2
第13回	令和５年１月26日㈭	1	〃	演習	会話表現①	看2
第14回	令和５年２月２日㈭	1	〃	演習	会話表現②	看2
第15回	令和５年２月７日㈫	1	〃	総復習	要点のまとめ	看2
第16回	令和５年２月９日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		看2
第17回	令和５年３月２日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看2

6　授業形式・視聴覚機器の活用

文法解説と演習を中心に進めます。必要に応じて、ビデオやスライドを用います。

7　評　価　方　法

授業内容に掲げた全項目を対象とした期末試験を行います。期末試験の成績70％、小テストの成績30％の合計が60％以上を合格とします。

①全回出席を前提とします。対面授業を基本とし、特別の理由がある場合に限り、Zoomでの参加を認めます。Zoomで参加する場合は、事前に担当教員に連絡の上、特段の事情がない限り、リアルタイムで参加してください。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延、感染症対策など）がない場合の欠席や遅刻は減点の対象とします。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしません。

②期末試験の成績が100点満点換算で60点を下回った場合は、出席率の良し悪しに関わらず、単位を認定しません。

8　テ　キ　ス　ト

『ル・フランセ・クレール［三訂版］』清岡智比古、白水社

9　テキストISBN番号

978-4-560-06138-1

10　オフィスアワー（授業相談）

質問はいつでも受け付けます。以下のアドレスへ連絡してください。

11　学生へのメッセージ

何よりも授業への積極的な参加を求めます。Zoomで参加する場合も含め、休まない、遅刻しない、復習を怠らない、この３点を心に留めて、最後まで意欲をもって取り組んでください。

12　授業用E-mail

sukegawa@belle.shiga-med.ac.jp

中 国 語 a

1 担 当 教 員 名

非常勤講師　前 田 尚 香

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

中国語の正しい発音を身につけ、基本的な語法を理解したうえで、簡単な事柄を中国語で表現でき、聞きとれるようになる。

4 授 業 概 要

基本的な語法をしっかり学んだ上で語彙を増やし、コミュニケーション能力をつける。中国の人々の現代文化や生活習慣などに対する理解を深める。

１コマの授業に対して、15分の予習と30分の復習を日常的に行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

授業はテキストに基づいて行い、随時プリント等を配布予定。最初の１か月で基礎としての発音を習得し、その後基礎的な文法から順に学ぶ。また、リスニングやスピーキングの練習なども行う。

なお、受講者の人数、興味、習熟度などにより、内容や進度を若干変更する場合がある。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月14日㈭	1	前　田	ガイダンス・発音	ガイダンスと発音の基礎／声調・単母音など	MMC演
第２回	令和４年４月21日㈭	1	〃	発音	子音／複母音／鼻母音	MMC演
第３回	令和４年４月28日㈭	1	〃	発音まとめ	声調の変化／総復習、小テストなど	MMC演
第４回	令和４年５月12日㈭	1	〃	第１課	第１課 文法事項の理解／動詞“是”、人称代名詞	MMC演
第５回	令和４年５月19日㈭	1	〃	第１課	第１課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第６回	令和４年５月26日㈭	1	〃	第２課	第２課 文法事項の理解／形容詞、指示代名詞	MMC演
第７回	令和４年６月２日㈭	1	〃	第２課	第２課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第８回	令和４年６月９日㈭	1	〃	第３課	第３課 文法事項の理解／動詞述語文、疑問詞疑問文	MMC演
第９回	令和４年６月16日㈭	1	〃	第３課	第３課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第10回	令和４年６月23日㈭	1	〃	第４課	第４課 文法事項の理解／助動詞、選択疑問文	MMC演
第11回	令和４年６月30日㈭	1	〃	第４課	第４課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第12回	令和４年７月７日㈭	1	〃	第５課	第５課 文法事項の理解／数詞、量詞	MMC演
第13回	令和４年７月14日㈭	1	〃	第５課	第５課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第14回	令和４年７月21日㈭	1	〃	第６課	第６課 文法事項の理解／動詞“有”“在”、反復疑問文	MMC演
第15回	令和４年７月28日㈭	1	〃	第６課／前期総復習	第６課 文法事項のまとめ・練習／前期総復習	MMC演
第16回	令和４年８月４日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		①
第17回	令和４年９月22日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

原則、対面で実施し、講義室で実施する授業をZOOMを用いてライブで同時配信も行う。なお、定期試験は原則対面で実施予定。最初の一ケ月は発音の習得を中心とする。文法事項の講義内容はテキストに沿って行い、授業中は中国語を話す機会をできるだけ多く持てるようにする。適宜小テスト等を行う予定。課題も必ず提出すること。

7　評　価　方　法

①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延など）がない場合の欠席や遅刻は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。

②期末試験の成績が100点満点換算で60点を下回った場合は、出席率の良し悪しに関わらず、単位を認定しない。

以上の原則のもと、期末試験の成績70％、授業中の評価30％とする。

8　テ　キ　ス　ト

『１冊目の中国語　講読クラス』劉頴ほか著／白水社

9　テキストISBN番号

978-４-560-06919-６

10　参考文献

特に準備する必要なし。適宜プリントを配布予定。

11　オフィスアワー（授業相談）

木曜日　11：50～12：50

授業用E-mail：Webclassのメール

12　学生へのメッセージ

同じ漢字文化圏の人々が話している言葉を通じて、私たちの将来のさまざまな可能性を想像していただければと思います。

中 国 語 b

1 担 当 教 員 名

非常勤講師　前　田　尚　香

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

中国語の正しい発音を身につけ、基本的な語法を理解したうえで、簡単な事柄を中国語で表現でき、聞きとれるようになる。

4 授 業 概 要

基本的な語法をしっかり学んだ上で語彙を増やし、コミュニケーション能力をつける。中国の人々の現代文化や生活習慣などに対する理解を深める。

１コマの授業に対して、15分の予習と30分の復習を日常的に行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

授業はテキストに基づいて行い、随時プリント等を配布予定。基礎的な文法を復習しつつ、さらに複雑な文の形式と多くの単語を身につけて表現力を高める。また、リスリングやスピーキングの練習なども引き続き行い、さらなるレベルアップを目指す。
なお、受講者の人数、興味、習熟度などにより、内容や進度を若干変更する場合がある。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	1	前　田	復習／第７課	前期の範囲の復習／第７課文法事項の理解／連動文、完了の“了”	MMC演
第２回	令和４年10月13日㈭	1	〃	第７課	第７課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第３回	令和４年10月20日㈭	1	〃	第８課	第８課 文法事項の理解／変化の“了”、動詞“有”Ⅱ	MMC演
第４回	令和４年11月10日㈭	1	〃	第８課	第８課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第５回	令和４年11月17日㈭	1	〃	第９課	第９課 文法事項の理解／助動詞Ⅱ、前置詞“给”	MMC演
第６回	令和４年11月24日㈭	1	〃	第９課	第９課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第７回	令和４年12月１日㈭	1	〃	第10課	第10課 文法事項の理解／時刻の言い方、助詞“過”	MMC演
第８回	令和４年12月８日㈭	1	〃	第10課	第10課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第９回	令和４年12月22日㈭	1	〃	第11課	第11課 文法事項の理解／“是～的”、比較の表現	MMC演
第10回	令和５年１月５日㈭	1	〃	第11課	第11課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第11回	令和５年１月12日㈭	1	〃	第12課	第12課 文法事項の理解／結果補語、二重目的語をもつ動詞	MMC演
第12回	令和５年１月19日㈭	1	〃	第12課	第12課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第13回	令和５年１月26日㈭	1	〃	第13課	第13課 文法事項の理解／疑問詞“怎么”、使役	MMC演
第14回	令和５年２月２日㈭	1	〃	第13課	第13課 文法事項のまとめ・練習	MMC演
第15回	令和５年２月７日㈫	1	〃	後期総復習	後期のまとめ・総復習	MMC演

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第16回	令和５年２月９日㈭	1	前　田	試　験 （９：00～10：30）		看4
第17回	令和５年３月２日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

原則、対面で実施し、講義室で実施する授業をZOOMを用いてライブで同時配信も行う。なお、定期試験は原則対面で実施予定。講義内容はテキストに沿って行い、授業中は中国語を話す機会をできるだけ多く持てるようにする。適宜小テストや演習・発表等を行う予定。課題も必ず提出すること。

7　評　価　方　法

①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由（忌引き、病欠、交通機関の遅延など）がない場合の欠席や遅刻は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分の一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。
②期末試験の成績が100点満点換算で60点を下回った場合は、出席率の良し悪しに関わらず、単位を認定しない。
以上の原則のもと、期末試験の成績70％、授業中の評価30％とする。

8　テ　キ　ス　ト

『１冊目の中国語　講読クラス』劉頴ほか著／白水社

9　テキストISBN番号

978-４-560-06919-６

10　参考文献

特に準備する必要なし。適宜プリントを配布予定。

11　オフィスアワー（授業相談）

木曜日　11：50～12：50
授業用E-mail：Webclassのメール

12　学生へのメッセージ

同じ漢字文化圏の人々が話している言葉を通して、私たちの将来のさまざまな可能性を想像していただければと思います。

解 剖 生 理 学 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

人を対象とする看護の実践にあたっては、人体のあらゆる側面について学び、深く理解することが重要である。このための学修領域のひとつである解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護学教育において最重要の基礎となるものである。この解剖生理学を単なる知識ではなく、看護の現場で自由自在に応用可能な実践的な知識として定着させることを目標とする。

4 授 業 概 要

解剖生理学Ⅰでは、人体の構造と機能について、はじめに総論として解剖生理学の基礎を学び、引き続き器官系ごとに系統的に学ぶ。循環器系、呼吸器系、消化器系、組織学の順に学修する。１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

器官系ごとの講義は、はじめに解剖学的側面、すなわち「構造」について学び、その後に生理学的側面、すなわち「機能」について学ぶというスタイルを基本とし、これに生化学、病理学、病態生理学など周辺の学修領域についての解説を適宜加える。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月11日㈪	2	相　見	解剖生理学概論	講義シリーズ全体のイントロダクション	看4
第２回	令和４年４月18日㈪	2	〃	循環器系１	心臓の構造	看4
第３回	令和４年４月25日㈪	2	〃	循環器系２	心臓の機能	看4
第４回	令和４年５月２日㈪	2	〃	循環器系３	血管の構造	看4
第５回	令和４年５月９日㈪	2	〃	循環器系４	血管の機能	看4
第６回	令和４年５月16日㈪	2	〃	呼吸器系１	呼吸器の構造	看4
第７回	令和４年５月23日㈪	2	〃	呼吸器系２	呼吸器の機能	看4
第８回	令和４年５月30日㈪	2	〃	消化器系１	消化器の構造	看4
第９回	令和４年６月６日㈪	2	〃	消化器系２	消化器の機能	看4
第10回	令和４年６月13日㈪	2	〃	消化器系３	消化管付属器の構造と機能	看4
第11回	令和４年６月20日㈪	2	〃	消化器系４	消化吸収と代謝	看4
第12回	令和４年６月27日㈪	2	〃	組織学１	細胞の構造と機能	看4
第13回	令和４年７月４日㈪	2	〃	組織学２	上皮組織、支持組織	看4
第14回	令和４年７月11日㈪	2	〃	組織学３	筋組織、神経組織	看4
第15回	令和４年７月25日㈪	2	〃	総合問題演習	問題形式による復習	看4
第16回	令和４年８月３日㈬	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		①
第17回	令和４年９月20日㈫	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

指定教科書を基本に、スライド、ハンドアウトを用いて講義を展開する。

7　評　価　方　法

定期試験（85%）、平常点（小テスト、受講態度）（15%）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座・人体の構造と機能[１]　解剖生理学　（第11版）　医学書院

9　テキストISBN番号

ISBN978-４-260-04687-９

10　オフィスアワー（授業相談）

まずは　aimi@belle.shiga-med.ac.jp　へメールで。

11　主担当教員の実務経験

医師

解 剖 生 理 学 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　２単位

3 学 修 目 標

人を対象とする看護の実践にあたっては、人体のあらゆる側面について学び、深く理解することが重要である。このための学修領域のひとつである解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護学教育において最重要の基礎となるものである。この解剖生理学を単なる知識ではなく、看護の現場で自由自在に応用可能な実践的な知識として定着させることを目標とする。

4 授 業 概 要

解剖生理学Ⅱでは、講義・演習を通じて、解剖生理学Ⅰと同様に器官系ごとに、分子から個体のレベルについて系統的に学ぶ。筋骨格系、泌尿器系、生殖器系、神経系、内分泌系、免疫系、外皮系、血液について学び、さらに成体の正常構造機能のみならず、妊娠、個体の発生、成熟、生殖に関連する解剖生理も学ぶ。１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

講義では、まず解剖学的側面、その後に生理学的側面を学ぶというスタイルを基本とし、これに生化学、病理学、病態生理学など周辺の学修領域についての解説を適宜加える。演習では骨標本の観察や顕微鏡実習などを通じて、講義で学んだ知識のより一層の定着を図る。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月４日㈫	1	相　見	骨格系１	骨の肉眼解剖	看2・看3
第２回	令和４年10月４日㈫	2	〃	骨格系２	骨の機能	看2・看3
第３回	令和４年10月４日㈫	3	〃	骨格系３	骨、軟骨の顕微解剖と機能	看2・看3
第４回	令和４年10月４日㈫	4	〃	筋系１	筋の肉眼解剖	看2・看3
第５回	令和４年11月１日㈫	1	〃	筋系２	筋の機能	看2・看3
第６回	令和４年11月１日㈫	2	〃	筋系３	筋の顕微解剖と機能	看2・看3
第７回	令和４年11月８日㈫	1	〃	骨学１	四肢骨の観察	看2・看3
第８回	令和４年11月８日㈫	2	〃	骨学２	体幹骨の観察	看2・看3
第９回	令和４年11月15日㈫	1	〃	神経系１	神経系総論	看2・看3
第10回	令和４年11月15日㈫	2	〃	神経系２	体性神経と自律神経	看2・看3
第11回	令和４年11月22日㈫	1	〃	神経系３	末梢神経系	看2・看3
第12回	令和４年11月22日㈫	2	〃	神経系４	中枢神経系	看2・看3
第13回	令和４年11月29日㈫	1	〃	神経系５	高次脳機能	看2・看3
第14回	令和４年11月29日㈫	2	〃	神経系６	感覚器の構造と機能	看2・看3
第15回	令和４年12月６日㈫	1	〃	泌尿器系１	泌尿器の構造	看2・看3
第16回	令和４年12月６日㈫	2	〃	泌尿器系２	泌尿器の機能	看2・看3
第17回	令和４年12月20日㈫	1	〃	生殖器系１	男性生殖器の構造と機能	看2・看3
第18回	令和４年12月20日㈫	2	〃	生殖器系２	女性生殖器の構造と機能	看2・看3
第19回	令和４年12月27日㈫	1	〃	生殖器系３	胎児の成長と発達	看2・看3
第20回	令和４年12月27日㈫	2	〃	生殖器系４	妊娠時の母体の解剖と生理	看2・看3
第21回	令和５年１月17日㈫	1	〃	免疫系１	免疫系の構造	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第22回	令和５年１月17日㈫	2	相　見	免疫系２	免疫系の機能	看2・看3
第23回	令和５年１月24日㈫	1	〃	外皮系	皮膚の構造と機能	看2・看3
第24回	令和５年１月24日㈫	2	〃	血液１	血液の構造	看2・看3
第25回	令和５年１月31日㈫	1	〃	血液２	血液の機能	看2・看3
第26回	令和５年１月31日㈫	2	〃	内分泌系１	内分泌器の構造	看2・看3
第27回	令和５年２月６日㈪	2	〃	顕微鏡法１	骨組織、筋組織、泌尿器の観察	看2・看3
第28回	令和５年２月６日㈪	3	〃	顕微鏡法２	循環器、呼吸器、消化器の観察	看2・看3
第29回	令和５年２月６日㈪	4	〃	内分泌系２	内分泌器の機能	看2・看3
第30回	令和５年２月６日㈪	5	〃	総合問題演習	問題形式による総復習	看2・看3
第31回	令和５年２月14日㈫	1	〃	試　験（９：00～10：30）		看1
第32回	令和５年２月22日㈬	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

指定教科書を基本に、スライド、ハンドアウトを用いて講義を展開する。演習では標本や模型の観察を行う。

7　評　価　方　法

定期試験（85%）、平常点（小テスト、受講態度）（15%）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座・人体の構造と機能[１]　解剖生理学　（第11版）　医学書院

9　テキストISBN番号

ISBN978-４-260-04687-９

10　オフィスアワー（授業相談）

まずは　aimi@belle.shiga-med.ac.jp　へメールで。

11　主担当教員の実務経験

医師

病　理　学

1　担当教員名

教　　授　相見良成（基礎看護学講座）
教　　授　伊藤　靖（病理学講座（疾患制御病態学部門））
准教授　仲山貴永（病理学講座（人体病理学部門））

2　配当学年等

第１学年　後期前半　１単位

3　学修目標

疾病の成立の経緯、臓器機能・組織の変化について学び、疾病に対する理解を深めることを目的とする。

4　授業概要

疾病の予防や治療を実践するためには、疾病の成因を知る必要がある。病理学は疾病の成因を知る上で最も重要な学問分野の一つであり、基礎医学及び臨床医学の発展に必須である。因みに疾病の確定診断は、通常、病理的検査で行われる。本講義を通して病理学の基礎を学ぶ。１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5　授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月７日㈮	4	伊　藤	病因論	病因論	看2・看3
第２回	令和４年10月14日㈮	4	〃	先天性疾患	先天性疾患	看2・看3
第３回	令和４年10月21日㈮	4	〃	炎症	炎症	看2・看3
第４回	令和４年11月４日㈮	4	〃	循環障害(1)	循環障害(1)	看2・看3
第５回	令和４年11月11日㈮	4	〃	循環障害(2)	循環障害(2)	看2・看3
第６回	令和４年11月18日㈮	4	仲　山	進行性病変・退行性病変	進行性病変・退行性病変	看2・看3
第７回	令和４年11月25日㈮	4	〃	腫瘍(1)	腫瘍(1)	看2・看3
第８回	令和４年12月２日㈮	4	〃	腫瘍(2)	腫瘍(2)	看2・看3
第９回	令和５年２月10日㈮	1	相　見	試　験（９：00～10：30）		看1
第10回	令和５年２月27日㈪	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

スライド、ハンドアウトを用いて講義を行う。

7　評価方法

定期試験（85%）、平常点（小テスト、受講態度）（15%）。出席５回未満の場合は定期試験の受験資格はないものとする

8　テキスト

「病理学 - 疾病のなりたちと回復の促進〈１〉」（系統看護学講座 専門基礎分野　医学書院）

9　オフィスアワー（授業相談）

まずは　aimi@belle.shiga-med.ac.jp　へメールで。

10　授業用E-mail

aimi@belle.shiga-med.ac.jp

11　主担当教員の実務経験

医師

感染症学・免疫学

1　担　当　教　員　名

未　定
准　教　授　旦　部　幸　博　（病理学講座（微生物感染症学部門））
講師(学内)　北　川　善　紀　（病理学講座（微生物感染症学部門））

2　配　当　学　年　等

第１学年　後期前半　１単位

3　学　修　目　標

人間に危害を及ぼす微生物とはどのようなものか、またこれらの微生物からの攻撃に対する生体の防御システムについて学び、感染症に対する理解を深める。

- 感染の成立と予防を説明できる。
- ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫、プリオンを説明できる。
- 薬剤耐性（多剤耐性）を説明できる。
- 免疫応答を説明できる。
- 自然免疫と獲得免疫を説明できる。
- 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。
- 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。（主なウイルス感染症、主な細菌感染症、主なマイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症、主な真菌感染症、寄生虫症、医療関連感染、日和見感染、敗血症等）
- 感染症法について説明できる。
- 感染症の動向と対策について説明できる。
- 予防接種、抗感染症薬、消毒薬の作用、機序、適応及び有害事象を説明できる。

4　授　業　概　要

感染症とは微生物が寄生することによっておこる疾患である。我々の身辺には夥しい数の微生物が棲息しているがヒトに寄生する病原微生物の数はごくわずかであり、殆どの微生物はヒトに無害である。しかし、平素は無害な微生物の中には宿主であるヒトの免疫系の機能が低下すると寄生体に変身するものがあり、いわゆる日和見感染をおこす。感染症とは宿主と寄生体の相互関係において寄生体が優位に立った状態と考えることもできる。さまざまな医療行為により生体防御機能が低下したヒトが集まる場所である病院では、通常の生活環境ではみられない集団的宿主寄生体関係が成立してしばしば院内感染が発生する。抗生物質が発見されワクチンが開発されたことから宿主が圧倒的に優位となる状況となり、少なくとも日本を含む先進国では、感染症はもう恐くないと考えられた一時期がある。しかし、細菌感染症の特効薬と考えられた抗生物質に対しては次々と耐性菌が出現し、また、昔ならば一地方病にとどまったようなウイルス感染症もまたたく間に世界中に広まる時世になった。地球規模で進行する熱帯雨林の伐採では、森の動物たちの間で棲息していた微生物がヒトに感染する機会を得て、新たなしかも重篤な疾患をひきおこしている。このように近年変貌しつつある感染症を概説し、これに対する対策について考察する。

１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5　授　業　内　容

授業内容の内容項目を参照してください。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月５日(水)	2	未　定 旦　部	微生物とは どのようなものか(1)	細菌・真菌	看2・看3
第２回	令和４年10月12日(水)	2	北　川	微生物とは どのようなものか(2)	ウイルス・原虫	看2・看3
第３回	令和４年10月19日(水)	2	旦　部	感染の成立と 宿主の関係	感染と発病 感染源と感染経路 常在細菌	看2・看3
第４回	令和４年10月26日(水)	2	北　川	生体防御機構(1)	感染防御免疫の概論、自然免疫	看2・看3
第５回	令和４年11月２日(水)	2	〃	生体防御機構(2)	獲得免疫、ワクチン	看2・看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第６回	令和４年11月９日㈬	2	旦　部	感染症の予防と治療	感染症法 滅菌・消毒 化学療法薬	看2・看3
第７回	令和４年11月16日㈬	2	〃	微生物各論(1)	細菌・真菌	看2・看3
第８回	令和４年11月30日㈬	2	北　川	微生物各論(2)	ウイルス・原虫	看2・看3
第９回	令和５年２月15日㈬	1		試　験（９：00～10：30）		看1
第10回	令和５年２月27日㈪	2		再試験（11：00～12：30）		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

液晶プロジェクターによるスライドと資料プリントを中心に授業を行う。

7　評　価　方　法

評価は学習目標にあげた項目の全範囲を対象としたマークシート式の筆記試験によって行う。60点を合格点とする。再試験は１回のみとする。

8　テ　キ　ス　ト

資料プリントを毎回配布する。また教科書として、系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学（疾病のなりたちと回復の促進[４]）医学書院を使用する。

9　参　考　文　献

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　疾病のなりたちと回復の促進[４]　医学書院

参考文献

看護学テキスト　微生物学・感染症学　中野 隆史／編　南江堂
イラストでわかる微生物学超入門　齋藤光正　著　南山堂
戸田新細菌学　吉田 眞一・柳 雄介・吉開 泰信／編　南山堂
スタンダード微生物学　土肥義胤、山本容正、宇賀昭二　著　文光堂
JANEWAY'S 免疫生物学　笹月健彦、吉開泰信／翻訳　南光堂
感染管理・感染症看護テキスト　大曲 貴夫・操 華子／編　照林社
人類と感染症の歴史　加藤茂孝　著　丸善出版

--

はじめの一歩のイラスト感染症・微生物学　本田武司／編　羊土社
絵でわかる感染症　岩田健太郎著　講談社

10　オフィスアワー（授業相談）

授業に関する疑問点、質問などは授業中、授業後いつでも受け付けます。また、基礎研究棟の微生物感染症学部門の研究室はいつでもオープンにしているので、授業に関する質問、相談などに来ていただいても結構です。

11　学生へのメッセージ

新型インフルエンザやエボラ熱などの出現や、肉生食による食中毒、効果の怪しい抗菌グッズ……社会的な関心が高い反面、それだけにいろいろな風説やデマも広まっている分野です。微生物や感染症についての基本的な考え方を身に付けることは、医療人として必要なだけでなく、皆さんが将来の生活を送る上でもきっと役に立つでしょう。

12　参考E-mail 1

tambe@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 2

yoshikit@belle.shiga-med.ac.jp

医 学 概 論

1 担 当 教 員 名

学　　長　上 本 伸 二
教　　授　佐々木 雅 也　（基礎看護学講座）
教　　授　室 寺 義 仁　（医療文化学講座（哲学））
教　　授　笠 原 聡 子　（基礎看護学講座）
教　　授　向 所 賢 一　（医学・看護学教育センター）
特任准教授　北 原 照 代　（社会医学講座（衛生学部門））

非常勤講師
藤 崎 和 彦　（岐阜大学　医学部医学教育開発研究センター　教授）
口分田 政 夫　（びわこ学園医療福祉センター草津　施設長）
長 倉 伯 博　（龍谷大学・光華女子大学　非常勤講師）
荻 田 謙 治　（医療法人恒仁会　近江温泉病院　精神科　医師）
花 戸 貴 司　（東近江市永源寺診療所　所長）
垰 田 和 史　（びわこリハビリテーション専門職大学　教授）

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

今日の科学技術の目覚ましい発展は、それ自身を生み出した社会に大きな影響を及ぼし、人々の生活様式やものの考え方を変えてきた。医学や看護学もまたその科学の一分野であるが、直接、人間の生命現象に深い関わりをもつ点で、他領域とはかなり異なった性格をもっている。諸君は将来、こうした科学技術（医学や看護学）を身につけた専門家として、現に生きている人々、あるいはこれから生まれてくる人々にそれを適用し、人々の健康と福祉の実現に寄与するという仕事に携わることになる。人々は、性や年齢、所属する集団、生活する地域や健康状態などの違いに応じて、健康や福祉に関わる多様な課題を抱えながら生活を営んでいることから、諸君に求められている専門家としてのありようも多様であり、自らがこれからの大学生活を通じて追求していかなければならない。

医学概論の授業では、医療や福祉のさまざまな実践活動に触れることを通じて、医学・看護学を身につけた専門家として相応しい人間性と今後の能動的な学習の契機を形成することを目標とする。

4 授 業 概 要

多くの授業は、医療や福祉の第一線で活躍されている講師を招いておこなう。それぞれの領域における医療や福祉活動の特徴を知るとともに、現在直面している課題について考察する。とくに、授業を通じて「人権」や「医の倫理」について考えを深めること求める。授業は、医学科と看護学科の合同授業としてすすめる。

各講義を担当する講師から、講義内容に応じたレポート課題が提示される。受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の大きな<内容>に関して、各自で予め表記＜内容＞から理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。講義を聞き、知識・考えを広め、そして、レポートを作成する過程で考えを深め、繰り返し思索を深めて行くことが求められる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月14日㈭	2	室寺、向所 佐々木、笠原 北原、上本	合同	新入生へのメッセージ オリエンテーション	看2・看3
第２回	令和４年４月21日㈭	2	垰　田	合同	＜無差別平等の道を歩み始める皆さんへ ―「人間の価値」を考える―＞	看2・看3
第３回	令和４年４月28日㈭	2	口分田	合同	障害のある人への医療－びわこ学園の実践	看2・看3
第４回	令和４年５月12日㈭	2	花　戸	合同	地域の人たちとともに生きる医療	看2・看3
第５回	令和４年５月19日㈭	2	荻　田	合同	医療と障害	看2・看3
第６回	令和４年５月26日㈭	2	室　寺	合同	医療と人権－生命と尊厳を守る	看2・看3
第７回	令和４年６月２日㈭	2	藤　崎	合同	医療と人権 ーインフォームドコンセントへ至る道	看2・看3
第８回	令和４年６月９日㈭	2	長　倉	合同	人の死と向き合う医療	看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、対面授業を基本として講義形式、小グループによる討論会形式、ロールプレー形式などによる。いずれの授業においても、随時、学生に意見や質問を求めるので積極的に参加してほしい。

教材としては、スライド提示の他、TVの録画番組なども利用する。

7　評　価　方　法

基本、毎回の授業ごとに、各講師が課題を提示して、レポートの（WebClassを介しての）Web提出を求める。

レポートでは、授業の受講を契機として、各講師が提示した課題に対して、受講生が自ら感じ考えたことについて、関連して自主的に調べたことにも言及しながら、論述すること。

Web提出されたレポートは、医学生・看護学生として真摯に課題に対峙する姿勢、及び、記述内容の合理性論理性について、毎回各10点満点で評価する。レポートの提出確認については、学生画面から「成績」>「マイレポート」で各自確認すること。

受理されたレポート数が、提出を求められている全回数の３分の２回（２/３の小数点以下を切り上げた回数）を超えない場合は（機械的に）不合格となるので、注意すること。

8　テ　キ　ス　ト

各講師によって授業の中で紹介される参考文献や教材資料などを参照して下さい。定められたテキストはありません。

9　オフィスアワー（授業相談）

質問や相談は随時可能です。

不在の場合は、メールで連絡して下さい。

佐々木雅也 sasaki@belle.shiga-med.ac.jp

10　学生へのメッセージ

１）医学・看護学を学ぶ者としてふさわしい「態度」で授業に参加することを求める。
２）他人の考えに耳を傾けることを求める。
３）自分の頭で考えることを求める。
４）自分の意見を率直に表明することを求める。

なお、成績評価はレポート評価の総合点数結果で行う。（学期末試験は行わない。）

11　主担当教員の実務経験

医師

フィジカルアセスメント

1　担　当　教　員　名

教　　授　相　見　良　成　（基礎看護学講座）
講　　師　山　下　　敬　（基礎看護学講座）
助　　教　色　摩　茉衣子　（基礎看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第１学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

1．人体の構造と機能について、生体の観察、人体標本の観察などを通じて多面的、実践的に理解し、フィジカルアセスメントに活用できる。（知識・理解）
2．的確なフィジカルイグザミネーションを行い、正確な情報を取得・分析することができる。（技能）
3．得られた情報より、対象者についてアセスメントができる。（思考・判断・表現）
4．看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。（関心・意欲・態度）

4　授　業　概　要

1．看護の対象の身体の状態を客観的に評価するための基本となる、フィジカルイグザミネーションの基礎的な知識・技術をを習得し、正確な情報を取得することができる。
2．看護の対象について総合的にアセスメントし、判断するために必要な観察力を養い、情報を的確に分析することができる。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年10月３日㈪	3	相　見 山　下	ガイダンス フィジカルイグザミネーションの基礎	ガイダンス 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 基本的なフィジカルイグザミネーションの技術	看２ 看３ 看実
第２回	令和４年10月３日㈪	4	〃	ガイダンス フィジカルイグザミネーションの基礎	ガイダンス 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 基本的なフィジカルイグザミネーションの技術	看２ 看３ 看実
第３回	令和４年10月11日㈫	1	〃	体温・罨法	体温　罨法	看２ 看３ 看実
第４回	令和４年10月11日㈫	2	〃	体温・罨法	体温　罨法	看２ 看３ 看実
第５回	令和４年10月11日㈫	3	〃	体温・罨法	体温　罨法	看２ 看３ 看実
第６回	令和４年10月11日㈫	4	〃	体温・罨法	体温　罨法	看２ 看３ 看実
第７回	令和４年10月18日㈫	1	相　見 山　下 色　摩	呼吸・循環の評価①	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実
第８回	令和４年10月18日㈫	2	〃	呼吸・循環の評価①	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実
第９回	令和４年10月18日㈫	3	〃	呼吸・循環の評価②	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実
第10回	令和４年10月18日㈫	4	〃	呼吸・循環の評価②	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第11回	令和４年10月24日㈪	3	相　見 山　下 色　摩	呼吸・循環の評価③	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実
第12回	令和４年10月24日㈪	4	〃	呼吸・循環の評価③	３グループに分かれて演習を行う （１：循環器、２：呼吸器、３：スキルスラボ）	看２ 看３ 看実
第13回	令和４年10月25日㈫	1	相　見 山　下	神経系の評価	神経系のフィジカルアセスメント	看２ 看３ 看実
第14回	令和４年10月25日㈫	2	〃	神経系の評価	神経系のフィジカルアセスメント	看２ 看３ 看実
第15回	令和４年10月25日㈫	3	〃	生命兆候に関する アセスメント	バイタルサイン測定の技術	看２ 看３ 看実
第16回	令和４年10月25日㈫	4	〃	生命兆候に関する アセスメント	バイタルサイン測定の技術	看２ 看３ 看実
第17回	令和４年11月14日㈪	3	〃	腹部の評価/ 生命兆候に関する アセスメント	腹部の評価法を学ぶ。 フィジカルアセスメント各論のまとめ バイタルサイン測定の技術を統合する	看２ 看３ 看実
第18回	令和４年11月14日㈪	4	〃	腹部の評価/ 生命兆候に関する アセスメント	腹部の評価法を学ぶ。 フィジカルアセスメント各論のまとめ バイタルサイン測定の技術を統合する	看２ 看３ 看実
第19回	令和４年11月21日㈪	3	〃	筋骨格系の評価	筋骨格系（神経反射も含む）の フィジカルアセスメント	看２ 看３
第20回	令和４年11月21日㈪	4	〃	筋骨格系の評価	筋骨格系（神経反射も含む）の フィジカルアセスメント	看２ 看３
第21回	令和４年11月29日㈫	3	山　下 笠　原 玉　木 色　摩	【実技試験】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実
第22回	令和４年11月29日㈫	4	〃	【実技試験】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実
第23回	令和４年11月29日㈫	5	〃	【実技試験】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実
第24回	令和４年12月19日㈪	3	〃	【実技（再試験）】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実
第25回	令和４年12月19日㈪	4	〃	【実技（再試験）】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実
第26回	令和４年12月19日㈪	5	〃	【実技（再試験）】	対象把握の手段としての情報収集手技	看２ 看３ 看実

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義・演習より構成され、適宜グループワークなども行う。
授業に際しては関連項目に関する予習を課し、講義の中ではシミュレーター教材やWeb素材なども使用する。
グループ実習では、20人程度の小グループに分かれて講義・演習を行う。（教室は変更の可能性あり）

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
技術試験（40%）、演習レポート（30%）、演習内容（20%）、出欠状況（10%）
・試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、技術試験でに60%以上の評価を得ることを修得要件とする。60%未満の場合は再試験を受験する。
・なお全講義数の３分の２以上の出席をもって技術試験の受験資格要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［２］ 基礎看護技術Ⅰ. 医学書院
茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［３］ 基礎看護技術Ⅱ. 医学書院

9　参　考　文　献

フィジカルアセスメントがみえる　第１版, メディックメディア, 2015.　その他適宜紹介・配布する

10　オフィスアワー（授業相談）

まずはメールで連絡してください。

11　学生へのメッセージ

演習は体験することが重要です。体調を整えて欠席しないようにしてください。

12　参考E-mail 1

satoshi７@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

医師

看 護 学 概 論 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

1．看護の基本的概念と看護学を支える理論体系を理解できる。
2．看護の歴史的変遷、ならびに現代における看護の位置づけと今後の発展を理解できる。
3．看護の対象およびを役割と機能について説明できる。
4．看護学は看護実践を導く理論として構築された学問領域であることを理解する。
5．看護実践は人びとのQOLの維持・向上やヘルスプロモーションを目指したダイナミックな活動であることを理解する。
6．エビデンスに基づく看護実践の重要性と看護とデータサイエンスの関係について理解する。

4 授 業 概 要

看護学の基本概念、役割等看護学の基本を学習し、看護学初学者としての自己の看護に対する考えがもて、自らの看護観を培う基盤を養う。

予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてください。また、事後学修として適宜課題を出します。各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれます。

5 授 業 内 容

講義とグループワークによって、看護学の導入として専門職看護の機能や役割について学びをすすめていく。予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてくる。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	3	笠　原	オリエンテーション 看護の変遷	・オリエンテーション ・グループビルディング ・看護の始まりと理論化のあゆみ ・看護とデータサイエンス 【予習】教科書 第１部１-５を読んでくる 【課題１】看護は社会の中のどこで提供されるのか（グループ課題）	看2 看3
第２回	令和４年４月12日㈫	4	〃	看護の基本概念	・看護の定義と特性、基本概念 ・看護の対象（統合体としての人間） ・健康の概念 【予習】教科書 第１部１-１と２-１、３-１～３-５を読んでくる 【課題２】生活とは（個人課題）	看2 看3
第３回	令和４年４月19日㈫	3	〃	看護と専門職	【課題２の発表】生活とは ・専門職とは ・職業としての看護 【予習】教科書 第１部１-３と１-４を読んでくる	看2 看3
第４回	令和４年４月19日㈫	4	〃	看護理論の概要	・看護理論と実践 ・看護理論の分類と変遷 ・人間関係 【予習】教科書 第２部５-１～５-３を読んでくる 【課題３】各理論（グループ課題）	看2 看3
第５回	令和４年４月26日㈫	3	〃	看護の役割と機能	【課題１の発表】看護は社会の中のどこで提供されるのか	看2 看3
第６回	令和４年４月26日㈫	4	〃	看護の対象	・看護の対象とその理解 ・ライフサイクルと健康 【予習】教科書 第１部２-２～２-４、４-１～４-３を読んでくる	看2 看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第７回	令和４年５月10日㈫	3	笠　原	看護理論	【課題３の発表】看護理論(ナイチンゲール･ヘンダーソン・オレム） 【予習】教科書 第２部５－４,５－５を読んでくる	看2 看3
第８回	令和４年５月10日㈫	4	〃	看護理論	【課題３の発表】看護理論（ウィーデンバック・トラベルビー・ロイ） 【予習】教科書 第２部５－４,５－５を読んでくる	看2 看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、授業計画の内容について事前・事後課題、講義およびグループワークなどを通じて展開する。また、予習してきたことをもとに学生に質問しながらすすめていく。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
授業への参加状況（５％)、グループワークへの貢献度（５％)、課題（30％)、筆記試験（60％）
全講義数の３分の２以上の出席を満たすことを評価の要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

志々岐康子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護学１ 看護学概論, メディカ出版.

9　参　考　文　献

・フロレンス ナイチンゲール著/小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書，日本看護協会出版会.
・ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会.

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11　学生へのメッセージ

本科目は、皆さんにとって看護学について学ぶ最初の科目であり、看護学の知的体系への導入となる科目でもあります。さまざまなことに関心をもち、看護を学ぶ第一歩を踏み出してみてください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

看 護 学 概 論 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期後半　１単位

3 学 修 目 標

1．保健医療福祉活動における看護の特徴と課題について説明できる。
2．看護の法的責務について説明できる。
3．看護の思考の展開の基礎についてわかる。
4．これからの看護の課題と展望について自己の考えを整理できる。

4 授 業 概 要

看護概論Ⅱでは、保健・医療・福祉の中の看護のあり方を概観し、専門職看護として、社会の中で看護のあり方を考察する。現在の社会問題を材料に、個人またはグループディスカッションを行いながらすすめていく。

予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてくる。また、事後学修として適宜課題を出す。つまり、各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行うことによって理解を深めることが望まれる。

5 授 業 内 容

以下授業内容のとおり

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月７日㈬	2	笠　原	オリエンテーション 保健・医療・ 福祉システム①	・保健・医療・福祉の概念 ・保健・医療・福祉サービス提供の場 【予習】教科書 第３部10-１,10-２を読んでくる 【課題１】2035年にむけた看護のあり方について自分の意見をまとめてみる（個人課題）	看2 看3
第２回	令和４年12月７日㈬	3	〃	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰオリエンテーション	看2 看3
第３回	令和４年12月21日㈬	2	〃	医療 コミュニケーション	・医療におけるコミニュケーション ・基礎看護学実習Ⅰにおけるコミュニケーション実習の振り返りを含む	看2 看3
第４回	令和５年１月４日㈬	2	〃	保健・医療・ 福祉システム②	・保健・医療・福祉のチーム ・多職種で取り組む地域包括ケアシステム ・看護サービスの経済的評価 ・看護サービスに対する評価 【予習】教科書 第３ 10-３～10-６を読んでくる	看2 看3
第５回	令和５年１月11日㈬	2	〃	看護活動の思考の 展開方法	・看護過程とは ・看護実践における看護過程の展開 【予習】教科書 第２部 ８を読んでくる 【課題２】ヘンダーソンの理論を用いた情報の整理（個人課題）	看2 看3
第６回	令和５年１月18日㈬	2	〃	看護の法的側面	・看護と法のかかわり ・看護における法的基盤 【予習】教科書 第３部 ９を読んでくる 【課題３】保健師助産師看護師法に何が規定されているか歴史的変遷をふまえて記述する（個人課題）	看2 看3
第７回	令和５年１月25日㈬	2	〃	看護の展開と継続性	・看護の継続性と継続看護 ・多職種連携・協働における看護 【予習】教科書 第３部 11を読んでくる 【復習】継続看護の必要性について考察する。	看2 看3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和５年２月１日㈬	2	笠　原	看護とキャリア	・これからの看護の課題と展望 【予習】教科書 序章２,３ 第４部 13を読んでくる 【復習】今の自分が考える看護職としてのキャリア発達についてまとめてみる	看2 看3
第９回	令和５年２月１日㈬	3	〃	まとめ	・まとめと補足 【復習】自分が関心を持つテーマについて、文献データベースを用いて検索し、入手した文献を通読し学びを深める	看2 看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、授業計画の内容について事前・事後課題、講義およびグループワークなどを通じて展開する。また、予習してきたことをもとに学生に質問しながらすすめていく。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
授業への参加状況（５%）、グループワークへの貢献度（５%）、課題（10%）、最終レポート（80%）
全講義数の３分の２以上の出席を満たすことを評価の要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

志々岐康子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護学１ 看護学概論, メディカ出版.

9　参　考　文　献

・フロレンス ナイチンゲール著/小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書，日本看護協会出版会.
・ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会.

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11　学生へのメッセージ

専門科目も増えてきました。本講義の途中で病院実習もはさみますので、学内での授業に実習体験をいかしてみてください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

看 護 過 程 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

准　教　授　　玉　木　朋　子　（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期前半　１単位

3 学　修　目　標

1．看護過程とは何かについて説明できる。
2．対象を理解するための枠組みの視点が理解できる。
3．事例の全体像を理解するための情報の整理が実施できる。
4．収集・整理した情報をもとにアセスメントする方法を説明できる。
5．看護過程の展開方法の流れが理解できる。

4 授　業　概　要

【教育目的】
看護過程は看護専門職として科学的な看護ケアを提供するための思考過程である。本授業においては、看護過程展開のために必要な知識・考え方と看護上の問題を解決するためのプロセスを学習する。その具体的方法については事例を用いてアセスメントするまでを行い、看護問題を明確化する過程を理解する。

【準備学修・事後学修】
各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれます。

＊この科目は２年生看護過程Ⅱの前提の位置づけである。

5 授　業　内　容

授業では、事例を用いて情報収集のポイントや具体的な看護問題の立案、評価の方法について講義、課題、GW、発表を通して学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月７日㈮	3	玉　木	授業ガイダンス 看護過程の展開とは 情報収集・情報整理	患者理解と看護過程の展開について 事例提示 情報収集・情報整理の意義	看２ 看３
第２回	令和４年10月14日㈮	3	〃	ゴードンの 健康機能パターンと アセスメント	ゴードンの健康機能パターンを用いた 情報整理とアセスメント	看２ 看３
第３回	令和４年10月21日㈮	3	〃	情報整理・ アセスメント 関連図の書き方	パターン別アセスメントと関連図作成の方法	看２ 看３
第４回	令和４年11月４日㈮	3	〃	関連図、 問題の明確化	情報の統合と関連図、看護問題の抽出の グループワーク	看２ 看３
第５回	令和４年11月11日㈮	3	〃	アセスメントの統合、 看護診断、看護目標 看護計画	アセスメントの統合、問題の明確化、期待される結果（看護目標）と看護計画の具体的対策の立案方法について 期待される結果（看護目標）の評価について	看２ 看３
第６回	令和４年11月18日㈮	3	〃	看護計画	看護計画グループワーク	看２ 看３
第７回	令和４年11月25日㈮	3	〃	看護計画	関連図を用いた看護計画発表	看２ 看３
第８回	令和４年12月２日㈮	3	〃	実施・評価	看護過程の展開と個別性 総括	看２ 看３

6　授業形式・視聴覚機器の活用

紙上事例を用いて看護過程の展開を行う。課題（個人ワーク）をもとにグループワークを行い発表する。

7　評　価　方　法

グループワークの積極的参加・成果物、課題（50%）、講義・グループワークで加筆修正したアセスメント用紙、関連図、プロブレムリスト、統合アセスメント、看護計画を最終レポート（50%）としてして評価する。

最終レポートの期限内の提出がない場合は評価を行わない。全講義数の３分の２以上の出席を満たすことで評価の対象とする。

8　テ　キ　ス　ト

茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［２］基礎看護技術Ⅰ. 医学書院

リンダ J カルペニート：看護診断ハンドブック. 医学書院

9　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10　学生へのメッセージ

今後の学習・実習につながる大事な科目です。課題学習・グループワークには主体的に臨んでください。

11　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

基 礎 看 護 技 術 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
准 教 授　玉 木 朋 子（基礎看護学講座）
講　　師　山 下　　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色 摩 茉衣子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期後半　１単位

3 学 修 目 標

1．看護技術の意義について理解する。
2．援助者として人々に関わるための基本的なコミュニケーションの技術を習得する。
3．無意識に過ごしている「日常生活」「生活行動」について概念化ができる。
4．人々をとりまく環境・健康・生活の関連について理解することができる。
5．看護技術の対象となる「生活」の意味について理解できる。
6．援助者として人々に関わるために必要な環境整備の技術を習得する。
7．グループでひとつの課題を明らかにし、プレゼンテーションができる。
8．看護職者として必要な協調的態度を身に付ける。

4 授 業 概 要

自分の日常生活を通して今まで無意識に営んできた生活と生活行動について､生活を構成している基本的な要素について考察する。とくに人々が営む生活行動をとりあげ､その意味や行動の成り立ちについてグループワークとプレゼンテーションによって探求する。そこから看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人にとっての日常生活行動の意味を理解し、看護の視点について学ぶ。（この授業は基礎看護学実習Ⅰの基盤となる科目のひとつである）

5 授 業 内 容

詳細は以下のとおり
７月５日㈫４～５時限目は技術試験の自主練習として実習室を開放する

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年５月17日㈫	3	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	看護技術とは 人間関係を 発展させる技術 （コミュニケーション）	・看護技術とは ・コミュニケーションの概念と基本原理 ・自分のコミュニケーションの傾向を振り返る ・効果的なコミュニケーションと演習 【予習】自身のコミュニケーションについて振り返る	看２ 看３
第２回	令和４年５月17日㈫	4	〃	看護技術とは 人間関係を 発展させる技術 （コミュニケーション）	・看護技術とは ・コミュニケーションの概念と基本原理 ・自分のコミュニケーションの傾向を振り返る ・効果的なコミュニケーションと演習 【課題】課題レポート	看２ 看３
第３回	令和４年５月24日㈫	3	〃	人々の生活を支える 生活行動	・生活の構造 ・生活全体の理解 ・生活の過ごし方から対象の理解 ・６つの生活行動の理解 【予習】生活行動について	看２ 看３ 看実
第４回	令和４年５月24日㈫	4	〃	グループワーク	無意識で行っていた健康な６つの生活行動（食べる、眠る、身だしなみを整える、からだを清潔にする、排泄する、移動する）を意識化、概念化する。 【課題】グループ別課題	看２ 看３ 看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第５回	令和４年５月31日㈫	3	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	グループワーク	グループで無意識で行っていた健康な６つの生活行動（食べる、眠る、身だしなみを整える、からだを清潔にする、排泄する、移動する）のうちひとつを取り上げ、意識化、概念化する作業をする。 【課題】グループワーク	看２ 看３ 看実
第６回	令和４年５月31日㈫	4	〃	グループワークの報告会	各グループが取り組んだ生活行動の意識下、概念化について報告し、全体で共有する。	看２ 看３ 看実
第７回	令和４年６月７日㈫	3	〃	グループワークの報告会 「生活」「生活行動」まとめ	各グループが取り組んだ生活行動の意識下、概念化について報告し、全体で共有する。	看２ 看３ 看実
第８回	令和４年６月７日㈫	4	〃	健康な生活と環境	・看護における生活の捉え方の整理 ・環境の意義 ・環境のアセスメント （光・温度・換気・採光・騒音・プライバシー：照度・騒音・臭度を測定する） ・人の生活と環境 【課題】課題レポート	看２ 看３ 看実
第９回	令和４年６月14日㈫	3	〃	看護における感染管理（ユニフォーム着用）	・衛生学的手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い 【予習】テキストⅠ　第２章A～Cを読んでくる	看実
第10回	令和４年６月14日㈫	4	〃	看護における感染管理（ユニフォーム着用）	・衛生学的手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い	看実
第11回	令和４年６月14日㈫	5	〃	看護における感染管理（ユニフォーム着用）	・衛生学的手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い 【課題】課題レポート	看実
第12回	令和４年６月21日㈫	3	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ボディメカニクス ・ベッドメイキング 【予習】テキストⅡ　第１章B、第４章A①～②を読んでくる	看実
第13回	令和４年６月21日㈫	4	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ベッドメイキング	看実
第14回	令和４年６月21日㈫	5	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ベッドメイキング 【課題】課題レポート	看実
第15回	令和４年６月28日㈫	3	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点（安全性・安楽性・自立・自律性）をもとに整理する 【予習】テキストⅡ　第４章A③を読んでくる	看実
第16回	令和４年６月28日㈫	4	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点（安全性・安楽性・自立・自律性）をもとに整理する	看実
第17回	令和４年６月28日㈫	5	〃	環境を整える基本的な技術の理解（ユニフォーム着用）	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点（安全性・安楽性・自立・自律性）をもとに整理する 【課題】課題レポート	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第18回	令和４年７月５日㈫	3	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	まとめ		看２ 看３
第19回	令和４年７月５日㈫	4	〃	練習日		看実
第20回	令和４年７月５日㈫	5	〃	練習日		看実
第21回	令和４年７月12日㈫	3	〃	技術試験	ベッドメイキング試験	看実
第22回	令和４年７月12日㈫	4	〃	技術試験	ベッドメイキング試験	看実
第23回	令和４年７月12日㈫	5	〃	技術試験	ベッドメイキング試験	看実
第24回	令和４年７月26日㈫	3	〃	技術再試験		看実
第25回	令和４年７月26日㈫	4	〃	技術再試験		看実

6　授業形式・視聴覚機器の活用

上記授業の順序などは、授業の進行状況によっては一部変更する場合がある。

授業は、講義・グループワーク・演習を取り入れてすすめていく。とくにグループワークでは資料として動画、画像をiPadとアプリ（Powerpoint、ロイロノート等）を用いて作成し、プレゼンテーションを行う。評価には教員評価とピア評価も受ける。

実習室で行う演習では、演習時間を確保するためにWebclassでの講義動画の視聴（30～60分）を事前課題として課す。演習時には動画を視聴してから望むこと。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

最終レポート（20%）、技術試験（30%）、グループワークの成果物・ピア評価（20%）、演習レポート（10%）、受講態度・演習への参加状況（20%）

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、技術試験は60%以上の評価を得ることを修得要件とする。60%未満の場合は再試験を受験する。なお全講義数の３分の２以上の出席をもって技術試験の受験資格要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［２］　基礎看護技術Ⅰ. 医学書院
茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ. 医学書院

9　参　考　文　献

医療情報科学研究所：看護がみえるvol.１　基礎看護技術　第１版.　メディックメディア

10　オフィスアワー（授業相談）

まずメールでアポイントを取ってください。

11　学生へのメッセージ

日々なにげなくおこなってきた生活の営みをあらためて知ることから自分のめざす看護を探究してみましょう。
また演習は体験することが重要です。体調を整えて欠席しないようにしてください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

satoshi７@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

基 礎 看 護 技 術 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
准 教 授　玉 木 朋 子（基礎看護学講座）
講　　師　山 下　　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色 摩 茉衣子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

1．対象者の日常生活を援助する看護技術の根拠・原理を理解する。
2．日常生活を援助するための安全性・安楽性・自立/自律性を守った基本技術を修得する。
3．看護技術の実践を通して人間の尊厳を護ることが理解できる。
4．看護職者としてふさわしい態度を身につける。

4 授 業 概 要

・看護基本技術のうち、人間の生理的・行動的な基本的ニードである日常生活（活動と休息・衣生活・食生活・清潔）を援助する技術を中心に習得する。授業は個人及びグループでの主体的学習による技術の修得を目指す。
・演習では、患者・看護師のロールプレイングを通して、援助的対人関係のあり方を理解し、人間の尊厳を守った安全性・安楽性・自立/自律性を考慮した援助方法を習得する。

5 授 業 内 容

詳細は以下のとおり

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年11月１日㈫	3	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送） 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第２回	令和４年11月１日㈫	4	〃	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送）	看実
第３回	令和４年11月１日㈫	5	〃	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送） 【課題】課題レポート	看実
第４回	令和４年11月８日㈫	3	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換（和式寝衣）＋シーツ交換 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第５回	令和４年11月８日㈫	4	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換（和式寝衣）＋シーツ交換	看実
第６回	令和４年11月８日㈫	5	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換（和式寝衣）＋シーツ交換 【課題】課題レポート	看実
第７回	令和４年11月15日㈫	3	〃	清潔に関わる技術①	・清拭（全身） 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第８回	令和４年11月15日㈫	4	〃	清潔に関わる技術①	・清拭（全身）	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第９回	令和４年11月15日㈫	5	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	清潔に関わる技術①	・清拭（全身） 【課題】課題レポート	看実
第10回	令和４年11月22日㈫	3	〃	清潔に関わる技術②	・洗髪 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第11回	令和４年11月22日㈫	4	〃	清潔に関わる技術②	・洗髪	看実
第12回	令和４年11月22日㈫	5	〃	清潔に関わる技術②	・洗髪 【課題】課題レポート	看実
第13回	令和４年11月28日㈪	3	〃	清潔と リラクゼーションに 関わる技術	・足浴 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第14回	令和４年11月28日㈪	4	〃	清潔と リラクゼーションに 関わる技術	・足浴	看実
第15回	令和４年11月28日㈪	5	〃	清潔と リラクゼーションに 関わる技術	・足浴 【課題】課題レポート	看実
第16回	令和４年12月６日㈫	3	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第17回	令和４年12月６日㈫	4	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助	看実
第18回	令和４年12月６日㈫	5	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助 【課題】課題レポート	看実
第19回	令和４年12月20日㈫	3	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第20回	令和４年12月20日㈫	4	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア	看実
第21回	令和４年12月20日㈫	5	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア 【課題】課題レポート	看実
第22回	令和４年12月27日㈫	3	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第23回	令和４年12月27日㈫	4	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄	看実
第24回	令和４年12月27日㈫	5	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄 【課題】課題レポート	看実
第25回	令和５年１月17日㈫	3	〃	技術試験		看実
第26回	令和５年１月17日㈫	4	〃	技術試験		看実
第27回	令和５年１月17日㈫	5	笠　原 山　下 玉　木 色　摩	技術試験		看実
第28回	令和５年１月24日㈫	3	〃	補講日		看実
第29回	令和５年１月24日㈫	4	〃	補講日		看実
第30回	令和５年１月24日㈫	5	〃	補講日		看実
第31回	令和５年１月31日㈫	3	〃	技術試験【再試験】		看実
第32回	令和５年１月31日㈫	4	〃	技術試験【再試験】		看実

6　授業形式・視聴覚機器の活用

演習時間を確保するため授業は反転授業を主とする。事前に提示するWebclassでの講義動画（30～60分程度）を視聴した上で学内での演習に臨むこと。また、各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
定期試験（30％）、技術試験（30％）、演習レポート（20％）、講義・演習への参加状況（20％）、

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、定期試験、技術試験それぞれに60％以上の評価を得ることを修得要件とする。60％未満の場合はそれぞれにおいて再試験を受験する。なお全講義数の３分の２以上の出席をもって筆記試験・技術試験の受験資格要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［２］　基礎看護技術Ⅰ. 医学書院
茂野香おる編：系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ. 医学書院

9　参　考　文　献

医療情報科学研究所：看護がみえるvol. 1　基礎看護技術　第１版.　メディックメディア

10　オフィスアワー（授業相談）

まずはメールでアポイントを取ってください。

11　学生へのメッセージ

演習は体験することが重要です。体調を整えて欠席しないようにしてください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

satoshi７@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

医 療 の 倫 理 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）
教　　授　室 寺 義 仁（医療文化学講座（哲学））

非常勤講師
早 島　　理（本学　名誉教授）
浅 井　　篤（東北大学大学院　医療系研究科医療倫理学分野　教授）
長 倉 伯 博（龍谷大学・光華女子大学　非常勤講師）

2 配 当 学 年 等

第１学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

「医療の倫理Ⅰ」の授業では、倫理学についての基礎を学んだ上で、臨床倫理を中心に学習する。受講生は、日々臨床現場で遭遇するであろう事例に含まれる様々な倫理的な問題に気づくための想像力を養う。さらにグループ学習を通して、個々の問題をどのように考え、どのように対応・対処すれば良いのかという手法・心得について学び、看護実践に必要な倫理観を涵養することを目的とする。

4 授 業 概 要

倫理学および臨床倫理についての概説の後に、10月17日の講義では、医療を題材とした映画を通して医療倫理を考える授業を展開する。11月７日の授業では、緩和医療の現場での諸事例について講義を受けた後、グループに分かれて討論を行う。そして検討結果について各グループからの発表と全体での討議を行い、最後に各事例についての考察のまとめを行う。 10月17日、11月７日の講義は 医（４年生)･看の合同授業として行う。11月７日の講義は、学外からの多職種のボランティア参加者も討論参加する予定であり、この点では学外者との合同講義でもある。およそ200人を超える参加者間でのグループ討論、並びに全体討議を行う予定である。ただし新型コロナウイルス感染の状況によっては学外者の参加は見送る。各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年10月３日(月)	2	室　寺 相　見	倫理の基礎	道徳と倫理の基礎知識を学ぶ	看4
第２回	令和４年10月17日(月)	3	浅　井 室　寺 相　見	臨床倫理の 現状と課題	生命医療倫理（biomedical ethics）の総論と、 映画を通して考える医療倫理	臨3
第３回	令和４年10月17日(月)	4	〃	臨床倫理の 現状と課題	生命医療倫理（biomedical ethics）の総論と、 映画を通して考える医療倫理	臨3
第４回	令和４年10月24日(月)	2	相　見	臨床倫理の基礎	臨床倫理の基礎を学ぶ	看4
第５回	令和４年11月７日(月)	3	早　島 室　寺 相　見	臨床倫理	緩和医療の現場から学ぶ	臨1 臨2 臨3
第６回	令和４年11月７日(月)	4	長　倉 室　寺 相　見	臨床倫理	事例についての講義とグループ討議	臨1 臨2 臨3
第７回	令和４年11月７日(月)	5	〃	臨床倫理	グループ発表と全体討議	臨1 臨2 臨3
第８回	令和４年11月14日(月)	2	相　見	献体のこころ	解剖見学実習に備え、献体にまつわる倫理について考える	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

基本は講義形式。

7　評　価　方　法

試験は行わない。レポートにより評価する。

8　テ　キ　ス　ト

特に定めない。必要に応じて講義の中で紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

まずは　aimi@belle.shiga-med.ac.jp　へメールで。

10　学生へのメッセージ

グループワークを取り入れた授業では、積極的に議論に参加して能動的に学ぶことを期待します。

11　授業用E-mail

aimi@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

医師

早 期 体 験 実 習

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
教　　授　向 所 賢 一（医学・看護学教育センター）
教　　授　室 寺 義 仁（医療文化学講座（哲学））
准 教 授　玉 木 朋 子（基礎看護学講座）
特任准教授　北 原 照 代（社会医学講座（衛生学部門））
講　　師　山 下　　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色 摩 茉衣子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第１学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

1．様々な発達段階にある人の生活や健康状態を捉える
2．病気や障がい、加齢に伴う機能低下をもつ人やその家族の心理、生活、闘病上の困難と工夫を知る
3．看護が対象とする人々の健康へのニード、医療への期待や看護の役割・課題について省察を深める
4．医師・看護師にとって「人間の尊厳を尊重する」姿勢や関わり方を学ぶ
5．保健・医療・福祉現場におけるチームケアの現状、またその役割・機能を知る
6．今後、医療者として成長するために必要な自己課題を明らかにする

4 授 業 概 要

【教育目的】
医学・看護学の目的は「人」の「幸せ」に貢献することである。人は「生老病死」の言葉に象徴されるように、心身の発達段階や健康状態に応じて多様な生活を営み一生を終えていく。健康や生活を支える医療や福祉は、人の一生の様々な段階でその役割が求められており、諸君らは、将来、専門家としてそうした社会の要請に応えることになる。人の抱える困難は病苦だけで生じているのではない。心身に障害があるために抱えなければならない困難、年老いたことで生じる困難、孤独や貧困に由来する困難など諸君らが対峙すべき課題は多様である。また、困難を抱える人を支えているのは医師や看護師など特定の専門家だけではない。家族や地域の人たちの努力や連携が支援の基盤をなしていることを理解しなければならない。

地域で展開されている医療・保健・福祉の現場に参加体験し、そこで働く人々やその活動を通して、また支援を受けている人たちとの交流を通じて、医学・看護学を学んで行く自分の役割や課題について省察することを目的としている。

【準備学修・事後学修】
少なくとも90分程度の予習・復習を毎日行うことが望まれます。

5 授 業 内 容

本実習は、医療・保健・福祉の現場を実際に訪れ、そこで働く人々やそこでサービスを受ける人々と交わり、その体験を通じて医学・医療の役割や課題についての省察を一層深めることを目的に、夏季休暇中の数日間を利用して実施する。例年、受講した学生が高く評価している授業である。

実習期間：2022年７月～９月の指定した日時

2022年度における実習施設（予定）を例示する。
体験学習に応じていただける施設の数は年毎に増えており、多様な体験学習が可能となっている。

1）社会医療法人誠光会 淡海医療センター
2）公立甲賀病院
3）市立長浜病院
4）医療法人明和会 琵琶湖病院
5）医療法人華頂会 琵琶湖養育院病院
6）医療法人社団美松会 生田病院
7）医療法人総心会 長岡京病院
8）滋賀勤労者保健会 膳所診療所

9）滋賀勤労者保健会 坂本民主診療所
10）しが健康医療生活協同組合 こうせい駅前診療所
11）社会福祉法人 湖青福祉会 ケアタウンからさき
12）滋賀県立むれやま荘
13）社会福祉法人 本願寺龍谷会 特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺
14）一般財団法人 本願寺ビハーラ医療福祉会 あそかビハーラ病院
15）地域包括ケアセンター いぶき
16）しがなんれん作業所
17）滋賀県立障害者福祉センター
18）滋賀県中央子ども家庭相談センター
19）社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター草津
20）社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター野洲
21）大津市障害児サマースクール
22）社会福祉法人 にぎやか会 放課後等ディサービス「きぼう」
23）栗東市サマーホリデー
24）滋賀県済生会訪問看護ステーション
25）滋賀県済生会訪問看護ステーション草津
26）公益社団法人 滋賀県看護協会訪問看護ステーション
27）公益財団法人 近江兄弟社 訪問看護ステーションヴォーリズ
28）公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
29）医療法人社団　弓削メディカルクリニック
30）浅井東診療所
31）やまびこ園・教室
32）大津ファミリークリニック

なお、詳細は「実習要項」にて提示する。

※「医学概論（医学科合同）」の第１回目の講義（下記日程）においても説明があります（要出席）
2022年４月14日㈭２限

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年６月16日㈭	2	笠原、室寺 向所、北原 玉木、山下 色摩	医学科看護学科の合同説明会 （実習オリエンテーション）	実施方法についての説明、 受け入れ施設の紹介	看2・看3
第２回	令和４年７月14日㈭	2	〃	医学科看護学科の合同説明会 （事前グループワーク）	訪問施設別のグループワーク	看2・看3
第３回	令和４年９月26日㈪	1－4	〃	「早期体験実習」交流会	小グループ活動	A・B 看2・看3
第４回	令和４年９月27日㈫	1－4	〃	「早期体験実習」交流会	小グループ活動	A・B 看2・看3
第５回	令和４年９月28日㈬	1－4	〃	「早期体験実習」交流会	小グループ活動	A・B 看2・看3
第６回	令和４年９月29日㈭	1－4	〃	「早期体験実習」交流会	小グループ活動	A・B 看2・看3
第７回	令和４年９月30日㈮	1－4	〃	「早期体験実習」交流会	小グループ活動	A・B 看2・看3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

1．オリエンテーション・事前グループワーク：
（参照）授業内容
※「医学概論」の講義内で、早期体験実習に関する説明があるため出席を要する。

2．体験型実習：
実習施設（医療施設・介護福祉施設・社会福祉施設）における活動の実際を見学し、施設利用者や患者とコミュニケーションを図ること及び施設における看護職の役割を観察する（医学科と合同）。
単なる見学や講義型授業ではなく、受け入れ施設・行事の指導者の指示の下に、施設・行事の一員として「少しでも役に立ち、できること」に取り組む参加型を基本とする。
実習期間は 2022年 8 月10日- 9 月16日 の夏休み期間のうち、指定された実習日数（数日～ 3 日間）とする。
※ 体験内容は参加する施設・行事によって異なる。

3．体験交流会・発表会：
2022年 9 月（日程は別途連絡）に行われる体験交流会（医学科と合同, 少人数編成）に参加し、発表・意見交換を行う。

7　評　価　方　法

・試験は実施しない
・単位認定必須事項：指定日数の体験学習（臨地実習）の参加、体験交流会の参加、各種レポート課題の提出・受理
・成績評価：平常点（実習・交流会等への参加態度）（15%）、各種レポート課題・実習記録（80%）、自己評価（ 5 %）から総合的に評価する。

＊レポートは、医学生・看護学生として真摯に課題に対峙する姿勢および記述の論理性について、 4 段階で評価する。受理に値しないと判断されたレポートは再提出を求める。

8　テ　キ　ス　ト

・滋賀医科大学　理念・使命（滋賀医科大学ホームページ）
・滋賀医科大学　医学部看護学科・教育目標（滋賀医科大学ホームページ）
その他、医学概論および早期体験実習の授業の際に随時示す。

9　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10　学生へのメッセージ

学生の皆さんの体験学習を受け入れて下さる施設・行事は、心身の困難を抱えた人たちを支援する第一線の現場です。個人のプライバシーや人権に対して十分に配慮した責任ある行動を厳しく求めます。また、医学・看護学を学び始めた「 1 年生」にふさわしい「謙虚」な姿勢で臨んでいただきたいと思っています。
地域で展開されている保健・医療・福祉の実践活動に触れ、看護が対象とする様々な発達段階にある人々への理解を深め、健康へのニードを体験できるよう自己課題を明確にして挑んでください。また、臨地実習は医学科と合同で行います。各専門領域の果たす役割や求められている立場を知り、将来共に働く医療チームメンバーとして今後どのように関わっていけるのか考察してください。

11　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護学実習Ⅰ

1　担当教員名

教　　授　笠原聡子（基礎看護学講座）
教　　授　伊藤俊之（医学・看護学教育センター）
教　　授　向所賢一（医学・看護学教育センター）
教　　授　川崎　拓（医師臨床教育センター）
准教授　玉木朋子（基礎看護学講座）
講　　師　山下　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色摩茉衣子（基礎看護学講座）

2　配当学年等

第１学年　後期　１単位

3　学修目標

1．看護師の患者との関わりの実際を見学することで、看護師の役割と機能を理解する。
2．附属病院における患者の生活の過ごしかたを患者の立場から理解する。
3．医療・看護が提供されている場としての附属病院において、病院の機能・構造や特徴を理解する。
4．附属病院においてどのような職種の人々が患者の療養生活を支えているか理解する。
5．患者の療養生活における医療者としての倫理的態度を理解し、学生としての自己の課題を明確にできる。
6．特定機能病院としての附属病院で行われている先端医療を理解する。
7．看護師の患者との適切なコミュニケーション、ならびに信頼関係の構築のあり方を考察する。

4　授業概要

【教育目的】
滋賀医科大学医学部附属病院を見学することで、病院の理念、特定機能病院としての附属病院の機能や特徴を理解する。具体的には、附属病院で働く看護師の患者への看護活動（生活支援）、附属病院の各部署（薬剤部、放射線部、栄養治療部、リハビリテーション部、検査部、救急部（ヘリポートを含む）、防災倉庫、地下・電源装置）で働く方々の多様な活動を見学する。これらの体験を通して、療養生活を送る患者に対する環境の影響や、患者の療養生活上のニード、看護師患者関係について考察する。さらに、早期体験実習の学びをふまえ、療養生活と地域の暮らしとのつながりを考え、人々の健康と生活に対するニードと看護師の機能と役割について自己の考えを明らかにするとともに、医療者としての倫理的態度や自己の課題を省察し明確にする。

【準備学修・事後学修】
少なくとも90分程度の予習・復習を毎日行うことが望まれます。

＊本実習では最終的に、療養生活と地域の暮らしとのつながりを考え、人々の健康と生活に対するニードと看護師の機能と役割について自己の考えを明らかにするため、前提科目として早期体験実習を履修していることとする。

5　授業内容

授業内容は以下のとおりであるが、詳細は「実施要領」にて提示。

なお、以下内容とは別に、次の日程で実習前説明会（実習オリエンテーション）を行う。
・2022年12月７日㈬３限　（「看護学概論Ⅱ（２限）」の後）

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月12日㈪	1	田中、小寺 﨑花、芦原 伊藤、向所 笠原、玉木 山下、色摩	実習オリエンテーション（講義）	実習に関する全体説明	①・②・③ 看2・看3・臨3
第２回	令和４年12月12日㈪	2	〃	講義	グループワークを始めるための講義	①・②・③ 看2・看3・臨3
第３回	令和４年12月12日㈪	3	〃	グループワーク	看護師同行実習Ⅰに関する 1．自己目標 2．グループ目標　を作成するためのグループワーク	①・②・③ 看2・看3・臨3

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第４回	令和４年12月12日㈪	4	川　崎	講義	医師同行実習について	①・②・③ 看2・看3・臨3
第５回	令和４年12月13日㈫	1	各部署 担当者	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署説明（臨３）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署説明・見学	①・②・③ 看2・看3・臨3
第６回	令和４年12月13日㈫	2	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署説明（臨３）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署説明・見学	①・②・③ 看2・看3・臨3
第７回	令和４年12月13日㈫	3	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署見学（各部署）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第８回	令和４年12月13日㈫	4	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署見学（各部署）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第９回	令和４年12月14日㈬	1	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署説明（臨３）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第10回	令和４年12月14日㈬	2	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署説明（臨３）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第11回	令和４年12月14日㈬	3	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署見学（各部署）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第12回	令和４年12月14日㈬	4	〃	看護師同行実習Ⅰ（各部署） 各部署見学（各部署）	看護師同行実習Ⅰ、 各部署見学実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第13回	令和４年12月15日㈭	1	〃	実習	（医 学 科）医師に同行し、１日の仕事内容を見学・体験する。 （看護学科）看護師同行実習Ⅱ患者とのコミュニケーション実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第14回	令和４年12月15日㈭	2	〃	実習	（医 学 科）医師に同行し、１日の仕事内容を見学・体験する。 （看護学科）看護師同行実習Ⅱ患者とのコミュニケーション実習	①・②・③ 看2・看3・臨3
第15回	令和４年12月15日㈭	3	（医学科） 各部署担当者 （看護学科） 笠原、玉木 山下、色摩	（医学科）実習 （看護学科） グループワーク（臨１）	（医 学 科）医師に同行し、１日の仕事内容を見学・体験する。 （看護学科）グループワーク	①・②・③ 看2・看3・臨3
第16回	令和４年12月15日㈭	4	〃	（医学科）実習 （看護学科） グループワーク（臨１）	（医 学 科）医師に同行し、１日の仕事内容を見学・体験する。 （看護学科）グループワーク	①・②・③ 看2・看3・臨3
第17回	令和４年12月16日㈮	1	笠原、伊藤 向所、玉木 山下、色摩	グループワーク	看護師同行実習Ⅰの振り返り	①・②・③ 看2・看3・臨3
第18回	令和４年12月16日㈮	2	〃	グループワーク	看護師同行実習Ⅰの振り返り	①・②・③ 看2・看3・臨3
第19回	令和４年12月16日㈮	3	〃	発表会	看護師同行実習Ⅰの振り返りに関する班別発表と全体討議	①・②・③ 看2・看3・臨3
第20回	令和４年12月16日㈮	4	〃	発表会	看護師同行実習Ⅰの振り返りに関する班別発表と全体討議	①・②・③ 看2・看3・臨3
第21回	令和４年12月16日㈮	5	〃	発表会	看護師同行実習Ⅰの振り返りに関する班別発表と全体討議	①・②・③ 看2・看3・臨3

6　授業形式・視聴覚機器の活用

期間：医学科・看護学科５日間
場所と形式：滋賀医科大学医学部附属病院での見学実習
【第１日目/医学科、看護学科合同】
・午前、医学科、看護学科合同オリエンテーションと病院・看護部の概要の説明を行う。
午後、看護師同行実習に関する １．　自己目標、２．　グループ目標、を作成するためのグループワークを行う。
【２日目・３日目/医学科、看護学科合同】
医学科第１学年学生100名と看護学科第１学年学生60名の合計160名を80名ずつ（医学科第１学年学生50名と看護学科第１学年学生30名）のチームにわけ、以下の①②を日替わりで行う。
①３人から５人程度のグループに分かれ８の部署に配置し、１日看護師に同行する。
②10人づつのグループに分かれ、１日で８か所の病院内の部署を見学する。
【４日目/医学科、看護学科別】
・医学科は、１日研修医に医学科学生が同行して医師の業務を見学する。
・看護学科は、午前に看護師同行実習と患者とのコミュニケーション実習をおこない、午後は午前の実習での学びに関するグループワークをおこなう。
【５日目/医学科、看護学科合同】
・看護師同行実習の学びに関するグループワークおよび発表会・全体討論を医学科・看護学科合同で行う。
・医学科では、医師（研修医）業務見学実習の振り返りに関するグループワークおよび発表会を、医学概論Ⅱの時間帯に行う。
・看護学科では、看護師同向実習Ⅱ（看護師とともに受け持ち患者のケアに参加し、患者とコミュニケーションをとる）の振り返りに関するグループワークおよび発表会を看護学概論Ⅱの時間帯に行う。

7　評　価　方　法

１．全日程の出席をもって評価の要件とする。無断早退・無断遅刻・無断欠席は認めない。
２．以下のグループ成果物（30%）、個人レポート（60%）･臨床指導者の評価（10%）を５段階で評価し、総合したものを成績評価とする。
・グループ成果物：学びについてグループワークとプレゼンテーションを医看合同で行い、その成果物を提出する。
・個人レポート：終了後、実習を通じて省察した自分の課題等について論考し、レポートとして提出する。
・臨床指導者の評価：附属病院の臨床指導者の実習態度について評価を成績評価に含める。
３．受理に値しないと判断されたレポートは再提出を求める場合がある。

8　テ　キ　ス　ト

適宜提示する。

9　参　考　文　献

適宜提示する。

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11　学生へのメッセージ

滋賀医科大学医学部附属病院は、滋賀県の地域医療を担う中核病院であり、かつ高度・先進医療を推進する特定機能病院でもあります。皆さんは第２学年になると滋賀医科大学医学部附属病院で「基礎看護学実習Ⅱ」を行い、看護師として必要な倫理観や態度、基本的な知識・技術などを学びます。本実習では、医療の現場を実感することを目的としています。具体的には、医学科第１学年の学生と合同で、医師、看護師の仕事内容を直に見学し、さらに、附属病院内の医療サービス課（地域連携）、薬剤部、放射線部、栄養治療部、リハビリテーション部、検査部、救急部（ヘリポートも含む）、防災倉庫、地下・電源装置での仕事内容も見学します。病院には様々な職種や部署があり、全てのスタッフは協力して、患者さんに誠実に向き合い、信頼と満足を与えられる医療の提供を目指して働いていることを学修して下さい。入学後早い段階で行われる本実習を通して、滋賀医科大学附属病院を身近な存在として感じてもらいたいと思います。

なお、実習中は患者さんやご家族、並びに医療スタッフ等の個人のプライバシーや人権に対して十分に配慮した責任ある行動を心がけてください。また、自己の健康管理に十分に留意し、実習に挑んでください。
医学・看護学を学び始めた「１年生」にふさわしい「謙虚」な姿勢で、多くの人たちから学んでもらいたいと思います。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師

第２学年

臨 床 心 理 学

1 担 当 教 員 名

准 教 授　小 島 隆 次（医療文化学講座（心理学））

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

本授業は、臨床場面でも重要となる、パーソナリティ、感情、コミュニケーションの３つの分野の心理学の基礎知識と臨床心理学分野で用いられる主要な心理的支援法の基礎知識を習得することを第一義とします。また、受講生が本講義で課される様々な課題を適切にこなすことで、論理的に考え、批判する能力が養われ、習得した知識を日常生活でどのように応用していくのかを考えられるようになることも目指します。

そして、上記目標の達成に伴い、結果的に受講生が以下の目標を達成できるようになることを学習目標とします。

１．上記心理学３分野と心理的支援法の基礎知識を身に着けること
２．上記心理学３分野と心理的支援法の基礎知識を様々な日常の場面で活用する態度を身に着けること
３．様々な事象に対して、批判的・発展的に考える態度を身に着けること

4 授 業 概 要

本授業は、パーソナリティ、感情、コミュニケーション、心理的支援の方法についての主要なトピック（個々の テーマなどについては授業スケジュールを参照してください）を中心に教授します。また、講義を受講することで、受講生が論理的に考え、批判する能力を養いつつ、論理的・批判的思考と日常における人の思考・行動特性との関係性について考察する契機を得られるようにしたいと思います。

【準備学修等について】
文科省の大学設置基準に基づき、他の授業と同様に本授業においても、１コマ（90分）の授業に対して180分程度の課外学習（予復習）が想定されていますが、本授業では指定の授業課題に取り組むことによって、基本的にこの基準はクリアされるようにしています。

5 授 業 内 容

授業内容は以下の授業内容の各授業における内容を参照してください。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年６月17日㈮	5	小　島	ガイダンス	本授業の受講方法や基本方針などを説明。	看4
第２回	令和４年６月24日㈮	5	〃	パーソナリティ１	類型論と特性論を中心に代表的な パーソナリティ理論を概説。	看4
第３回	令和４年７月１日㈮	5	〃	パーソナリティ２	パーソナリティの測定方法などについて概説。	看4
第４回	令和４年７月８日㈮	5	〃	感情・ストレス	感情・情動及びストレスに関する 基本事項を概説。	看4
第５回	令和４年７月15日㈮	5	〃	コミュニケーション１	コミュニケーション全般に関する基礎事項と 言語コミュニケーションの諸特性を概説。	看4
第６回	令和４年７月22日㈮	5	〃	コミュニケーション２	非言語情報の特性と 非言語コミュニケーションの諸特性を概説。	看4
第７回	令和４年７月29日㈮	5	〃	心理的支援法	認知療法、行動療法、認知行動療法などを 中心に、心理的支援の方法を概説。	看4
第８回	令和４年８月１日㈪	5	〃	まとめ	授業で扱った内容全般を振り返りつつ、 適宜受講生へのフィードバックを行う。	看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はオンデマンドでのオンライン受講を基本的な授業形式とします。
授業資料や授業課題については、授業webサイトや授業課題システムから、電子的に配布・実施します。
受講生には、授業開始前に授業関連情報をメールあるいはWeb Classで通知しますので、情報を確認して下さい。

毎回の授業において、受講生は、提供された授業資料の内容を理解した上で、所定の授業課題に取り組むというのが、基本的な流れになります。

7　評　価　方　法

評価は、単位認定と単位評価の二段階で行います。

まず、単位認定に際しては、各授業で必要に応じて課される授業課題に対する得点（合計100点満点）で判断をします。60点以上で単位認定とします。

次に、認定された単位に対して相対評価を行い、これを最終評価とします。

授業課題の内容・回数・配点など、評価方法の詳細等については、初回授業（ガイダンス）及び授業用webサイトで配布する授業ガイドでより詳細に説明しますので、受講予定の方は、初回授業に参加するか、授業ガイドを必ず手に入れてください。

8　テ　キ　ス　ト

特に指定しない。修学に必要な資料は全てwebで配布します。

9　参　考　文　献

配布資料やwebにて適宜示します。

10　オフィスアワー（授業相談）

オフィスアワー情報は授業時に通知します。もちろん、個別にメール等でアポイントメントを取っていただければ、適宜対応します。

11　学生へのメッセージ

教授活動の迅速かつ適切な形成的改善のために、単位認定と評価の方法を含めた本授業における様々な規則等は、原則としてシラバス記載の内容よりも、授業webサイトを通じて配布される様々な文書に記される規定を最優先としますので、必ず授業webサイトを定期的に確認するようにしてください。また、本授業の単位認定に関しては、いわゆる救済策の類は一切存在しませんので、この点も注意して下さい。

12　授業用URL

http://kojima-lab.net/lecture_etc/index.html

13　授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

教　育　学

1　担当教員名

非常勤講師　中　島　千　恵（京都文教大学　教授）

2　配当学年等

第２学年　前期　２単位

3　学修目標

⑴健康と教育との関わりについて認識を深め、子育てや教育について医療関係者に求められる法的責務や社会的責任を理解し、実際の行為との関係を考えられる。
⑵多様な子どもの教育的ニーズと学習権について考え、教育における公正や平等に対して意識を高める。
⑶教育事象を多面的視点から考える力や洞察力を養う。
⑷教育問題を通して自己や他者について考え、自己の行動を見極める姿勢を培う。

4　授業概要

乳幼児期は人間としての基礎として重要な時期であり、その後の成長にとっても重要な時期である。また、義務教育は生きていく上で基礎的な学力を身につける時期である。それ故に、乳幼児期から義務教育段階はすべての子どもの学習権が保障され、ふさわしい環境が整備されなければならない。このような認識から、本講義では、「すべての子どもの学習権保障」をキーワードに、乳幼児期から義務教育段階の保育・教育の本質と現代的課題について学ぶ。授業全体を通して目指すのは、これらの知識を基礎として、子どもの教育問題に対する洞察力を高め、広い意味での教育における医療者の役割を考えられるようにすることである。

各回の講義時までに前回の復習と次回のテーマについて考えておくことを求める。

5　授業内容

Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴
　１．オリエンテーション
　２．生活習慣と教育：教育者としての医療関係者の使命を考える
　３．国際的に見た日本の学力
　４．グローバル化する社会に生きる：外国にルーツを持つ子どもの教育
　５．教育制度改革の動向
Ⅱ．教育の基本原理
　６．教育活動の本質と社会的機能
　７．知識・技術の伝達：伝達するとはいかなることなのか
　８．教育における権利と義務：病児の教育を受ける権利と義務を考える
　９．公教育の基本原理：国家と教育の関係を考える
　10．日本における幼児期の保育・教育の基本：幼児期の理解を深める
Ⅲ．教育の動向と現代的課題⑵
　11．特別支援教育：変化する障害者支援の考え方を学ぶ
　12．AI時代の教育：求められる能力資質を考える
　13．学校・保護者・地域との連携と相互支援：エンパワーメントを考える
　14．ディベート（実施できない場合：今日の教育的課題）
　15．まとめ

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	3	中　島	Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴	1．オリエンテーション	①・②・③
第２回	令和４年４月19日㈫	3	〃	Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴	2．生活習慣と教育：教育者としての医療関係者の使命を考える	①・②・③
第３回	令和４年４月26日㈫	3	〃	Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴	3．国際的に見た日本の学力	①・②・③
第４回	令和４年５月10日㈫	3	〃	Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴	4．グローバル化する社会に生きる：外国にルーツを持つ子どもの教育	①・②・③
第５回	令和４年５月17日㈫	3	〃	Ⅰ．教育の動向と現代的課題⑴	5．教育制度改革の動向	①・②・③

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第６回	令和４年５月24日㈫	3	中　島	Ⅱ．教育の基本原理	6．教育活動の本質と社会的機能	①・②・③
第７回	令和４年５月31日㈫	3	〃	Ⅱ．教育の基本原理	7．知識・技術の伝達：伝達するとはいかなることなのか	①・②・③
第８回	令和４年６月７日㈫	3	〃	Ⅱ．教育の基本原理	8．教育における権利と義務：病児の教育を受ける権利と義務を考える	①・②・③
第９回	令和４年６月14日㈫	3	〃	Ⅱ．教育の基本原理	9．公教育の基本原理：国家と教育の関係を考える	①・②・③
第10回	令和４年６月21日㈫	3	〃	Ⅱ．教育の基本原理	10．日本における幼児期の保育･教育の基本：幼児期の理解を深める	①・②・③
第11回	令和４年６月28日㈫	3	〃	Ⅱ．教育の基本原理	11．特別支援教育：変化する障害者支援の考え方を学ぶ	①・②・③
第12回	令和４年７月５日㈫	3	〃	Ⅲ．教育の動向と現代的課題(2)	12．AI時代の教育：求められる能力資質を考える	①・②・③
第13回	令和４年７月12日㈫	3	〃	Ⅲ．教育の動向と現代的課題(2)	13．学校･保護者･地域との連携と相互支援：エンパワーメントを考える	①・②・③
第14回	令和４年７月19日㈫	3	〃	Ⅲ．総合的考察(1)	14．ディベート（実施できない場合、教育の今日的課題）	①・②・③
第15回	令和４年７月26日㈫	3	〃	Ⅲ．総合的考察(2)	15．まとめ	①・②・③

6　授業形式・視聴覚機器の活用

1）授業形式　講義とディスカッション、ディベートも実施できれば入れる（受講者数に応じて柔軟に考える）。授業中に感想や意見を書いて提出してもらう。

2）視聴覚機器　ビデオ、OHC、パワーポイント使用

7　評　価　方　法

毎回の課題提出　100%

なお、授業に出席することを前提とするが、出席点などない。

提出物の評価基準

①基礎的内容の理解
②教育に対する意識の高さ、理解の深さ、多面的思考
③論理の明瞭性
④誠実で丁寧な取り組みであること
⑤学習目標に照らして自己の学びについて適切に記述している。

8　テ　キ　ス　ト

授業中に紹介する。

9　参　考　文　献

田中、越後、中島編著　『改訂　未来に生きる教育学』あいり出版、2018年
阿部　彩『子どもの貧困―日本の不公平を考える』岩波書店、2003年
山野良一『子どもの最貧国・日本：学力・心身・社会に及ぶ諸影響』光文社新書、2008年。
その他、授業で紹介する。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業終了後かウェブクラスで受け付けます。
教員への質問はウェブクラス「メッセージ」でお願いします。特にクラス全員に係るような質問は「タイムライン」でお願いします。

11　学生へのメッセージ

教育について語り合いながら授業を進めたいと思っています。

なお、コロナウイルス感染拡大による授業形式の変更、教育改革の進展や重大な教育問題の発生、また特別学生諸氏から要望などがあった場合、シラバスを一部変更、授業方法もオンデマンドを活用するなど柔軟に対応します。

法　　学

1　担　当　教　員　名

非常勤講師　　須　永　知　彦　（滋賀大学　経済学部　講師）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

現代社会における様々な法律問題について、特に財産・取引や家族生活といった私法の分野を中心に、身近な素材や重要な事例をもとにして考えます。ごく初歩的な法律知識の習得も目標としますが、それと同時に、法律の世界でのものの考え方や問題解決の仕方を理解することや、法律の世界の全般の見取り図（どのような問題がどのような法律で扱われるか等）を頭に描けるようになることに重点をおきます。その際に、情報社会や生命倫理といった現代的課題について、現行の法制度や法的思考方法が有する限界を確認することが重要と考えます。

アウトカムとして「倫理とプロフェッショナリズム」の各項目の獲得、特に人権感覚、法令遵守の姿勢、職業的倫理感を身につけることを目指します。

4　授　業　概　要

１回の授業について２つほどのテーマを設定して、教科書やその他の資料を参考にしながらそのテーマに関する法的な考え方を解説します。その上で、そうした考え方や導かれる結論が「妥当」かどうか、妥当かどうかを判別する基準は何かを考えていきます。

時間の関係から、様々な法分野を網羅的に解説することはできません。そこで、扱うテーマは、社会生活にとって身近でありまた医療従事者としても触れる機会の多いであろう民法等の分野が中心になりますが、主要な法分野全般については触れるように努め、またそれらの法分野の相互関係も解説します。

<授業時間外学習>

・事前：レジュメ（講義資料）と判例等その他資料は事前に配布します。指定する部分を読み、一定の点について調べる又は考えてくることを求めます。

・事後：「７　評価方法」の小レポートは、授業時間外に授業内容を復習しながら答案を作成し、提出してもらいます。

5　授　業　内　容

法と憲法の目指す価値、法的思考の特色について簡単に触れた上で、それをもとに刑法と民法の基礎について説明します（第１回から第８回）。それらの応用として、医療と法（患者の地位、医療事故、生殖医療、終末期医療等）について、裁判例にも触れながら検討していきます（第９回から第15回）。具体的には、以下の授業計画のようになります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月11日(月)	1	須　永	法の世界	(1)法の世界の見取り図 (2)法的思考の特色、法と裁判	①・②・③
第２回	令和４年４月18日(月)	1	〃	憲法と法律	(1)最高法規としての憲法 (2)憲法と法的問題の解決	①・②・③
第３回	令和４年４月25日(月)	1	〃	犯罪と刑罰	(1)刑法と罪刑法定主義 (2)刑罰の機能	①・②・③
第４回	令和４年５月２日(月)	1	〃	民法と事故処理	(1)不法行為の基本枠組み (2)共同不法行為と使用者責任	①・②・③
第５回	令和４年５月９日(月)	1	〃	民法と財産関係	(1)財産の帰属と移転・利用 (2)契約の履行と不履行	①・②・③
第６回	令和４年５月16日(月)	1	〃	民法と家族関係	(1)婚姻と親子 (2)私的扶養と公的扶養	①・②・③
第７回	令和４年５月23日(月)	1	〃	個人と団体	(1)権利能力 (2)自然人と法人	①・②・③
第８回	令和４年５月30日(月)	1	〃	成年後見制度	(1)行為能力の制限とサポート (2)成年後見制度の概要と運用状況	①・②・③

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第９回	令和４年６月６日㈪	1	須　永	医療と法１	⑴契約としての医療 ⑵診療契約における医療従事者の役割	①・②・③
第10回	令和４年６月13日㈪	1	〃	医療と法２	⑴自己決定権とQoL ⑵説明と同意の法的意味と具体的内容	①・②・③
第11回	令和４年６月20日㈪	1	〃	医療と法３	⑴医療事故 ⑵医療事故の民事処理１（過失と医療水準）	①・②・③
第12回	令和４年６月27日㈪	1	〃	医療と法４	⑴医療事故の民事処理２（因果関係） ⑵医療事故調査制度と事故予防	①・②・③
第13回	令和４年７月４日㈪	1	〃	医療と法５	⑴生殖医療と法 ⑵代理出産の行為規制と親子関係	①・②・③
第14回	令和４年７月11日㈪	1	〃	医療と法６	⑴終末期医療と法 ⑵安楽死・尊厳死	①・②・③
第15回	令和４年７月25日㈪	1	〃	まとめ	法と日常生活、法と医療、法と裁判の限界	①・②・③

6　授業形式・視聴覚機器の活用

レジュメに基づく解説と質疑応答により授業を進めます。レジュメには、付属資料として雑誌記事の抜粋等を含みます。また、取り扱う問題の確認のために、動画の視聴覚教材を補助的に用いることがあります。板書の代替としてスライドを用います。

7　評　価　方　法

定期試験（55％）と小レポート（45％）により評価します。

・小レポートは、毎回の授業内容と関連する２～３の問題について、授業を進める中で考えてもらい、授業２回に１回の頻度でWebClassを通じて提出してもらいます（６点X８回＝48点）。これは授業で扱った基本的な概念等を確認すると同時に、扱った問題の位置づけや社会における法の意味を確認し、法令遵守の姿勢につなげることを目指すものです。知識・概念確認のための多肢選択問題等と、問題の位置づけや意味を扱う簡単な記述問題からなります。

・定期試験では、授業内容の理解度、すなわち、基本的な概念の意味の理解、それを応用した思考方法、授業中に触れた事例や判例の意義を、多岐選択問題や記述問題（判例などを元にした事例問題を含む）などによりはかります（52点）。医療従事者として身につけるべき法的知識の確認をめざすものです。

なお、仮に社会情勢等の変化により定期試験の実施が困難になる場合には、定期試験に代えてレポートを出題することがありえます。

定期試験と小レポートあわせて、成績評価は概ね以下のような基準になります。

可：授業で触れた重要な用語・概念について意味を把握している。

良：それらの用語・概念について、相互に関連づけて理解している。
　また、それらから導かれる論理的な帰結について理解している。

優:医療関係の重要判例について､位置づけや内容を理解している。様々な問題に対する法的な対応の社会的意義を理解している。

秀：加えて、様々な問題の背景や経緯等について説明できる。

8　テ　キ　ス　ト

レジュメ及び雑誌・新聞記事の抜粋その他の資料を適宜配布します。参考文献は授業で紹介します。

9　オフィスアワー（授業相談）

授業の前後にお願いします。教室には８時40分頃からいます。また、メールアドレスは授業時にお知らせします。

10　学生へのメッセージ

◦授業に出席し、メモをとるように願います。

11　授業用E-mail

tsunaga@belle.shiga-med.ac.jp

家 族 社 会 学

1 担 当 教 員 名

非常勤講師　LADMIRAL　Guillaume　Andre Jean Rene

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

家族についての社会学的な見方の基本を身につけることが目標です。歴史的に見て、また他の国との比較から、現代日本における家族がどのような特徴を持っているのかを理解します。

4 授 業 概 要

授業では、近世社会と近代社会における家族のかたちを概観し、また現代の他国の多様な家族の形にも触れながら、家族が実際には社会的体系の一要素であり、社会全貌と変容を共にすることを明らかにします。

5 授 業 内 容

各授業の冒頭で、授業に関する質疑応答および提出された小課題に対するコメントを行った後、その日の項目の説明を行います。小課題は、授業の資料の要約と、関連する専門用語の定義の記述です。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	5	LADMIRAL	１．イントロダクション	授業全体の紹介、方法論： レポートの書き方についての 説明と指導、 「家族」とは何か	看4
第２回	令和４年４月15日㈮	5	〃	２．人口学入門	人口転換、少子化高齢化の原因	看4
第３回	令和４年４月22日㈮	5	〃	３．家族の歴史社会学入門１	家族の類型と家族の変容過程 家族と法律	看4
第４回	令和４年５月６日㈮	5	〃	４．家族の歴史社会学入門２	「近代家族」と現代の家族の有様	看4
第５回	令和４年５月20日㈮	5	〃	５．同居、結婚、離婚	配偶者選択 結婚と離婚の歴史変動と現状	看4
第６回	令和４年５月27日㈮	5	〃	６．就職と家族	男女で異なる働き方 性別役割分業の実態	看4
第７回	令和４年６月３日㈮	5	〃	７．子育てと親–成人子関係	現代日本で子をもつ 親–成人子関係の変化	看4
第８回	令和４年６月10日㈮	5	〃	８．家族と福祉	家族と貧困、福祉制度と家族	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業形式：講義
視聴覚機器の活用：プロジェクタを使用します。

7 評 価 方 法

平常点（小課題）50％、期末レポート50％で評価します。出席は基本的に、授業ごとに提出していただく小課題で確認します。期末レポートについては、参考文献を参照しながら、授業で取り扱った項目について、書いてもらいます。

8 テ キ ス ト

毎回資料を配布します。

9　オフィスアワー（授業相談）

電子メールでラドミラル（ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp）宛てご連絡ください。

10　授業用E-mail

ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp

哲　　学

1　担当教員名

教　　授　室寺義仁（医療文化学講座（哲学））

2　配当学年等

第２学年　前期　２単位

3　学修目標

世界の哲学史の観点から、特に東洋の古典に伝わる諸思想を取り上げる。この授業を受講する中で、受講生は、各自それぞれに自分自身の今の存在を見つめ直す古典の中の言葉に出会い、そして、

⑴ 東洋の古典に伝わる諸思想、すなわち、南アジア（古典インド語圏）・東アジア（漢字文化圏）の主たる思想の基本的な考え方が理解できるようになる。

⑵ 特に日本的な精神文化、並びに、その背景にある仏教の思想や人間観について、自ら感じ・考えた内容を、他者に分かる言葉で伝える能力が身につき向上している。

これら２点を主たる目標とする。

4　授業概要

世界の哲学史の中、まず欧米の哲学の出発点にある古代ギリシャ哲学の基本を紹介する。まず、アリストテレスの説く「愛の三つの形」について概説する。そして、この流れ汲む形での、近代における現象学的な人間観察の基本や、エーリッヒ・フロムの「愛の技術」について紹介する。

次いで、世界史的に見れば、古代ギリシャとほぼ時を同じくして現れる、南アジア・東アジアにおける諸思想について、それぞれの思想を代表する古えの哲人・賢者たちの言葉を紹介して行く。そして、比較分析を加えながら、古典テキストに伝わるそれぞれの哲学・思想の中でも、特に「仁とは人を愛す」と語られるときの人間の観方に注目して、現代の私たちの日常生活の中で、意識するとしないとに関わらず、影響を与え続けている人間観・人生観について考察する。

このような学びの過程で、受講生各自が、様々な「愛」の形、そして、日本の精神文化における「悲しみ」と共にある愛の形について、学びを深め思索を繰り返す習慣性を身に付けることを目指す。

受講生には、各回の講義において取り上げられる＜内容＞について、各自の理解できる範囲で良いので、自主学習（予習）を進めておくことが求められる。そして、講義を聞き、知識・考えを広め、小レポートなどを作成する過程で、思索を繰り返し（復習）、自らの考えを客観的合理的に記述することが求められる。

5　授業内容

1．古代ギリシャ哲学における自然万物の生成についての考え方、その観方を背景とする医療に係る養育治療の捉え方、並びに、アリストテレスの語る「友愛」について、そして、「愛の技術」について

2．古代インドの神秘思想における世界の創造についての考え方、その観方を背景とする自己自身の捉え方、そして、究極的な「自己愛」について

3．古代中国における無為なる自然と人為とに二分する考え方、その観方を背景とする道と徳との思想、あるいは、人倫の道としての仁と義の思想、そして、儒家の語る「仁愛」について

4．仏教における人間存在そのものの捉え方、心のあり様の捉え方、そして、ブッダが抱いた「大悲」について

こうした思想それぞれの潮流を概説しながら、身近な日本語の意味を深く考えてみたいと思う。例えば、「かわいい」という語を挙げると、可愛いと見えていたものが、あるとき悲しみの対象に変わってしまったとき、その愛（いとお）しくも悲しくもある思想感情にはどのような意味合いがあるのかなど、受講生とともに思索を深めて行く。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月６日㈬	2	室　寺	ガイダンス	医療の原点としての「人を愛する」ことについて	看2・看3
第２回	令和４年４月13日㈬	2	〃	ギリシャの自然哲学	アリストテレスの思想 ― 愛の三つの形について	看4
第３回	令和４年４月20日㈬	2	〃	キリスト教の思想	キリストの教え ―「神愛」について	看4
第４回	令和４年４月27日㈬	2	〃	近代の西洋思想	メルロ・ポンティの思想 エーリッヒ・フロムの思想 ― 愛することの４つの技術	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第５回	令和４年５月11日㈬	2	室　寺	インドの神秘思想(1)	ヤージュニャヴァルキャの思想 ― 究極的な「自己愛」	看4
第６回	令和４年５月18日㈬	2	〃	インドのバクティ思想(2)	『バガヴァット・ギーター』の思想 ― インド的な神への「信愛」	看4
第７回	令和４年５月25日㈬	2	〃	中国の儒教思想(1)	孔子の教え ―「仁愛」	看4
第８回	令和４年６月１日㈬	2	〃	中国の儒教思想(2)	孔子・孟子の教え ―「仁愛」	看4
第９回	令和４年６月８日㈬	2	〃	中国の諸子百家の思想(3)	墨子の教え ―「兼愛」	看4
第10回			〃	仏教の思想(1)	ブッダ（釈迦）の教え ―「慈愛」「大悲」【オンデマンドの予定】	
第11回	令和４年６月22日㈬	2	〃	仏教の思想(2)	最澄・空海の教え	看4
第12回	令和４年６月29日㈬	2	〃	日本の精神文化(1)	『万葉集』（巻５）の憶良の歌 から学ぶ 「子を愛（うつく）しむ心」	看4
第13回	令和４年７月６日㈬	2	〃	日本の精神文化(2)	「愛」という漢字と和訓 ― かなしむ、いとおしむ	看4
第14回	令和４年７月13日㈬	2	〃	日本の精神文化 (3)	慈しみ愛おしむことと「なさけ」という情感について ―「情愛」	看4
第15回	令和４年７月20日㈬	2	〃	まとめ	まとめとしての「人を愛する」ことについて	看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

基本、講義形式の対面授業。

7　評　価　方　法

講義で取り上げた主要テーマごとに、基本、毎時間、コメント（出席票に、自らの考えや意見を述べるという仕方で）の提出を求めます（３点満点評価）。このコメントに対して、45％評価。出席も毎回取ります（コメントの提出で出席を取ります）。なお、ハイフレックス形式で講義を行う場合、リアルタイムでのZoomへのログイン確認で出席確認を行うことや、コメント、あるいは、小レポートは、WebClassを介して提出することを求めることなどを改めて説明します。講義実数の３分の２を超える回数の授業参加が認められることが成績評価の前提です。そして、期末試験（論述式レポート）を、55％の評価として、成績評価を行います。

8　テ　キ　ス　ト

適宜、プリント配布する。
講義中に参考図書を紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

授業用E-mailアドレス宛に、授業相談のためのアポイントメントを取る相談メールを送って下さい。適宜、対応します。

10　学生へのメッセージ

今、ここに、こうして生きている「私」への、そして、この「私」が思い願う明日の「私」への問い掛けを、授業を受講する過程で繰り返し深めて欲しいと思います。医療の原点は、「人を愛する」ことだと考えます。その「愛」の形の多彩なあり様について、講義を聞き、自分自身の今の存在のあり様を問い直しつつ、自らの考えを深めて下さい。

11　授業用E-mail

murojiji@belle.shiga-med.ac.jp

地 域 文 化 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　兼　重　　努（医療文化学講座（文化人類学））　　非常勤講師
横　内　吾　郎

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

ここ十数年来の世界情勢の激変に伴い、わが国でも中東情勢あるいはイスラーム教に関するニュース報道が急激に増大しつつある。にもかかわらず、私たちはイスラームについて十分な知識を持ち合わせていない。

この講義では、イスラーム教に関する基礎的な理解から始めて、現代イスラーム社会について基本的な事柄を解説してゆく。加えて、比較文化的な観点から、中国・東南アジア・ヨーロッパの各地域について、イスラーム教徒・イスラーム社会に関するトピックスを取り上げ解説する。

イスラームの社会と文化を学ぶ事により、我々が属している日本の社会と文化を相対化して捉える為の視点も身につけて頂きたい。

4 授 業 概 要

《イスラーム理解のための基礎知識》

イスラーム文化が現代社会に及ぼしているさまざまな影響について、地域文化比較の観点から総合的に解説する。

⑴イスラーム概論

イスラーム教の基本的教義の理解から始めて、現代イスラーム世界についての基礎的な知識の獲得を目指す。

⑵ヨーロッパとイスラーム

ヨーロッパにおけるイスラーム教徒とその立場

⑶中国・東南アジアとイスラーム

中国におけるイスラーム教徒とその立場、東南アジア大陸部とイスラーム社会

【準備学修等に必要な時間目安】

※受講生は、授業受講の外に、１コマの授業当たり180分の時間を使って授業の予習・復習やレポート課題等に取り組む事が望まれる。

5 授 業 内 容

第１週～第８週　　イスラーム概論（横内講師）

ただし、第１週の最初の10分は成績評価などに関する説明（兼重）

第９週～第10週　現代ヨーロッパにおけるイスラーム教（横内講師）

第11週～第15週　中国および東南アジア大陸部におけるイスラーム教（兼重）

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	4	兼　重 横　内	イスラーム概論	成績評価などに関する10分程度の説明（兼重） ガイダンス ―イスラームについて学ぶ意義を考える―	A
第２回	令和４年４月19日㈫	4	横　内	イスラーム概論	イスラーム教の基本的な教義	A
第３回	令和４年４月26日㈫	4	〃	イスラーム概論	イスラーム法	A
第４回	令和４年５月10日㈫	4	〃	イスラーム概論	スーフィズムと聖者信仰	A
第５回	令和４年５月17日㈫	4	〃	イスラーム概論	シーア派	A
第６回	令和４年５月24日㈫	4	〃	イスラーム概論	イスラーム復興とイスラーム主義	A
第７回	令和４年５月31日㈫	4	〃	イスラーム概論	現代の諸問題	A
第８回	令和４年６月７日㈫	4	〃	イスラーム概論	イスラーム世界の文化	A
第９回	令和４年６月14日㈫	4	〃	現代ヨーロッパにおけるイスラーム教	現代ヨーロッパにおけるムスリム移民社会	A
第10回	令和４年６月21日㈫	4	〃	現代ヨーロッパにおけるイスラーム教	現代ヨーロッパにおけるムスリム移民問題	A

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第11回	令和４年６月28日㈫	4	兼　重	中国および 東南アジア大陸部に おけるイスラーム教(1)	中国におけるイスラーム教徒 ―回族の事例(1)―	A
第12回	令和４年７月５日㈫	4	〃	中国および 東南アジア大陸部における イスラーム教(2)	中国におけるイスラーム教徒 ―回族の事例(2)―	A
第13回	令和４年７月12日㈫	4	〃	中国および 東南アジア大陸部における イスラーム教(3)	中国におけるイスラーム教徒 ―ウイグル人の事例(1)―	A
第14回	令和４年７月19日㈫	4	〃	中国および 東南アジア大陸部における イスラーム教(4)	中国におけるイスラーム教徒 ―ウイグル人の事例(2)―	A
第15回	令和４年７月26日㈫	4	〃	中国および 東南アジア大陸部における イスラーム教(5)	東南アジア大陸部におけるイスラーム教徒 ―雲南系ムスリムの事例―	A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式をとる。原則、対面で実施し、講義室で実施する授業をZoomを用いてライブで同時配信も行う。なお、必要に応じて、視聴覚機器を使って映像資料などを紹介する。

7　評　価　方　法

レポート課題（２回）の成績を素点（各50点×２=100点満点）とします。（期末筆記試験は実施しません。）

１．レポート課題（第１回目）は

［第１回から第８回までの講義内容（横内先生の授業担当分）］を踏まえ、書いて頂くレポートです。

（提出方法、レポートの内容、締め切り日、字数、注意事項などに関しては８回目の授業が終わるまでに横内講師から通知します。）

２．レポート課題（第２回目）は

下記の①か②のうち どちらか一方から選んで 書いて頂くレポートです。

①［第９回と第10回の講義内容（横内先生の授業担当分）］を踏まえ、書いて頂くレポート。

②［第11回目以降の講義内容（兼重の授業担当分）］を踏まえ、書いて頂くレポート。）

レポート課題（第２回目）の（提出方法、レポートの内容、締め切り日、字数、注意事項など）に関しては

①を選択する方は横内講師からの指示に従って頂き、

②を選択する方は兼重の方から（第11回目の授業の際に）詳細を連絡する予定です。

受講（出席）状況・受講態度などに問題がある場合は程度に応じて素点から10～40点減点します。

なお、レポートは、参考文献を全て明示し、引用出典を逐一明記して下さい。剽窃・盗用は厳禁。レポート執筆に関する注意事項は授業中に指示します。注意事項を守っていないレポートを提出した場合は単位を認定しないこともあります。またその場合レポートの再提出などの救済措置は一切とりません。

8　テ　キ　ス　ト

教科書は使用しない。

参考文献は、講義の際に随時紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

随時。ただし、事前にメールでアポをとって下さい。

10　学生へのメッセージ

将来、医療･看護の現場に身を置く皆さんにとって、自分と異なる文化的背景をもつ人々とかかわる機会は少なくないと思います。なかでもイスラーム文化は、これまで日本の歴史には比較的縁遠い存在であったため、私たちにとって身近なものとは言い難いようです。どうかこの講義を利用して、自分のあまり知らない異国の文化に対して理解を深めて下さい。

11　授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

地　　域　　論

1　担　当　教　員　名

教　　授　兼　重　　努（医療文化学講座（文化人類学））

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

⑴本学と特に関わりの深い滋賀県、および滋賀県民に関する知識を獲得する。
⑵各自がオリジナルなmy地域論を立ち上げる。
⑶地域の特色を自力で調べる為に必要なスキルを学びとる。
⑷自力で問いを立て答えを出してゆくスキル、プレゼンテーションのスキル、批判的思考のスキル、コメント力を培う。

4　授　業　概　要

自分で問いを立てて、文献資料を調べたり（もし余力があればフィールドワークを行ったり）する事等を通して、滋賀県の地域的特色および地元の方々の暮らしや文化について理解を深める。

本授業は能動学習型の方法で行うため、受講生は毎回の準備学修を必須とする。

【準備学修等に必要な時間目安】
※受講生は、授業受講の外に、１コマの授業当たり180分の時間を使って授業の予習・復習やレポート課題等に取り組む事が望まれる。

5　授　業　内　容

①現在の滋賀県の地域的特色や②滋賀県民の暮らし・文化等を対象に、受講者自身がテーマを設定し調査を進め、各自がオリジナルなmy地域論を構築していく。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	4	兼　重	ガイダンス	ガイダンス 地域論の実例紹介	①
第２回	令和４年10月13日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告１	問いの設定	①
第３回	令和４年10月20日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告２	問いの設定 参考文献調査	①
第４回	令和４年10月27日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告３	調査内容の報告と討論	①
第５回	令和４年11月10日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告４	調査内容の報告と討論	①
第６回	令和４年11月17日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告５	調査内容の報告と討論	①
第７回	令和４年11月24日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告６	調査内容の報告と討論	①
第８回	令和４年12月１日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告７	調査内容の報告と討論	①
第９回	令和４年12月８日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告８	調査内容の報告と討論	①
第10回	令和４年12月22日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告９	章立て案の報告と討論	①
第11回	令和５年１月５日㈭	4	〃	受講生による進捗状況報告10	パワポスライド案の報告と討論	①
第12回	令和５年１月12日㈭	4	〃	成果発表会の予行練習１	発表会の予行練習（第１回）	①
第13回	令和５年１月19日㈭	4	〃	成果発表会の予行練習２	発表会の予行練習（第２回）	①
第14回	令和５年１月26日㈭	4	〃	成果発表会１	成果発表会（第１回）	①
第15回	令和５年２月２日㈭	4	〃	成果発表会２	成果発表会（第２回）	①

6　授業形式・視聴覚機器の活用

原則、対面で実施し、講義室で実施する授業をZoomを用いてライブで同時配信も行う。
本授業では教員の講義を受身の姿勢で聴くというスタイルはとらず、皆さんの発表と質疑応答を主体とする能動学習の形式をとる。自分でテーマを見つけ、具体的な問いを立てる。自ら図書館へ通ったり（余力があればフィールドワークをしたり）して資料を集め、問いの答えを探る。毎回レジュメを作成した上で進捗状況を発表し、受講生同士で質疑応答を繰り返す。

受講生には毎回、進捗状況の報告と他の受講生の報告に対するコメントが義務づけられている。そのため、無遅刻・無欠席を前提とする。やむを得ない理由で遅刻・欠席する場合は事前に兼重まで連絡すること。

教員は、問いのたて方、資料の探し方、フィールドワークのやり方、分析方法、まとめ方、レジュメの書き方などについて助言する。

年明けに、成果発表会のプレゼンテーションの予行練習を行う。成果発表会では、学習の成果を本学教職員、学生、大学院生の前でパワーポイントを使って披露する。成果発表会で寄せられたコメントや質問等を踏まえて、発表内容をバージョンアップさせ期末レポートにまとめる。

7　評　価　方　法

・成果発表会のプレゼン･･･50％
・期末課題レポート･････50％
以上の合計が60％以上を合格とする。

出席（受講）状況・宿題提出状況・受講態度などに問題あれば、程度に応じて減点する。
なお、課題レポートに剽窃（盗用）その他不正行為があった場合は単位を認定しない。詳細は授業で説明する。

8　テ　キ　ス　ト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

9　参　考　文　献

以下の書籍は文献探索、アンケート調査、フィールドワークやプレゼンの際に非常に役に立つので、一読しておくことが望ましい。

*池上　彰　2010『〈わかりやすさ〉の勉強法』講談社現代新書2054
*酒井　隆　2012『アンケート調査の進め方』<第２版>日経文庫1271
*宮内泰介　2004『自分で調べる技術　市民のための調査入門』岩波アクティブ新書117
*吉本哲郎　2008『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書609
*小笠原喜康　2003『インターネット完全活用編　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書1677
*井上真琴　2004『図書館に訊け！』ちくま新書486
*千野信浩　2005『図書館を使い倒す！ネットではできない資料探しの「技」と「コツ」』新潮新書140
*岩波書店編集部編　2004『フィールドワークは楽しい』岩波ジュニア新書474
*今和次郎　1987『考現学入門』ちくま文庫
*平林　純　2009『論理的にプレゼンする技術　聴き手の記憶に残る話し方の極意』サイエンス・アイ新書103　ソフトバンククリエイティブ

その他の参考文献は随時紹介する。

10　オフィスアワー（授業相談）

随時。ただし、事前にメールでアポをとって下さい。

11　学生へのメッセージ

滋賀医科大学で学ぶ皆さんは近い将来、何らかの形で滋賀県の地域医療に関わる事が期待されています。その際必要になるのは、滋賀県という土地、そしてそこに暮らす人々に関する知識です。地域論の授業に参加すると、こうした知識が得られます。他府県出身の方は勿論、滋賀県内で生まれ育った方にも何らかの新たな発見があるはずです。

滋賀県および、そこに暮らす人々について皆さんが疑問に思っている事、知りたい事を、図書館や野外に赴いて自ら調べる機会が得られます。自分で問いを立て、調べ、考え、答えを導き、プレゼンするという知的体験も得ることができます。テーマの設定のしかた、調べ方、まとめ方、プレゼンの要領、レポートの書き方等についても学ぶことができます。

真摯に取り組むならば、卒業後も終生役立つ重要なスキルを獲得することにもつながるでしょう。例えば、自力で問いを立て答えを出してゆくスキル、プレゼンテーションのスキル、批判的思考のスキル、コメント力などです。

以上が本授業から皆さんが得ることができるメリットです。

この授業では受講生同志の対話も重視しています。

12　授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

運 動 科 学 実 践

1 担 当 教 員 名

非常勤講師　河　北　純　子（龍谷大学　非常勤講師）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

運動の合理的実践を通して、心身の健康維持・増進に役立てる方法を体験的に学ぶ。また、自ら健康維持・増進の基礎的知識や方法を習得し､大学卒業後も自らの身体的健康を維持できる能力を培うことを目標とする。より理解を深めるため｢スポーツ科学実践｣と共に受講することが望ましい。

4 授 業 概 要

<実施種目>
ピラティス、バレーボール、アルティメット、ニュースポーツ等（進度により適宜変更有）

<講義内容>
体力トレーニング論,運動処方論

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	内　容
第１回	令和４年４月７日㈭	２・３	河　北	ガイダンス・ピラティスの基本理解※更衣なし
第２回	令和４年４月14日㈭	２・３	〃	バレーボール（ネット型）①　基本技術・ルールの理解①
第３回	令和４年４月21日㈭	２・３	〃	バレーボール②　基本技術・ルールの理解②
第４回	令和４年４月28日㈭	２・３	〃	バレーボール③　応用技術①
第５回	令和４年５月12日㈭	２・３	〃	バレーボール④　応用技術②
第６回	令和４年５月19日㈭	２・３	〃	バレーボール⑤　チーム戦術①・振り返り
第７回	令和４年５月26日㈭	２・３	〃	バレーボール⑥　チーム戦術②・振り返り
第８回	令和４年６月９日㈭	２・３	〃	体力測定①
第９回	令和４年６月16日㈭	２・３	〃	体力測定②
第10回	令和４年６月23日㈭	２・３	〃	アルティメット（ゴール型）①　基本技術・ルールの理解①
第11回	令和４年６月30日㈭	２・３	〃	アルティメット②　基本技術・ルールの理解②
第12回	令和４年７月７日㈭	２・３	〃	アルティメット③　応用技術①
第13回	令和４年７月14日㈭	２・３	〃	アルティメット④　応用技術②
第14回	令和４年７月21日㈭	２・３	〃	アルティメット⑤　チーム戦術①・振り返り
第15回	令和４年７月28日㈭	２・３	〃	アルティメット⑥　チーム戦術②・振り返り

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実技による演習形式

7 評 価 方 法

平常点（授業参加度・受講態度）70%、レポート30%　但し、11/15時間に満たない場合は不可

8 オフィスアワー（授業相談）

授業日の12：00～13：00

9 授業用E-mail

a14314@mail.ryukoku.ac.jp

基 礎 科 学 研 究

1 担 当 教 員 名

教　　授　古　荘　義　雄　（生命科学講座（化学））
教　　授　目　良　　裕　（生命科学講座（物理学））
教　　授　平　田　多佳子　（生命科学講座（生物学））
教　　授　立　岡　弓　子　（臨床看護学講座）
教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
教　　授　依　馬　正　次　（動物生命科学研究センター）
准 教 授　成　瀬　延　康　（生命科学講座（物理学））
准 教 授　川　北　素　子　（生命科学講座（数学））
准 教 授　守　村　敏　史　（動物生命科学研究センター）
准 教 授　本　山　一　隆　（情報総合センター）
助　　教　里　岡　大　樹　（生命科学講座（生物学））
助　　教　岡　村　永　一　（動物生命科学研究センター）
特任助教　武　藤　真　長　（動物生命科学研究センター）
特任助教　松　本　翔　馬　（動物生命科学研究センター）
助　　手　中　西　章　夫　（生命科学講座（物理学））

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

医科学・生命科学を含む自然科学の研究方法および説明能力の習得過程を通じて、科学を総合的な観点から理解することを目的とする。

4 授 業 概 要

下記の実験研究あるいはサイエンスコミュニケーションの２つのコースのうちのいずれかを選択し、一連の作業を自主的に学習していく。必要に応じて教員も研究に参加する。

【実験研究および理論研究】一つのテーマに対して、実験計画あるいは基礎理論から結果報告までの一貫した研究過程を学習する。

【サイエンスコミュニケーション】科学的な話題を取り上げ、それを学習・調査し、一般人にも理解できるよう説明する。

なお、本科目は「人間科学研究」との重複履修はできない。「基礎医学研究入門」履修者の本科目履修は可能である（授業内容の項を参照）。

5 授 業 内 容

主として生命にかかわる現象に関連したテーマを、実験および理論研究とサイエンスコミュニケーションそれぞれについて、生命科学講座の各分野と情報総合センターで準備する。これらのテーマを下記に示すが、これら以外でも、実験機材等の点で可能であれば独自にテーマを設定してもよい。

【実験研究および理論研究】
物　理　学：生体関連物質及びナノ材料の原子レベルでの観察、および、光に対する性質の評価
生　物　学：免疫細胞動態の解析
情　報　学：（天文学）観測結果および理論モデルからの太陽系外惑星の物理量の推定
動物生命学：幹細胞の性状解析
【サイエンスコミュニケーション】
化　　学：看護の化学・身の回りの化学

なお、受講人数制限を行う（物理学４名、化学３名、生物学３名、情報学２名、動物生命学２名程度）。

「基礎医学研究入門」履修者は、所属研究室のテーマで履修することが可能であるが、その場合、「基礎医学研究入門」での研究活動に加え、木曜３・４時限の研究活動が必要である。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１・２回	令和４年４月14日㈭	４・５	目良、古荘 平田、本山 依馬	オリエンテーション	物理学、化学、生物学、情報学、 動物生命学の各分野の研究テーマの 説明と質疑応答	B
第３・４回	令和４年４月21日㈭	４・５	各分野担当教員	研究１	各テーマに応じた研究	
第５・６回	令和４年４月28日㈭	４・５	〃	研究２	各テーマに応じた研究	
第７・８回	令和４年５月12日㈭	４・５	〃	研究３	各テーマに応じた研究	
第９・10回	令和４年５月19日㈭	４・５	〃	研究４	各テーマに応じた研究	
第11・12回	令和４年５月26日㈭	４・５	〃	研究５	各テーマに応じた研究	
第13・14回	令和４年６月２日㈭	４・５	〃	研究６	各テーマに応じた研究	
第15・16回	令和４年６月９日㈭	４・５	〃	研究７	各テーマに応じた研究	
第17・18回	令和４年６月16日㈭	４・５	〃	研究８	各テーマに応じた研究	
第19・20回	令和４年６月23日㈭	４・５	〃	研究９	各テーマに応じた研究	
第21・22回	令和４年６月30日㈭	４・５	〃	研究10	各テーマに応じた研究	
第23・24回	令和４年７月７日㈭	４・５	〃	研究11	各テーマに応じた研究	
第25・26回	令和４年７月14日㈭	４・５	〃	研究12	各テーマに応じた研究	
第27・28回	令和４年７月21日㈭	４・５	〃	基礎科学研究発表会	研究成果の発表	B
第29・30回	令和４年７月28日㈭	４・５	〃	復習	ここまでのまとめと報告書作成	

6　授業形式・視聴覚機器の活用

初めにオリエンテーションを行い、それぞれのテーマの概略を説明した後、各自コースとテーマを決定する。

実験研究を選択した場合は、選択した研究テーマで扱う現象を理解し、研究計画・実験計画をたて、それに沿って実施する。得られた実験結果をまとめ､分析し考察を加える。これらの経過や結果は研究報告として､視聴覚機器などを利用して学会形式で発表し､論文形式の研究報告書としてまとめる。

サイエンスコミュニケーションを選択した場合は、選択した研究テーマについて理解し、咀嚼して、視聴覚機器などを利用して発表する。

研究テーマの学習過程では、学内外の資料を収集したり、教員・研究者に協力を依頼したりすることもある。発表においては、質問に答えられるよう準備が必要である。

7　評　価　方　法

基本的には以下の基準に基づいて評価する。

受講態度、討論・発表・報告書の内容（80%）

平常点：出席等（20%）

なお、報告書の提出が前期中（９月末まで）に完了しなければ、成績評価はしな い。

報告書はすべて滋賀医科大学機関リポジトリ「びわ庫」にて公開する。

8　テ　キ　ス　ト

オリエンテーション時に各テーマの資料プリントなどを配布する。それ以後は、必要に応じてその都度示す。

9　参　考　文　献

e-learning サーバ http://latte.shiga-med.ac.jp/ の「基礎科学研究」に前年度の研究報告書や今年度の資料などを掲載する。

10　オフィスアワー（授業相談）

各教員のオフィスアワーに準じる。

または、事前に担当教員のメールアドレスあてにメールで連絡すること。アドレスが不明な場合は、http://www.shiga-med.ac.jp/mmc/ のページで検索できる。

11　学生へのメッセージ

研究過程やプレゼンテーションの組み立てを楽しみながら自主的に取り組んでください。通常の講義や実習とは違い、結果を予測できないテーマに取り組むことによって、自分の思わぬ能力を発見することでしょう。

12　授業用URL

http://latte.shiga-med.ac.jp/

人 間 科 学 研 究

1 担 当 教 員 名

准 教 授　小 島 隆 次（医療文化学講座（心理学））
教　　授　室 寺 義 仁（医療文化学講座（哲学））
教　　授　加 藤　　穣（医療文化学講座（英語））
教　　授　兼 重　　努（医療文化学講座（文化人類学））
教　　授　河 村 奈美子（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　伊 藤 美樹子（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

「課題探求能力の追求」が本授業の学習目標です。学生が自ら研究テーマを選択・設定し、テーマに応じた資料収集や研究方法・研究の進め方を追求し、さらには研究内容のとりまとめ方・発表や提出する小論文の書き方などの能力を育成します。

4 授 業 概 要

本授業は、人文社会科学で扱われる様々な研究テーマについて、受講生が主体的に研究活動を行う授業です。受講生には、研究テーマの設定、研究計画立案と研究の実施、そして研究活動と成果の取りまとめとしての論文執筆に取り組んでもらいます。

学期中には、研究の進捗状況などを報告してもらいながら、研究を進めてもらいます。そして、夏期休業中に、各指導担当教員の指導の下で、論文を執筆してもらいます。

本授業を受講することによって、論理的･批判的思考を行う能力やプレゼンテーション能力等が養われるようにしたいと思います。

5 授 業 内 容

1．人文科学・社会科学の分野のうち、文化人類学/地域研究（指導：兼重教授）・哲学（指導：室寺教授）・医療英語/アメリカの思想・文化（指導：加藤教授）・認知/行動科学（指導：小島准教授）の諸ジャンルから、個々の学生が、教員との相談も交えながら、研究テーマを確定します。

2．毎回、受講生は研究進捗状況について報告し、教員からアドバイスを受けることになります。

3．授業の具体的な進め方は、各担当教員によって異なりますので、各教員の指示に従って下さい。

4．おおよそ次のようなスケジュールを予定しています。

4月：指導教員や研究テーマなどを決定し、研究に取りかかる。

5月／6月：教員のアドバイスを受けながら研究を進める。

7月：研究成果をとりまとめる。

8～9月：研究成果を小論文形式にまとめる。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	内　　容	教室
第１・２回	令和４年４月14日㈭	４・５	各分野担当教員	ガイダンス	A
第３・４回	令和４年４月21日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告１	
第５・６回	令和４年４月28日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告２	
第７・８回	令和４年５月12日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告３	
第９・10回	令和４年５月19日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告４	
第11･12回	令和４年５月26日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告５	
第13･14回	令和４年６月２日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告６	
第15･16回	令和４年６月９日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告７	
第17･18回	令和４年６月16日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告８	

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	内　　容	教室
第19･20回	令和４年６月23日㈭	４・５	各分野担当教員	受講生による進捗状況報告９	
第21･22回	令和４年６月30日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告10	
第23･24回	令和４年７月７日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告11	
第25･26回	令和４年７月14日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告12	
第27･28回	令和４年７月21日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告13	
第29･30回	令和４年７月28日㈭	４・５	〃	受講生による進捗状況報告14	

6　授業形式・視聴覚機器の活用

「授業内容」を参照して下さい。

7　評　価　方　法

授業時間内での研究進捗報告等（40%）、そして研究成果をまとめた論文（60%）とを総合的に評価します。定期試験は行いません。

8　テ　キ　ス　ト

教科書は使用しません。
参考文献などは必要に応じて各自で調査収集して下さい。

9　オフィスアワー（授業相談）

随時各指導教員へ気軽に相談に来てください。

10　学生へのメッセージ

受講生が研究したいテーマを自由に選択・決定することから、この授業はスタートします。主体的・意欲的にテーマに取り組む学生の参加を期待しています。

原則として受講人数を10名以下に制限していますので、受講者選抜を行います。受講者選抜の方法等については、初回授業開始までに通知します。

また、「人間科学研究」を受講すると「基礎科学研究」を受講することはできませんので御注意ください。同じく、「基礎科学研究」を受講する場合には「人間科学研究」は受講できません。

11　授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

生 化 学 ・ 栄 養 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　佐々木　雅　也（基礎看護学講座）
教　　授　扇　田　久　和（生化学・分子生物学講座（分子病態生化学部門））

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

1．人間の生命維持過程に必要な代謝と栄養について理解することができる。
2．人間の生命の連続性を保つ生殖と栄養代謝について理解することができる。
3．人間の生活と代謝・栄養との関連を考えることができる。
4．疾患による栄養代謝病態の特徴と、その特徴に応じた栄養管理の基本について考えることができる。
5．上記の理解をふまえ、代謝・栄養と基本的看護との関連を考えることができる。

4 授 業 概 要

生命現象を化学の知識で理解する生化学と、栄養素の生体内における吸収、代謝、生理的役割を学ぶ。また、科学的な看護実践を導き出すために必要な代謝学・栄養学を学び、基本的医療である栄養管理に関する知識を習得する。
受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。
各講義を担当する講師から、講義内容に応じた配布資料が提示される。配布資料は、当日講義室で配布およびe-learningにも掲載する。遠隔受講の場合は、必ず、各自で配布資料を印刷し、テキストおよび配布資料を基に講義を受講することが求めれる。
目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれまる。

5 授 業 内 容

【単元】
※コースガイダンス：基礎看護学と代謝学・栄養学　学習目的・目標の理解

1．人間の生命維持過程に必要な代謝と栄養
　1－1．生命を維持する過程に必要な栄養素
　1－2．生命を維持する過程に必要な代謝
　1－3．生命を維持する過程に必要な栄養

2．人間の生命の連続性を保つ生殖

3．人間の生活と代謝・栄養との関連
　3－1．生活習慣を獲得し発展維持する過程と代謝･栄養
　3－2．社会関係を結び発展維持する過程と代謝･栄養

4．代謝・栄養と基本的看護との関連

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	2	扇　田	糖質の生化学(1)		看4
第２回	令和４年４月19日㈫	2	〃	糖質の生化学(2)		看4
第３回	令和４年４月26日㈫	2	〃	脂質の生化学(1)		看4
第４回	令和４年５月10日㈫	2	〃	脂質の生化学(2)		看4
第５回	令和４年５月17日㈫	2	〃	タンパク質の生化学(1)		看4
第６回	令和４年５月24日㈫	2	〃	タンパク質の生化学(2)		看4
第７回	令和４年５月31日㈫	2	扇　田	ビタミンの生化学		看4
第８回	令和４年６月７日㈫	2	〃	ミネラルの生化学		看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第９回	令和４年６月14日㈫	2	佐々木	栄養不良と栄養評価		看4
第10回	令和４年６月28日㈫	1	植　田	摂食嚥下Ⅰ		看4
第11回	令和４年６月28日㈫	2	〃	摂食嚥下Ⅱ		看4
第12回	令和４年７月５日㈫	2	佐々木	経腸栄養法		看4
第13回	令和４年７月11日㈪	5	中　西	栄養所要量と病院給食		看4
第14回	令和４年７月12日㈫	2	佐々木	病態別栄養管理Ⅰ	消化器疾患など	看4
第15回	令和４年７月21日㈭	1	栗　原	母性看護と栄養	妊娠期・分娩期・授乳期の栄養など	看4
第16回	令和４年７月28日㈭	1	佐々木	病態別栄養管理Ⅱ	がん、高齢者など	看4
第17回	令和４年８月４日㈭	1	〃	試　験（９：30～10：20）		看4
第18回	令和４年８月19日㈮	3	〃	再試験（14：00～14：50）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式で、座席は指定で行う。前席を希望する場合は、佐々木宛にメールで連絡して下さい。なお、テキストは購入して講義の際に持参して下さい。

7　評　価　方　法

筆記試験とレポート評価点により総合的に判断する。

・筆記試験　　（90%）
・レポート評価点（10%）

8　テ　キ　ス　ト

【教科書】

生化学…「生化学―人体の構造と機能〈２〉」系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院　第14版
栄養学…「栄養学―人体の構造と機能〈３〉」系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院　第13版

9　参　考　文　献

【参考書籍】

栄養学…『臨床栄養学』ナーシング・グラフィカ
日本臨床栄養代謝学会 JSPENテキストブック　南江堂

ハーパー生化学 原書25版，丸善
イラストレイテッド生化学 原書３版，丸善

10　オフィスアワー（授業相談）

この授業についてのご質問やご相談は随時可能です。
不在の場合は、メールで連絡して下さい。
佐々木雅也 sasaki@belle.shiga-med.ac.jp

11　学生へのメッセージ

個々の患者に適した栄養管理をおこなうことは基本的医療です。そのためには、栄養代謝病態を理解することが必須であり、それには生化学、栄養学の知識が重要です。積極的に学んで下さい。

12　主担当教員の実務経験

医師

薬 物 治 療 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　佐々木　雅　也（基礎看護学講座）
教　　授　西　　英一郎（薬理学講座）
教　　授　森　田　真　也（薬剤部）
助　　教　松　本　寛　史（消化器内科）
助　　教　大　澤　　真（感染制御部）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期後半　１単位

3 学 修 目 標

薬物治療には、医師、看護師、薬剤師の連携が必要であるが、実際に患者とコミュニケーションをとりながら投薬するのは看護師である。誤薬を防止するだけでなく、服薬指導や治療内容の説明を行うと共に治療効果の確認や副作用の発見や防止にも努めなければならない。そのためにも、薬理学的な知識を身につけて薬のはたらきについて説明できるようになる。

4 授 業 概 要

看護師として必要な薬物の体内動態・代謝を学び、薬理学の基本的な知識を習得する。また、循環器作用薬、中枢神経・末梢神経作用薬、化学療法薬、抗炎症薬など、薬剤の作用機序や臨床応用、副作用などについて理解する。（看護師として薬物治療に関する基礎的知識は必要である。薬物の体内動態や代謝経路など、薬理学の基本的な知識を習得するとともに、循環器作用薬、神経作用薬、化学療法薬、抗炎症薬などについて個別に薬剤の作用機序や臨床応用を理解する。）

受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。

各講義を担当する講師から、講義内容に応じた配布資料が提示される。配布資料は、当日講義室で配布およびe-learningにも掲載する。遠隔受講の場合は、必ず、各自で配布資料を印刷し、テキストおよび配布資料を基に講義を受講することが求めれる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれる。

5 授 業 内 容

授業は講義形式で行う。

講義では、出来る限り資料配付を行うが、各自でテキストは準備されたい。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年５月31日㈫	1	西	総論　薬物療法・薬理学の基本		看4
第２回	令和４年６月７日㈫	1	〃	末梢神経作用薬		看4
第３回	令和４年６月14日㈫	1	〃	循環器作用薬		看4
第４回	令和４年６月16日㈭	1	森　田	薬物の代謝動態	妊娠と薬、授乳と薬に関する内容を含む	看4
第５回	令和４年６月23日㈭	1	〃	薬効と有害事象	妊娠と薬、授乳と薬に関する内容を含む	看4
第６回	令和４年６月30日㈭	1	大　澤	抗感染症薬		看4
第７回	令和４年７月７日㈭	1	松　本	抗がん剤	妊娠と薬、授乳と薬に関する内容を含む	看4
第８回	令和４年７月14日㈭	1	上　西（副薬剤部長）	中枢神経作用薬		看4
第９回	令和４年７月19日㈫	2	佐々木	抗炎症薬・抗アレルギー薬		看4
第10回	令和４年７月26日㈫	2	〃	消化器作用薬・呼吸器作用薬		看4
第11回	令和４年８月３日㈬	3	〃	試　験（14：00～14：40）		看4
第12回	令和４年８月17日㈬	3	〃	再試験（14：00～14：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式　8．に記載した教科書を中心に行う。補助的に適宜プリントを配付する。なお、本シリーズの講義は座席指定でおこなう。テキストは各自で購入し、講義に持参して下さい。

7　評　価　方　法

筆記試験とレポート評価点により総合的に判断する。

・筆記試験　　（90%）
・レポート評価点（10%）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座　専門基礎分野　『薬理学ー疾病のなりたちと回復の促進［３］』医学書院　第15版

9　オフィスアワー（授業相談）

質問や相談は随時可能です。
不在の場合は、メールで連絡して下さい。
佐々木雅也 sasaki@belle.shiga-med.ac.jp

10　学生へのメッセージ

看護師として必要な薬物治療の知識を修得して欲しい。

11　主担当教員の実務経験

医師

診断と治療 I

1 担当教員名

教　　授　佐々木　雅　也（基礎看護学講座）
教　　授　中　川　義　久（内科学講座（循環器内科））
教　　授　中　野　恭　幸（内科学講座（呼吸器内科））
教　　授　漆　谷　　真（内科学講座（脳神経内科））
教　　授　丸　尾　良　浩（小児科学講座）
教　　授　相　見　良　成（基礎看護学講座）
教　　授　芦　原　貴　司（情報総合センター）
准 教 授　山　口　将　史（内科学講座（呼吸器内科））
准 教 授　真　田　　充（内科学講座（脳神経内科））
准 教 授　多　賀　　崇（小児科学講座）
准 教 授　稲　富　　理（消化器内科）
准 教 授　森　野　勝太郎（IR 室）
講　　師　藤　田　征　弘（内科学講座（糖尿病内分泌内科））
講　　師　河　原　真　大（血液内科）
講　　師　馬　場　重　樹（光学医療診療部）
特任講師　山　原　真　子（医師臨床教育センター）
講師(学内)　山　川　　勇（内科学講座（脳神経内科））
講師(学内)　佐　藤　大　介（内科学講座（糖尿病内分泌内科））
助　　教　黄　瀬　大　輔（内科学講座（呼吸器内科））
助　　教　星　野　真　介（小児科）
助　　教　森　宗　孝　夫（小児科）
助　　教　増　田　　史（精神科）
助　　教　川　口　民　郎（リハビリテーション科）
助　　教　酒　井　　宏（感染制御部）
助　　教　北　村　彰　浩（神経難病研究センター　臨床研究ユニット脳神経内科学部門）

非常勤講師
木　藤　克　之（きとうクリニック　院長）
西　村　貴　士（兵庫医科大学　肝胆膵内科　超音波センター　講師）

2 配当学年等

第２学年　前期　２単位

3 学修目標

本講義は、専門看護の学習に向けて必要な基礎的、また最新の医学的知識を提供し、学習していただくことで専門知識と技術を習得し、実地学習を効率よく円滑に履修し看護師としての資質を向上させることを目標としている。特に内科系の講義が主体で構成されている。

4 授業概要

専門看護の講義及び実習の履修に当たって必要な医学的知識を包括的に学習して実地学習を円滑に実施できるようにすることを目的とする。

受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。

各講義を担当する講師から、講義内容に応じた配布資料が提示される。配布資料は、当日講義室で配布およびe-learningにも掲載する。遠隔受講の場合は、必ず、各自で配布資料を印刷し、配布資料を基に講義を受講することが求めれる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれまる。

5 授業内容

臨床医学の各分野にわたって基礎的な内容のみだけではなく、今日的な内容も含む。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月11日(月)	4	中　川	循環器疾患(1)	循環器病総論	看4
第２回	令和４年４月11日(月)	5	佐々木	内科学入門	輸液と静脈栄養	看4
第３回	令和４年４月18日(月)	4	芦　原	循環器疾患(2)	不整脈・心不全	看4
第４回	令和４年４月18日(月)	5	酒　井	循環器疾患(3)	虚血性心疾患	看4
第５回	令和４年４月25日(月)	4	川　口	循環器疾患(4)	心臓リハビリ	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第６回	令和４年５月２日㈪	4	山　口	呼吸器疾患(2)	気管支喘息と気胸	看4
第７回	令和４年５月２日㈪	5	黄　瀬	呼吸器疾患(3)	呼吸不全と酸素	看4
第８回	令和４年５月９日㈪	4	馬　場	消化器疾患(1)	消化管(1)	看4
第９回	令和４年５月９日㈪	5	〃	消化器疾患(2)	消化管(2)	看4
第10回	令和４年５月12日㈭	1	中　野	呼吸器疾患(1)	COPD	看4
第11回	令和４年５月16日㈪	4	稲　富	消化器疾患(3)	膵・胆道疾患	看4
第12回	令和４年５月16日㈪	5	藤　田	糖尿病	糖尿病	看4
第13回	令和４年５月19日㈭	1	丸　尾	小児の成長、発達、栄養	小児の成長、発達、栄養	看4
第14回	令和４年５月23日㈪	5	森　野	生活習慣病（肥満-脂質異常症）	生活習慣病（肥満-脂質異常症）	看4
第15回	令和４年５月30日㈪	4	山　原	腎疾患(1)	腎疾患(1)	看4
第16回	令和４年５月30日㈪	5	〃	腎疾患(2)	腎疾患(2)	看4
第17回	令和４年６月２日㈭	1	相　見	解剖見学		
第18回	令和４年６月２日㈭	2	〃	解剖見学		
第19回	令和４年６月６日㈪	4	増　田	精神疾患(1)	精神疾患(1)	看4
第20回	令和４年６月６日㈪	5	〃	精神疾患(2)	精神疾患(2)	看4
第21回	令和４年６月９日㈭	1	漆　谷	神経疾患(1)	運動障害を来す疾患	看4
第22回	令和４年６月13日㈪	4	河　原	血液疾患(1)	血液疾患(1)	看4
第23回	令和４年６月13日㈪	5	〃	血液疾患(2)	血液疾患(2)	看4
第24回	令和４年６月20日㈪	5	森　宗	小児感染症	小児感染症	看4
第25回	令和４年６月21日㈫	1	北　村	認知症	認知症	看4
第26回	令和４年６月27日㈪	4	多　賀	小児血液疾患	小児血液疾患	看4
第27回	令和４年６月27日㈪	5	星　野	小児循環器疾患	小児循環器疾患	看4
第28回	令和４年７月４日㈪	4	山　川	脳血管障害	脳血管障害	看4
第29回	令和４年７月８日㈮	2	西　村	消化器疾患(4)	肝疾患	看4
第30回	令和４年７月11日㈪	4	佐　藤	内分泌疾患	内分泌疾患	看4
第31回	令和４年７月25日㈪	4	木　藤	HIV疾患	HIV疾患	看4
第32回	令和４年７月25日㈪	5	真　田	神経疾患(2)	神経免疫疾患	看4
第33回	令和４年８月２日㈫	1	佐々木	試　験（９：30～10：20）		看4
第34回	令和４年８月15日㈪	1	〃	再試験（９：30～10：20）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式で行う。
講義では、出来る限り資料配付を行う。

7　評　価　方　法

筆記試験とレポート評価点により総合的に判断する。
・筆記試験　　（90%）
・レポート評価点（10%）

8　オフィスアワー（授業相談）

質問や相談は随時可能です。
不在の場合は、メールで連絡して下さい。
佐々木雅也 sasaki@belle.shiga-med.ac.jp

9　学生へのメッセージ

本講義は滋賀医科大学の特徴を生かし、本学の臨床の場で活躍されている臨床医学及び研究に励まれている諸先生方に御協力いただき、臨床医学に直結した講義になるように心掛けている。そのために講義毎に教員が入れ替わり、講義のスタイルも変わる。テキストブックは無いが、配付資料に講義内容をメモ書きし、テキストとして使用していただきたい。

10　主担当教員の実務経験

医師

診 断 と 治 療 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

未　定
教　　授　喜　多　伸　幸　（臨床看護学講座）
教　　授　塩　見　直　人　（救急集中治療医学講座）
教　　授　清　水　智　治　（医療安全管理部）
准 教 授　大　脇　成　広　（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）
准 教 授　花　岡　　淳　（呼吸器外科）
准 教 授　梅　田　朋　子　（地域医療教育研究拠点）
講　　師　家　森　正　志　（歯科口腔外科学講座）
講　　師　澤　田　　修　（眼科）
助　　教　高　橋　聡　文　（皮膚科学講座）
助　　教　前　平　博　充　（外科学講座（消化器外科））
助　　教　坂　井　幸　子　（外科学講座（乳腺・小児・一般外科））
助　　教　熊　谷　康　佑　（整形外科学講座）
助　　教　神　谷　賢　一　（心臓血管外科）
助　　教　草　場　拓　人　（泌尿器科）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

外科系を中心とした診療分野の診断法と、その治療および予後について適切な看護を提供する知識、手法、能力を養うことを目的とする。消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・眼科・産婦人科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・皮膚科・救急医学における主な病態の理解、診断、介入方法を習得する。

4 授 業 概 要

最近の臨床医学の発展に触れ、医療の現状を包括的に学ぶことで、看護の実践に必要な臨床的知識を段階的に学び活用できるように配慮した。各論では一年時に総論で学習した分野や、「診断と治療Ⅰ」と重複しないように講義内容が組まれている。

オムニバス方式で毎回診療分野が異なる講義になるため、講義の前にはどの診療分野を学習するのか30分ほど予習し、講義終了後は60分の講義内容の復習を日常的に行うこと。復習をする中で疑問に思う事は積極的に質問し、学習内容の定着に役立てること。日常の復習だけでは定着が足りない場合や、試験準備中においては、休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	4	清　水	腹部外科	看4
第２回	令和４年４月15日㈮	4	熊　谷	整形外科関節疾患	看4
第３回	令和４年４月19日㈫	1	澤　田	視機能の評価	看4
第４回	令和４年４月22日㈮	2	前　平	肝胆膵外科	看4
第５回	令和４年５月６日㈮	2	梅　田	乳腺・内分泌疾患のアセスメント	看4
第６回	令和４年５月６日㈮	4	坂　井	小児外科	看4
第７回	令和４年５月26日㈭	1	高　橋	皮膚疾患とアレルギーの評価	看4
第８回	令和４年５月27日㈮	2	喜　多	婦人科疾患	看4
第９回	令和４年６月３日㈮	2	〃	妊娠・分娩の異常	看4
第10回	令和４年６月３日㈮	4	花　岡	呼吸器外科	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第11回	令和４年６月13日㈪	2	草　場	泌尿器疾患	看1
第12回	令和４年６月17日㈮	2	家　森	歯科の基礎知識	看4
第13回	令和４年６月24日㈮	2	神　谷	心臓血管外科	看4
第14回	令和４年７月４日㈪	5	大　脇	平衡・聴覚・味覚機能評価	看4
第15回	令和４年７月29日㈮	2	塩　見	クリティカル期におけるフィジカルアセスメント	看4
第16回	令和４年８月８日㈪	3	未　定	試　験（13：30～15：00）	看4
第17回	令和４年８月18日㈭	2	〃	再試験（11：00～12：30）	A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、各分野からの専門の先生によるオムニバス形式の講義となる。
講義では、出来る限り資料配付を行う。
視聴覚機器：スライド、ビデオなどを活用する。

7　評　価　方　法

学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行い、成績下位約30%の者には、平常点（受講態度・小テスト）を加味して、再試験の要否を判定する。最終的に、筆記試験60％以上の得点を修了の認定要件とする。

8　オフィスアワー（授業相談）

随時可能、ただし、不在時には、メール等で連絡してください。

9　学生へのメッセージ

本講義は滋賀医科大学の特徴を生かし、現在、本学の臨床の場で活躍されている臨床医学及び研究に励まれている諸先生方に御協力を仰ぎ、臨床医学に直結した講義になるように心掛けています。そのために講義毎に教員が入れ替わり又講義のスタイルも変わります。また、講義日程等に変更が出る場合があります。
講義用資料は、出来るだけe-Learningに掲載を予定しています。
また、講義内容等への質問への回答は、出来るだけ学生連絡用メールで配信を予定しています。

病 態 生 理 学 特 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期　２単位

3 学 修 目 標

病態生理学は人体の正常な機能に異常を来たす、あるいはその調節機能に破綻が生じた場合、我々の身体がどのような状態を呈するのか、またそれはどの様な原因により引き起こされるのかを解き明かす学問であり、病態診断のﾌﾟﾛｾｽを生理学的に理解することを目標とする。

4 授 業 概 要

病態生理学は、およそ代謝、呼吸、循環、脳、環境病態生理学に大別されるが、代表的な疾患に対する疾患への理解を目的とする。その際、必要に応じて専門分野の教員による講義を行う。

なお、１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	教室
第１回	令和４年10月４日㈫	3	喜　多	生理学の基礎的知識１	看1
第２回	令和４年10月11日㈫	3	〃	生理学の基礎的知識２	看1
第３回	令和４年10月18日㈫	3	〃	体温調節の病態生理	看1
第４回	令和４年10月25日㈫	3	〃	免疫反応の病態生理	看1
第５回	令和４年11月１日㈫	3	〃	体液調節の病態生理	看1
第６回	令和４年11月８日㈫	3	〃	血液の病態生理	看1
第７回	令和４年11月15日㈫	3	〃	循環調節の病態生理	看1
第８回	令和４年11月22日㈫	3	〃	呼吸調節の病態生理	看1
第９回	令和４年11月29日㈫	3	〃	消化・吸収の病態生理	看1
第10回	令和４年12月６日㈫	3	〃	腎・泌尿器の病態生理	看1
第11回	令和４年12月13日㈫	3	〃	内分泌・代謝の病態生理	看1
第12回	令和４年12月20日㈫	3	〃	生殖器の病態生理	看1
第13回	令和４年12月27日㈫	3	〃	脳神経の病態生理	看1
第14回	令和５年１月17日㈫	3	〃	筋肉の病態生理	看1
第15回	令和５年１月24日㈫	3	〃	感覚器の病態生理	看1
第16回	令和５年２月14日㈫	1	〃	試　験（９：00～10：30）	看4
第17回	令和５年２月28日㈫	1	〃	再試験（９：00～10：30）	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、代謝、呼吸、循環、脳、環境等各分野別のｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の講義となる。
講義では、出来る限り資料配付を行う。
基本科目責任者が講義を担当するが、必要に応じて専門分野の医師に依頼する。
視聴覚機器：スライド、ビデオなどを活用する。

7　評　価　方　法

学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行うが、全体の２/３以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。成績評価方法として、定期試験や受講態度等により以下に示すように総合的に判断する。

定期試験（80％）

平常点（レポート提出及びその内容、受講態度）（20％）

成績評価基準は、上記に従い点数化し、最終的に60％以上の得点を終了の認定要件とする。得点が前記未満の場合は、平常点を加味して再試験の要否を判定する。

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学（医学書院）

9　オフィスアワー（授業相談）

予め科目責任者のメール（nkita@belle.shiga-med.ac.jp）に相談内容の概要を記載し、追って授業相談の日時・場所等を決定する。

10　授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

11　参考E-mail 1

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

医師

保 健 医 療 行 政 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）　　非常勤講師

田　中　逸　郎　（特定非営利活動法人　NPO 政策研究所
理事（主任研究員））

中　根　明　美　（豊中市保健所）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

日本の社会経済全体、保健医療、グローバルヘルスの課題に対応するための課題に対応する保健・医療行政・制度の法的基盤と関係法令、行政の仕組みと機能についての基本的な知識を修得する。

また、薬害被害者による薬害被害経験の特別講義を通して、被害の回復と再発予防に向けた保健医療行政と専門職の役割について考えることができる。

4 授 業 概 要

保健・医療の関係法規制定の趣旨や理念、ならびにそれらの変遷と特徴や、計画、評価などの仕組みについて教授する。
また保健医療の営みに関わって生じる倫理的課題や人権の問題を薬害を通じて取り上げる。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	内　容	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	3	田　中	ガイダンス・国・自治体の行政の仕組み、 保健医療行政の概要＜基盤形成＞	看4
第２回	令和４年４月15日㈮	3	〃	保健医療行政の概要＜新たな課題と政策の発展・転換＞	看4
第３回	令和４年４月22日㈮	3	〃	公衆衛生に関する国際的な活動、社会の現状から学ぶ	看4
第４回	令和４年５月13日㈮	3	〃	地域保健の体系、医療制度、介護保険制度	看4
第５回	令和４年５月20日㈮	3	田中、伊藤 中　根 （豊中市保健所）	保健行政の現場から	看4
第６回	令和４年５月27日㈮	3	田　中	自治体の保健医療（福祉）計画、授業の振り返り・まとめ	看4
第７回	令和４年６月３日㈮	3	伊　藤 花　井 （大阪 HIV 薬害訴訟 原告団代表）	特別講義：薬害再発防止のために－薬害エイズの教訓－	看4
第８回	令和４年６月10日㈮	3	伊　藤 全国Ｂ型肝炎訴訟 弁護団	特別講義：B型肝炎患者・家族の現状について	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7　評　価　方　法

期末レポート（80%）と各授業内容に関するレポート課題（20%）によって評価する。
最終評価には、授業時の意見や発言を加味する。
なお、出席回数が２/３未満の場合は成績評価の対象としない。

8　テ　キ　ス　ト

最新 保健学講座７「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

社会福祉・社会保障論

1　担当教員名

講　　師　輿　水　めぐみ（公衆衛生看護学講座）　非常勤講師
樽　井　康　彦（龍谷大学　社会学部　現代福祉学科　准教授）
蘭　　由岐子（追手門学院大学　社会学部　教授）
田　中　逸　郎（特定非営利活動法人　NPO政策研究所
理事（主任研究員））

2　配当学年等

第２学年　後期　２単位

3　学修目標

1．日本の社会保障と社会福祉の概要を体系的に理解できる。
2．国民が直面する諸問題に関連した社会保障および社会福祉の動向が理解できる。
3．各種制度の沿革と現在の制度の内容、今度の動向について理解できる。
4．社会福祉実践の基盤となる援助方法について理解できる。

4　授業概要

国民の生活の安定化をはかるとともに最低限の生活を保障する公的な制度である社会保障制度について概説する。また、障がい者や要介護高齢者など社会的な援護を要する者が自立した生活を送れるように支援する社会福祉の制度についても概説する。
１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれます。

5　授業内容

社会保障および社会福祉の制度の仕組みについて全体像をつかみ、各制度の内容およびサービスの特徴と関連職種の役割について学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月７日㈮	2	輿　水	ガイダンス （学修目的、授業計画、評価方法）	医療・看護領域と社会福祉の連携と課題	看1
第２回	令和４年10月14日㈮	2	田　中	社会保障制度と 社会福祉①	社会福祉の歩み 行政（国・自治体）の仕組みと公共政策 体系、法制度、財政、組織ほか	看1
第３回	令和４年10月21日㈮	2	〃	社会保障制度と 社会福祉②	保健･医療との関係（医療保障制度、健康保険等）	看1
第４回	令和４年11月４日㈮	2	〃	社会変化と社会保障･ 社会福祉の動向①	人口や地域社会、経済状況等の変化と 市民生活の課題	看1
第５回	令和４年11月11日㈮	2	〃	社会変化と社会保障･ 社会福祉の動向②	社会変化による社会保障・社会福祉・ 保健医療の動向と課題	看1
第６回	令和４年11月18日㈮	2	〃	これからの社会保障･ 社会福祉のあり方①	持続可能な仕組みづくりに向けて （地域共生社会づくり）	看1
第７回	令和４年11月25日㈮	2	〃	これからの社会保障･ 社会福祉のあり方②	社会保障制度の再構築に向けて （国・自治体・市民の役割）	看1
第８回	令和４年12月５日㈪	4	蘭	医療と差別①	ハンセン病 ― 制度と経験	看1
第９回	令和４年12月５日㈪	5	蘭	医療と差別②	ハンセン病 ― 制度と経験	看1
第10回	令和４年12月20日㈫	4	樽　井	社会福祉援助技術①	社会福祉援助技術全般について、 その歴史および技術、理念の基礎を学ぶ	看1
第11回	令和４年12月20日㈫	5	〃	社会福祉援助技術②	個別援助技術について、 理論および実際の援助事例について学ぶ	看1

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第12回	令和４年12月27日㈫	4	樽　井	社会福祉援助技術③	集団援助技術について、 理論および実際の援助事例について学ぶ	看1
第13回	令和４年12月27日㈫	5	〃	障害者福祉	障害者福祉の歴史、制度、援助技術に関する 基礎を学ぶ	看1
第14回	令和５年１月17日㈫	4	〃	児童家庭福祉	児童家庭福祉の歴史、制度、援助技術に関する 基礎を学ぶ	看1
第15回	令和５年１月17日㈫	5	〃	高齢者福祉	高齢者福祉の歴史、制度、援助技術に関する 基礎を学ぶ	看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業計画に沿って講義形式で行うが、日程は一部変更なる場合がある。
基本的には教科書に沿って授業を進めながら、適宜、事例等をもとに意見交換を行う。

7　評　価　方　法

評価は期末試験に授業時の発言・意見等を加味する。詳細は、講義の際に説明する。
全講義の２/３以上（２回の遅刻および早退は１回の欠席とみなす）の出席をもって評価の対象とする。

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［３］社会保障・社会福祉　医学書院

9　参　考　文　献

講義の際に適宜提示する。

10　オフィスアワー（授業相談）

主担当教員にメールでアポイントを取る。

11　学生へのメッセージ

福祉分野との多職種連携において重要な学修内容になりますので積極的に学修をしてください。特に、医療保障と介護保障については看護師国家試験にも毎年出題がみられますし、医療職がしっかりと理解しておきたい内容です。

12　授業用E-mail

meg54310@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

地 域 保 健 看 護 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期前半　１単位

3 学 修 目 標

⑴公衆衛生看護活動の基礎となる健康づくり活動の概念、考え方が説明できる。
⑵公衆衛生看護学の定義、対象、機能が説明できる。
⑶人々の健康が社会経済文化的な影響を受けていることがわかる。
⑷個人・家族、集団、組織の支援における考え方や方法がわかる。
⑸住民の主体的な活動を育成する意義や方法がわかる。

4 授 業 概 要

コミュニティレベルの健康水準を高めることを目的とした公衆衛生看護学の基礎となる理念・概念および活動を展開するための基本的な知識を学ぶ。健康に影響を及ぼす社会・環境要因の把握、対象特性別の健康増進、疾病予防をはじめ、人々の健康で文化的な生活を営む権利を保障するための、個人・家族、集団、組織の支援のあり方、住民主体の地域活動や地域組織化活動など、主要な公衆衛生看護活動の方法について学ぶ。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月４日㈫	2	伊　藤		公衆衛生看護の定義、対象、機能	看１
第２回	令和４年10月11日㈫	2	〃		プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション	看１
第３回	令和４年10月18日㈫	2	〃		健康の社会的決定要因 健康の環境的決定要因	看１
第４回	令和４年10月25日㈫	2	〃		地域住民・集団を対象とした看護活動： 活動根拠と活動基盤	看１
第５回	令和４年11月１日㈫	2	〃		地域住民・集団を対象とした看護活動： 個人・家族	看１
第６回	令和４年11月８日㈫	2	〃		地域住民・集団を対象とした看護活動： 特定集団	看１
第７回	令和４年11月15日㈫	2	〃		地域住民・集団を対象とした看護活動： 住民参加と主体化	看１
第８回	令和４年11月22日㈫	2	〃		地域住民・集団を対象とした看護活動： 地域組織化活動とソーシャルキャピタル	看１
第９回	令和５年２月15日㈬	2	〃	試　験 （11：00～12：30）		看４
第10回	令和５年３月１日㈬	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看４

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7　評　価　方　法

３分の２以上の出席を最終評価の条件とする。
ミニレポート（20%）と期末テスト（70%）、並びに授業への主体的参加（10%）により評価する。

8　テ　キ　ス　ト

最新 保健学講座１「公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社
国民衛生の動向

9　参　考　文　献

最新 保健学講座２「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社

10　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11　主担当教員の実務経験

保健師

地域ケアシステム論

1　担　当　教　員　名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期後半　１単位

3　学　修　目　標

1　地域ケアシステムにおける看護マネジメントについて理解する。
2　地域ケアシステムを構成する社会資源について理解する。
3　事例を通して、地域での療養を支える看護職の役割や専門性について理解を深める。

4　授　業　概　要

地域ケアシステムとしての多職種･多機関関連チームの法的･制度的基盤やシステムの機能、役割の実際について、今日的な支援ニーズの高い事例を通して理解する。多職種・多機関関連チームにおける看護職の役割や専門性を理解する。また地域のヘルスニーズに対応するケアイノベーションを構想する力を養う。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年11月29日㈫	2	辻　村	地域ケアシステムにおける 看護マネジメント	地域ケアシステムにおける 看護マネジメント	看1
第２回	令和４年12月６日㈫	2	津　田	地域ケアシステムにおける 看護マネジメント	社会資源の活用と多職種連携	看1
第３回	令和４年12月13日㈫	2	辻　村	地域ケア会議 事例に関する 看護マネジメント①	地域ケア会議 認知症を有する対象	看1
第４回	令和４年12月20日㈫	2	〃	災害と地域ケアシステム	災害と地域ケアシステム	看1
第５回	令和４年12月27日㈫	2	〃	感染症と地域ケアシステム	感染症と地域ケアシステム	看1
第６回	令和５年１月17日㈫	2	伊　藤	子育て世代への包括支援①	子育て世代包括支援センター、 児童相談所 他	看1
第７回	令和５年１月24日㈫	2	〃	子育て世代への包括支援②	ケース把握、支援目標と 多機関・多職種による支援体制、 アドボカシー	看1
第８回	令和５年１月31日㈫	2	辻村、津田	事例に関する 看護マネジメント②	高齢者の対象、グループワーク	看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義と演習を組み合わせて展開する。

7　評　価　方　法

最終レポート（60％）、平常点（小レポート、受講態度）（40％）

8　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp, 伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

9　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

疫　　学

1　担当教員名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）　　非常勤講師
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）　　本　多　智　佳

2　配当学年等

第２学年　前期　２単位

3　学修目標

1．疫学の基本となる概念や用語を正しく理解できる。
2．疫学における調査手法を理解し、調査結果までの一連のプロセスを正しく理解できる。
3．科学的な思考法を身につけ、疫学研究の知見の限界や課題について批判的に考えることができる。

4　授業概要

・疾病の罹患率をはじめ、健康に関する事象の頻度や分布、およびその要因について明らかにする手法を説明する。また、疫学が人々の生活や健康の維持・増進にどのような役割を果たすかについて理解を促す。保健・看護分野に直結する疫学の調査方法の基本を教授する。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
・コンピュータを用いた演習をおこないます。ExcelとWordの基本的な操作を習得して臨んでください。

5　授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月７日㈭	4	本　多	疫学の概念	疫学の歴史と概念	臨1
第２回	令和４年４月７日㈭	5	〃	集団の健康状態の把握①	疫学における基本的な用語	臨1
第３回	令和４年４月11日㈪	2	〃	集団の健康状態の把握②	疾病頻度に関する指標	MMC
第４回	令和４年４月18日㈪	2	〃	集団の健康状態の把握③	疾病リスクに関する指標	MMC
第５回	令和４年４月25日㈪	2	〃	集団の健康状態の把握④	疾病の原因と因果関係	MMC
第６回	令和４年５月16日㈪	2	伊　藤 田　渕	感染症の疫学の基礎１	疫学調査や感染性、感染経路など 感染症疫学の基本的な知識と実際	MMC
第７回	令和４年５月23日㈪	2	〃	感染症疫学の基礎２	積極的疫学調査と 感染経路の特定に関する演習	MMC
第８回	令和４年５月30日㈪	2	本　多	主要疾患の疫学②	疫学における様々な研究アプローチ	MMC
第９回	令和４年６月22日㈬	4	〃	疫学の研究方法①	スクリーニング	MMC
第10回	令和４年６月22日㈬	5	〃	グローバル時代の疫学	国内外における疫学研究の動向	MMC
第11回	令和４年７月13日㈬	4	〃	疫学の研究方法③	疫学研究手法の演習	MMC
第12回	令和４年７月13日㈬	5	〃	疫学の研究方法④	疫学研究手法の演習	MMC
第13回	令和４年７月25日㈪	2	〃	疫学研究手法の 演習成果の発表①	発表会	MMC
第14回	令和４年７月28日㈭	2	〃	疫学研究手法の 演習成果の発表②	発表会	MMC
第15回	令和４年７月28日㈭	3	〃	疫学と公衆衛生看護	新しい時代の疫学と公衆衛生看護	MMC
第16回	令和４年８月８日㈪	1	伊　藤	試　験（９：00～10：30）		看4
第17回	令和４年８月19日㈮	1	〃	再試験（９：00～10：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義とマルチメディアセンターでの演習、演習成果の発表会

7　評　価　方　法

３分の２の出席を最終評価の条件とする。
期末試験（70%）とミニレポート課題（30%）によって評価する。

8　テ　キ　ス　ト

大木秀一 著「基本からわかる 看護疫学入門 第３版」医歯薬出版株式会社

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。
e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　学生へのメッセージ

コンピューターを用いた演習内容はよく復習し、確実に技能を習得してください。

11　主担当教員の実務経験

保健師

保 健 統 計 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）　　非常勤講師
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）　　本　多　智　佳

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期前半　２単位

3 学 修 目 標

1．保健医療情報の取り扱いを理解し、説明できる。
2．保健統計指標の意味と意義を理解し、保健統計調査の結果を適切に解釈・説明できる。
3．基礎的な統計解析の方法を習得し、統計解析演習において実践できる。
4．統計解析の結果を適切に表し、説明できる。

4 授 業 概 要

科学的思考としての疫学とそれに基づいた保健統計の見方、研究に不可欠な統計処理・統計解析の方法、ならびに保健医療情報管理と活用の基礎について教授する。後半ではそれらの知識をもとにICT資源や環境を利用して、データを用いた統計解析の演習を通して根拠に基づいた看護実践を行うための基本的な能力を養う。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
・コンピュータを用いた演習をおこないます。ExcelとWordの基本的な操作を習得して臨んでください。

5 授 業 内 容

集団における健康現象の観察や統計処理の基礎となる統計学の主要概念、基礎理論、解析方法・結果の示し方について演習を交えて学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月７日㈮	3	伊藤、田渕	統計資料の見方１	人口動態統計	MMC
第２回	令和４年10月14日㈮	3	本多、田渕	統計資料の見方２	日本で行われる統計	MMC
第３回	令和４年10月14日㈮	4	〃	統計学の基礎１	尺度水準とデータの分類、記述統計	MMC
第４回	令和４年10月21日㈮	3	〃	統計学の基礎	記述統計と推測統計	MMC
第５回	令和４年10月21日㈮	4	〃	記述統計１	質的データと量的データ	MMC
第６回	令和４年10月28日㈮	3	伊藤、田渕	記述統計２	分布の特徴	MMC
第７回	令和４年10月28日㈮	4	本多、田渕	記述統計３	二変数の記述統計	MMC
第８回	令和４年11月11日㈮	3	伊藤、田渕	統計演習１	エクセルを使った統計： 自記式質問紙調査	MMC
第９回	令和４年11月11日㈮	4	〃	統計演習２	エクセルを使った統計： 自記式質問紙調査	MMC
第10回	令和４年11月18日㈮	3	本多、田渕	推測統計	単回帰や重回帰分析	MMC
第11回	令和４年11月18日㈮	4	〃	国際共同研究と保健統計	保健統計における国際的動向	MMC
第12回	令和４年11月25日㈮	3	〃	統計演習３	エクセルを使った統計： モックデータを用いた解析	MMC
第13回	令和４年11月25日㈮	4	〃	統計演習３	エクセルを使った統計： モックデータを用いた解析	MMC
第14回	令和４年12月２日㈮	3	〃	演習結果の共有と議論	ディスカッション	MMC
第15回	令和４年12月２日㈮	4	本　多	保健統計と公衆衛生看護	保健統計学の実践例	MMC
第16回	令和４年12月23日㈮	3	伊　藤	期末試験（12：50～14：10）		MMC
第17回	令和５年２月22日㈬	3	〃	再 試 験（13：30～15：00）		MMC

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義とマルチメディアセンターでの演習、適宜グループワークとプレゼンテーションを行う。

7　評　価　方　法

３分の２の出席を最終評価の条件とする。
期末試験（70％）とミニレポート（30％）課題によって評価する。
最終評価には、授業時の自発的な発言を加味する。

8　テ　キ　ス　ト

大木秀一 著「基本からわかる 看護統計学入門 第２版」医歯薬出版株式会社
「国民衛生の動向2022/2023」厚生労働統計協会（2022年８月発売）

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　学生へのメッセージ

コンピューターを用いた演習内容はよく復習し、確実に技能を習得してください。

11　主担当教員の実務経験

保健師

環 境 保 健 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　伊　藤　美樹子（公衆衛生看護学講座）　　非常勤講師
准 教 授　多　川　晴　美（看護臨床教育センター）　　井　上　剛　彦
助　　教　田　渕　紗也香（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期後半　１単位

3 学 修 目 標

・環境要因が健康に与える影響についての基本的知識を習得する。
・国連の持続可能な開発目標の枠組みとその背景を理解する。
・気候変動や自然災害のみならず、人々の社会的移動、抗生物質の不適切使用など、社会経済的な背景要因と深く関わる感染症（パンデミックを含む）の発生動向と、それへの対応について理解する。
・環境保全と集団保健行動について理解する。

4 授 業 概 要

地球環境問題ならびに生活環境が人間のみならず動物を含めた生態系へ与える影響、並びに人間の生活環境と健康との関係を俯瞰的に捉える視点と現状について教授する。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	教室
第１回	令和４年12月14日㈬	4	井　上	環境と健康：空気環境	看1
第２回	令和４年12月15日㈭	1	〃	環境と健康：温熱環境	看1
第３回	令和５年１月18日㈬	3	〃	感染症の発生動向	看1
第４回	令和５年１月18日㈬	4	〃	新興感染症のパンデミック発生時の対応	看1
第５回	令和５年１月20日㈮	3	伊　藤 田　渕	環境保健行動、環境保健教育	看1
第６回	令和５年１月27日㈮	3	多　川	廃棄物処理とリサイクル	看1
第７回	令和５年２月３日㈮	3	伊　藤 金　城 （看護部：感染管理認定看護師）	感染制御１：院内感染	看1
第８回	令和５年２月３日㈮	4	〃	感染制御２：災害時の感染対策	看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評 価 方 法

授業ごとのミニレポート（90%）によって評価する。
なお２/３以上の出席を評価の要件とし、最終評価には、授業への参加や発言（10%）を加味する。

8 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

9 主担当教員の実務経験

保健師

看護過程演習Ⅰ

1 担当教員名

教　　授　笠原聡子（基礎看護学講座）
准教授　玉木朋子（基礎看護学講座）
講　　師　山下　　敬（基礎看護学講座）

2 配当学年等

第２学年　前期　１単位

3 学修目標

1．看護過程による問題解決の意義を説明できる。
2．模擬事例から情報を収集し、整理することができる。
3．収集、整理した情報を科学的根拠に基づきアセスメントする方法を説明できる。
4．看護問題を明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。
5．看護目標を設定し、問題を達成するための看護計画を具体的に立案することができる。
6．看護計画の実施とその評価の必要性について理解することができる。

4 授業概要

対象者の健康上の問題や生活上のニーズを明らかにし、適切な援助を提供する方法論である看護過程を理解し、具体的な問題解決のプロセスを学習する。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれる。

＊この授業は、基礎看護学実習Ⅱの基盤となる科目である。

5 授業内容

授業では、事例と模擬カルテを用いて情報収集のポイントや具体的な看護問題の立案、評価、個別化の方法について講義、演習、課題、GW、発表会を通して学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月15日㈮	1	笠　原 玉　木	授業ガイダンス アセスメントの概念枠組み	ゴードンの機能的健康パターン 事例提示	看4
第２回	令和４年４月22日㈮	1	玉　木	情報収集と情報整理	情報の抽出と整理	
第３回	令和４年５月６日㈮	1	〃	情報整理・アセスメント	パターン別アセスメント①	看4
第４回	令和４年５月20日㈮	1	〃	情報整理・アセスメント	パターン別アセスメント②	看4
第５回	令和４年５月27日㈮	1	〃	情報整理・アセスメント	パターン別アセスメント③	看4
第６回	令和４年６月３日㈮	1	〃	情報整理・アセスメント	パターン別アセスメント④	看4
第７回	令和４年６月10日㈮	1	〃	情報整理・アセスメント	パターン別アセスメント⑤	看4
第８回	令和４年６月17日㈮	1	〃	関連図	情報の統合と看護問題の抽出、 グループワーク	看4
第９回	令和４年６月24日㈮	1	〃	関連図	関連図発表会（示説発表）	看4
第10回	令和４年７月１日㈮	1	〃	看護診断、期待される結果	問題の明確化と優先順位、 期待される結果と評価日の設定	看4
第11回	令和４年７月８日㈮	1	〃	計画立案	看護計画の具体的対策の立案について 個人ワーク	看4
第12回	令和４年７月15日㈮	1	〃	計画立案	看護計画グループワーク	看4
第13回	令和４年７月22日㈮	1	〃	計画立案	看護計画発表会、解説	看4
第14回	令和４年７月29日㈮	1	〃	実施・評価、看護計画の 個別化	看護の実施・評価についての講義と 看護計画の個別化の演習	看4
第15回	令和４年８月１日㈪	1	〃	看護理論と看護過程	看護理論の活用	看4
第16回	令和４年８月４日㈭	2	〃	試　験（11：00～12：30）		看4
第17回	令和４年８月18日㈭	1	〃	再試験（９：00～10：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義、演習（個人、グループ）、発表など。

7　評　価　方　法

グループワークへの貢献・成果物（20%）、課題（30%）、定期試験（50%）で評価する。全講義数の 3 分の 2 以上の出席を満たすことで評価の対象とする。

筆記試験は点数が 6 割に満たない場合には再試験の対象となる。再試験は 1 回のみ。

【注意】

この授業は、基礎看護学実習Ⅱの基盤となる科目であり、この科目の履修は基礎看護学実習Ⅱの事前判定における合格要件でもある。

8　テ　キ　ス　ト

松尾ミヨ子編：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学② ヘルスアセスメント. メディカ出版

リンダ J カルペニート：看護診断ハンドブック. 医学書院

9　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10　学生へのメッセージ

効果的なグループワークを行うために、事前に提示された課題は必ず各自で事前学習をして臨みましょう。　課題は、適宜提出を求めます。主体的・計画的な学習を期待しています。

11　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師

看護過程演習Ⅱ

1 担当教員名

教　　授　笠原聡子（基礎看護学講座）
准教授　玉木朋子（基礎看護学講座）
講　　師　山下　　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色摩茉衣子（基礎看護学講座）

2 配当学年等

第２学年　後期　１単位

3 学修目標

1．事例を通して、日常生活上の問題とその原因・誘因を見出すことができる。
2．対象者の健康にかかわる日常生活上の問題解決に向けた目標を立案できる。
3．対象者の持つ機能をいかした看護計画の立案ができる。
4．立案した看護計画の評価の視点が説明できる。

4 授業概要

看護実践において対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じて、さまざまな看護技術を統合・応用し、最善の看護を実践する意義と方法を学習する。

対象者に必要な看護介入方法を思考しながらシミュレーション演習を行い、実施後の評価と看護計画の修正までを行う。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれる。

5 授業内容

授業では、紙上事例を用いてアセスメントから具体的な看護介入方法の立案、実施、評価までを行う。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月３日(月)	1	笠原、玉木 山下、色摩	授業ガイダンス アセスメント	ゴードンの機能的健康パターン 人間発達理論、行動変容理論、ストレス・危機理論	看１
第２回	令和４年10月３日(月)	2	〃	アセスメント	事例提示 アセスメント（個人ワーク）	看１
第３回	令和４年10月17日(月)	1	〃	関連図	ガイダンス（関連図発表会） グループワークの進め方 関連図（個人ワーク）	看１
第４回	令和４年10月17日(月)	2	〃	関連図	関連図（グループワーク）	看１
第５回	令和４年10月24日(月)	1	〃	関連図	関連図の発表会（グループ発表）	看１
第６回	令和４年10月24日(月)	2	〃	情報の統合と 看護問題の明確化	看護問題の明確化（講義・グループワーク） 統合アセスメント（講義・グループワーク）	看１
第７回	令和４年11月７日(月)	1	〃	計画立案	ガイダンス（計画発表会、シミュレーション、 経過記録発表会など） 計画立案（個人ワーク）	看１
第８回	令和４年11月７日(月)	2	〃	計画立案	計画立案（グループワーク）	看１
第９回	令和４年11月14日(月)	1	〃	計画立案	看護計画の発表会（グループ発表）	看１
第10回	令和４年11月14日(月)	2	〃	計画立案	看護計画の発表会（グループ発表）	看１
第11回	令和４年11月21日(月)	1	〃	看護実践と評価	シミュレーション演習と発表会（グループ発表） * 前半グループ	看１ 看実
第12回	令和４年11月21日(月)	2	〃	看護実践と評価	シミュレーション演習と発表会（グループ発表） * 前半グループ	看１ 看実
第13回	令和４年11月28日(月)	1	〃	看護実践と評価	シミュレーション演習と発表会（グループ発表） * 後半グループ	看１ 看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第14回	令和４年11月28日㈪	2	笠原、玉木 山下、色摩	看護実践と評価	シミュレーション演習と発表会（グループ発表） * 後半グループ	看１ 看実
第15回	令和４年12月５日㈪	1	〃	経過記録と評価	ガイダンス（経過記録発表会） 経過記録（グループワーク）	看１
第16回	令和４年12月５日㈪	2	〃	経過記録と評価、 まとめ	経過記録の発表会（グループ発表） まとめ	看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、講義とシミュレーション演習によって行う。
学習の進度状況などに応じて内容および開講時間を変更する場合がある。
変更となった場合は掲示する。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
・授業への参加状況（５％）、グループワークへの貢献度（５％）
・課題（20％）、グループ発表（10％）
・最終レポート（60％）

＊全講義数の３分の２以上の出席を満たすことを評価の要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

・松尾ミヨ子編：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学② ヘルスアセスメント. メディカ出版
・リンダ J カルペニート：看護診断ハンドブック. 医学書院

9　参　考　文　献

授業の進行に応じて順次紹介する。

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11　学生へのメッセージ

本科目は今後の各領域実習につながる学習であるため、これまでに履修した全科目の学習を活用することとなります。また、本科目は連続した知識の積み重ねが必要であるため、欠席は原則認めません。やむなく欠席した場合は、その部分の自己学習を行い、グループ課題にも積極的に貢献した上で、次の授業に臨んでください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護技術演習Ⅲ

1　担　当　教　員　名

教　　授　笠　原　聡　子（基礎看護学講座）
准　教　授　玉　木　朋　子（基礎看護学講座）
講　　師　山　下　　敬（基礎看護学講座）
助　　教　色　摩　茉衣子（基礎看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期　１単位

3　学　修　目　標

1．基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱで学修した内容を踏まえ、診療の補助業務を行う上で必要な基本的知識を身につけることができる。（知識・理解）
2．対象の安全・安楽・自立（自律）を考慮した看護技術が実施できる。（技能）
3．対象の状態をアセスメントし、適切な援助について考えられる。（思考・判断・表現）
4．看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。（関心・意欲・態度）

4　授　業　概　要

・診療および治療に伴う看護技術として、対象への援助方法の目的・方法・留意事項を根拠とともに理解する。身体侵襲を伴う援助技術や医学的検査及び治療時の苦痛や不安をできるだけ軽減し、目的が達成され、治療の効果が最大限に発揮達成されるように支援する技術を習得する。

5　授　業　内　容

詳細は以下のとおり。
【追加事項】
・６月８日㈬４～５時限目は自主練習として実習室を開放する。
・７月27日（12：50～15：50）は基礎看護学実習Ⅱの事前説明を行う。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回			笠原、山下 玉木、色摩	ガイダンス 薬物療法の管理 教育指導技術	（オンデマンド） ・与薬の基本 ・指導の進め方 【課題】Webclassでの課題提出	
第２回	令和４年４月６日㈬	3	〃	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法（復習） ・吸引（口腔内・鼻腔内） 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第３回	令和４年４月６日㈬	4	〃	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法（復習） ・吸引（口腔内・鼻腔内）	看実
第４回	令和４年４月６日㈬	5	〃	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法（復習） ・吸引（口腔内・鼻腔内） 【課題】課題レポート	看実
第５回	令和４年４月13日㈬	3	〃	排泄を促す技術 （浣腸・座薬）	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、浣腸法の実際 ・座薬の投与 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第６回	令和４年４月13日㈬	4	〃	排泄を促す技術 （浣腸・座薬）	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、浣腸法の実際 ・座薬の投与	看実
第７回	令和４年４月13日㈬	5	〃	排泄を促す技術 （浣腸・座薬）	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、浣腸法の実際 ・座薬の投与 【課題】課題レポート	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年４月20日㈬	3	笠原、山下 玉木、色摩	排泄を促す技術 （床上排泄、陰部洗浄）	・排尿・排便の意義 ・床上排泄の援助、陰部洗浄 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第９回	令和４年４月20日㈬	4	〃	排泄を促す技術 （床上排泄、陰部洗浄）	・排尿・排便の意義 ・床上排泄の援助、陰部洗浄	看実
第10回	令和４年４月20日㈬	5	〃	排泄を促す技術 （床上排泄、陰部洗浄）	・排尿・排便の意義 ・床上排泄の援助、陰部洗浄 【課題】課題レポート	看実
第11回	令和４年４月27日㈬	3	〃	感染予防の技術 無菌操作	・無菌操作に必要な基礎知識、無菌操作の実際 ・ガウンテクニック 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第12回	令和４年４月27日㈬	4	〃	感染予防の技術 無菌操作	・無菌操作に必要な基礎知識、無菌操作の実際 ・ガウンテクニック	看実
第13回	令和４年４月27日㈬	5	〃	感染予防の技術 無菌操作	・無菌操作に必要な基礎知識、無菌操作の実際 ・ガウンテクニック 【課題】課題レポート	看実
第14回	令和４年５月11日㈬	3	〃	排泄を促す技術（導尿）	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第15回	令和４年５月11日㈬	4	〃	排泄を促す技術（導尿）	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識	看実
第16回	令和４年５月11日㈬	5	〃	排泄を促す技術（導尿）	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識 【課題】課題レポート	看実
第17回	令和４年５月18日㈬	3	笠原、山下 玉木、色摩 臨床教育看護師	検査時の看護（採血）	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第18回	令和４年５月18日㈬	4	〃	検査時の看護（採血）	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際	看実
第19回	令和４年５月18日㈬	5	〃	検査時の看護（採血）	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【課題】課題レポート	看実
第20回	令和４年５月25日㈬	3	〃	診療の補助技術	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第21回	令和４年５月25日㈬	4	〃	診療の補助技術	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際	看実
第22回	令和４年５月25日㈬	5	〃	診療の補助技術	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際 【課題】課題レポート	看実
第23回	令和４年６月１日㈬	3	〃	注射法	・筋肉注射 ・皮下注射 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第24回	令和４年６月１日㈬	4	〃	注射法	・筋肉注射 ・皮下注射	看実
第25回	令和４年６月１日㈬	5	〃	注射法	・筋肉注射 ・皮下注射 【課題】課題レポート	看実
第26回	令和４年６月８日㈬	3	笠原、山下 玉木、色摩	まとめ	技術のまとめ	看実
第27回	令和４年６月８日㈬	4	〃	実技試験練習日		看実
第28回	令和４年６月８日㈬	5	〃	実技試験練習日		看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第29回	令和４年６月15日㈬	3	〃	技術試験	技術試験（採血）	看実
第30回	令和４年６月15日㈬	4	〃	技術試験	技術試験（採血）	看実
第31回	令和４年６月15日㈬	5	〃	技術試験	技術試験（採血）	看実
第32回	令和４年６月29日㈬	3	〃	技術試験　補講		看実
第33回	令和４年６月29日㈬	4	〃	技術試験　補講		看実
第34回	令和４年６月29日㈬	5	〃	技術試験　補講		看実
第35回	令和４年７月６日㈬	3	〃	技術試験　再試験		看実
第36回	令和４年７月６日㈬	4	〃	技術試験　再試験		看実
第37回	令和４年７月６日㈬	5	〃	技術試験　再試験		看実
第38回	令和４年７月27日㈬	3	〃	基礎看護学実習Ⅱ 事前説明		看４
第39回	令和４年７月27日㈬	4	〃	基礎看護学実習Ⅱ 事前説明		看４

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は反転授業を主とし、講義・演習より構成、適宜グループワークなども行う。
授業に際しては関連項目に関する予習を課し、講義の中ではシミュレーター教材やWeb素材なども使用する。
演習時間を確保するために、座学での講義分はWebClassでの動画視聴（30～60分程度）を課すので、演習時には動画を確認してから臨むこと。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

また、７月27日（12：50～15：50）は基礎看護学実習Ⅱの事前説明を行う。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
定期試験（30％）、技術試験（30％）、演習レポート（20％）、講義・演習への参加状況（20％）

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、定期試験、技術試験それぞれに60％以上の評価を得ることを修得要件とする。60％未満の場合はそれぞれにおいて再試験を受験する。なお全講義数の３分の２以上の出席をもって筆記試験・技術試験の受験資格要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

ナーシンググラフィカ　基礎看護学③基礎看護技術：メディカ出版

9　参　考　文　献

医療情報科学研究所：看護技術がみえる　vol.２　臨床看護技術、メディックメディア
村中洋子ら：学ぶ・試す・調べる看護ケアの根拠と技術（第３版）、医歯薬出版株式会社

10　オフィスアワー（授業相談）

まずメールでアポイントを取ってください。

11　学生へのメッセージ

演習は体験することが重要です。体調を整えて欠席しないようにしてください。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

satoshi７@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学概論

1 担当教員名

教　　授　宮松直美（臨床看護学講座）
助　　教　川原瑞希（臨床看護学講座）
助　　手　清原麻衣子（臨床看護学講座）

非常勤講師
田中英夫（大阪府藤井寺保健所　所長）
岡村智教（慶応義塾大学　医学部　衛生学公衆衛生学教室　教授）
志摩　梓（株式会社平和堂　教育人事部　健康サポートセンター　次長）

2 配当学年等

第２学年　前期　２単位

3 学修目標

成人期の保健学的課題とそれに対する国の保健医療政策や個人の対処のあり方を、国内外の知見を踏まえて理解する。

4 授業概要

教育目的：
成人保健看護学で重要な成人期の発達課題や役割、疾病動向や人口静態・動態統計について学び、さらに健康段階に応じた看護実践能力の基礎を養う。

注意事項：
・２単位の科目の場合、講義時間と自習（予習・復習）を合わせて4050分（270分×15回）の学修が必要とされています。そのため成人保健看護学概論では１コマ（80分）の講義に加えて190分の自己学習（予習120分、復習70分）を目安とした課題を提示します。

・予習の内容は、各回、①事前配布資料を読むこと、②講義前に提示された課題について予習し講義内で回答できるよう準備することとします。

・復習の内容は、各回、①授業ノートと講義資料をもとに復習すること、②webclassに提示された課題（小テストを含む）を実施することとします。

5 授業内容

成人期および成人保健看護の特徴、成人期の健康障害の要因と健康管理、成人への指導・相談・援助のあり方、職域での健康管理などについて、講義、討論、演習を通じて学ぶ。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年６月10日㈮	4	宮　松	成人期にある人の理解①	成人期の特徴	看4
第２回	令和４年６月17日㈮	3	〃	成人期にある人の理解②	成人期の生活と健康観	看4
第３回	令和４年６月17日㈮	4	〃	成人期の健康障害①	人口統計	看4
第４回	令和４年６月24日㈮	3	〃	成人期の健康障害②	生活習慣に関連する健康障害：脳卒中・心疾患	看4
第５回	令和４年６月24日㈮	4	〃	成人期の健康障害③	生活習慣に関連する健康障害：高血圧	看4
第６回	令和４年７月１日㈮	3	〃	成人期の健康障害④	生活習慣に関連する健康障害：糖尿病	看4
第７回	令和４年７月１日㈮	4	田　中	成人期の健康障害⑤	生活習慣に関連する健康障害:悪性新生物(がん)	看4
第８回	令和４年７月８日㈮	3	岡　村	成人期の健康障害⑥	成人期の保健政策の動向と課題	看4
第９回	令和４年７月８日㈮	4	志　摩	成人期の健康障害⑦	職業・ストレスに関連する健康障害	看4
第10回	令和４年７月15日㈮	3	宮　松	成人期にある人への看護①	成人看護学の理論・モデル	看4
第11回	令和４年７月15日㈮	4	〃	成人期にある人への看護②	成人期の特徴と看護過程	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第12回	令和４年７月22日㈮	3	宮　松	成人期にある人への看護③	成人期にある人の自己管理行動支援	看4
第13回	令和４年７月22日㈮	4	川　原	成人期にある人への看護④	自己管理行動：減塩	看4
第14回	令和４年７月29日㈮	3	宮　松	成人期にある人への看護⑤	自己管理行動：禁煙	看4
第15回	令和４年７月29日㈮	4	宮松、川原 清原	成人看護学概論総括	成人看護学概論まとめ	看4
第16回	令和４年８月４日㈭	3	宮　松	試験 （13：30～15：00）		看4
第17回	令和４年８月18日㈭	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義
パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある

7　評　価　方　法

筆記試験（70％）およびレポート（20％）、演習（10％）の評価によって行う。
ただし、筆記試験60％以上の得点を修了の認定要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義資料は、各講義の開始前に配布します

9　参　考　文　献

参考図書
１）標準保健師講座　疫学・保険統計学　医学書院
２）国民衛生の動向2020/2021　厚生統計協会
３）成人看護学概論　大西和子・岡部聰子編集　ヌーヴェルヒロカワ
４）成人看護学原論　氏家幸子監修　廣川書店
５）明解看護学双書５　成人看護学　山崎智子監修　岡部聰子他編　金芳堂
６）成人看護学　小島操子他著　医学書院
７）ナーシング・グラフィカ22　成人看護学概論　メディカ出版

10　オフィスアワー（授業相談）

office hour：毎日12時～13時　509号室、516号室（看護学科棟５階）（教室全体で対応）

11　学生へのメッセージ

レポートの内容と提出期限は、講義で説明します。指定された提出期限内に、webclassから提出してください。

12　参考URL 1

http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/

13　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学各論

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子（臨床看護学講座）

非常勤講師
伊　波　早　苗（淡海医療センター　総括看護部長）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

１．ライフステージにおける発達課題を踏まえ、成人期の健康の概念について理解する。
２．成人保健看護学の様々な領域について、その対象者の特徴を理解し、援助に必要な基本的な知識と技術を習得する。

4　授　業　概　要

教育目的：
　成人保健看護学の各領域の特徴や対象、慢性期・急性期看護学総論について学び、さらに健康段階に応じた看護実践能力の基礎を養う。

注意事項：
・２単位の科目の場合、講義時間と自習（予習・復習）を合わせて4050分（270分×15回）の学修が必要とされています。そのため成人保健看護学各論では１コマ（80分）の講義に加えて190分の自己学習（予習120分、復習70分）を目安とした課題を提示します。

・予習の内容は、各回、①事前配布資料を読むこと、②講義前に提示された課題について予習し講義内で回答できるよう準備することとします。

・復習の内容は、各回、①授業ノートと講義資料をもとに復習すること、②webclassに提示された課題（小テストを含む）を実施することとします。

5　授　業　内　容

　成人期および成人保健看護の特徴、慢性期・急性期看護学総論、災害・救急場面での看護、周手術期看護の基本、終末期看護およびがん看護の基本等について、講義、討論、演習、レポート作成を通じて学ぶ。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	2	宮　松	成人看護学各論	成人看護学の様々な領域と対象	看４
第２回	令和４年10月13日㈭	1	伊　波	慢性期看護学	慢性期看護の対象となる人の特徴と看護活動	看４
第３回	令和４年10月13日㈭	2	〃	慢性期看護学	病みの軌跡	看４
第４回	令和４年10月20日㈭	1	宮松、服部	がん看護学	がん患者の特徴と主な治療法、看護の役割	看４
第５回	令和４年10月20日㈭	2	宮　松	がん看護学	がん患者としての体験	看４
第６回	令和４年10月27日㈭	2	〃	がん看護学	就労世代のがん療養	看４
第７回	令和４年11月10日㈭	2	〃	急性期看護学	急性期看護の対象となる人の特徴と看護活動	看４
第８回	令和４年11月17日㈭	2	宮　松	急性期看護学	周手術期看護（術前看護）	看４
第９回	令和４年11月24日㈭	2	宮　松（看護部）	急性期看護学	周手術期看護（術中看護）	看４
第10回	令和４年12月１日㈭	2	宮　松	急性期看護学	周手術期看護（術後看護）	看４
第11回	令和４年12月15日㈭	2	〃	救急看護	救命救急における看護判断の重要性と看護活動	看４
第12回	令和４年12月22日㈭	2	〃	災害看護	災害発生時の環境的特徴と看護活動	看４
第13回	令和５年１月５日㈭	2	宮松、川原清原	周手術期看護：演習	術前の準備と看護オリエンテーション	看実
第14回	令和５年１月12日㈭	2	〃	周手術期看護：演習	術後の患者の受け入れ準備と観察	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第15回	令和５年１月19日㈭	2	宮松、川原 清原	成人看護学各論総括	成人看護学各論まとめ	看４
第16回	令和５年２月９日㈭	2	宮　松	試験 （11：00～12：30）		看４
第17回	令和５年３月２日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習
パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある

7　評　価　方　法

筆記試験（70％）およびレポート（20％）、演習（10％）の評価によって行う。
ただし、筆記試験60％以上の得点を修了の認定要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義資料は、各講義の開始前に配布します

9　参　考　文　献

参考図書
１）慢性期看護論　鈴木志津江・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
２）急性期看護論　鈴木志津江・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
３）成人看護学原論　氏家幸子監修　廣川書店
４）明解看護学双書５　成人看護学　山崎智子監修　岡部聰子他編　金芳堂
５）成人看護学　小島操子他著　医学書院
６）周手術期看護　中村美知子監修　インターメディカ

10　オフィスアワー（授業相談）

office hour：毎日12時～13時　509号室、516号室（看護学科棟５階）（教室全体で対応）

11　学生へのメッセージ

・演習の日は白衣に着替え、看護棟３階312演習室へ集合して下さい。開始時間以降の入室は認めないことがあります。演習の持参物については、別途連絡しますので指示に従ってください。
・レポートの内容と提出期限は、講義で説明します。指定された提出期限内に、webclassから提出してください。

12　参考URL 1

http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/

13　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学概論

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）　　非常勤講師
特任助教　　金　丸　恭　子　（臨床看護学講座）　　秋　口　一　郎　（康生会武田病院　神経脳血管センター　所長
京都認知症総合センター　顧問・支援研究所　所長）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期後半　１単位

3　学　　修　　目　　標

人間の生涯における老年期についての理解を深める。学習目標は以下の４点である。
1．長い人生を歩んできた人としての高齢者の理解ができる。
2．高齢者の発達課題および成熟と衰退が理解できる。
3．加齢に伴う心身の変化とそれが日常生活に及ぼす影響が理解できる。
4．高齢者看護学の基盤となる理論が理解できる。

4　授　　業　　概　　要

講義や疑似体験、グループデスカッションを通して、高齢者の身体面、心理・精神面、社会的側面を考える。また、学習目標に応じたレポート課題が提示される。講義を聞き、自身で調べる過程を通して、知識・考えを広め、さらにレポートを作成する過程で考えを深め、高齢者への理解を深めて行くことが求められる。

準備学修等に必要な時間の目安：本科目は2025分の学修が必要です。１コマの授業に対して、60分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり50分以上の復習が望まれます。
講義後に、講義の感想および疑問点についてWeb Classからコメントすることが求められます。講義での学びを自身で思考する機会やアウトプットすることによる知識の定着を図ることを狙いとしています。また、Web Class上に確認問題を挙げます。確認問題は何度でも行うことができますので、復習に活用してください。

5　授　　業　　内　　容

講義・討議・演習・レポート課題を通じて学びを深める。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年６月８日㈬	1	荻　田	高齢者の ライフステージ	高齢者の生きてきた時代	看４
第２回	令和４年６月15日㈬	1	金丸、荻田	高齢者体験演習	高齢者疑似体験装具を装着し日常生活を体験 視聴覚教材を用いて高齢者の在宅での生活について思考	看実 看４
第３回	令和４年６月15日㈬	2	〃	高齢者体験演習	高齢者疑似体験装具を装着し日常生活を体験 視聴覚教材を用いて高齢者の在宅での生活について思考	看実 看４
第４回	令和４年６月21日㈫	2	秋　口	加齢と老化 加齢に伴う 身体的変化 高齢者に多い疾患	エイジングと老化・生理的老化と病的老化 人間の身体のしくみと加齢による変化 老年症候群（歩行障害・転倒・認知障害など）	看４
第５回	令和４年６月29日㈬	1	金丸、荻田	老年期の人々を取り巻く環境	高齢社会の統計的輪郭	看４
第６回	令和４年７月13日㈬	1	荻　田	老年期の理解 老年看護学とは	老年期の定義・老年期の発達課題 老年看護の成り立ちと役割 老年看護を支える看護理論	看４
第７回	令和４年７月20日㈬	1	〃	高齢者に対する アセスメント	身体の加齢変化とアセスメント 高齢者の日常生活動作と環境のアセスメント 対象理解に活用できる指標とツール	看４
第８回	令和４年７月27日㈬	1	〃	高齢者に対する アセスメント	身体の加齢変化とアセスメント 高齢者の日常生活動作と環境のアセスメント 対象理解に活用できる指標とツール	看４

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第９回	令和４年８月３日㈬	2	荻　田	試験 （11：00～12：30）		看４
第10回	令和４年８月16日㈫	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

・講義は対面とZoomを用いたリアルタイム配信のハイブリット型とする。講義形式を基本とし、適宜、受講生に意見や質問を求める。また、必要時小グループおよび全体での討論形式を用いる。
・演習は対面型のみ。

7　評　価　方　法

・総授業時間の３分の１を超えて欠席した場合は、本試験を受験することはできない。各講義のリフレクションシートの提出をもって、その講義に出席したものとみなす。
・本試験70％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）30%で評価を行う。本試験は100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。レポート課題は授業内で提示する。ただし、新型コロナ感染拡大予防の観点より定期試験が行われない場合は、Web Class による小テスト30％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）70％にて評価を行う。なお、課題の提出はすべてWeb Class からとする。期日をよく確認して進めること。

8　テ　キ　ス　ト

授業でその日の資料を配布する

9　参　考　文　献

・老年看護学概論・老年保健（メヂカルフレンド社）
・厚生の指標「国民衛生の動向」（厚生統計協会）
・健康長寿診療ハンドブック（老年医学会編集／発刊）その他、講義中に随時紹介

10　学生へのメッセージ

・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等は変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール（tan3434@belle.shiga-med.ac.jp）にてコンタクトを取るようにしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。

・我が国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入しています。新聞やニュースでは高齢者に関する話題が頻繁に報道され、公共の中で高齢者に出会わない日はないと思います。日頃から高齢者の生活に関心を向け、我が国の高齢者が抱える問題について考えてみましょう。

11　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学各論

1　担　当　教　員　名

准　教　授　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
助　　教　片　寄　　亮　（臨床看護学講座）

非常勤講師
徳　川　早知子　（臨床看護学講座　客員教授）
荒　井　秀　典　（国立長寿医療研究センター　理事長）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期前半　１単位

3　学　修　目　標

人間の生涯における老年期の人々を取り巻く環境や健康問題についての理解を深める。学習目標は以下の４点である。

1．我が国及び諸外国の保健・医療・福祉政策や制度の変遷や課題を理解し、将来が展望できる。
2．高齢者に対する倫理的問題を概観し、問題点や課題について自身の考えを述べることができる。
3．高齢者の健康課題や健康レベル別看護の視点を理解することができる。
4．加齢およびフレイル予防の考え方について理解できる。

4　授　業　概　要

1．身近な高齢者との交流を通して、高齢者を取り巻く環境や考え方、健康状態などについて学習する。
2．講義やグループデスカッションを通して、高齢者の諸問題について考える。
3．最近の研究動向を交え、加齢およびフレイル予防の考え方を学ぶ。

準備学修等に必要な時間目安：本科目は2025分の学修が必要です。１コマの授業に対して、60分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり50分以上の復習が望まれます。

講義後に、講義の感想および疑問点についてWeb Classからコメントすることが求められます。講義での学びを自身で思考する機会やアウトプットすることによる知識の定着を図ることを狙いとしています。また、Web Class上に確認問題を挙げます。確認問題は何度でも行うことができますので、復習に活用してください。

5　授　業　内　容

講義・討議・レポート課題を通じて学びを深める。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年11月10日㈭	1	荻　田	高齢者の健康問題	経過別にみた老年看護	看1
第２回	令和４年11月17日㈭	1	〃	老年期の人々を取り巻く社会制度	高齢社会における保健医療福祉の動向	看1
第３回	令和４年11月24日㈭	1	〃	高齢者の倫理的課題(1)	高齢社会における権利擁護	看1
第４回	令和４年12月１日㈭	1	〃	高齢者の倫理的課題(2)	臨床現場で生じる倫理的問題 -身体拘束事例を通してケアの質と安全について思考する-	看1
第５回	令和４年12月８日㈭	2	荻田、徳川	老いと死 尊厳ある看取り	エンド・オブ・ライフ エンド・オブ・デス	看1
第６回	令和５年１月６日㈮	4	荒　井	フレイルに関する研究動向(1)	フレイルの概念 フレイルの診断と予防 フレイルに関する最新の知見	看1
第７回	令和５年１月６日㈮	5	〃	フレイルに関する研究動向(2)	フレイルの概念 フレイルの診断と予防 フレイルに関する最新の知見	看1
第８回	令和５年１月12日㈭	1	荻　田	高齢者観の共有	高齢者へのインタビュー内容のグループ共有 （グループワークと発表会）	看1
第９回	令和５年２月９日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		看1
第10回	令和５年２月27日㈪	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

・講義は対面とZoomを用いたリアルタイム配信のハイブリット型とする。講義形式を基本とし、適宜、受講生に意見や質問を求める。また、必要時小グループおよび全体での討論形式を用いる。

7　評　価　方　法

・総授業時間の３分の１を超えて欠席した場合は、本試験を受験することはできない。各講義のリフレクションシートの提出をもって、その講義に出席したものとみなす。
・本試験70％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）30%で評価を行う。本試験は100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。レポート課題は授業内で提示する。ただし、新型コロナ感染拡大予防の観点より定期試験が行われない場合は、Web Class による小テスト30％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）70％にて評価を行う。なお、課題の提出はすべてWeb Class からとする。期日をよく確認して進めること。

8　テ　キ　ス　ト

授業でその日の資料を配布する

9　参　考　文　献

・老年看護学概論・老年保健（メヂカルフレンド社）
・厚生の指標「国民衛生の動向」（厚生統計協会）
・健康長寿診療ハンドブック（老年医学会編集／発刊）
その他、講義中に随時紹介

10　学生へのメッセージ

・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等は変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール（tan3434@belle.shiga-med.ac.jp）にてコンタクトを取るようにしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。

・我が国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入しています。新聞やニュースでは高齢者に関する話題が頻繁に報道され、公共の中で高齢者に出会わない日はないと思います。日頃から高齢者の生活に関心を向け、我が国の高齢者が抱える問題について考えてみましょう。

11　主担当教員の実務経験

看護師

小児保健看護学概論

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美　（臨床看護学講座）
講師(学内)　白　坂　真　紀　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期後半　１単位

3　学　修　目　標

子どもの健やかな発育には環境の影響は大きく、その国の政策や文化にも左右される。平和な日本において、子どもが健康に発育する環境としては理想的ではあるが、現代の社会や家族の状況は常に変化し、子どもや家族が様々な悩むや不安を抱えることがあるため、小児看護が果たす役割は大きい。子どもがどのように成熟過程を歩むのか、小児看護の対象である子どもについて理解を深める必要がある。

小児の発達課題や心理社会的発達の特徴を踏まえ、小児期それぞれのライフステージにおける身体的成長及び発達と看護、さらに小児期における親子関係についても習得する。

4　授　業　概　要

子どもは未来を担う存在である。少子高齢社会に伴い、政治、経済、文化、医療など、小児を取り巻く環境は急激に変化しており、子どもを育てる家族の悩みはつきない。小児看護は子どもと家族を中心とする看護である。現代の子どもと家族の特徴を捉えながら、小児看護の理念、役割を理解し、発達段階別の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学ぶ。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行いましょう。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用してください。

5　授　業　内　容

子どもへの関わり方を含め、できるだけ具体的な事例を提示して講義する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年５月16日(月)	3	桑　田	小児看護の特徴と理念	小児看護の目ざすところ 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷 小児看護における倫理 小児看護の課題	看4
第２回	令和４年５月30日(月)	3	〃	小児の成長と発達	成長・発達とは 成長・発達の進み方 成長・発達に影響する因子 成長の評価 発達の評価	看4
第３回	令和４年６月６日(月)	3	〃	子どもと家族	子どもにとっての家族 家族アセスメント	看4
第４回	令和４年６月13日(月)	3	桑　田 白　坂	子どもと家族	子育ての現状 子育てにまつわる問題	看4
第５回	令和４年６月27日(月)	3	〃	新生児・乳児	新生児・乳児の形態的・身体生理の特徴 新生児・乳児の養育及び看護	看4
第６回	令和４年７月４日(月)	3	〃	幼児	形態的特徴 身体生理の特徴 感覚・運動・知的機能 コミュニケーション機能 情緒・社会的機能 幼児の養育及び看護	看4
第７回	令和４年７月11日(月)	3	〃	学童	形態的特徴 身体生理の特徴 感覚・運動・知的・情緒機能 社会的機能 学童を取り巻く環境 学童の養育及び看護	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年７月25日㈪	3	桑　田 白　坂	思春期・青年期	形態的特徴 身体生理の特徴 知的・情緒・社会的機能 生活の特徴・社会的問題 性に関する健康問題 思春期の看護	看4
第９回	令和４年８月８日㈪	2	桑　田	試　験（11：00～12：30）		看4
第10回	令和４年８月19日㈮	2	〃	再試験（11：00～12：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義・演習
毎回の授業で、ミニテストを行う。
パワーポイント、DVD教材など使用

7　評　価　方　法

最終的に筆記試験を行い、６割以上の得点で合格とする。
定期試験（85％）、平常点（ミニテスト、受講態度）（15％）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児看護学総論　医学書院

9　テキストISBN番号

978-４-260-02002-２

10　参考文献

小児看護学　オーム社

11　オフィスアワー（授業相談）

メールで主担当教員にアポイントをとってください。

12　学生へのメッセージ

理解を深めてもらうため、資料も配布しますが、教科書を毎回必ずお持ちください。

13　参考URL 1

http://sums-hqkodomo.sakura.ne.jp/

14　授業用E-mail

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

15　参考E-mail 1

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

16　主担当教員の実務経験

看護師

小児保健看護学各論

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美　（臨床看護学講座）
講師(学内)　白　坂　真　紀　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期前半　１単位

3　学　修　目　標

子どもの健やかな発育には環境の影響は大きく、その国の政策や文化にも左右される。平和な日本において、子どもが健康に発育する環境としては理想的ではあるが、現代の社会や家族の状況は常に変化し、子どもや家族が様々な悩むや不安を抱えることがあるため、小児看護が果たす役割は大きい。

小児保健看護学概論で習得した小児期それぞれの特徴を踏まえ、子どもの栄養、子どもの遊びや学習の必要性、子どもの環境やその課題について習得する。

4　授　業　概　要

子どもは未来を担う存在である。少子高齢社会に伴い、政治、経済、文化、医療など、小児を取り巻く環境は急激に変化しており、子どもを育てる家族の悩みはつきない。子どもの育ちに必要な環境を整えるために必要な事や子どもをめぐる問題について学ぶ。
各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用してください。

5　授　業　内　容

子どもへの関わり方を含め、できるだけ具体的な事例を提示して講義する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年10月４日㈫	4	桑　田	小児の栄養	子どもにとっての栄養の意義 発達段階別の子どもの栄養と特徴	看1
第２回	令和４年10月11日㈫	4	桑田、白坂	子どもの遊びの特徴	子どもの遊びにみる成長・発達 大人の役割	看1
第３回	令和４年10月18日㈫	4	桑　田	子どもと家族を 取り巻く社会	児童福祉 母子保健 医療費の支援 学校保健 特別支援教育	看1
第４回	令和４年10月25日㈫	4	〃	子どもの虐待と看護	子どもの虐待とは 求められるケア	看1
第５回	令和４年11月１日㈫	4	〃	小児看護に 用いられる理論	セルフケア理論 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 親子関係論	看1
第６回	令和４年11月８日㈫	4	桑田、白坂	子どもの遊び１	生活制限がある子どもの遊び１	看1
第７回	令和４年11月15日㈫	4	〃	子どもの遊び２	生活制限がある子どもの遊び２	看1
第８回	令和４年11月22日㈫	4	〃	子どもの遊び３	生活制限がある子どもの遊び３	看1
第９回	令和５年２月14日㈫	2	桑　田	試験 （11：00～12：30）		看4
第10回	令和５年２月28日㈫	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義・演習
毎回の授業で、ミニテストを行う。
パワーポイント、DVD教材など使用

7　評　価　方　法

最終的に筆記試験を行い、６割以上の得点で合格とする。
定期試験（85％）
平常点（ミニテスト、受講態度）（15％）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論

9　テキストISBN番号

978-４-260-02002-２

10　参考文献

小児看護学　オーム社

11　オフィスアワー（授業相談）

メールで主担当教員までアポイントを取ってください。

12　学生へのメッセージ

理解を深めるために資料も配布しますが、教科書を必ず持参してください。

13　参考URL 1

http://sums-hqkodomo.sakura.ne.jp/

14　授業用E-mail

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

15　参考E-mail 1

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

16　主担当教員の実務経験

看護師

ウィメンズヘルス学

1　担　当　教　員　名

教　　授　立　岡　弓　子（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期前半　１単位

3　学　修　目　標

女性の生涯における健康についての理解を深める
①女性の健康を生涯発達として理解する概念について理解できる
②女性のヘルスケアの概念とヘルスプロモーションの考え方が理解できる
③女性に関する性差・ライフサイクルの視点からみた健康課題が理解できる
④女性に関連する生命倫理について理解できる
⑤女性の健康に関連する法律について理解できる

4　授　業　概　要

＜教育目的＞
①女性を取り巻く環境と性差に関する影響について、歴史的変遷から学習する
②女性の健康について、身体的・精神的・社会的視点から包括的に学習する
③女性の生涯発達における健康障害について、性差をふまえた視点から学習する
④女性の自己決定とリプロダクティブヘルス／ライツについて、国際的視野をふまえて学習する
⑤ライフサイクル各期にある女性への社会的支援と看護の役割について学習する
＜準備学修＞
準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと（講義回数：８回×30分程度）、また講義後自己にて復習しておいてください（講義回数：８回×60分程度）。

5　授　業　内　容

女性の健康の概念をもとに、ライフサイクル各期にある健康問題を性差の視点から理解でき、女性を取り巻く環境や社会的施策について教授する

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	5	立　岡	女性と健康	女性の健康の概念と生涯発達 リプロダクティブヘルス／ ライツとヘルスプロモーション プレコンセプションケア	看4
第２回	令和４年４月19日㈫	5	〃	女性と生命倫理	女性と妊孕 出産を取り巻く医療と倫理	看4
第３回	令和４年４月26日㈫	5	〃	女性と社会	就労 経済 教育 薬物	看4
第４回	令和４年５月10日㈫	5	〃	女性と栄養	やせと肥満 ドハード説 葉酸摂取と胎児奇形 栄養素と妊孕への影響	看4
第５回	令和４年５月17日㈫	5	〃	女性への暴力	身体的・精神的・経済的暴力 性暴力 暴力の女性の自尊心への影響 暴力とメンタルヘルス	看4
第６回	令和４年５月24日㈫	5	〃	思春期女性と健康	思春期女性の性周期 性に関する健康問題 メンタルヘルス	看4
第７回	令和４年５月31日㈫	5	〃	性成熟期女性と健康	性成熟期女性の性周期 性に関する健康問題	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年６月７日㈫	5	立　岡	更年期・ 老年期女性と健康	低エストロゲンと健康課題 メンタルヘルス	看4
第９回	令和４年８月２日㈫	2	〃	試　験 （11：00～12：30）		看4
第10回	令和４年８月15日㈪	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式
アクティブラーニングを取り入れたり、画像や動画を活用する

7　評　価　方　法

講義時間数の２/３以上の出席をもって定期試験の受験資格を得ることができます。

定期試験（85％）、小テスト・受講態度（15％）により総合的に評価する。

8　テ　キ　ス　ト

立岡弓子編著；女性の健康と看護，サイオ出版，2017.

9　テキストISBN番号

978-４-907176-49-５

10　オフィスアワー（授業相談）

開講時期の火曜日の講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbosei@belle,shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

11　学生へのメッセージ

女性を取り巻く環境や社会問題、健康問題について、潜在的な性差から理解できると、看護の役割がさらに明確化してくる、ウイメンズヘルス学がいよいよ始まります。新カリで新しくなった講義です。
一緒にウイメンズヘルスについて考えていきましょう！

12　授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院　産科単科病院　産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

母 性 看 護 学 概 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期後半　１単位

3 学 修 目 標

① 母性、父性、親性を認識し、自己の概念を発達させる
② 母性看護学の概念と機能について理解する
③ 母性を取り巻く社会の現状と家庭を理解し、母性看護学の意義について理解する
④ 母性看護の場とその特徴について理解する
⑤ 母性看護学に活用する理論と概念、倫理
⑥ 母子関係における家族の機能と変化　家族発達
⑦ 母子保健に関わる法律と統計
⑧ 母子保健施策とその課題

4 授 業 概 要

母性看護の対象の特性を理解し、身体的、精神的、社会的、経済的に統合された存在として理解でき、その対象が健康な生活を送るために必要な看護職としての役割について、学問的、実践的、倫理的に理解できることを目的とする。
また、併せて女性とその家族の性と生殖の機能を理解し、健康な生殖機能を維持できる看護実践について教授する。

＜準備学修＞
準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと（講義回数：８回×30分程度）、また講義後自己にて復習しておいてください（講義回数：８回×60分程度）。

5 授 業 内 容

母性の概念と母性看護の対象の概念の理解を統合し、子産み子育て世代を中心とした家族への看護に必要な理論や法律、施策について、広く教授した内容とする

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年６月14日㈫	5	立　岡	母性とは 母性とその役割機能 母性看護学の概念	母性の定義、父性、親性の自己概念 母性概念の変遷 親役割の獲得（母親役割、父親役割）	看4
第２回	令和４年６月21日㈫	5	立　岡 喜　多	妊孕と 生殖補助医療の実際 妊孕と生殖の倫理	妊孕とは がん妊孕とリプロダクティブライツ 生殖補助医療と看護 女性の妊孕・男性の妊孕の性科学	看4
第３回	令和４年６月28日㈫	5	立　岡	母性看護の 活躍の場と特徴	母性看護、周産期の医療体制	看4
第４回	令和４年７月５日㈫	5	〃	母性看護における 主要な理論と概念	母性論 ウエルネス理論 オレム理論 親子の結びつき理論 親子相互作用モデル	看4
第５回	令和４年７月12日㈫	5	〃	母子と家族の発達	家族の機能 母子関係と家族機能の変化 父子関係と家族機能の変化	看4
第６回	令和４年７月19日㈫	5	〃	母性と社会	少子化と家族形態 貧困　　特定妊婦の実際 マタニティハラスメント	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第７回	令和４年７月26日㈫	5	立　岡	母性看護における グリーフケアとは	グリーフとは 母性看護でのグリーフの実際 子どもをもてない女性の心理と看護	看4
第８回	令和４年８月１日㈪	2	〃	周産期 メンタルヘルス	周産期うつとは 出産後女性のホルモン動態とメンタルヘルス 産後ケアと切れ目ない支援体制	看4
第９回	令和４年８月２日㈫	3	〃	試験 （13：30～15：00）		看4
第10回	令和４年８月15日㈪	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式
画像、動画を使用して、よりリアルな講義内容とする

7　評　価　方　法

講義時間数の２/３以上の出席をもって定期試験の受験資格を得ることができます。

定期試験（85％）、小テスト・受講態度（15％）により総合的に評価する。

8　テ　キ　ス　ト

立岡弓子編著；女性の健康と看護，サイオ出版，2017.

9　テキストISBN番号

978-４-907176-49-５

10　オフィスアワー（授業相談）

開講時期の火曜日の講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbosei@belle,shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

11　学生へのメッセージ

母子保健をめぐる状況は、刻一刻と目まぐるしく変化します。テキストに掲載されていない最新の情報について、リアルタイムに講義資料にて提示していきます。
きっと、講義資料が国家試験に役立つものとなります！

12　授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院　産科単科病院　産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

母 性 看 護 学 演 習

1 担 当 教 員 名

講　　師　土 川　　祥（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
助　　教　舘 下 麻 美（臨床看護学講座）
助　　教　宮 武 美 佳（臨床看護学講座）
特任助手　大 江 良 子（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期　２単位

3 学 修 目 標

周産期にある女性への母性看護の役割について理解する。

妊娠・分娩・産褥期の女性と新生児の生理的変化・心理的変化や、それを取り巻く家族や環境の特徴を学び、この時期の健康問題を評価する知識と具体的援助技術を習得する。

①妊娠・分娩・産褥期の女性と新生児の生理的変化、心理的変化、社会的変化や看護ケアについて理解する。
②妊娠・産褥期の女性と新生児について情報を系統的整理し、対象の全体像を把握することができる。
③妊娠・産褥期の女性と新生児についてウェルネス看護診断を行い、看護計画を立案することができる。
④産褥期の女性と新生児を対象とした保健指導案を作成することができる。
⑤妊娠・分娩・産褥期の女性と新生児に対する具体的援助技術について実施することができる。
⑥グループワークにおいて積極的に参加し、学生間でコミュニケーションを取りながら、プレゼンテーションを行うことができる。

4 授 業 概 要

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における生理的経過、心理社会的変化、および看護について教授する。
事例検討、ロールプレイ、技術演習を通して周産期に必要な援助技術を教授する。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）

・各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと、また講義後自己にて復習すること。（講義回数：15回×45分程度）
・技術演習１回目はwebclass上での学修予定であり、学修後、webclassで小テストを実施する。
・技術演習２回目においては演習内容の事前学習をしてから臨むこと。（事前学習：60分程度）
・妊娠期事例のアセスメント、関連図は個人ワークを行い、10/26に提出すること。（45分程度）
・産褥期･新生児期事例のアセスメント、関連図、看護計画立案のグループワークは事前に個人ワークを行ったのち、その後グループで事例の関連図と看護計画の発表を対面にて行う。（グループワークに関する教室外学修時間目安：事前ワークを含め450分程度）
・２人一組で保健指導案を作成し、提出する。（グループワークに関する教室外学修時間目安：90分程度）

5 授 業 内 容

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の特徴と看護についての講義を行う。また講義を踏まえて、妊娠期・産褥期・新生児期の事例演習、妊産褥婦・新生児に対する看護技術演習を行う。

アクティブラーニングを取り入れた能動的学修を行う。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月５日㈬	2	立　岡	周産期とは 妊娠期～分娩期にある 対象の理解	周産期における対象の特徴 オレム理論とウエルネス理論 妊婦、産婦の心理・社会的特性と 看護の役割	看１
第２回	令和４年10月５日㈬	3	土　川	妊娠期の看護	妊娠期の母体の変化と胎児発育 妊娠期の必要な検査 妊娠期事例提示	看１
第３回	令和４年10月５日㈬	4	〃	妊娠期の看護	マイナートラブルへの看護 妊娠期の健康維持のための看護	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第４回	令和４年10月12日㈬	2	喜　多	ハイリスク妊娠の病態	多胎妊娠 妊娠高血圧症候群 前置胎盤 常位	看１
第５回	令和４年10月12日㈬	3	土　川	ハイリスク妊娠の看護	異所性妊娠、妊娠維持期間・妊娠に伴う異常、多胎妊娠、合併症を有する妊婦、妊娠期の感染症、羊水量の異常、胎児機能不全の看護	看１
第６回	令和４年10月12日㈬	4	〃	ハイリスク妊娠の看護	特定妊婦、不妊治療後の妊婦への看護ケア 在留外国人や災害時の母子支援 妊娠期のアセスメント・関連図の思考過程	看１
第７回	令和４年10月19日㈬	2	立　岡	分娩期の看護	分娩の生理 分娩の三要素	看１
第８回	令和４年10月19日㈬	3	〃	分娩期の看護	分娩経過とアセスメント	看１
第９回	令和４年10月26日㈬	2	〃	産褥期の看護	産褥期の身体的・心理的変化とケア 母子関係 父子関係 家族の機能	看１
第10回	令和４年10月26日㈬	3	舘　下	帝王切開と看護	帝王切開術の適応と産婦の理解 術前、術中、術後の管理 母子関係への理解	看１
第11回	令和４年10月26日㈬	4	立　岡	産褥期の看護	乳房の変化とケア	看１
第12回	令和４年11月２日㈬	2	宮　武	新生児の看護	新生児の生理とケア	看１
第13回	令和４年11月２日㈬	3	土　川	新生児の看護	新生児の異常とケア	看１
第14回	令和４年11月２日㈬	4	〃	早産・低出生体重児・先天異常児への看護	早産児と低出生体重児の生理的特徴と看護 先天異常児の生理的特徴と看護	看１
第15回	令和４年11月９日㈬	3	舘　下	妊娠期・産褥期・新生児期の看護	妊娠期事例のアセスメント解説 産褥期・新生児期事例のアセスメントの視点・記録の書き方 グループワークの進め方	看１
第16回	令和４年11月９日㈬	4	土　川	技術演習webclass 経腟分娩における看護ケア	産痛緩和と陣痛促進ケア 小テスト	看１
第17回	令和４年11月16日㈬	2	土川、舘下 宮武、大江 附属病院助産師	技術演習 新生児期	沐浴 待機時間は出産準備教育の動画視聴、グループワーク課題実施	看実
第18回	令和４年11月16日㈬	3	〃	技術演習 新生児期	沐浴 待機時間は出産準備教育の動画視聴、グループワーク課題実施	看実
第19回	令和４年11月16日㈬	4	土川、舘下 宮武、大江 附属病院助産師 TA（護法、中野他）	技術演習 新生児期	沐浴 待機時間は出産準備教育の動画視聴、グループワーク課題実施	看実
第20回	令和４年11月30日㈬	3	土川、舘下 宮武、大江	産褥期・新生児期の事例	グループワーク （アセスメント、関連図作成）	看１
第21回	令和４年11月30日㈬	4	〃	産褥期・新生児期の事例	グループワーク （アセスメント、関連図作成）	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第22回	令和４年12月７日㈬	3	土川、舘下 宮武、大江	産褥期新生児期の事例	グループワーク （統合アセスメント、看護診断、 看護計画）	看１
第23回	令和４年12月７日㈬	4	〃	産褥期新生児期の事例	グループワーク （統合アセスメント、看護診断、 看護計画）	看１
第24回	令和４年12月14日㈬	2	宮　武	産褥期・新生児期の事例	保健指導とは ２人組で保健指導案作成	看１
第25回	令和４年12月14日㈬	3	土川、舘下 宮武、大江	産褥期・新生児期の事例	事例発表準備	看１
第26回	令和４年12月21日㈬	3	〃	産褥期・新生児期の事例	事例発表 プレゼンテーションは学生間でも 評価を行う	看１
第27回	令和４年12月21日㈬	4	〃	産褥期・新生児期の事例	事例発表 プレゼンテーションは学生間でも 評価を行う	看１
第28回	令和５年１月11日㈬	2	土川、喜多 舘下、宮武 大江 附属病院助産師	技術演習 妊娠期・産褥期・ 新生児期のケア	レオポルド触診法、 胎児心拍モニタリングの実際・判読 子宮復古の観察、母乳支援 新生児の観察	看実
第29回	令和５年１月11日㈬	3	〃	技術演習 妊娠期・産褥期・ 新生児期のケア	レオポルド触診法、 胎児心拍モニタリングの実際・判読 子宮復古の観察、母乳支援 新生児の観察	看実
第30回	令和５年１月11日㈬	4	〃	技術演習 妊娠期・産褥期・ 新生児期のケア	レオポルド触診法、 胎児心拍モニタリングの実際・判読 子宮復古の観察、母乳支援 新生児の観察	看実
第31回	令和５年２月15日㈬	1	土　川	試　験 （９：00～10：30）		看４
第32回	令和５年３月１日㈬	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		看４

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式、演習形式、グループワークと発表の形式を取る。
アクティブラーニングを取り入れた能動的学修を行う。
スライド、DVD、模型など適宜使用する。

7　評　価　方　法

定期試験60％、事例の看護展開・保健指導案作成のグループワーク・プレゼンテーション20％、技術演習態度10％、提出物10％により評価する。

・学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
・グループワークのまとめを発表資料として提出してもらう。
・グループワーク・プレゼンテーションに関する評価として教員による評価と学生相互評価を行う。
・無断欠席－５点、不適切な行為（不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など）－５点とする。
・単位修得の条件として、定期試験で60％以上をとる必要がある。再試験は１回限りとする。
・なお全講義数の３分の２以上の出席をもって筆記試験の受験資格要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

小林康江他編：母性看護の実践．メディカ出版，2022.
立岡弓子編著：新訂版　周産期ケア・マニュアル第３版．サイオ出版，2020.
立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック．サイオ出版，2022.

9　参　考　文　献

有森直子編：母性看護学Ⅱ周産期各論第２版．医歯薬出版，2020.
太田操編：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第３版．医歯薬出版，2020.
立岡弓子著：乳房ケアのエビデンス．日総研出版，2013.
東野妙子他編：ナーシングポケット母性看護．医歯薬出版，2019.

10　オフィスアワー（授業相談）

水曜日講義終了後から18時まで。メールで事前にアポイントを取ること。

11　学生へのメッセージ

母性看護学演習では母性看護に関する新たな知識を多々得ることが求められる分野ではありますが、解剖生理学などが基礎にあります。講義やグループワーク、技術演習を通じて、母性領域の対象者への看護について知識と技術を統合し、どのようにケアをしていくか考えていってほしいと思います。

講義には指定のテキストを準備して臨むようにしてください。

12　授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

大学病院産婦人科病棟にて臨床経験11年の助産師

精神保健看護学概論

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期前半　１単位

3　学　修　目　標

精神看護の対象の理解や精神保健医療の変遷、現代社会における心の問題、ライフサイクルにおける心の問題や発達の危機を学び、精神保健の保持増進および予防と回復を援助する精神看護の役割と課題について考えることができる。

4　授　業　概　要

⑴精神看護の枠組みと対象について理解することができる。
⑵精神医療と看護の歴史的変遷を学ぶことにより現在の精神障がい者を取り巻く環境を理解することができる。
⑶ライフサイクル各期における心の問題を理解することができる。
⑷精神看護の役割や課題について考えることができる。
準備学習として、各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読んでおくことが求められる。

5　授　業　内　容

精神保健看護学概論では、精神看護学とは何か、どのような人を対象にする分野なのかについて学びます。精神保健看護学各論、精神保健看護学演習と発展する中で心を病む対象者への看護実践を具体的に学び、精神保健看護学実習において看護過程を展開し看護を実践することにつながる第一段階の学習になります。そのため、心の仕組みから発達や危機について学び、社会の中における心の健康について学修します。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月６日㈬	1	河　村	心のしくみと精神保健	オリエンテーション、心の健康と精神看護	看2・看3
第２回	令和４年４月13日㈬	1	〃	心のしくみと精神保健	心の構造と機能、精神力動的考え方、精神分析、心の発達論	看4
第３回	令和４年４月20日㈬	1	〃	ストレスと心の健康	ストレス、危機と対処、ソーシャルサポートと家族	看4
第４回	令和４年４月27日㈬	1	〃	ライフサイクルと精神保健	乳幼児期から老年期の各期における心理的特徴と危機	看4
第５回	令和４年５月11日㈬	1	〃	ライフサイクルと精神保健	乳幼児期から老年期の各期における心理的特徴と危機	看4
第６回	令和４年５月18日㈬	1	〃	精神保健医療と福祉の歴史的変遷	精神医療と看護の歴史的変遷、精神保健福祉法	看4
第７回	令和４年５月25日㈬	1	〃	現代社会と精神の健康１	現代社会特有の精神保健上の問題（DV・ひきこもりなど）	看4
第８回	令和４年６月１日㈬	1	〃	現代社会と精神の健康２	グループワーク（関心のあるテーマに関する情報共有）	看4
第９回	令和４年８月３日㈬	1	〃	試験（９：00～10：30）		看4
第10回	令和４年８月17日㈬	2	〃	再試験（11：00～12：30）		A

6　授業形式・視聴覚機器の活用

グループワークを含めた講義形式
スライド、DVD視聴を含め、視聴覚教材を適宜使用します。

7　評　価　方　法

レポート20%、定期試験80%、授業の積極的参加を含め総合的に判断します。合計得点が60%以上を合格とする。出席が２/３に満たない場合は、評価の対象になりません。

8　テ　キ　ス　ト

阿保順子ほか著. 統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すぴか書房, 2021

9　テキストISBN番号

978-４-902630-30-５

10　参考文献

新体系看護学全書　精神看護学①概論/精神保健
新体系看護学全書　精神看護学②精神障害を持つ人の看護
978-４-8392-3363-１, 978-４-8392-3364-８

11　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の事もありますので、メールなどで事前に連絡を頂けると確実と思います。

12　学生へのメッセージ

グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。

13　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学各論

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期後半　１単位

3　学　修　目　標

精神保健の保持増進および疾病予防と回復過程を学ぶことにより、援助に必要な精神保健看護学の基礎的知識と技術を習得する。精神科における精神療法や薬物療法、リハビリテーション、生活療法について学習し援助者に必要な姿勢について考えることができる。

4　授　業　概　要

⑴精神看護に関連する理論を理解する。
⑵精神障がいの診断や治療について理解する。
⑶精神科医療と地域生活の移行について理解する。
⑷精神疾患とその看護について理解する。
準備学習として、各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読んでおくことが求められる。

5　授　業　内　容

精神保健看護学各論では、精神保健看護学概論で学習した心の理解や精神保健の知識を踏まえて、精神保健看護の実践とはどのようなものかについて学習する。この学習を踏まえ、３年次の演習においてより実践的で具体的看護技術についての学習に発展させる。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年12月12日㈪	3	河　村	精神看護に関連する心理・発達理論	ボウルビー、マーラー、ウィニコット、エリクソン	看1
第２回	令和４年12月19日㈪	3	〃	予防に関する理論	危機理論、ストレス、コーピング、感情の対処	看1
第３回	令和４年12月26日㈪	3	〃	精神看護に関連する看護理論	ペプロー、トラベルビー	看1
第４回	令和５年１月10日㈫	3	坂　本	精神疾患に対する治療と看護	急性期から回復期までの治療と看護、リハビリテーション、地域における支援	看1
第５回	令和５年１月16日㈪	3	河　村	地域で生活する患者と家族の支援	地域で生活する患者と家族の支援の実際	看1
第６回	令和５年１月23日㈪	3	〃	精神疾患を持つ対象者の看護①	統合失調症急性期の看護	看1
第７回	令和５年１月30日㈪	3	〃	精神疾患を持つ対象者の看護②	統合失調症回復期の看護	看1
第８回	令和５年２月６日㈪	3	〃	精神障がい児(者)の地域医療・福祉と支援	発達障がい児（者）の地域医療・福祉	看1
第９回	令和５年２月13日㈪	2	〃	試験（11：00～12：30）		看4
第10回	令和５年２月27日㈪	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

グループディスカッションを含めた講義形式
スライド、DVD視聴含め、視聴覚教材を適宜使用します。

7　評　価　方　法

レポート等参加度（20%）、期末試験（80%）、授業の積極的参加を含め総合的に判断します。合計60%以上を合格とします。
出席が２/３に満たない場合は、評価の対象になりません。

8　テ　キ　ス　ト

阿保順子他、統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すぴか書房、2021

9　参　考　文　献

新体系看護学全書　精神看護学①概論/精神保健
新体系看護学全書　精神看護学②精神障害を持つ人の看護

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の事もありますので、事前にメールなどで連絡を頂けると確実かと思います。

11　学生へのメッセージ

グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。

12　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

在 宅 看 護 学 概 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　辻　村　真由子（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第２学年　後期前半　１単位

3 学 修 目 標

1　在宅療養支援が必要とされる社会的な背景を理解する。
2　在宅看護の特徴と役割について理解する。
3　在宅看護（特に訪問看護）に関連する制度の概要について知識を修得する。
4　在宅看護活動の基盤となる理論、考え方について理解する。

4 授 業 概 要

訪問看護の歴史や在宅療養支援が必要とされる社会的な背景を理解することを通して、地域包括ケアシステム、訪問看護の理念、在宅看護の対象者とその家族の特徴を理解し、訪問看護サービス提供において、必要な知識を修得する。

【準備学修・事後学修について】

・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月６日㈭	3	辻　村	在宅看護の概要	在宅看護の概要と訪問看護活動の実際	看1
第２回	令和４年10月13日㈭	3	〃	在宅療養支援が必要とされる社会的背景	在宅療養支援が必要とされる日本の現状と地域包括ケアシステム	看1
第３回	令和４年10月20日㈭	3	〃	在宅看護の歴史的変遷	日本における在宅看護の歴史的変遷と特徴	看1
第４回	令和４年10月27日㈭	3	〃	在宅看護の対象	在宅看護の対象と特徴	看1
第５回	令和４年11月10日㈭	3	辻村、津田	在宅看護に関連する制度	在宅看護（特に訪問看護）に関連する制度	看1
第６回	令和４年11月17日㈭	3	辻　村	訪問看護ステーションの運営・管理	訪問看護ステーションの運営・管理	看1
第７回	令和４年11月24日㈭	3	〃	在宅看護における家族支援	在宅看護における家族支援の考え方と理論	看1
第８回	令和４年12月１日㈭	3	〃	在宅看護過程	在宅看護過程の考え方と理論	看1
第９回	令和５年２月10日㈮	1	辻村、津田	試　験（９：00～10：30）		看4
第10回	令和５年２月22日㈬	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義を主体とする。なお、上記授業の順序などは、一部変更する場合がある。

7 評 価 方 法

定期試験（80％）、平常点（小レポート、受講態度）（20％）

8 テ キ ス ト

・石垣和子、上野まり編：看護学テキストNiCE在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，改訂第２版，南江堂，2017.

9 テキストISBN番号

ISBN　978-４-524-25862-８

10　参考文献

・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き.

11　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

在宅看護学各論

1 担当教員名

教　　授　辻村　真由子（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津田　知子（公衆衛生看護学講座）

2 配当学年等

第２学年　後期後半　１単位

3 学修目標

1　対象・疾患別の在宅療養者と家族の特性とニーズを理解する。
2　療養者とその家族の意思決定と療養生活を支えるシステムについて理解する。
3　在宅療養を支える社会資源とその活動の実際について理解を深める。
4　在宅療養を支援する看看連携及び多職種連携について理解を深める。

4 授業概要

在宅療養者とその家族への看護について、ライフステージ、疾患及び療養の時期別の看護実践を事例を通して学びを深めるとともに、制度や社会資源について理解する。また、在宅看護の展開に必要となる看看連携及び多職種連携による包括的な在宅ケアシステムとその構築のための基礎的知識について学ぶ。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに１回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月８日㈭	3	辻村、津田 訪問看護ステーション管理者	訪問看護事業所の運営	訪問看護事業所の運営	看1
第２回	令和４年12月15日㈭	3	辻村、津田 地域包括支援センター管理者	地域包括支援センターの活動	地域包括支援センターの活動	看1
第３回	令和４年12月22日㈭	3	辻村、津田	対象・疾患別の在宅看護	高齢者、認知症者への在宅看護	看1
第４回	令和５年１月５日㈭	3	〃	対象・疾患別の在宅看護	難病を有する人への在宅看護	看1
第５回	令和５年１月12日㈭	3	〃	対象・疾患別の在宅看護	小児への在宅看護	看1
第６回	令和５年１月19日㈭	3	〃	対象・疾患別の在宅看護	精神疾患を有する人への在宅看護	看1
第７回	令和５年１月26日㈭	3	〃	対象・疾患別の在宅看護	看取り期の在宅看護	看1
第８回	令和５年２月２日㈭	3	〃	在宅移行期における看護	在宅移行期における看護、看看連携と多職種連携	看1
第９回	令和５年２月10日㈮	2	〃	試験 （11：00～12：30）		看4
第10回	令和５年２月22日㈬	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義を主体とする。内容に応じて、外部講師を招聘する。なお、上記授業の順序などは、一部変更する場合がある。

7　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（小レポート、受講態度）（20％）

8　テ　キ　ス　ト

・石垣和子、上野まり編：看護学テキストNiCE在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，改訂第２版，南江堂，2017.

9　テキストISBN番号

ISBN　978-４-524-25862-８

10　参考文献

・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き.

11　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

医 療 の 倫 理 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
教　　授　室 寺 義 仁（医療文化学講座（哲学））
教　　授　村 上　　節（産科学婦人科学講座(母子)）
教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）

非常勤講師
木 澤 義 之（筑波大学　医学医療系臨床医学域　緩和医療学　教授）
荻 田 謙 治（医療法人恒仁会　近江温泉病院精神科　医師）
垰 田 和 史（びわこリハビリテーション専門職大学　教授）

2 配 当 学 年 等

第２学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

「医療の倫理Ⅱ」の授業では、倫理学についての基礎を学んだ上で、臨床倫理を主に学習する。はじめに受講生は、日々臨床現場で遭遇するであろう事例に含まれる様々な倫理的な問題に気づくための想像力を養う。次いでグループ学習を通して、個々の問題をどのように考え、どのように対応・対処すれば良いのかという手法・心得について学び、看護実践に必要な倫理観を涵養することを目的とする。

4 授 業 概 要

様々な職種の講師による講義を受けることにより、医療における倫理に関して幅広い知識を教授する。
４月18日㈪３時限、５月23日㈪３～４時限目、６月20日㈪３～４時限目の講義は医学科４年生との合同講義である。

なお、１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	教室
第１回	令和４年４月11日㈪	3	喜　多	看護における医療の倫理①	看4
第２回	令和４年４月18日㈪	3	村　上	生命倫理ー生殖医療と生命倫理	臨3
第３回	令和４年４月25日㈪	3	喜多、勝元	看護における医療の倫理②	看4
第４回	令和４年５月２日㈪	3	喜　多 エホバの証人	看護における医療の倫理③	看4
第５回	令和４年５月23日㈪	3	木澤、室寺	臨床推論ー臨床倫理の基本原理（Ⅰ）	臨3
第６回	令和４年５月23日㈪	4	〃	臨床推論ー臨床倫理の基本原理（Ⅱ）	臨3
第７回	令和４年６月20日㈪	3	荻田、室寺	医師・患者・家族との関係と医の倫理	臨3
第８回	令和４年６月20日㈪	4	垰田、室寺	社会医学と医の倫理	臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

基本は講義形式。対面授業を基本とするが、状況に応じてZoom併用によるﾊｲﾌﾚｯｸｽ講義形式。

7 評 価 方 法

試験は行わない。受講生は、講義ごとに、授業担当者が与える課題に対して、Webによるレポートの提出を求める（レポート受理期間は追って指示する）。各授業の受講を契機として各講師が提示した課題に対し自ら感じ考えたことについて真摯な姿勢で課題に臨み、課題に関連して自主的に調べたことにも言及しながら合理性理論性をもって論述すること。

⑴ レポートは各10点満点で評価し、全レポートの総合点で合否を判定する。レポートの提出期限は厳守すること。なお、医学科との合同授業（４月19日、５月24日、６月21日）におけるレポート提出数が２回以上なければ器械的に不合格となるので、注意して下さい。

⑵ 病気その他緊急の事態でやむを得ず欠席する場合は、授業終了時までに学生課に連絡すること。学生課への連絡がある場合のみ、後日、学科事務室でレポート用紙を本人に手渡す。

8　テ　キ　ス　ト

特に定めない。各授業（対面／Zoomでの授業、並びにWebClassにUpされた教材）の中で、各講師が紹介する教材資料を参照。

9　オフィスアワー（授業相談）

予めE-mail（nkita@belle.shiga-med.ac.jp）で相談内容の概要をお知らせ頂き、追って授業相談の日時を決定する。

10　授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

11　参考E-mail 1

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

医師

看護学研究方法論

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美　（臨床看護学講座）
教　　授　宮　松　直　美　（臨床看護学講座）
教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
教　　授　立　岡　弓　子　（臨床看護学講座）
教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
准　教　授　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　後期前半　１単位

3　学　修　目　標

看護専門職者は、患者様などケアをさせて頂く対象となる方々に、常に最高のケアができるよう日々研鑽を重ねている。ケアの質向上を図るために、様々な努力をしているが、特に日々の看護実践の中で生じる疑問を明確にし、解決していく能力が必要となる。看護研究は、この看護実践の基礎となる科学的知識体系を発展させていくために必要なものである。研究の必要性を理解して、卒業研究に取り組むために、看護研究についての基礎知識を習得することを目標としている。

4　授　業　概　要

卒業研究にスムーズに取り組めるよう、研究の導入部分を具体的に教授する。看護研究の特徴等を踏まえ、実際にどのような研究がなされており、どのように研究に取り組んでいくのかを解説し、最終的に研究計画書が書けることを目指す。

5　授　業　内　容

講義

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第１回	令和４年10月３日(月)	3	桑　田	看護研究とは	看1
第２回	令和４年10月17日(月)	3	伊　藤	看護研究の概観	看1
第３回	令和４年10月24日(月)	3	荻　田	研究における倫理・文献検討	看1
第４回	令和４年11月７日(月)	3	立　岡	概念枠組みと仮設	看1
第５回	令和４年11月14日(月)	3	河　村	質的研究	看1
第６回	令和４年11月21日(月)	3	宮　松	量的研究	看1
第７回	令和４年11月28日(月)	3	辻　村	研究計画書の書き方	看1
第８回	令和４年12月５日(月)	3	桑　田	研究の責務	看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

パワーポイント等を使用して教授する。

7　評　価　方　法

看護研究は人に関わる研究が多く、どんな状況においても、研究をしようとする人の倫理性は重要である。学生であっても、倫理的配慮を無視して研究はできない。各講義には必ず倫理的課題を含んでいる。

基本的には３分の２以上の出席と、レポート課題の提出をもって評価するが、欠席した授業の内容によっては、看護研究を許可できない場合がある。その際には、他の講演等を受講するように連絡をするので、必ず看護研究担当教員に相談して、受講をすること。レポート課題は、最終日に提示する。

8　テ　キ　ス　ト

特に指定しない。

9　参　考　文　献

南　裕子編集：看護における研究　日本看護協会出版会他

10　主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　笠　原　聡　子　（基礎看護学講座）
准　教　授　玉　木　朋　子　（基礎看護学講座）
講　　師　山　下　　敬　（基礎看護学講座）
助　　教　色　摩　茉衣子　（基礎看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第２学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

1．受け持ち患者との援助的人間関係を形成できる。
2．受け持ち患者を通して看護過程の展開を実施できる。
3．保健・医療・福祉チームの一員として周囲の人々と連携できる。
4．看護の対象となる人々の人格を尊重した行動がとれる。

4　授　業　概　要

看護の対象を身体・心理・社会面から統合的に理解し、看護過程を展開する基礎的能力を養う。
各回の実習あたり少なくとも30分の予習と60分の復習を行うことにより理解を深めることが望まれる。

5　授　業　内　容

詳細は「実習要項」にて提示する。

なお、下記の日程で実習オリエンテーションを行う。
2022年９月２日㈮　９：00～16：00

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第１回	令和４年９月２日㈮	1	笠原、山下 玉木、色摩	実習オリエンテーション （９：00～16：00）	看１・看４
第２回	令和４年９月２日㈮	2	〃	実習オリエンテーション （９：00～16：00）	看１・看４
第３回	令和４年９月２日㈮	3	〃	実習オリエンテーション （９：00～16：00）	看１・看４
第４回	令和４年９月２日㈮	4	〃	実習オリエンテーション （９：00～16：00）	看１・看４

6　授業形式・視聴覚機器の活用

期間：２週間（2022年９月）
1．一斉講義：実習目的・目標、内容、方法の説明、特別講義
2．滋賀医科大学医学部附属病院において、１名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。

7　評　価　方　法

全日程の出席を原則とし、無断早退・無断遅刻・無断欠席は認めない。
なお、実習全体の２分の３以上の出席を評価の対象とする。

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
実習への参加状況（10％）、実習内容（10％）、課題の提出状況（10％）、実習記録（30％）、レポート（40％）

＊全体評価で60％未満の場合は再レポートを提示することがある。

8　テ　キ　ス　ト

資料配布および必要時参考文献を提示する。

9　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10　学生へのメッセージ

第１学年に履修した、地域における医療・保健・福祉施設での「早期体験実習」と滋賀医科大学医学部附属病院での「基礎看護学実習Ⅰ」を経て、本実習では、看護師として必要な倫理観や態度、基本的な知識・技術などを学びます。具体的には、滋賀医科大学医学部附属病院において、患者さんをお一人受け持たせていただき、これまでに学内で学んできたあらゆる知識・技術を活用して実際に展開していきます。この「基礎看護学実習Ⅱ」は第３学年での領域別実習につながる基盤となる実習ですので、自己課題を明確にして挑んでください。

また、実習を受け入れて下さる施設、および対象者の個人のプライバシーや人権に対して十分に配慮した責任ある行動を心がけてください。また、自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨んでください。

11　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

satoshi 7 @belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師

第３学年

医 療 英 語

1 担 当 教 員 名

特任准教授　Richard Hodge　（医療文化学講座（英語））
教　　授　加　藤　　穣　（医療文化学講座（英語））

2 配 当 学 年 等

第３学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

The goals for this course are：
-to develop the knowledge to recognize the roots, prefixes and suffixes in medical English terminology.
-to distinguish between medical English terminology and words that are more commonly used by non-medical professionals
-to recognize the contexts in which medical English terminology is used, such as hospital systems.
-to be able to respond appropriately to different types of written and spoken medical English.
-to develop autonomy in language study for life-long learning.

4 授 業 概 要

Students will mainly be engaged in listening to lectures, doing speaking and listening activities in small groups after reading and writing preparation as homework. Students will also read, write, and listen to English online（e-learning）during class time and as homework.

5 授 業 内 容

Speaking：in-class pair and group practice
Listening：film clips, and online materials（e-learning）
Reading：prints and online material
Writing：worksheets and essays

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月14日㈬	2	Hodge		Medical English for Nursing students.（Prints provided）	看4
第２回	令和４年12月21日㈬	2	〃		Medical English for Nursing students.（continued）	看4
第３回	令和５年１月４日㈬	2	〃		Introduction to Medical English：Latin roots/prefixes/suffixes.（Online study in MMC computer classrooms）	MMC
第４回	令和５年１月11日㈬	2	〃		Film showing part 1：The Doctor with comprehension questions	看4
第５回	令和５年１月18日㈬	1	Hodge 加　藤		TOEFL-ITP Level 2	看4
第６回	令和５年１月18日㈬	2	Hodge		Film showing part 2：The Doctor with comprehension questions	看4
第７回	令和５年１月25日㈬	2	〃		Accidents and emergencies Part 1（Includes first aid worksheet and discussion, UK Heart Association video on Hands only CPR）	看4
第８回	令和５年２月２日㈭	2	〃		Accidents and emergencies Part 2. Also, The Doctor essay will be shared and discussed in class	看4
第９回	令和５年２月８日㈬	2	〃		Pain management and review for the exam	看4
第10回	令和５年２月20日㈪	2	〃	試験 （11：00～12：30）		看4
第11回	令和５年３月２日㈭	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used to activate students' existing knowledge of English.

7　評　価　方　法

Students will be evaluated according to their attendance and in-class participation（25%）, completed assignments and in-class exams（25%）, their TOEFL score from an exam scheduled for 3 rd year nursing students（10%）, and the final exam（40%）. The final exam will consist of writing and listening sections based on content studied during the course. Students who are absent from more than 30% of the classes will be disqualified from taking the final exam. Normally, a score of at least 60 points on the final exam is required to pass the course. However, students who lose points for incomplete or late assignments during the semester may be required to score well above 60 points on the final exam to pass the course.

8　テ　キ　ス　ト

Prints will be supplied by the teacher. Students are required to bring a folder with all course prints and written assignments to each lesson.

9　オフィスアワー（授業相談）

Thursdays, 10：00 － 11：00, or make an appointment by email.

10　学生へのメッセージ

richard@belle.shiga-med.ac.jp

看 護 倫 理

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
准 教 授　玉 木 知 子（基礎看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期後半　１単位

3 学 修 目 標

1．ケア対象者の尊厳と権利を擁護する看護者の態度と役割について理解できる。
2．医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針について理解できる。
3．看護における倫理的問題や倫理的ジレンマについて、論点を明確にすることができる。
4．倫理的問題やジレンマへのアプローチ法を理解できる。

4 授 業 概 要

講義、演習、討論を通して、倫理的視点、倫理的感受性を高め、ケア対象者の尊厳と権利を擁護する看護のあり方について考える力、倫理的問題にアプローチできる力を培う。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれます。

5 授 業 内 容

授業計画参照

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年６月９日㈭	5	笠　原	ガイダンス 導入	授業ガイダンス 倫理学習への導入と ネガティブケイパビリティ（全体討議）	看１
第２回	令和４年６月16日㈭	5	玉　木	倫理原則	倫理原則（医療倫理４原則） Jonsenの臨床倫理４分割法の講義と 事例ワーク（個人）	看１
第３回	令和４年６月23日㈭	5	〃	看護実践における 倫理的概念 日常的な看護実践の中の 倫理的問題	ケアリング、アドボカシー、 意思決定など重要な概念や用語について 日常的な看護場面における 倫理的問題についての考察	看１
第４回	令和４年６月30日㈭	5	〃	看護者の倫理綱領	日本看護協会規定の倫理綱領の理解 事例ワーク（グループワーク）	看１
第５回	令和４年７月７日㈭	5	〃	個人情報保護、 守秘義務 インフォームド・ コンセント	個人情報と守秘義務の講義 インフォームドコンセントの意義	看１
第６回	令和４年７月14日㈭	5	〃	臨床における 倫理的ジレンマ①	臨床においてジレンマのある状況での 最善の方法の選択とは（グループワーク）	看１
第７回	令和４年７月21日㈭	5	〃	臨床における 倫理的ジレンマ②	臨床においてジレンマのある状況での 最善の方法の選択とは（グループワーク）	看１
第８回	令和４年７月28日㈭	5	〃	倫理カンファレンス	倫理的問題・ジレンマのある事例について、 アプローチを考え、カンファレンス形式で 討議する	看１

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、演習（個人、グループ）、発表など

7 評 価 方 法

授業への参加状況およびグループワークやカンファレンスを促進する発言や態度（30％）、課題（50％）、最終レポート（20％）による評価。全講義数の３分の２以上の出席を満たすことで評価の対象とする。

8　テ　キ　ス　ト

資料配布

9　参　考　文　献

宮坂道夫：系統看護学講座 別巻 看護倫理. 医学書院
ローレンス・J・シュナイダーマン他：間違った医療：医学的無益性とは何か. 勁草書房

10　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11　学生へのメッセージ

倫理的課題は難解であるゆえに明確な答えはありません。時間をかけて難問に向き合い続けることが、倫理的課題を有する看護対象への深い理解と洞察につながるのだと思われます。不確実で曖昧な「わからない」状態に居続けることはしんどいかもしれませんが、看護専門職として日々考え続けていただければと思います。

12　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

看 護 管 理 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　芦 原 貴 司（情報総合センター）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

1．看護管理・組織マネジメントに関する基礎概念および基礎的理論を理解できる。
2．良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を理解できる。
3．看護における安全性の確保のための能力向上の必要性と対応策を理解できる。
4．人材育成の実態や制度を学び、将来看護職として自己能力を向上させる必要性を理解できる。
5．看護における組織改革および政策の必要性と政策決定過程を理解できる。
6．助産師の法的責任、助産所・院内助産所開設、その運用における助産業務管理を理解できる。

4 授 業 概 要

・看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割を理解する。
・周産期医療システムの運用と法に基づく助産業務管理、運営能力や施設でのリーダーシップが発揮できるための助産マネジメントを理解する。
・各回の講義時までに指定する教材を読むなど事前課題に取り組む。
・講義後は自ら復習するとともに、指定された課題に取り組む。

5 授 業 内 容

・変化する保健・医療・福祉分野のなかで、社会のニーズに応える看護を提供するために必要な基礎知識を学ぶ。また、より良い看護を提供できる専門職業人であるためにも自立した個人として自己のキャリアを主体的に考える姿勢を身に付ける。医療・看護をめぐる法律や社会の仕組み、変遷について学び看護専門職としての役割を学ぶ。
・助産業務の特性を学習し、妊産褥婦・新生児に必要な周産期医療施設ごとの業務と管理に必要な知識と体制を学ぶ。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月11日(月)	2	笠　原	ガイダンス 看護管理に関連する 経営理論	・看護管理の歴史・定義・プロセスと対象 ・看護の組織化 ・モチベーション理論	看１
第２回	令和４年４月18日(月)	2	〃	看護管理に関連する 経営理論	・看護におけるマネジメントの変遷 ・意思決定論とリーダーシップ	看１
第３回	令和４年４月25日(月)	2	立　岡	助産師の活動場所と 業務管理	・助産管理とは ・助産業務とマネジメント能力 ・地域周産期医療センターとは ・総合周産期医療センターとは ・MFICUとは	看１
第４回	令和４年５月２日(月)	2	〃	助産院の開業	・助産院の開業と法的義務、規則 ・助産業務とリスクマネジメント ・助産行為と安全危機管理　感染管理 ・助産業務ガイドライン	看１
第５回	令和４年５月９日(月)	2	〃	安全なケアの提供と質保証	・医療の質と安全の管理 ・セーフティマネジメントと セリスクマネージメント ・看護技術の経済的評価	看１
第６回	令和４年５月16日(月)	2	小　寺 （看護部長）	トップマネジメントと経営	・組織変革 ・看護政策の意思決定 ・看護管理者としてのキャリアパス	看１
第７回	令和４年５月23日(月)	2	芦　原	臨地実習前 オリエンテーション	情報管理（個人情報保護について）	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年５月30日㈪	2	小　寺 （看護部長）	臨地実習前 オリエンテーション	看護学実習における基本的態度	
第９回	令和４年８月１日㈪	1	立　岡	試　験（９：00～10：30）		看１
第10回	令和４年８月15日㈪	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義・集団討議・グループワークを中心に展開する。

7　評　価　方　法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。
なお、評価は受講者共通のものと助産師課程希望の有無により選択制となるものから構成する。

１．　共通部分（30％）
　・授業への参加状況（10％）、討議・グループワークへの取り組み状況（10％）、課題（10％）
２．　選択部分（70％）
　・助産師課程を希望しない人：最終レポート（70％）
　・助産師課程を希望する人：定期試験（70％）

＊定期試験の点数が６割未満の場合は再試験の対象となる。再試験は１回のみ。

【注意】
・講義の一環として実施する「臨地実習前オリエンテーション（２コマ）」は、後期からの領域別臨地実習を履修するために出席は必須である（欠席は認めない）。
・前年度に看護管理論の単位を修得していても、前年度に後期からの領域別臨地実習前判定で不合格となった場合は、「臨地実習前オリエンテーション（２コマ）」には必ず出席したうえで、後期からの領域別実習を履修すること。

8　テ　キ　ス　ト

上泉和子：系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践①. 医学書院

9　オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10　学生へのメッセージ

皆さんはどのような医療サービスを受けたいですか？　また、看護職としてどのような場でどのように働きたいですか？　後進を育成する立場になったとき、あるいはスタッフの育成や管理に責任を持つ立場になったとき、どうありたいですか？　そして看護職としての自身のキャリアをどのように紡いでいきたいですか？　理想の組織を実現するためにはさまざまな仕組みが必要となります。これらについて考えるヒントになればと思います。主体的な参加を期待しています。

11　授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 2

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学演習Ⅰ

1　担当教員名

教　　授　宮松直美（臨床看護学講座）
助　　教　川原瑞希（臨床看護学講座）
助　　手　清原麻衣子（臨床看護学講座）

非常勤講師
伊波早苗（淡海医療センター　総括看護部長）
森本朱実（森ノ宮医療大学　看護学科　講師）
呉代華容（大阪大学大学院　医学系研究所
総合ヘルスプロモーション科学講座　助教）

2　配当学年等

第３学年　前期　２単位

3　学修目標

成人期にある人々が抱える健康障害とそれに対する看護過程の展開、看護実践の方法を学習する。

4　授業概要

教育目的：
1．呼吸機能障害、循環機能障害、生殖機能障害、栄養代謝機能障害など成人期に発症・進展する様々な機能障害をもつ人の対象理解を深める。
2．上記の障害を有する成人への看護実践の原理を理解し、必要とされる知識を習得する。
3．上記の障害を有する成人への看護実践に必要な技術を習得する。
4．上記の障害を有する成人への看護実践について、事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。

準備学修・事後学修：
各授業前までに前回の授業内容を復習すること、次回の講義資料をwebclassからダウンロードし予習により理解を深めることが望まれる。

5　授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	教室
第１回	令和４年４月７日㈭	3	呉　代	呼吸機能障害を有する成人の看護①	看1
第２回	令和４年４月７日㈭	4	〃	呼吸機能障害を有する成人の看護②	看1
第３回	令和４年４月８日㈮	1	〃	呼吸機能障害を有する成人の看護③：周手術期看護	看1
第４回	令和４年４月８日㈮	2	宮　松 久野（リハビリテーション部）	呼吸機能障害を有する成人の看護④：呼吸リハビリテーション	看1
第５回	令和４年４月14日㈭	3	宮　松	循環機能障害を有する成人の看護①	看1
第６回	令和４年４月14日㈭	4	〃	循環機能障害を有する成人の看護②	看1
第７回	令和４年４月15日㈮	1	〃	循環機能障害を有する成人の看護③：周手術期看護	看1
第８回	令和４年４月15日㈮	2	宮　松 平岩（リハビリテーション部）	循環機能障害を有する成人の看護④：心臓リハビリテーション	看1
第９回	令和４年４月21日㈭	3	伊　波	栄養代謝機能障害を有する成人の看護①：耐糖能障害	看1
第10回	令和４年４月21日㈭	4	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護②：耐糖能障害	看1
第11回	令和４年４月22日㈮	1	森　本	呼吸・循環機能障害を有する成人の看護：演習（アセスメントと問題抽出）	看1

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第12回	令和４年４月22日㈮	2	森　本	呼吸・循環機能障害を有する成人の看護：演習（アセスメントと問題抽出）	看1
第13回	令和４年４月28日㈭	3	宮松、川原、清原 臨床教育看護師（看護部）	循環機能障害を有する成人の看護⑤：演習（心電図、モニター）	看実
第14回	令和４年４月28日㈭	4	〃	循環機能障害を有する成人の看護⑥：演習（心電図、モニター）	看実
第15回	令和４年５月６日㈮	1	宮松、川原、清原 山口（看護部）	栄養代謝機能障害を有する成人の看護③：演習（血糖測定、インスリン自己注射指導）	看実
第16回	令和４年５月６日㈮	2	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護④：演習（血糖測定、インスリン自己注射指導）	看実
第17回	令和４年５月12日㈭	3	宮　松	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑤：消化吸収・排泄機能障害	看1
第18回	令和４年５月12日㈭	4	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑥：周手術期看護（消化管）	看1
第19回	令和４年５月19日㈭	3	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑦：肝機能障害	看1
第20回	令和４年５月19日㈭	4	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑧：周手術期看護（胆肝膵）	看1
第21回	令和４年５月20日㈮	1	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑨：事例提示	看1
第22回	令和４年５月20日㈮	2	〃	性・生殖機能障害を有する成人の看護①	看1
第23回	令和４年５月26日㈭	3	宮松、服部	性・生殖機能障害を有する成人の看護②：リンパ浮腫	看1
第24回	令和４年５月26日㈭	4	宮　松 中井（看護部）	性・生殖機能障害を有する成人の看護③：事例演習	看1
第25回	令和４年６月２日㈭	1	宮松、川原、清原 臨床教育看護師（看護部）	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑩：演習（ストーマケア）	看実
第26回	令和４年６月２日㈭	2	〃	栄養代謝機能障害を有する成人の看護⑪：演習（ストーマケア）	看実
第27回	令和４年６月２日㈭	3	宮　松	演習：看護過程（消化吸収・排泄機能障害）	看1
第28回	令和４年６月２日㈭	4	〃	演習：看護過程（消化吸収・排泄機能障害）	看1
第29回	令和４年６月３日㈮	1	〃	演習：看護過程（消化吸収・排泄機能障害）	看1
第30回	令和４年６月３日㈮	2	宮松、川原、清原	まとめ	看1
第31回	令和４年８月４日㈭	2	宮　松	試　験（11：00～12：30）	看1
第32回	令和４年８月18日㈭	2	〃	再試験（11：00～12：30）	B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習
パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7　評　価　方　法

修了の認定は、筆記試験（70％）およびレポート（20％）・演習（10％）の評価によって行う。ただし、筆記試験60％以上の得点を修了の認定要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義資料は、各講義の開始前に配布します。

9　参　考　文　献

参考図書

1）慢性期看護論　鈴木志津枝・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
2）急性期看護論　鈴木志津枝・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
3）病気がみえる　vol. 1 消化器　メディック・メディア
4）病気がみえる　vol. 2 循環器　メディック・メディア
5）病気がみえる　vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌　メディック・メディア
6）病気がみえる　vol. 4 呼吸器　メディック・メディア
7）病気がみえる　vol. 9 婦人科・乳腺外科　メディック・メディア

10　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

11　学生へのメッセージ

・演習の日は白衣に着替え、看護棟３階312演習室へ集合して下さい。開始時間以降の入室は認めないことがあります。演習の持参物については、別途連絡しますので指示に従ってください。
・レポートの内容と提出期限は、講義で説明します。指定された提出期限内に、webclassから提出してください。

12　参考URL 1

http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/

13　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学演習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教授・看護師　宮　松　直　美　（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希　（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子　（臨床看護学講座）

非常勤講師
横　田　千　晶　（国立循環器病研究センター病院　脳血管内科医長）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

成人期にある人々が抱える健康障害とそれに対する看護過程の展開、看護実践の方法を学習する。

4　授　業　概　要

教育目的：

1．脳神経機能障害、身体防御機能障害、運動機能障害、内部環境調節機能障害を有する成人、生命の危機的状況下にある成人、緩和ケアを必要とする成人の対象理解を深める。
2．上記の障害を有する成人への看護実践の原理を理解し、必要とされる知識を習得する。
3．上記の障害を有する成人への看護実践に必要な技術を習得する。
4．上記の障害を有する成人への看護実践について、事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。

準備学修・事後学修：

各授業前までに前回の授業内容を復習すること、次回の講義資料をwebclassからダウンロードし予習により理解を深めることが望まれる。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第１回	令和４年６月９日㈭	3	宮　松	脳神経機能障害を有する成人の看護①	看1
第２回	令和４年６月９日㈭	4	〃	脳神経機能障害を有する成人の看護②： 周手術期看護	看1
第３回	令和４年６月10日㈮	1	横　田	脳神経機能障害を有する成人の看護③： 特別講義　SCU	看1
第４回	令和４年６月10日㈮	2	宮　松	脳神経機能障害を有する成人の看護④： 特別講義　SCU	看1
第５回	令和４年６月16日㈭	3	宮松、川原、清原 臨床教育看護師（看護部）	脳神経機能障害を有する成人の看護⑤： 演習（点滴・輸液管理）	看実
第６回	令和４年６月16日㈭	4	〃	脳神経機能障害を有する成人の看護⑥： 演習（点滴・輸液管理）	看実
第７回	令和４年６月17日㈮	1	宮松、清原	生命の危機的状況下にある成人の看護①： ICU看護	看1
第８回	令和４年６月17日㈮	2	〃	生命の危機的状況下にある成人の看護②： ICU看護	看1
第９回	令和４年６月23日㈭	3	宮松、川原、清原 小越（看護部）	生命の危機的状況下にある成人の看護③： 演習（ACLS）	看実
第10回	令和４年６月23日㈭	4	〃	生命の危機的状況下にある成人の看護④： 演習（ACLS）	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第11回	令和４年６月24日㈮	1	宮　松 西川（看護部）	緩和ケア①：ペインコントロール	看1
第12回	令和４年６月24日㈮	2	〃	緩和ケア②：グリーフケア	看1
第13回	令和４年６月30日㈭	3	宮　松	身体防御機能障害を有する成人の看護①	看1
第14回	令和４年６月30日㈭	4	〃	身体防御機能障害を有する成人の看護②	看1
第15回	令和４年７月１日㈮	1	〃	身体防御機能障害を有する成人の看護③： 化学療法	看1
第16回	令和４年７月１日㈮	2	宮　松 山形（看護部）	身体防御機能障害を有する成人の看護④： 事例演習	看1
第17回	令和４年７月７日㈭	3	宮松、川原、清原 臨床教育看護師（看護部）	身体防御機能障害を有する成人の看護⑤： 演習（ドレーン・水分出納管理）	看実
第18回	令和４年７月７日㈭	4	〃	身体防御機能障害を有する成人の看護⑥： 演習（ドレーン・水分出納管理）	看実
第19回	令和４年７月８日㈮	1	宮　松	運動機能障害を有する成人の看護①	看1
第20回	令和４年７月８日㈮	2	〃	運動機能障害を有する成人の看護②： 周術期看護	看1
第21回	令和４年７月14日㈭	3	〃	内部環境調節機能障害を有する成人の看護①： 腎機能障害	看1
第22回	令和４年７月14日㈭	4	〃	内部環境調節機能障害を有する成人の看護②： 腎機能障害	看1
第23回	令和４年７月15日㈮	1	宮松、清原	内部環境調節機能障害を有する成人の看護③： 腎機能障害、事例提示	看1
第24回	令和４年７月15日㈮	2	宮　松 吉益（臨床工学部）	生命の危機的状況下にある成人の看護⑤： 人工呼吸器	看1
第25回	令和４年７月21日㈭	3	宮松、川原、清原 臨床教育看護師（看護部）	生命の危機的状況下にある成人の看護⑥： 演習（人工呼吸器・気管吸引）	看実
第26回	令和４年７月21日㈭	4	〃	生命の危機的状況下にある成人の看護⑦： 演習（人工呼吸器・気管吸引）	看実
第27回	令和４年７月22日㈮	1	宮松、川原、清原	演習：看護過程（腎機能障害）	看1
第28回	令和４年７月22日㈮	2	〃	演習：看護過程（腎機能障害）	看1
第29回	令和４年７月28日㈭	3	〃	演習：看護過程（腎機能障害）	看1
第30回	令和４年７月28日㈭	4	〃	まとめ	看1
第31回	令和４年８月２日㈫	3	宮　松	試　験（13：30～15：00）	看1
第32回	令和４年８月16日㈫	3	〃	再試験（13：30～15：00）	B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習
パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7　評　価　方　法

筆記試験（70％）およびレポート（20％）、演習（10％）の評価によって行う。ただし、筆記試験60％以上の得点を修了の認定要件とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義資料は、各講義の開始前に配布します。

9　参　考　文　献

参考図書

1）慢性期看護論　鈴木志津枝・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
2）急性期看護論　鈴木志津枝・藤田佐和編集　ヌーヴェルヒロカワ
3）病気がみえる　vol. 5 血液　メディック・メディア
4）病気がみえる　vol. 6 免疫・膠原病・感染症　メディック・メディア
5）病気がみえる　vol. 7 脳・神経　メディック・メディア
6）病気がみえる vol.11 運動器・整形外科　メディック・メディア

10　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

11　学生へのメッセージ

・演習の日は白衣に着替え、看護棟３階312演習室へ集合して下さい。開始時間以降の入室は認めないことがあります。演習の持参物については、別途連絡しますので指示に従ってください。
・レポートの内容と提出期限は、講義で説明します。指定された提出期限内に、webclassから提出してください。

12　参考URL 1

http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/

13　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学演習

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
教　　授　　森　田　真　也　（薬剤部）
特任助教　　金　丸　恭　子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

1．フレイルの状態を理解し、その予防的視点が分かる
2．高齢者特有の症状や障害を理解し、生活に及ぼす影響についてアセスメントする方法や具体的看護援助の方法を習得する
3．加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化をアセスメントし、看護計画立案、実施、評価するための能力を培う
4．尊厳を保持し、高齢者個々にとって最適な健康をめざすための目標設定の考え方が分かる
5．我が国の超高齢社会の動向を理解し、病院・介護施設・地域等での看護職の役割を考えることができる

4　授　業　概　要

高齢者看護に必要な、知識、技術、態度を学ぶ。講義内で提示される事例から、アセスメント・看護上の問題・看護援助について思考する過程を繰り返し、高齢者に対する看護展開方法について理解を深めていく。

１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれます。講義後に、講義の感想および疑問点についてWeb Classからコメントすることが求められます。講義での学びを自身で思考する機会やアウトプットすることによる知識の定着を図ることを狙いとしています。また、Web Class上に確認問題を挙げます。確認問題は何度でも行うことができますので、復習に活用してください。

5　授　業　内　容

高齢者特有の症状や障害（フレイル・歩行障害・転倒・骨折・嚥下障害・脱水・感染・失禁・皮膚障害・睡眠障害・せん妄・視覚聴覚障害・認知症・うつ等）と看護援助方法、生活習慣病や脳血管疾患、運動器疾患等を有する高齢者の在宅移行支援方法など

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月７日㈭	1	荻　田	症状・障害別 看護の実際： 嚥下障害(1)	高齢者の摂食動作・口腔の特徴に 関する振り返り 口腔・摂食嚥下機能障害のメカニズム 口腔・摂食嚥下機能低下が生活に及ぼす影響	看１
第２回	令和４年４月７日㈭	2	〃	症状・障害別 看護の実際： 嚥下障害(2)	高齢者の口腔・摂食嚥下機能低下予防 口腔・摂食嚥下機能障害を有する高齢者の 看護援助 高齢者の低栄養と予防 嚥下障害事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第３回	令和４年４月14日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 歩行障害・転倒(1)	高齢者の歩行の特徴に関する振り返り 歩行障害・転倒のメカニズム 歩行障害・転倒が生活に及ぼす影響	看１
第４回	令和４年４月14日㈭	2	〃	症状・障害別 看護の実際： 歩行障害・転倒(2)	高齢者の転倒予防 歩行障害・転倒を有する高齢者の看護援助 高齢者の廃用性症候群と予防 転倒事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第５回	令和４年４月21日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 排泄障害(1)	高齢者の排泄の特徴に関する振り返り 排尿・排便・排泄動作障害の種類と メカニズム 高齢者の排泄機能低下が生活に及ぼす影響	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第６回	令和４年４月21日㈭	2	荻　田	症状・障害別 看護の実際： 排泄障害(2)	高齢者の排泄機能低下予防 高齢者に対して自然な排泄を促す看護援助 排泄障害事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第７回	令和４年４月28日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 皮膚障害(1)	高齢者の皮膚の特徴に関する振り返り 皮膚真菌症・皮膚掻痒症のメカニズムと スキントラブル 褥瘡のメカニズムと評価法	看１
第８回	令和４年４月28日㈭	2	〃	症状・障害別 看護の実際： 皮膚障害(2)	高齢者の予防的スキンケア 皮膚障害を有する高齢者の看護援助 皮膚障害事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第９回	令和４年５月12日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 脱水・浮腫	高齢者における脱水の特徴と看護援助 高齢者における浮腫の特徴と看護援助 脱水・浮腫事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第10回	令和４年５月12日㈭	2	〃	症状・障害別 看護の実際： 易感染	高齢者における 免疫機能の特徴についての振り返り 高齢者におけるインフルエンザや 感染性胃腸炎の特徴と看護援助 感染症事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第11回	令和４年５月19日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 視覚聴覚障害	高齢者における 感覚機能の特徴に関する振り返り 高齢者における視覚聴覚障害の特徴と 看護援助 視聴覚障害事例のアセスメントと 援助計画のディスカッション	看１
第12回	令和４年５月19日㈭	2	〃	症状・障害 別看護の実際： 生活リズムの乱れ	高齢者における 生活リズム障害（睡眠障害・せん妄）と原因 高齢者の生活リズムの乱れを 最小限にするための看護援助 せん妄事例のアセスメントと 援助計画をディスカッション	看１
第13回	令和４年５月26日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 認知機能障害(1)	認知症の定義・認知症治療およびケアの変遷 認知症の原因疾患 認知症の症状と評価法	看１
第14回	令和４年５月26日㈭	2	〃	症状・障害別 看護の実際： 認知機能障害(2)	認知症の症状やその進行が生活に及ぼす影響 認知症の人の心理 認知症予防のための看護援助 BPSDとその看護援助	看１
第15回	令和４年５月27日㈮	1	森　田	慢性疾患を抱える 高齢者ケア(1)	高齢者の薬物療法の問題点とその対処	看１
第16回	令和４年５月27日㈮	2	荻　田	看護過程の展開(1)	事例演習オリエンテーション （事例演習の進め方、事例紹介、記録用紙の使い方）	看１
第17回	令和４年６月９日㈭	1	金　丸 武門、堀井 森永、吉田 （附属病院看護師）	技術演習(1)	技術演習 ・経管栄養法 ・機能障害を有する高齢者の移動移乗介助	看実
第18回	令和４年６月９日㈭	2	〃	技術演習(2)	技術演習 ・経管栄養法 ・機能障害を有する高齢者の移動移乗介助	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第19回	令和４年６月16日㈭	1	金　丸 澁　川 （附属病院理学療法士）	技術演習(3)	技術演習 ・廃用予防のための援助技術	看実
第20回	令和４年６月16日㈭	2	〃	技術演習(4)	技術演習 ・廃用予防のための援助技術	看実
第21回	令和４年６月23日㈭	1	荻　田	慢性疾患を抱える 高齢者ケア(2)	高齢者で重視すべき慢性疾患管理 （高血圧・糖尿病・脂質異常症等） 高齢者における患者教育	看１
第22回	令和４年６月23日㈭	2	荻　田 サブレ森田 （附属病院看護師）	慢性疾患を抱える 高齢者ケア(3)	高齢糖尿病患者の疾病管理と看護援助 臨床からの症例提示と意見交換	看１
第23回	令和４年６月30日㈭	1	荻　田	看護過程の展開(2)	事例展開（グループワーク）	看１
第24回	令和４年６月30日㈭	2	〃	看護過程の展開(3)	事例展開（グループワーク）	看１
第25回	令和４年７月７日㈭	1	〃	症状・障害別 看護の実際： 認知機能障害(3)	コミュニケーション ユマニチュード	看１
第26回	令和４年７月７日㈭	2	荻　田 長　坂 （附属病院看護師）	症状・障害別 看護の実際： 認知機能障害(4)	認知症患者対応の実際 臨床からの症例提示と意見交換	看１
第27回	令和４年７月14日㈭	1	荻　田	高齢者の在宅移行 支援の実際(1)	高齢者における継続看護の考え方	看１
第28回	令和４年７月14日㈭	2	荻　田 山　下 （附属病院看護師）	高齢者の在宅移行 支援の実際(2)	退院支援の実際 臨床からの症例提示と意見交換	看１
第29回	令和４年７月21日㈭	1	荻田、金丸	看護過程の展開(4)	高齢者看護過程を展開する上での思考方法	看１
第30回	令和４年７月21日㈭	2	〃	看護過程の展開(5)	事例演習（グループワーク）	看１
第31回	令和４年８月４日㈭	1	〃	試　験 （９：00～10：30）		看１
第32回	令和４年８月18日㈭	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

・講義は対面とZoomを用いたリアルタイム配信のハイブリット型とする。講義形式を基本とし、適宜、受講生に意見や質問を求める。また、必要時小グループおよび全体での討論形式を用いる。
・演習は対面型のみ。

7　評　価　方　法

・総授業時間の３分の１を超えて欠席した場合は、本試験を受験することはできない。各講義のリフレクションシートの提出をもって、その講義に出席したものとみなす。
・本試験80％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）20％で評価を行う。本試験は100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。レポート課題は授業内で提示する。ただし、新型コロナ感染拡大予防の観点より定期試験が行われない場合は、Web Class による小テスト40％、授業の取り組み状況（確認問題・レポート・グループワーク・発表など）60％にて評価を行う。なお、課題の提出はすべてWeb Class からとする。期日をよく確認して進めること。

8　テ　キ　ス　ト

授業でその日の資料を配布する

9　参　考　文　献

・老年看護学技術（南江堂）
・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院）
・健康長寿診療ハンドブック（老年医学会 編集/発行）
その他、講義中に随時紹介

10　学生へのメッセージ

・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等は変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール（tan3434@belle.shiga-med.ac.jp）にてコンタクトを取るようにしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。

・高齢者看護は加齢変化を捉えることが前提になります。既習の知識を復習して講義にのぞみましょう。また、日頃から高齢者の生活動作や生活環境に関心を向け、生活の質を上げるための工夫について考えてみましょう。外出が難しい時期ですが、新聞やインターネットニュースなどで高齢者の話題はたくさん掲載されています。是非活用してください。

11　主担当教員の実務経験

看護師

小児保健看護学演習

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美　（臨床看護学講座）
講師（学内）　白　坂　真　紀　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

子どもの健やかな発育には環境の影響は大きく、その国の政策や文化にも左右される。平和な日本において、子どもが健康に発育する環境としては理想的ではあるが、現代の社会や家族の状況は常に変化し、子どもや家族が様々な悩むや不安を抱えることがあるため、小児看護が果たす役割は大きい。

小児保健看護学概論で習得した小児期それぞれの特徴を踏まえ、子どもの栄養、子どもの遊びや学習の必要性、子どもの環境やその課題について習得する。

4　授　業　概　要

子どもは未来を担う存在である。少子高齢社会に伴い、政治、経済、文化、医療など、小児を取り巻く環境は急激に変化しており、子どもを育てる家族の悩みはつきない。子どもの育ちに必要な環境を整えるために必要な事や子どもをめぐる問題について学ぶ。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によって休日等も有効に活用してください。

5　授　業　内　容

子どもへの関わり方を含め、できるだけ具体的な事例を提示して講義する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月６日㈬	1	桑　田	病気・障害をもつ 子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護	看１
第２回	令和４年４月６日㈬	2	〃	入院中の子どもと 家族の看護	入院環境と看護の役割 入院中の子どもと家族の特徴 入院中の子どもと家族の看護	看１
第３回	令和４年４月13日㈬	1	桑田、白坂	子どもの アセスメント①	アセスメントに必要な技術	看１
第４回	令和４年４月13日㈬	2	〃	子どもの アセスメント②	身体的アセスメント	看１
第５回	令和４年４月20日㈬	1	〃	症状を示す 子どもの看護①	不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、 チアノーゼ、ショック、意識障害、けいれん	看１
第６回	令和４年４月20日㈬	2	〃	症状を示す 子どもの看護②	発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、 浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸	看１
第７回	令和４年４月27日㈬	1	〃	検査・処置を受ける 子どもの看護①	検査・処置総論 薬物動態と薬用量の決定	看１
第８回	令和４年４月27日㈬	2	〃	検査・処置を受ける 子どもの看護②	検査・処置各論	看１
第９回	令和４年５月11日㈬	1	〃	急性期にある 子どもと家族の看護 周手術期の 子どもと家族の看護	急性期の特徴 急性期にある子どもと家族の看護 周手術期の特徴 周手術期にある子どもと家族の看護	看１
第10回	令和４年５月11日㈬	2	桑田、白坂	外来における 子どもと家族の看護 災害時の 子どもと家族の看護	子どもを対象とする外来の特徴 外来受診をする子どもと家族の特徴と看護 被災地の環境と看護の役割 災害時の子どもと家族の特徴と看護	看１
第11回	令和４年５月18日㈬	1	桑　田	慢性期にある 子どもと家族の看護	慢性期の特徴 慢性期が子どもに与える特徴 子どもと家族への看護	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第12回	令和４年５月18日㈬	2	桑　田	先天的な問題をもつ 子どもと家族の看護	先天異常とは 子どもと家族の特徴と看護	看１
第13回	令和４年５月25日㈬	1	桑田、白坂	活動制限が必要な 子どもと家族の看護	活動制限の目的・種類 身体的・心理的影響 子どもと家族の特徴と看護	看１
第14回	令和４年５月25日㈬	2	〃	プレパレーション①	プレパレーション・ディストラクションとは プレパレーションの実際	看１
第15回	令和４年６月１日㈬	1	〃	プレパレーション②	プレパレーション演習	看１
第16回	令和４年６月１日㈬	2	〃	プレパレーション③	プレパレーション演習 まとめ 発表会	看１
第17回	令和４年６月８日㈬	1	桑　田	心身障がいのある 子どもと家族の看護	心身障がいとは 子どもと家族の看護	看１
第18回	令和４年６月８日㈬	2	〃	重症心身障がいをもつ 子どもと家族の看護	重症心身障がいとは 子どもと家族の看護	看１
第19回	令和４年６月15日㈬	1	〃	難病をもつ 子どもと家族の看護 感覚器に障がいをもつ 子どもと家族の看護	希少難病をもつ子どもと家族の特徴と看護 視覚障害、聴覚・言語障害をもつ 子どもと家族の特徴と看護 地域における患者会活動	看１
第20回	令和４年６月15日㈬	2	〃	終末期にある 子どもと家族の看護	子どもの死の概念 子どもと家族へのターミナルケア	看１
第21回	令和４年６月22日㈬	1	桑田、白坂	NICUに入院している 子どもと家族の看護	NICUの特徴 子どもと家族の看護	看１
第22回	令和４年６月22日㈬	2	〃	在宅療養中の 子どもと家族の看護	在宅療養の環境と看護の役割 子どもと家族の特徴と看護	看１
第23回	令和４年６月29日㈬	1	桑田、白坂 臨床教育看護師	小児看護技術演習①	病児の沐浴	看１ 看実
第24回	令和４年６月29日㈬	2	〃	看護過程演習①	グループワーク（患児の全体像）	看１ 看実
第25回	令和４年７月６日㈬	1	〃	小児看護技術演習②	検査介助・呼吸管理・保育器管理	看１ 看実
第26回	令和４年７月６日㈬	2	〃	看護過程演習②	グループワーク（患児のアセスメント）	看１ 看実
第27回	令和４年７月13日㈬	1	桑田、白坂 臨床教育看護師	小児看護技術演習③	子どもの採血・輸液管理	看１ 看実
第28回	令和４年７月13日㈬	2	〃	看護過程演習③	グループワーク（看護計画立案）	看１ 看実
第29回	令和４年７月20日㈬	1	〃	小児看護技術演習④	調乳・離乳食・包帯法	看１ 看実
第30回	令和４年７月20日㈬	2	〃	看護過程演習④	看護過程発表会	看１ 看実
第31回	令和４年８月３日㈬	1	桑　田	試　験 （９：00～10：30）		看１
第32回	令和４年８月17日㈬	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義・演習
毎回の授業で、ミニテストを行う。
パワーポイント、DVD教材など使用

7　評　価　方　法

最終的に筆記試験を行い、６割以上の得点で合格とする。
定期試験（70％）
平常点（演習レポート、ミニテスト、受講態度）（30％）

8　テ　キ　ス　ト

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論

9　テキストISBN番号

978-４-260-02002-２

10　参　考　文　献

小児看護学　オーム社

11　オフィスアワー（授業相談）

メールで主担当教員にアポイントをとってください。

12　学生へのメッセージ

理解を深めるために資料も配布しますが、教科書を必ず持参してください。

13　参考URL 1

http://sums-hqkodomo.sakura.ne.jp/

14　授業用E-mail

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

15　参考E-mail 1

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

16　主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学演習

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

精神疾患に関する基礎的知識を学び、精神の健康問題に直面している対象とその家族を理解するとともに、必要な看護技術を習得する。個別的な看護を展開するための治療的なコミュニケーションを実践するための基礎的能力を養う。

4　授　業　概　要

以下のような項目について学修し、精神看護技術を修得することをめざす。

1．精神の発達に関する精神疾患とその看護について理解する。
2．主な精神症状、精神科疾患とその看護について理解する。
3．精神看護における治療的患者―看護師関係について理解し、効果的な看護技術を習得する。
4．精神構造をとらえ、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルに基づく看護過程を考えることができる。

準備学習として、各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読んでおくことが求められる。

5　授　業　内　容

精神保健看護学演習は、精神保健看護学概論と精神保健看護学各論で学習した知識を踏まえて、心の障がいを持つ対象者のより具体的なアセスメントによる対象理解とニーズを把握し、看護実践につながる看護過程の展開と実践技術を習得する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月11日㈪	3	河　村	精神看護における援助技術	精神看護におけるコミュニケーション技術、場面の再構成	看1
第２回	令和４年４月11日㈪	4	〃	精神疾患を持つ対象への看護	身体疾患を持つ対象の看護	看1
第３回	令和４年４月18日㈪	3	河村、坂本	精神看護における援助技術	CBT、ACT（認知行動療法）、アドヒアランス、SST、心理教育	看1
第４回	令和４年４月18日㈪	4	〃	同上	CBT、ACT（認知行動療法）、アドヒアランス、SST、心理教育	看1
第５回	令和４年４月25日㈪	3	河　村	精神疾患を持つ対象への看護	気分障害、神経症を持つ対象の看護	看1
第６回	令和４年４月25日㈪	4	〃	同上	依存症（物質依存、摂食障害）を持つ対象の看護	看1
第７回	令和４年５月２日㈪	3	〃	精神科治療と看護①	薬物療法と看護	看1
第８回	令和４年５月２日㈪	4	〃	精神科療法と看護②	身体療法・精神療法・リハビリテーションと看護	看1
第９回	令和４年５月９日㈪	3	〃	精神疾患を持つ対象への看護	発達障害を持つ対象者への支援と看護	看1
第10回	令和４年５月９日㈪	4	〃	精神疾患を持つ対象者の地域生活の支援①	地域における支援の実際を学ぶ（医療機関から地域生活に向けた精神看護の実際）	看1
第11回	令和４年５月16日㈪	3	〃	同上	終末期ケアと心のケア	看1
第12回	令和４年５月16日㈪	4	〃	同上	医療機関から地域生活に向けた長期的支援の実際	看1
第13回	令和４年５月23日㈪	3	〃	治療的患者－看護師関係①	治療的かかわり①ロールプレイを通して対象者の理解と看護の方向性について考える	看1

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第14回	令和４年５月23日㈪	4	河　村	同上	同上	看1
第15回	令和４年５月30日㈪	3	〃	家族の支援	ケースマネジメント、家族のアセスメント ジェノグラム・エコマップから家族を捉える	看1
第16回	令和４年５月30日㈪	4	〃	同上	同上	看1
第17回	令和４年６月６日㈪	3	〃	精神状態のアセスメント	統合失調症患者のアセスメントの復習	看1
第18回	令和４年６月６日㈪	4	〃	同上	MSE・オレムアンダーウッドモデルの活用	看1
第19回	令和４年６月13日㈪	3	〃	セルフケア理論を用いた 看護展開	アセスメントの方法と記録の用い方、 事例の展開（アセスメント～看護計画立案）	看1
第20回	令和４年６月13日㈪	4	〃	同上	アセスメントの方法と記録の用い方、 事例の展開（アセスメント～看護計画立案）	看1
第21回	令和４年６月20日㈪	3	〃	同上	事例の展開	看1
第22回	令和４年６月20日㈪	4	〃	同上	事例の展開	看1
第23回	令和４年６月27日㈪	3	〃	同上	展開事例の発表、展開事例の説明	看1
第24回	令和４年６月27日㈪	4	〃	同上	展開事例の発表、展開事例の説明	看1
第25回	令和４年７月４日㈪	3	〃	精神疾患を持つ対象者の 地域生活の支援②	視聴覚教材を活用し精神疾患を持つ対象者と 家族・地域のつながり、看護について考える	看1
第26回	令和４年７月４日㈪	4	〃	同上	視聴覚教材を活用し精神疾患を持つ対象者と 家族・地域のつながり、看護について考える	看1
第27回	令和４年７月11日㈪	3	河村、坂本	治療的患者 ―看護者関係②	治療的かかわり② シミュレーション演習	看1
第28回	令和４年７月11日㈪	4	〃	治療的患者 ―看護者関係②	治療的かかわり② シミュレーション演習	看1
第29回	令和４年７月25日㈪	3	〃	治療的患者 ―看護者関係③	治療的かかわり③ ロールプレイを通して対象者の理解と看護の 方向性について考える	看1
第30回	令和４年７月25日㈪	4	〃	治療的患者 ―看護者関係③	治療的かかわり③ ロールプレイを通して対象者の理解と 看護の方向性について考える	看1
第31回	令和４年８月１日㈪	2	河　村	試　験（11：00～12：30）		看1
第32回	令和４年８月19日㈮	2	〃	再試験（11：00～12：30）		B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

グループディスカッションなどを多く含みます。視聴覚教材（スライド、DVD視聴）を適宜活用する予定です。講義では、毎回出席カードにて、学習目標と評価及び、感想を求めます。ワークブックを配布予定ですので、各自の積極的な学びのために有効活用してください。

7　評　価　方　法

総授業時間数２／３以上の出席があることを評価の対象とします。期末試験60%、レポート40%、授業の積極的な参加態度により評価し、総合評価の60％以上を単位認定の要件とします。（再試験は１回のみ実施）

8　テ　キ　ス　ト

新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論精神保健,メヂカルフレンド社
新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護,メヂカルフレンド社
河村奈美子・星美和子　編著「看護の治療的コミュニケーションと心のケア：実践力を高めるワークブック」,大学教育出版

9　テキストISBN番号

9784839233051
9874839233068
9784866921198

10　参　考　文　献

　これまでの講義資料を活用すること。その他、参考文献・資料等は適宜提示します。

阿保順子他、統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すぴか書房、2021

11　オフィスアワー（授業相談）

　電話やメールによる事前連絡の上で、時間調整することを前提に随時対応します。

12　学生へのメッセージ

　グループの取り組みが多くなります。ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークにおける積極的な授業への参加を求めます。

13　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

　看護師

在 宅 看 護 学 演 習

1 担 当 教 員 名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

1　居宅に訪問するために必要な態度・姿勢を身につけることができる。
2　療養者とその家族のアセスメント・支援方法を説明できる。
3　訪問看護に必要な生活援助技術、医療的ケアの特徴を説明できる。
4　訪問看護を取り巻く現状や課題を分析し、解決策を提案できる。

4 授 業 概 要

訪問看護に必要な援助技術と看護の展開方法を事例を用いた演習やロールプレイを通して修得する。また、看護の場や訪問看護を取り巻く現状や課題をデータの活用によってとらえ、解決に向けた方向性や解決策を提案できる能力を養う。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	1	辻村、津田	健康状態と生活状況のアセスメント	健康状態と生活状況のアセスメント①	看１
第２回	令和４年４月12日㈫	2	〃	健康状態と生活状況のアセスメント	健康状態と生活状況のアセスメント②	看１
第３回	令和４年４月19日㈫	1	〃	初回訪問における情報収集とアセスメント	初回訪問における情報収集とアセスメント	看１
第４回	令和４年４月19日㈫	2	〃	自宅に訪問するために必要な態度・姿勢	自宅に訪問するために必要な態度・姿勢と倫理	看１
第５回	令和４年４月26日㈫	1	〃	在宅における感染予防	在宅における感染予防	看１
第６回	令和４年４月26日㈫	2	〃	訪問看護におけるリスクマネジメント	訪問看護におけるリスクマネジメントの種類と予防策	看１
第７回	令和４年５月10日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	脳血管疾患を有する対象①	看１
第８回	令和４年５月10日㈫	2	〃	在宅看護過程の展開	脳血管疾患を有する対象②	看１
第９回	令和４年５月17日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	脳血管疾患を有する対象③	看１
第10回	令和４年５月17日㈫	2	〃	在宅看護過程の展開	脳血管疾患を有する対象④	看１
第11回	令和４年５月24日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	在宅移行期にある対象①	看１
第12回	令和４年５月24日㈫	2	〃	在宅看護過程の展開	在宅移行期にある対象②	看１
第13回	令和４年５月31日㈫	1	辻　村 佐々木、津田	訪問看護における援助技術	食の支援と栄養管理①	看１
第14回	令和４年５月31日㈫	2	辻村、津田	訪問看護における援助技術	食の支援と栄養管理②	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第15回	令和４年６月７日㈫	1	辻村、津田	訪問看護における援助技術	排泄ケア①	看１
第16回	令和４年６月７日㈫	2	〃	訪問看護における援助技術	排泄ケア②、ストーマ	看１
第17回	令和４年６月14日㈫	1	〃	訪問看護における援助技術	清潔ケア	看１
第18回	令和４年６月14日㈫	2	〃	訪問看護における援助技術	褥瘡ケア	看１
第19回	令和４年６月21日㈫	1	〃	訪問看護における援助技術	服薬支援	看１
第20回	令和４年６月21日㈫	2	〃	訪問看護における援助技術	訪問看護における呼吸ケア	看１
第21回	令和４年６月28日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	在宅移行期にある対象③	看１
第22回	令和４年６月28日㈫	2	〃	在宅における感染予防の実際	在宅における感染予防の実際	看１
第23回	令和４年７月５日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	終末期にある対象①	看１
第24回	令和４年７月５日㈫	2	〃	在宅における機器の活用	在宅における機器の活用	看１
第25回	令和４年７月12日㈫	1	〃	在宅看護過程の展開	終末期にある対象②	看１
第26回	令和４年７月12日㈫	2	〃	在宅看護過程の展開	終末期にある対象③	看１
第27回	令和４年７月19日㈫	1	〃	在宅看護の課題と展望	在宅看護の課題と展望	看１
第28回	令和４年７月19日㈫	2	〃	データを活用した在宅看護の現状と課題の分析	データを活用した在宅看護の現状と課題の分析	看１
第29回	令和４年７月26日㈫	1	〃	在宅看護の課題とその解決策	在宅看護の課題とその解決策①	看１
第30回	令和４年７月26日㈫	2	〃	在宅看護の課題とその解決策	在宅看護の課題とその解決策②	看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

演習を中心に展開する。なお、上記授業の順序などは、一部変更する場合がある。

7　評　価　方　法

最終レポート（60％）、平常点（小レポート、グループワークレポート、受講態度）（40％）

8　参　考　文　献

・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第２版，メヂカルフレンド社，2018.
・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第４版，メヂカルフレンド社、2021.

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

地 域 医 療 展 開 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

1　地域医療が必要とされる社会的背景および在宅療養者の自立を支援する制度について理解する。
2　訪問看護ステーションの経営管理の実際について理解する。
3　個人・家族・地域のニーズに対応する訪問看護の多機能化のあり方について考察を深める。
4　地域の医療資源が有機的に機能するための多職種・多機関の協働・連携のあり方について考察を深める。
5　以上の学びを踏まえて、地域医療の展開において求められる看護の役割と専門性を説明できる。

4 授 業 概 要

地域医療が必要とされる社会的な背景、今日的な社会制度の現状を踏まえて、在宅療養者（療養児）ならびに地域のニーズに対応する訪問看護活動と訪問看護ステーションの経営管理、ならびに他職種との協働、連携を通じた地域の課題解決や地域医療の提供のあり方を学ぶ。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

授業は講義、個人ワーク、グループワークで構成する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和５年１月５日㈭	1	辻　村 訪問看護ステーション管理者	訪問看護ステーションの経営管理	訪問看護ステーションの経営管理	看4
第２回	令和５年１月５日㈭	2	〃	訪問看護の多機能化	看護小規模多機能居宅介護、療養通所介護、放課後デイサービス	看4
第３回	令和５年１月12日㈭	1	辻村、津田	地域の医療資源が有機的に機能するための多職種・多機関の協働・連携	滋賀県を例に地域の多職種・多機関の協働・連携の現状を分析する。（個人ワーク・グループワーク）	看4
第４回	令和５年１月12日㈭	2	〃	地域の医療資源が有機的に機能するための多職種・多機関の協働・連携	滋賀県を例に地域の多職種・多機関の協働・連携の課題を解決するための方策について議論する。(グループワーク)	看4
第５回	令和５年１月19日㈭	1	伊藤、辻村 津田、田渕	難病患者の病期に応じた支援１	事例を用いて個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開方法についてグループワークを行う。	看4
第６回	令和５年１月19日㈭	2	〃	難病患者の病期に応じた支援２	グループワークの成果を発表し、病期に応じた個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開に必要な知識と実際について理解を深める。	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第７回	令和５年１月26日㈭	1	伊藤、辻村 津田、田渕	精神障害者の ライフステージに応じた 地域生活支援１	精神障害者の事例を用いて 個別支援計画の立案とその支援を 実施するための地域医療の 展開方法についてグループワークを行う。	看4
第８回	令和５年１月26日㈭	2	〃	精神障害者の ライフステージに応じた 地域生活支援２	グループワークの成果を発表し、 ライフステージに応じた 個別支援計画の立案とその支援を 実施するための地域医療の展開に 必要な知識と実際について理解を深める。	看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実践者の話を交えながら、地域医療の現状と課題、その解決策について創造的に考えを深められるようにする。

7　評　価　方　法

最終レポート（40%）、平常点（小レポート、グループワークレポート、受講態度）（60%）

8　テ　キ　ス　ト

授業中に紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp, 伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

地域医療展開論演習

1　担　当　教　員　名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　１単位

3　学　修　目　標

1　模擬事例として提示された在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開できる。
2　訪問看護で必要とされる基本的な看護技術をシミュレーターを用いて実施できる。
3　シミュレーションを通じて、在宅療養者の意思尊重と自立・自律を促す支援を実践できる。
4　地域で展開されている多職種連携について、模擬的に実践できる。

4　授　業　概　要

模擬事例の展開を通して在宅看護で必要とされる看護技術と看護活動を展開するための思考過程を修得する。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月13日㈫	3	辻村、津田 作業療法士	在宅医療における作業療法士と看護師との連携の実際	在宅医療における作業療法士と看護師との連携の実際	看4
第２回	令和４年12月13日㈫	4	辻村、津田 ケアマネジャー	在宅医療における ケアマネジャーと看護師との連携の実際	在宅医療における ケアマネジャーと看護師との連携の実際	看4
第３回	令和４年12月16日㈮	1	辻村、津田	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術①	看4
第４回	令和４年12月16日㈮	2	〃	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術②	看4
第５回	令和４年12月20日㈫	3	〃	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術③	看4
第６回	令和４年12月20日㈫	4	〃	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術	訪問看護で必要とされる 基本的な看護技術④	看4
第７回	令和４年12月23日㈮	1	〃	模擬事例に対する 看護計画の立案	模擬事例に対する 看護計画の立案①	看4
第８回	令和４年12月23日㈮	2	〃	模擬事例に対する 看護計画の立案	模擬事例に対する 看護計画の立案②	看4
第９回	令和４年12月27日㈫	3	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習	模擬事例を対象とした シミュレーション学習①	看4
第10回	令和４年12月27日㈫	4	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習	模擬事例を対象とした シミュレーション学習②	看4
第11回	令和５年１月６日㈮	1	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習	模擬事例を対象とした シミュレーション学習③	看4
第12回	令和５年１月６日㈮	2	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習	模擬事例を対象とした シミュレーション学習④	看4
第13回	令和５年１月10日㈫	3	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習の 振り返り	模擬事例を対象とした シミュレーション学習の 振り返り①	看4
第14回	令和５年１月10日㈫	4	〃	模擬事例を対象とした シミュレーション学習の 振り返り	模擬事例を対象とした シミュレーション学習の 振り返り②	看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義と演習で構成する。なお、上記授業の順番や日程などは、一部変更する場合がある。

7　評　価　方　法

演習目標の到達度（シミュレーションの取り組み状況、小レポート、最終レポート）（90%）、受講態度（10%）によって総合的に評価する。

8　参　考　文　献

授業中に適宜紹介する。

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

看護実践特別演習

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
教　　授　喜　多　伸　幸　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）
助　　手　上　西　祐　輝　（精神医学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　１単位

3　学　修　目　標

看護師が看護を実践する中で必要となる患者-看護師関係における援助関係の構築から、より複雑な健康状態にある患者とのコミュニケーションについて考え、実践できるよう技術を修得する。

コミュニケーションの基本をコミュニケーションの意義や手段について基本的な知識を理解した上で、対人関係の奥深さを実感しながら対人援助職として相手とコミュニケートすることができる。

4　授　業　概　要

以下の内容について学修することにより学生が自己の看護実践における学習課題の気づきを目指す。

1．日常生活や実習場面におけるコミュニケーション、コミュニケーションの基本
2．患者―看護師におけるコミュニケーション
3．専門的な精神的・心理的側面のアセスメントと介入
4．臨床場面における複雑な事例の理解

準備学習として、各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読んでおくことが求められる。

5　授　業　内　容

以下の計画表に基づくが、進捗状況や受講者の希望等で順序や内容を変更することがある。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	3	河　村	コミュニケーションとは 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションの定義、 文脈や言葉の機能について 声音や身体的表現から伝わることと 空間や距離が意味することについて	看1
第２回	令和４年４月15日㈮	3	〃	自分を知る 他者との交流を分析する アサーショントレーニング	コミュニケーションの主体となる 自分の傾向について知る 他者との言葉によるやり取りを 交流分析の理論を用いて理解する	看1
第３回	令和４年４月18日㈪	1	河　村 上　西	臨床心理学に基づく アセスメント	医療領域で主に用いられる 心理検査の使用目的と選択（知的能力、 発達特性、パーソナリティ、認知機能、 精神症状）を理解する 心理検査を受けるクライエントを 疑似体験する	看2 看3
第４回	令和４年４月22日㈮	3	河　村	共感と傾聴 治療的コミュニケーション	カウンセリングの基本的な考え方を 来談者中心療法から学ぶ 人にとっての感情の意味と 共感のための工夫について	看1
第５回	令和４年４月25日㈪	1	河　村 上　西	臨床心理学に基づく コミュニケーション	クライエントやその家族との コミュニケーションにおける 基本的な態度を理解する クライエントと看護師の関係において 態度や言葉がもたらす相互作用を理解する （ロールプレイを含む）	看1
第６回	令和４年５月６日㈮	3	河　村	患者の理解		看1
第７回	令和４年５月９日㈪	1	河　村 上　西	臨床心理学に基づく治療	認知行動療法を中心に心理療法の 背景理論、技法、効果について理解する	看1

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年５月20日㈮	3	河　村	集団的思考	集団の特徴と圧力や思考について	看1
第９回	令和４年５月27日㈮	3	坂　本	コミュニケーションスキル	コミュニケーションパターンの修正	看1
第10回	令和４年６月３日㈮	3	河　村	集団の圧力		看1
第11回	令和４年６月10日㈮	3	〃	終末期における コミュニケーション	エンドオブライフディスカッション	看1
第12回	令和４年６月17日㈮	3	喜　多	臨床推論	医療面接	看1
第13回	令和４年６月24日㈮	3	〃	臨床推論	事例１	看1
第14回	令和４年７月１日㈮	3	〃	臨床推論	事例２	看1
第15回	令和４年７月８日㈮	3	〃	臨床推論	事例３	看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習を並行して進める。講義はパワーポイントで行い、具体的な理解をしてもらうために視聴覚教材を活用することもある。

7　評　価　方　法

２/３以上の出席を条件として評価をします。
授業の評価は、課題提出40％、演習参加60％により60％以上を合格とする。

8　テ　キ　ス　ト

河村奈美子・星美和子　編著「看護の治療的コミュニケーションと心のケア：実践力を高めるワークブック」,大学教育出版
テキストの他、適宜パワーポイントのスライドを配布する予定である。

9　テキストISBN番号

9784866921198

10　参　考　文　献

参考文献は必要に応じて紹介する。

11　オフィスアワー（授業相談）

質問等あれば、精神看護学領域の教員まで直接連絡をしてください。メールでも構いません。

12　学生へのメッセージ

他者への援助的なコミュニケーションには、自分がその場で何を感じているかに正直である必要があります。自分の体験に開かれているということは実は非常に覚悟がいることです。何もうまくできる必要はありません。真摯な態度で臨んでください。

13　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

看護師

母 性 看 護 学 実 習

1 担 当 教 員 名

講　　師　土 川　　祥（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
助　　教　舘 下 麻 美（臨床看護学講座）
助　　教　宮 武 美 佳（臨床看護学講座）
特任助手　大 江 良 子（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　後期　２単位

3 学 修 目 標

1．周産期における妊産褥婦と新生児の生理的変化が理解できる
2．周産期における母児とその家族について、オレムのセルフケア理論を基に対象を包括的に理解し、ウエルネスの看護理論の視点からアセスメント、看護診断ができる
3．看護診断から優先順位を考え、看護目標を到達するための個別的な看護計画を立案することができる。
4．看護計画に基づいて周産期における母子へのケアを実践し、目標に沿って評価することができる
5．対象に必要な保健指導案を作成し、グループ間で共有し、対象者の個別性に合わせた保健指導について理解を深めることができる
6．妊産褥婦、新生児への看護を通して、母子相互作用について理解することができる
7．ハイリスクの妊婦及び褥婦のケアについて理解することができる
8．母性看護学の特徴を整理し、自己の母性に関する考え方を明確にできる
9．母子保健チームの一員として、周産期に携わる助産師・看護師の役割と責任について理解することができる
10．産科医療施設における周産期医療と看護の役割について、その特性を理解し、地域母子保健の視点から考えることができる

4 授 業 概 要

妊娠・分娩・産褥期の女性及び胎児期を含む新生児とその家族における身体的・心理的・社会的特性を理解し、看護診断をもとに必要な母性看護を実践するための能力を養う。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
・実習までに事前オリエンテーション（30分程度）のためリーダーが担当教員へのアポイントをとる
・事前オリエンテーションで提示した課題学習を実施してから実習に臨むこと（180分程度）
・実習後、自己学習を行うこと（１日45分程度）
・看護技術については、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評 価 方 法

母性看護の理解（60％：記録30％、カンファレンスへの参加状況15％、面接評価15％）、２/３以上の出席（10％）、技術・姿勢・態度（30％）

面接評価は、最終日に個人面接を行う

7 テ キ ス ト

小林康江他編：母性看護の実践．メディカ出版，2019.
立岡弓子編著：新訂版　周産期ケア・マニュアル第３版．サイオ出版，2020.
立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック．サイオ出版，2022.

8 参 考 文 献

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス　日総研出版, 2013

9 オフィスアワー（授業相談）

実習前は担当教員へメールでアポイントを取ること
実習期間中は適宜担当教員に相談すること

10　学生へのメッセージ

周産期看護において、ウエルネス理論、オレムのセルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、必要な看護技術、保健指導を行います。ご協力いただく対象者の方への感謝の気持ちを忘れず、真摯に取り組んでください。

11　授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

mn411906@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 2

mmiyatak@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 3

ryoko55@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

臨床経験11年の助産師

小児保健看護学実習

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美（臨床看護学講座）
講師(学内)　白　坂　真　紀（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

1．小児の発達段階の特徴や健康障害による影響を理解し、援助の必要性を考える。
2．小児の健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。
3．小児の健康障害が家族に与える影響を理解し、援助を考える。
4．小児の地域での生活を想定し、継続看護と多職種との連携について考える。
5．NICUの特徴と看護について考えることができる。
6．小児と家族に人権を尊重したケアの必要性を理解する。

4　授　業　概　要

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

実習開始前には、子どもの発達段階、入院している子どもの病気などの予習を行い、実習期間中は、毎日の実習記録を作成し、予習・復習をしてください。

5　授　業　内　容

実習場所：滋賀医科大学医学部附属病院、NICU/GCU病棟、小児科外来
実習方法：１名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。小児への看護の実践から、地域で生活する小児と小児を取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。

1．受け持ち患児への看護…看護過程を展開する。
2．小児科外来実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、検査・処置の介助。継続看護について考える。
3．NICU/GCU実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、ケアの実践、検査･処置の見学。ファミリーセンタードケア、ディベロップメンタルケアなど、看護の特徴を学ぶ。

詳細は、実習要項参照。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

1．１名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。
2．子どもへの看護の実践から､地域で生活する子どもと子どもを取り巻く環境についての視点を持ち､必要な援助について考える。
3．NICU/GCU、小児科外来では、診察場面の見学、指導者と一緒にケアを実践する。継続看護、家族看護について学ぶ。
4．新型コロナ感染症の状況による大学からの指針に従って、実習方法を臨機応変に対処する。

7　評　価　方　法

実習態度（30％）、実習記録（70％）を総合的に評価する。

8　テ　キ　ス　ト

サイオ出版「母性看護　小児看護　実習あるあるお助けブック」

9　参　考　文　献

発達段階からみた小児看護過程　医学書院
小児看護学実習DVD 医学映像教育センター
　第１巻　小児看護学実習の特徴と看護学生の心得
　第２巻　小児病棟での実習の実際
　第３巻　小児科外来とNICU・GCU実習の実際

10　オフィスアワー（授業相談）

メールでアポイントを取ってください。

11　学生へのメッセージ

1．学生自身の小児期感染症の罹患状況を把握しておく。
　実習開始前に検温及び体調のチェックを必ず行う。
2．自分の健康管理を心がけ、感染症症状など異常がある場合は、速やかに受診し、担当教員・臨床指導者に連絡する（自己判断しない）。
3．子どもの安全を確保し、事故防止に留意する。
4．子どもたちは、受け持ちをする学生と遊んだり、勉強したりすることを、とても楽しみにしている。そのため、体調管理には十分に留意し、休まないこと、約束は必ず守ることを心がけてほしい。

12　参考URL 1

http://sums-hqkodomo.sakura.ne.jp/

13　授業用E-mail

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 1

kuwata@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　４単位

3　学　　修　　目　　標

主として成人期の入院患者を受け持ち、健康問題を持つ対象者を疾患発症、急性増悪、慢性的な治療経過など療養の時期に応じたケアの基本を学ぶ。加えて対象者を精神的・身体的・社会的側面から理解し、個別性に応じた健康の維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。

また、対象者の療養支援上必要な種々の専門的介入方法について学び、健康障害の治療、回復にむけての過程における保健医療チームのかかわりと看護の役割を理解する。

4　授　　業　　概　　要

以下、詳細は実習要項を参照

5　授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6　評　　価　　方　　法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

8　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　２単位

3　学　　修　　目　　標

主として成人期の入院患者を受け持ち、周手術期にある対象者を精神的・身体的・社会的側面から捉え、健康の回復および維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。また、周手術期における病態生理や治療に伴う合併症のリスク、生じうる問題について学び、多様なニーズに応じた看護を実践するために必要な能力を養う。

4　授　　業　　概　　要

以下、詳細は実習要項を参照

5　授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6　評　　価　　方　　法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

8　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
助　　教　　片　寄　　亮　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　１単位

3　学　　修　　目　　標

１．実習目的
　１）高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知り、高齢者個々に適した日常生活の在り方を思考するための基盤を培う
　２）高齢者の多様な特性を踏まえて交流し、日常生活援助・介助を実体験する
　３）様々な健康レベルにある高齢者の特徴を理解し、多様な療養の場での高齢者に対する看護師の役割について思考する

２．実習目標
　１）高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知ることができる
　２）高齢者の多様な特性が日常生活の様々な場面で影響していることを理解できる
　３）高齢者を取り巻く社会資源やその活用状況の実態、関係機関や多職種との連携・協働の実際を知ることができる
　４）高齢者を多様な特性を踏まえた姿勢や態度で交流することができる

4　授　　業　　概　　要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5　授　　業　　内　　容

１．実習期間
　実習ローテーションで配置された２週間（土日祝日を除く）
２．実習場所
　滋賀医科大学医学部附属病院　２D病棟（整形外科・泌尿器科）
　　６C病棟（糖尿病内分泌内科・腎臓内科・脳神経内科・放射線科）
３．実習内容（概要）
　１）入院中高齢患者を原則１名受け持つ。
　２）受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性を適切に把握し、入院中・退院後に生じている（もしくは生じ得る）看護上の問題を明らかにし、看護計画を立案し、看護介入する。
　３）カンファレンスを通して受け持ち患者への看護展開に対してグループで検討するとともに、受け持ち患者以外の事例展開を共有することで自身の老年看護の質を高める。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

臨地臨床実習は指定された施設内で実習指導者のもと実施する

7　評　　価　　方　　法

臨地臨床実習・発表会等の出席参加状況、実習記録、実習態度から総合的に評価する

8　参　　考　　文　　献

老年保健看護学概論・各論での講義資料を参照すること

9　学生へのメッセージ

臨地臨床実習で求められている学生としての本質を念頭に、どのような姿勢で実習に臨むべきであるのか十分に考えて参加してください。また、多様な特性を持つ高齢者と交流するにあたって留意しなければならないことは何なのか、高齢者にとって受け入れやすい若輩者とはどのような姿であるのかについても十分に考えた上で実習に参加してください。

10　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
助　　教　　片　寄　　亮　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　２単位

3　学　　修　　目　　標

１．実習目的
　これまでに受講した老年保健看護学で修得した知識・技術を統合して老年看護過程を展開し、看護実践を通して老年看護の基礎的な臨床能力を身に付ける。

２．実習目標
１）受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性に関する情報を収集することができる
２）加齢や老化促進が高齢者の機能に及ぼす影響をアセスメントすることができる
３）残存機能や今後改善する見込みを考慮した具体的な看護目標設定ができる。また、患者本人または家族の顕在的・潜在的な希望に沿った価値ある目標設定ができる
４）残存機能の活用や機能維持・改善を意図した介助を実践することができる
５）療養・退院支援における他職種との連携状況を把握し、医療チーム内での看護職の役割を理解することができる
６）実習を通して老年看護観を語ることができる

4　授　　業　　概　　要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5　授　　業　　内　　容

１．実習期間
　実習ローテーションで配置された２週間（土日祝日を除く）
２．実習場所
　滋賀医科大学医学部附属病院　２D病棟（整形外科・泌尿器科）
　　６C病棟（糖尿病内分泌内科・腎臓内科・脳神経内科・放射線科）
３．実習内容（概要）
１）入院中高齢患者を原則１名受け持つ。
２）受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性を適切に把握し、入院中・退院後に生じている（もしくは生じ得る）看護上の問題を明らかにし、看護計画を立案し、看護介入する。
３）カンファレンスを通して受け持ち患者への看護展開に対してグループで検討するとともに、受け持ち患者以外の事例展開を共有することで自身の老年看護の質を高める。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

臨床実習は滋賀医科大学医学部附属病院の指定された病棟で教員及び実習指導者の指導のもと実施する

7　評　　価　　方　　法

老年看護過程の展開状況、実習記録、実習態度から総合的に評価する

8　参　　考　　文　　献

老年保健看護学議論・各論での講義資料を参照すること

9　学生へのメッセージ

臨床実習で求められている学生としての姿勢で実習に臨んでください。
また、高齢者の全体像を捉えるための方法論や看護展開方法を事前に十分学習し、円滑な看護展開が行えるよう努めてください。

10　主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学実習

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

目的：精神を障害された個人およびその家族を理解し、精神の健康の回復に向けた治療的な関わりができる基礎的な能力を養う。
目標：１．精神障がい者をありのままに理解することができる。
２．精神障がい者と治療的患者―看護師関係を構築することができる。
３．対象の個別性にあった看護過程を展開することができる。
４．精神医療における看護の役割・機能を理解することができる。
５．看護学生として、治療チームの一員として責任ある行動や主体的な学習態度をとることができる。

4　授　業　概　要

詳細については実習要項をよく読んでおくこと。
実習期間中の日々の準備学習として実習における記録物の作成が求められる。

5　授　業　内　容

実習施設：滋賀医科大学医学部附属病院１C病棟／滋賀県立精神医療センター
実習方法：各施設において１名の入院患者を受け持ち、自我構造やオレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用いて、対象を理解し、必要な援助について学ぶ。その他、詳細については実習要項を参照する。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

受け持つ患者の疾患や重症度などについては、実習施設や病棟により異なることがある。

7　評　価　方　法

２/３以上の出席があることを評価の対象とします。実習内容（記録物の提出状況やカンファレンスにおける発言、患者との関わりや実習に臨む際の態度、実習記録の内容）を評価表の項目に基づき客観的に評価する。60％以上を合格とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義で使用したテキスト

9　参　考　文　献

参考文献：講義資料や、これまでの学習で用いた資料。その他参考文献は適宜提示します。

10　オフィスアワー（授業相談）

電話やメールによる事前連絡の上で、時間調整することを前提に随時対応します。

11　学生へのメッセージ

臨床における実践的な実習ではさまざまな不安や困難に遭遇すると思いますが、遠慮なく教員や指導者に相談し、適宜アドバイスをもらうことが大切になります。
また、精神科病棟は他の診療科の病棟とは異なり「精神保健福祉法」に基づく多くの規制があるため、オリエンテーションの内容に留意し、それらを遵守することが重要です。

12　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

在 宅 看 護 学 実 習

1　担 当 教 員 名

教　　授　辻 村 真由子（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津 田 知 子（公衆衛生看護学講座）

2　配 当 学 年 等

第３学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

1　在宅療養者とその家族への支援について、実践活動をしている訪問看護師から具体的に学ぶ。
2　在宅療養者とその家族を対象として看護過程を展開し、看護師に求められる態度、知識、技術について理解する。
3　訪問看護を取り巻く社会資源（フォーマル・サービスとインフォーマル・サポート）との連携のあり方について学ぶ。
4　訪問看護ステーションの法的基盤と運営の現状と課題を知り、考察を深める。

4　授　業　概　要

在宅療養者とその家族への在宅療養における看護の特徴及び看護師に必要な専門的知識と技能について理解する。また、地域ケアシステムの中で看護の果たす役割について学ぶ。

5　授　業　内　容

詳細は実習要項参照。滋賀県一円の訪問看護ステーションにおいて実習する。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

7　評　価　方　法

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって総合的に評価する。

8　参　考　文　献

・石垣和子、上野まり編：看護学テキストNiCE在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，改訂第２版，南江堂，2017.
・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き.
・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第２版，メヂカルフレンド社,2018.
・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第４版，メヂカルフレンド社、2021.
そのほか、授業中に適宜提示する。

9　学生へのメッセージ

・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。
・実習前に在宅看護学概論、在宅看護学各論、在宅看護学演習での学習内容について復習しておくこと。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

統 合 看 護 学 実 習

1　担 当 教 員 名

教　　授　宮 松 直 美（臨床看護学講座）
助　　教　川 原 瑞 希（臨床看護学講座）
助　　手　清 原 麻衣子（臨床看護学講座）

2　配 当 学 年 等

第３学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

1．看護管理の基礎となる組織管理、リーダーシップ等の諸理論を理解する。
2．看護管理実践を見学し、組織とシステムを理解して、看護の質を維持・向上させる看護管理の意義と役割を学ぶ。
3．さらに、医療における危機管理や、看護倫理、他部門とのコーディネートの必要性を学ぶ。
4．複数の患者を受け持つ看護スタッフに同行し、ケアの優先性の判断、他の看護職や他職種との連携、ケアの継続性等、看護のメンバーシップと役割を理解する。
5．看護管理者や看護スタッフの看護観や言動の意味を理解し、自己の人間的成長と看護観の育成を図る。
6．看護学を学ぶ者として必要な今後の自己の学習課題を明確にする。

4　授　業　概　要

看護管理、複数患者の看護、メンバーシップ等の見学実習を通して、看護サービスを効果的・効率的・継続的に提供する看護システムと機能を理解し、看護実践に参画する能力を育成することを実習目的とする。

5　授　業　内　容

以下、『実習要項』中の『統合看護学実習』参照

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実習

7　評　価　方　法

実習記録（60%）、実習内容・実習への積極性（20%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。

8　参　考　文　献

必要時に適宜提示する。

9　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

10　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

11　主担当教員の実務経験

看護師

地域医療展開論実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　１単位

3　学　　修　　目　　標

1　継続看護における看護師の役割を考察できる。
2　療養の場の移行における看護師同士、他職種間の連携について理解する。

4　授　　業　　概　　要

医療機関から在宅への療養場所の移行に係る関連機関の円滑な連携の実際について、退院支援部門の看護師の活動に同行することを通して、退院支援部門の役割を理解するとともに、退院に向けて病棟看護師に求められる患者支援の実際や看看連携および多職種連携の実際について学ぶ。

5　授　　業　　内　　容

詳細は実習要項参照。滋賀医科大学附属病院で実習予定。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

7　評　　価　　方　　法

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90％）、受講態度（10％）によって総合的に評価する。

8　参　　考　　文　　献

授業中に適宜紹介する。

9　学生へのメッセージ

・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

公衆衛生看護活動論Ⅰ

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）　　非常勤講師
角　野　文　彦　（滋賀県健康医療福祉部　理事）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

学習目標 生涯にわたる発達段階、健康レベル別の健康課題から、地域で生活する個人や家族および集団を支援するための基礎知識を習得する。

4　授　業　概　要

地域全体の健康増進・改善を目指した、個人・家族、さらに集団・組織に所属する人々を対象に、疾病・障害の発生予防、健康増進・改善の支援において特徴的な公衆衛生看護活動の方法を系統的に伝える。健康問題やライフサイクルの観点から、家庭生活や地域生活の営みに応じた看護の方法を解説する。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	3	角　野	地域包括 ケアシステムと 保健活動基盤１	ヘルスプロモーションの理念と方法 衛生行政体系と保健師配置	看１
第２回	令和４年４月12日㈫	4	〃	地域包括 ケアシステムと 保健活動基盤２	滋賀県の公衆衛生看護活動の実際と課題	看１
第３回	令和４年４月19日㈫	3	伊　藤	公衆衛生看護活動の 法的根拠		看１
第４回	令和４年４月19日㈫	4	〃	母子保健活動①	健康上のリスクを持つ対象への支援 （心身障害児・発達障害）	看１
第５回	令和４年４月26日㈫	3	〃	母子保健活動②	健康上のリスクを持つ対象への支援 （心身障害児・発達障害）	看１
第６回	令和４年４月26日㈫	4	〃	母子保健活動③	健康上のリスクを持つ対象への支援 （心身障害児・発達障害）	看１
第７回	令和４年５月10日㈫	3	〃	感染症予防活動①	結核対策	看１
第８回	令和４年５月10日㈫	4	〃	感染症予防活動②	ワクチン接種	看１
第９回	令和４年５月17日㈫	3	〃	感染症予防活動③	HIV感染症	看１
第10回	令和４年５月17日㈫	4	〃	成人保健活動①	成人各期の特徴と健康課題 健康問題とアセスメント	看１
第11回	令和４年５月24日㈫	3	〃	成人保健活動②	がん予防と対策	看１
第12回	令和４年５月24日㈫	4	〃	成人保健活動③	生活習慣病予防、特定健康診断・特定保健指導	看１
第13回	令和４年５月31日㈫	3	〃	成人保健活動④	地区組織活動、 コミュニティ・オーガニゼーション	看１

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第14回	令和４年５月31日㈫	4	伊　藤 田　渕	精神保健活動①	心の健康づくりの推進とストレス・自殺予防	看１
第15回	令和４年６月７日㈫	3	〃	精神保健活動②	ソーシャルキャピタル、マイノリティ支援	看１
第16回	令和４年８月２日㈫	1	伊　藤	試験 （９：00～10：30）		看１
第17回	令和４年８月16日㈫	2	〃	再試験 （11：00～12：30）		B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義とワークショップ

7　評　価　方　法

３分の２以上の出席を単位認定の要件とする。
期末試験（60％）とミニレポート（20％）、並びに講義への主体的参加（20％）を加味して評価する。

8　テ　キ　ス　ト

最新 保健学講座 1「公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社
最新 保健学講座 2「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

9　学生へのメッセージ

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護活動論Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　１単位

3　学　修　目　標

公衆衛生看護活動論Ⅰの知識を踏まえて、地域における健康づくりのための行政の役割や機能を理解し、それらを具現化する活動としての「保健師活動による地域づくり」に焦点を当てながら、僻地や都市部など特徴のある地域特性に応じた活動の展開並びに危機管理の実際について学ぶ。

4　授　業　概　要

事例を用いた事業の展開について教授する。

【準備学修・事後学修について】

・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
・公衆衛生看護活動の法的根拠についての基本的な理解が必須となるため保健医療行政論、社会保障論で学んだことを復習して臨んでください。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年６月14日㈫	3	伊　藤	公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎技術	地域診断	看1
第２回	令和４年６月14日㈫	4	〃	地域特性に応じた公衆衛生看護活動	地方分権、住民参加	看1
第３回	令和４年６月21日㈫	3	〃	地域診断に基づく展開の実際１	糖尿病重症化予防	看1
第４回	令和４年６月21日㈫	4	〃	地域診断に基づく展開の実際２	糖尿病重症化予防	看1
第５回	令和４年６月28日㈫	3	〃	地域診断に基づく展開の実際３	糖尿病重症化予防	看1
第６回	令和４年６月28日㈫	4	〃	地域診断に基づく展開の実際４	危機管理	看1
第７回	令和４年７月５日㈫	3	〃	地域診断に基づく展開の実際５	危機管理	看1
第８回	令和４年７月５日㈫	4	〃	保健師のキャリア開発		看1

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義とワークショップ

7　評　価　方　法

３分の２以上の出席を最終評価の条件とする。
ミニレポート（20%）と最終レポート課題（60%）、並びに講義への主体的参加（20%）を加味して評価する。

8　テ　キ　ス　ト

最新 保健学講座 1「公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社
最新 保健学講座 2「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護活動論Ⅲ

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
特任准教授　北　原　照　代　（社会医学講座（衛生学部門））
非常勤講師
峠　田　和　史　（びわこリハビリテーション専門職大学　教授）
松　本　訓　枝　（岐阜県立看護大学　准教授）

2　配　当　学　年　等

第３学年　前期　１単位

3　学　修　目　標

働く人々が労働と健康の調和を図り、心身ともに健康で充実した職業生活ができるような支援について学び、産業看護職の役割と職務について考えることができる。

児童・生徒等の心身の健康な発育を保障する学校保健活動の実際とその方法について学び、学校における健康課題への対応について説明できる。

4　授　業　概　要

養護教諭に求められる基礎的知識と労働安全衛生に関する基本的知識を教授する。

【準備学修・事後学修について】

・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	教室
第１回	令和４年７月12日㈫	3	松本（岐阜県立看護大学）	学校保健総論・法制度・組織	看１
第２回	令和４年７月12日㈫	4	〃	学校保健における健康課題	看１
第３回	令和４年７月19日㈫	3	〃	特別支援学校における健康課題	看１
第４回	令和４年７月19日㈫	4	〃	学校の危機管理	看１
第５回	令和４年７月26日㈫	3	垰田（びわこリハビリテーション専門職大学）	産業保健総論・法制度	看１
第６回	令和４年７月26日㈫	4	〃	労働衛生の３管理１教育	看１
第７回	令和４年７月27日㈬	3	北原（社会医学講座衛生学部門）	労働時間、夜勤・交代制勤務、女性労働と健康	看１
第８回	令和４年７月27日㈬	4	〃	医療･介護職場における腰痛問題	看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義

7　評　価　方　法

各授業内容に関するレポート課題によって評価する。

３分の２以上の出席を単位認定の条件とする。

8　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

9　主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護学演習

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第３学年　後期　２単位

3　学　修　目　標

個人、家族、グループ、集団の支援に用いられる多様な支援方法とその効果的な適用について学ぶ。また地域全体の健康レベルの向上のために必要な保健事業の企画、施策の立案や、その根拠となる情報の収集と分析、資料作成、情報を統合し、健康課題を明確にする地域診断の方法を習得する。

グループによる活動を通して、リーダーやフォロワーとしてグループダイナミクスを機能させ、効率的にプロジェクトを進める力を養う。

4　授　業　概　要

・公衆衛生看護学実習Ｉと連動した演習課題に取り組む。
・公衆衛生看護学実習Ｉの実習グループ編成で演習を行う。
・実習地域の地域診療、家庭訪問、相談支援を中心に行う。

【準備学修・事後学修について】
・授業予定を充分に確認し、事前学習と次回の授業までに行うべきことを行った上で臨むこと。
・時間外にグループワークが必要な場合もあるため、計画を立てること。
・ExcelとWordの基本操作ができるように準備しておくこと

5　授　業　内　容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第１回	令和４年12月12日㈪	1	伊藤、田渕	地域診断	地域診断・公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第２回	令和４年12月12日㈪	2	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第３回	令和４年12月13日㈫	1	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第４回	令和４年12月14日㈬	4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第５回	令和４年12月14日㈬	5	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第６回	令和４年12月16日㈮	4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第７回	令和４年12月16日㈮	5	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第８回	令和４年12月19日㈪	1	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第９回	令和４年12月19日㈪	2	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第10回	令和４年12月20日㈫	1	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第11回	令和４年12月21日㈬	4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第12回	令和４年12月21日㈬	5	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第13回	令和４年12月23日㈮	4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第14回	令和４年12月23日㈮	5	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	看４
第15回	令和４年12月26日㈪	1	〃	地域診断	成果発表準備	看４
第16回	令和４年12月26日㈪	2	〃	地域診断	成果発表	看４
第17回	令和５年１月４日㈬	4	〃	地域診断	成果発表	看４

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第18回	令和５年１月４日㈬	5	伊藤、田渕	困難事例から考える予防活動：多剤耐性結核１	事例検討	看４
第19回	令和５年１月６日㈮	4	〃	困難事例から考える予防活動：多剤耐性結核２	事例検討	看４
第20回	令和５年１月６日㈮	5	〃	困難事例から考える予防活動：多剤耐性結核３	事例検討	看４
第21回	令和５年１月10日㈫	1	〃	困難事例から考える予防活動：児童虐待１	事例検討	看４
第22回	令和５年１月11日㈬	4	〃	困難事例から考える予防活動：児童虐待２	事例検討	看４
第23回	令和５年１月11日㈬	5	〃	健康相談、保健指導１	アセスメント・コミュニケーション技術	看４
第24回	令和５年１月16日㈪	1	〃	健康相談、保健指導２	母子手帳交付時面接ロールプレイ	看４
第25回	令和５年１月16日㈪	2	〃	健康相談、保健指導３	母子手帳交付時面接ロールプレイ	看４
第26回	令和５年１月17日㈫	1	〃	健康相談、保健指導４	母子手帳交付時面接ロールプレイ	看４
第27回	令和５年１月18日㈬	4	〃	家庭訪問１	根拠・技術演習	看４
第28回	令和５年１月18日㈬	5	〃	家庭訪問２	新生児訪問ロールプレイ	看４
第29回	令和５年１月20日㈮	4	〃	家庭訪問３	新生児訪問ロールプレイ	看４
第30回	令和５年１月20日㈮	5	〃	家庭訪問４	新生児訪問ロールプレイ	看４

6　授業形式・視聴覚機器の活用

演習

7　評　価　方　法

各課題の取り組み・到達度（60％）、演習課題の記録・レポート（40％）を総合的に評価する。
３分の２以上の出席を最終評価の条件とする。
欠席した場合は課題の補習が必要である。個別に相談すること。

8　テ　キ　ス　ト

最新 保健学講座１「公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社
最新 保健学講座２「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

9　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

助 産 学 概 論

1 担 当 教 員 名

教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

助産の歴史や教育の現状、分娩と助産実践の現状、助産師の自立性について助産学の概論を広い視野から学習し、助産師の役割と課題が考察できる。
助産ケアを行う際の基盤となる考え方が理解できる。
助産師を取り巻く社会と助産師の意義について考察できる。

4 授 業 概 要

助産学の概念、意義、母子保健と助産の変遷・動向・諸制度・関連法規と助産師の業務独占との関連性を学習し、助産師の役割・活動範囲・責務・機能・職業倫理・マネジメントについて教授する。

1．助産とは何か、助産学とは何かについて理解するために、助産・助産師の定義について学習する
2．助産の対象の理解と基盤となる理論について学習する
3．助産における倫理・権利について学習する
4．助産師教育における歴史と文化について、学習する
5．助産師の活動の場について、その機能から学習する
6．助産師に関わる母子保健に関する関連法規について学習する

5 授 業 内 容

1．助産師について、定義・業務独占・教育・研究の側面から理解する
2．助産師が行うケアの概念について理解する
3．助産業務について、法律・関連法規から理解する
4．助産実践の倫理、倫理原則、意思決定プロセスについて理解する

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月12日㈫	3	立　岡	助産とは 助産を支える理論	・助産行為 ・助産の基本概念 ・助産ケアモデル ・助産に用いる理論（セルフケア理論、愛着理論、母親役割獲得理論）	看実
第２回	令和４年４月19日㈫	3	〃	助産の対象と倫理	・助産の対象の理解 ・リプロダクティブヘルス ・助産実践と倫理的意思決定 ・助産師の職業倫理	看実
第３回	令和４年４月26日㈫	3	〃	助産の歴史と文化 助産学教育の歴史	・産婆の職業化 ・産婆規則 ・産婆の活動 ・医制と産婆教育 ・お産と文化	看実
第４回	令和４年５月10日㈫	3	喜　多	産科医療補償制度と 助産業務	・助産実践の現状と医学的評価 ・産科医療補償制度	看実
第５回	令和４年５月17日㈫	3	立　岡	助産師の業務と管理	・助産師免許 ・助産師の名称独占 ・助産師の業務独占	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第６回	令和４年５月24日㈫	3	立　岡	助産師の能力と キャリア開発	・専門職としての助産 ・キャリア形成と能力 ・周産期医療体制と助産師の能力 ・クリニカルラダー ・ポートフォリオ	看実
第７回	令和４年５月31日㈫	3	〃	助産師と社会	・母子保健の動向 ・健やか親子21 ・制度・政策への視点	看実
第８回	令和４年６月７日㈫	3	〃	国際的母子保健の 理解と助産師の役割	・母子保健に関する指標と動向 ・母子保健施策 ・母子保健に関する国際的活動	看実
第９回	令和４年８月４日㈭	3	〃	試　験 （13：30～15：00）		看１
第10回	令和４年８月16日㈫	1	〃	再試験 （９：00～10：30）		B

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義

7　評　価　方　法

出席（10%）、筆記試験（90%）

8　テ　キ　ス　ト

日本看護協会出版会：新版　助産師業務要覧　第３版【Ⅰ基礎編】2020版.
日本看護協会出版会：新版　助産師業務要覧　第３版【Ⅰ実践編】2020版.
日本看護協会出版会：新版　助産師業務要覧　第３版【Ⅲアドバンス編】2020版.

新 生 児 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
教　　授　丸 尾 良 浩（小児科学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
助　　教　古 川 央 樹（小児科学講座）
助　　教　森 宗 孝 夫（小児科）
特任助教　吉 田 大 輔（小児科）
特任助教　長 井 静 世（小児科）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期　１単位

3 学 修 目 標

1．新生児の生理、新生児疾患の病理に理解に基づく診断と対応について理解できる。
2．ハイリスク妊娠・分娩による胎児への影響と出生直後の早期新生児に必要な医学的介入について理解できる。
3．母体外生活への不適応状態にある新生児の生理と病態について理解できる。
4．我が国における新生児医療の現状について理解できる。

4 授 業 概 要

1．我が国の新生児医療の現状と最先端医療についての概要を教授する。
2．胎児期から新生児期への移行に伴う病態生理について教授する。
3．ハイリスク妊娠・分娩による胎児、早期新生児への母体外生活への影響要因と必要な助産ケアの医学的エビデンスについて教授する。
4．新生児の成長発達、養護と管理について教授する。
5．新生児の主要疾患について教授する。

＜準備学修に必要な時間目安（教室外学修）＞
・各回の講義前までに、教科書を該当箇所を読むこと。
・講義後は、自己にて復習をすること。（講義数；８回×45分）

5 授 業 内 容

新生児学を総論としてとらえ、発育・発達・養護・管理について新生児医療の現状から、その基礎について学習をし、妊娠経過や分娩経過による胎児への侵襲による母体外生活不適応状態の理解に必要な新生児医学の知識について教授する。

また、合併症妊娠や主要な新生児疾患に関する病態、治療についても教授する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月６日㈬	4	立　岡	新生児学総論	・我が国における新生児学 ・新生児医療に関する用語の理解 ・新生児の医学的特徴 ・新生児の発育と発達評価 ・助産に用いる理論 （セルフケア理論、愛着理論、母親役割獲得理論）	看実
第２回	令和４年４月11日㈪	5	丸　尾	黄疸の基礎と臨床	・黄疸の基礎 ・黄疸の病態 ・黄疸の臨床	看実
第３回	令和４年４月13日㈬	4	喜　多 産婦人科医師による講義	新生児の助産診断	・新生児の診察法 ・早期新生児の主要な異常所見と診断的アプローチ ・新生児に必要な検査	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第４回	令和４年４月27日㈬	4	喜　多	ハイリスク妊娠・ 分娩による早期新生児の 母体外生活不適応への 対応	・妊娠糖尿病の母から出生した新生児 ・子宮内胎児発育遅延の児 ・母子感染症 ・胎児不全徴候により出生した児 ・医制と産婆教育 ・お産と文化	看実
第５回	令和４年５月17日㈫	4	長　井	内分泌系・ 代謝系の異常と管理	・新生児の内分泌機能と異常 ・先天性代謝異常による疾患 ・新生児の糖代謝と血糖管理 ・新生児における薬物代謝	看実
第６回	令和４年５月18日㈬	4	吉　田	呼吸器系の生理と臨床	・出生直後の適応生理と蘇生 ・新生児の呼吸生理と特徴 ・肺サーファクタントと呼吸窮迫症候群 ・肺水の動態と一過性多呼吸 ・新生児呼吸障害の管理	看実
第７回	令和４年５月25日㈬	5	森　宗	中枢神経系の障害と臨床 先天異常と遺伝	・新生児の神経学的障害の概要 ・未熟児の脳室内出血 ・低酸素性虚血性脳症 ・脳室周囲白質軟化症 ・奇形と奇形症候群	看実
第８回	令和４年６月24日㈮	5	古　川	循環器・ 血液系の基礎と臨床	・新生児にみられる心疾患の病態生理 ・新生児の血液系の特徴 ・多血症 ・貧血 ・新生児メレナ ・血小板減少症	看実
第９回	令和４年８月２日㈫	2	喜　多	試　験 （11：00～12：30）		看１
第10回	令和４年８月15日㈪	3	〃	再試験 （13：30～15：00）		看１

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義

7　評　価　方　法

・学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う
・全講義数の３分の２以上の出席をもって、筆記試験の受験資格要件とする
・定期試験（90％）、平常点（受講態度）（10％）

8　テ　キ　ス　ト

仁志田博司著；新生児学入門　第５版，2018.医学書院

9　オフィスアワー（授業相談）

講義終了から18時まで。メールで事前にアポをとってください。

10　学生へのメッセージ

助産師課程の新カリキュラムとして、新たに新生児学が開講されます。助産師として、新しい命とどのように向き合うのか、その基本的医学知識を教授する科目です。

11　授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

主担当教員は産科医師として35年の実務経験を要する。

助産診断・技術学Ⅰ

1　担当教員名

教　　授　立岡弓子（臨床看護学講座）
教　　授　喜多伸幸（臨床看護学講座）
特任教授　髙橋健太郎（総合周産期母子医療センター）
講　　師　土川　祥（臨床看護学講座）
助　　教　舘下麻美（臨床看護学講座）
助　　教　宮武美佳（臨床看護学講座）
特任助教　大江良子（臨床看護学講座）

2　配当学年等

第３学年　後期後半　３単位

3　学修目標

1．助産診断学の概念を理解できる。
2．妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にあり正常経過をたどる対象への助産診断・技術について理解できる。
3．妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の正常経過から逸脱する場合の対象への助産診断・技術について理解できる。
4．助産師が取り扱う正常分娩の分娩介助技術について、基本原理とスキルが習得できる。

4　授業概要

・妊娠期から産褥期、新生児期の正常な経過を理解するために、助産診断及び技術の基本的な知識・技術や思考過程について学習する。
・具体的事例を通して、授業での学びが臨床での判断やケアと深く結びついていることを学習する。
・参加型演習を通して、対象の正常経過を維持・増進し、正常からの逸脱を予防するための具体的ケアについて学習する。
・分娩介助技術の基本原理と手技を学習する。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
・各回の演習までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと
・演習後、自己学習をしてください（講義回数23回×45分程度）
・特に分娩介助技術は、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5　授業内容

助産診断の概念を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期に必要な診断技術についての講義・演習を行う。演習については、分娩経過の正常性を意識した診断技術を中心に助産業務ガイドラインの内容を踏まえて教授し、アクティブラーニングを取り入れて行う。

正常分娩の分娩介助技術については、清潔操作や分娩室の環境整備から、胎児娩出、胎盤娩出、分娩後２時間までの母児管理までの一連の助産診断・技術について教授する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月12日㈪	1	土川、立岡	分娩期： 正常分娩経過と助産診断	・分娩期の助産診断と特徴 ・正常分娩経過の経過診断と健康生活診断	看実
第２回	令和４年12月12日㈪	2	土川、立岡 舘下、宮武 大江	分娩期： 正常分娩における胎児の 下降と回旋	・胎位、胎向　胎勢の助産診断技術 ・児頭の回旋の助産診断 ・骨盤の形態と解剖 ・児頭の下降の機序と評価	看実
第３回	令和４年12月13日㈫	4	立　岡	助産診断とは臨床推論と 助産診断 妊娠期の正常逸脱の 早期発見に関する 臨床推論と診断技術	・助産診断の概念・定義・特徴 ・妊娠期助産診断の特徴 ・助産診断への臨床推論の応用	看実
第４回	令和４年12月13日㈫	5	立岡、喜多 舘下、宮武 大江 助教・助手 TA	妊娠高血圧症候群の 助産診断とケア 妊娠糖尿病の 助産診断とケア	・妊娠高血圧症候群の助産診断 ・子癇発作への緊急対応 ・妊娠糖尿病の助産診断と分娩への影響	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第５回	令和４年12月16日㈮	3	舘下、宮武 大江 助教・助手	内診の実際	・内診の目的 ・内診のタイミング ・内診所見にもとづく正常分娩経過の アセスメント	看実
第６回	令和４年12月19日㈪	1	喜　多	胎児心拍モニタリングⅠ	・胎児心拍数陣痛図の判読 ・胎児機能不全の定義 ・胎児心拍数波形のレベル分類とその対応	看実
第７回	令和４年12月19日㈪	2	立岡、喜多 舘下、宮武 大江 TA	胎児心拍モニタリングⅡ	・脳性麻痺事例からみた 胎児心拍数陣痛図の判読演習	看実
第８回	令和４年12月20日㈫	4	立岡、喜多 舘下、宮武 大江 助教・助手 TA	アクティブラーニング （胎児心拍モニタリングの 助産診断）	・常位胎盤早期剥離の早期助産診断と 初期対応	看実
第９回	令和４年12月20日㈫	5	髙橋、喜多 助教・助手	胎児発育と助産診断	・超音波診断について ・胎児の大きさと位置 ・羊水量・胎盤の位置 ・骨の形成状態 ・胎児奇形の診断	看実
第10回	令和４年12月23日㈮	3	髙橋、喜多 宮武 助教・助手	分娩期： 会陰切開・ 裂傷の縫合の実際	・会陰裂傷の分類と縫合 ・持針器の扱い方 ・縫合 マットレス縫合 連続縫合	看実
第11回	令和４年12月26日㈪	1	土川、舘下 宮武、大江	分娩期： 帝王切開時の助産診断	・帝王切開術の適応 ・緊急帝王切開術とその前後の アセスメント・ケア	看実
第12回	令和４年12月26日㈪	2	舘　下	分娩期： パルトグラムを用いた分娩 経過予測	・分娩経過曲線 ・パルトグラムについて ・パルトグラムの記入方法 ・パルトグラムを用いた分娩経過予測	看実
第13回	令和４年12月27日㈫	4	〃	分娩期：分娩経過と記録	・助産計画の立案と記録 ・分娩経過記録 ・助産記録	看実
第14回	令和４年12月27日㈫	5	舘下、宮武 大江	分娩期： 正常分娩経過と助産診断	・事例演習：Paper patient / Role play	看実
第15回	令和５年１月６日㈮	3	土川、舘下 宮武、大江 TA	新生児期： 新生児と助産診断	・新生児期の助産診断の特徴 ・新生児期の経過診断・健康生活診断 ・出生直後から生後24時間の 新生児の助産診断 ・分娩外傷	看実
第16回	令和５年１月10日㈫	4	土川、舘下 宮武、大江	分娩期： 正常経過からの逸脱と 助産診断	・事例演習：Paper patient / Role play	看実
第17回	令和５年１月10日㈫	5	立　岡 TA	分娩期： 回旋異常の助産診断	・第１回旋 第２回旋の異常 ・定位異常 ・進入異常	看実
第18回	令和５年１月16日㈪	1	喜多、宮武 TA	分娩期： シミュレーターを用いた器 械分娩の実際（医師臨床教 育センターにて実施予定）	・急遂分娩の実際 ・吸引分娩 ・鉗子分娩 ・子宮底圧迫法	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第19回	令和５年１月16日㈪	2	立　岡 TA	産褥期： 母乳哺育と助産診断１	・なぜ母乳が必要か ・乳房の解剖と生理 ・乳汁の産生・分泌・ホルモン ・乳房の生理的緊満 ・母乳と喫煙・アルコール・感染・薬・アレルギー ・母乳の保存・搾乳	看実
第20回	令和５年１月17日㈫	4	〃	産褥期： 母乳哺育と助産診断２	・乳頭・乳房トラブルと授乳の実際	看実
第21回	令和５年１月17日㈫	5	立岡、喜多 舘下、宮武 大江 助教・助手 TA	産褥期： 産褥経過と助産診断 アクティブラーニング	・分娩後24時間の産褥経過の助産診断 ・産科出血への助産ケア	看実
第22回	令和５年１月20日㈮	3	〃	多胎妊娠・羊水の異常の分娩管理と助産ケア	・多胎分娩の助産技術 ・羊水過多　羊水過小の分娩対応と助産技術	看実
第23回	令和５年２月20日㈪	1	立　岡	試　験（９：00～10：30）		看実
第24回	令和５年３月１日㈬	1	〃	再試験（９：00～10：30）		看実

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義、技術演習、事例演習、グループワーク、発表

7　評　価　方　法

筆記試験（85%）、アクティブラーニングへの参加度（15%）により評価する（定期試験で60%以上をとる必要がある）。
全回出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

8　テ　キ　ス　ト

北川眞理子他；今日の助産（改定４版）；マタニティサイクルの助産診断・実践課程、南江堂，2020.
立岡弓子編著：周産期ケアマニュアル　第３版，サイオ出版，2020.
立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス. 日総研出版, 2013.
公益社団法人日本助産師会；助産業務ガイドライン2019，日本助産師会出版
公益社団法人日本助産師会；乳腺炎ケアガイドライン2020，日本助産師会出版

9　オフィスアワー（授業相談）

適宜、質問をお受けいたします。

10　学生へのメッセージ

助産師の立場で行う臨床診断、そしてこれに基づく助産技術（助産ケアの実践）は、助産師の専門性を維持する上で最も重要な部分です。責任をもって正常範囲内にある母子のケアに当たることができるよう、また正常からの逸脱を的確に判断できるよう、臨床実習を前にしっかりと学んでください。講義以外の授業形式もありますので、積極的な参加を望みます。

11　授業用E-mail

ytakeoka@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院　産科単科病院　産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

周 産 期 病 態 学 Ⅰ

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
准 教 授　辻　　俊一郎（母子診療科）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

1．周産期における正常妊娠から逸脱した疾患の要因および病態について理解を深める。
2．周産期におけるハイリスク妊娠の病態について理解できる。
3．胎児機能不全の要因・病態の理解と母児管理ならびに助産ケアについて学ぶ。
4．異常妊娠の臨床推論を実施できる。

4 授 業 概 要

1．妊娠期の異常に関して、病態と生理的機序について講義形式にて学習を展開する。
2．検討・議論を取り入れながら、時系列ごとに助産診断が行えるように参加型形式にて学習を行う。
3．過去の国家試験問題を開設することにより、さらに病態の理解を深める。

なお、１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

1．ハイリスク妊娠の生理学・解剖学・組織学的側面を理解する。
2．ハイリスク妊娠経過における病態を根拠に、助産診断過程を立案し、助産目標・助産ケアについて学習する。併せて臨床推論を実施する。
3．胎児機能不全に関する講義、事例を用いたアセスメントを実施する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	4	喜　多	異常妊娠その１	異所性妊娠 流産 妊娠悪阻	看実
第２回	令和４年４月15日㈮	4	〃	異常妊娠その２	早産 切迫早産	看実
第３回	令和４年４月22日㈮	4	〃	異常妊娠その３	妊娠高血圧症候群	看実
第４回	令和４年５月６日㈮	4	辻	異常妊娠その４	胎盤の異常	看実
第５回	令和４年５月20日㈮	4	喜　多	異常妊娠その５	妊娠中の糖代謝異常	看実
第６回	令和４年５月27日㈮	4	〃	異常妊娠その６	多胎妊娠 羊水の異常	看実
第７回	令和４年６月３日㈮	4	〃	異常妊娠その７	胎児発育異常	看実
第８回	令和４年６月10日㈮	4	〃	異常妊娠その８	胎児機能評価 心拍数モニタリング エコー	看実
第９回	令和４年８月３日㈬	2	〃	試　験（11：00～12：30）		看１
第10回	令和４年８月17日㈬	2	〃	再試験（11：00～12：30）		B

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、演習

7 評 価 方 法

出席（10%）、定期試験（90%）

8　テ　キ　ス　ト

荒木勉：最新産科学，正常編　異常編　文光堂，2008.
北川眞理子他編：今日の助産，南江堂
立岡弓子編：周産期ケアマニュアル、サイオ出版

9　参　考　文　献

医療情報科学研究所編：病気が見えるVol.10産科，メディックメディア
日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修　産婦人科診療ガイドライン2020.

10　主担当教員の実務経験

医師

周 産 期 病 態 学 Ⅱ

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　前期前半　１単位

3 学 修 目 標

1．妊娠期・分娩期の合併症妊娠などの偶発事例を通して、助産ケアを学ぶ。
2．周産期における基礎的薬理学を理解し、その助産ケアについて学ぶ。
3．周産期に発症する合併症への理解を深め、さらに薬理学的作用から母体や胎児への影響ならびに妊娠・分娩への影響について理解できる

4 授 業 概 要

1．妊娠期・分娩期の合併症妊娠などの偶発事例の助産診断・助産ケアを教授する。
2．周産期における基礎的薬理学を理解し、その助産診断・助産ケアを教授する。

なお、１コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに１コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

1．周産期における薬理学の講義、事例を用いたアセスメントを実施する。
2．妊娠合併症に関する病態を理解し、妊娠・分娩・産褥経過への影響、胎児発育への影響について学習する。
3．妊娠期・分娩期のハイリスク事例のアセスメントと必要なケアを講義形式

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月８日㈮	5	喜　多	合併症妊娠その１	心疾患 内分泌疾患 膠原病	看実
第２回	令和４年４月15日㈮	5	〃	合併症妊娠その２	感染症 TOACH症候群	看実
第３回	令和４年４月22日㈮	5	〃	産科出血	産科DIC	看実
第４回	令和４年５月６日㈮	5	〃	新生児の異常	低出生体重児 呼吸障害 循環障害 黄疸	看実
第５回	令和４年５月20日㈮	5	〃	分娩誘発・促進	子宮復古不全 産褥晩期出血 産褥熱 産褥血栓塞栓症 尿路系疾患	看実
第６回	令和４年５月27日㈮	5	〃	周産期のメンタルヘルスケア	産褥精神障害	看実
第７回	令和４年６月３日㈮	5	〃	周産期のメンタルヘルスケア	産褥精神障害	看実
第８回	令和４年６月10日㈮	5	〃	周産期の薬理学	分娩誘発・促進剤 止血薬 降圧剤 抗菌薬	看実
第９回	令和４年８月３日㈬	3	〃	試　験（13：30～15：00）		看１
第10回	令和４年８月17日㈬	3	〃	再試験（13：30～15：00）		B

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7　評　価　方　法

出席状況10％、定期試験90％により評価する（定期試験で60％以上をとる必要がある）。
全回出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

8　テ　キ　ス　ト

山本あい子他編：助産師基礎教育テキスト１～７．　日本看護協会出版会, 2015.

9　参　考　文　献

北川眞理子他編：今日の助産. 第３版, 南江堂, 2020.
産婦人科診療ガイドライン　産科編　2020
公益社団法人日本助産師会：助産業務ガイドライン産科編. 2019.
荒木勤著：最新産科学　正常編・異常編　改定第22版，南江堂.

10　学生へのメッセージ

病態についての理解を深めた後、事例を通して助産ケアの実際について学びます。助産学実習が安全に行う事が出来る知識を習得します。

11　主担当教員の実務経験

医師

健 康 教 育 演 習

1 担 当 教 員 名

教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
准 教 授　梅 田 朋 子（地域医療教育研究拠点）
講　　師　輿 水 めぐみ（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田 渕 紗也香（公衆衛生看護学講座）
特任助手　大 江 良 子（臨床看護学講座）
教　　授　伊 藤 美樹子（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第３学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

・健康の維持・回復、健康障害の予防と回復を目的に、個人、グループ、及び集団を対象に展開する健康教育の理論及び方法について、とりわけ思春期や生産年齢期を対象集団として、地域特性や発達課題をアセスメントする技術の習得と対象者のニーズに合わせた健康教育の企画立案と実施、評価の一連のプロセスを通して統合し、健康教育の技術を習得する。
・集団健康教育の理論を用いて、対象者の発達段階を踏まえた性教育に関する健康教育の計画を立案し模擬的に実施する。
・保健師課程履修生ならびに助産師課程履修生が学びあいを通じて互いの専門性や役割を学び、また連携や協働することについての理解を深める。

4 授 業 概 要

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

・アクティブラーニングを取り入れた能動的学習方法にて実施する。
・思春期や生産年齢期にある対象者のアセスメントに必要な医療技術に関する知識、技能について実践的に学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年12月12日(月)	4	伊藤、輿水、田渕	健康教育の理論と方法１		看４
第２回	令和４年12月12日(月)	5	〃	健康教育の理論と方法２		看４
第３回	令和４年12月19日(月)	4	〃	健康教育の企画と評価		看４
第４回	令和４年12月19日(月)	5	立岡、喜多、大江	フィジカル イグザミネーション１	婦人科診察、細菌検査、性行感染症の診断	看４
第５回	令和４年12月26日(月)	4	〃	フィジカル イグザミネーション２	子宮がん検診	看４
第６回	令和４年12月26日(月)	5	立岡、喜多、大江 輿水、田渕	フィジカル イグザミネーション３	助産師課程：婦人科診察、細菌検査、子宮がん検診の実技演習 保健師課程：HIV抗体検査と結果の通知、カウンセリング	看４
第７回	令和５年１月16日(月)	3	立岡、喜多、大江	人工妊娠中絶	助産師課程：シミュレーターによる演習 保健師課程：若年妊婦の支援・他職種連携	看４
第８回	令和５年１月16日(月)	4	立岡、梅田 喜多、大江	乳腺の異常	乳腺の異常の診断、セルフチェック	看４
第９回	令和５年１月23日(月)	3	立岡、喜多、大江	セクシュアリティ・ 性暴力	助産師課程：証拠採取とカウンセリング 保健師課程：性の多様性・セクシャルマイノリティの理解	看４

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第10回	令和５年１月23日㈪	4	伊藤、輿水、田渕 立岡、喜多	健康教育計画立案１	思春期や生産年齢期を対象にした マイクロティーチング	看４ 看実
第11回	令和５年１月30日㈪	3	〃	健康教育計画立案２	思春期や生産年齢期を対象にした マイクロティーチング	看４ 看実
第12回	令和５年１月30日㈪	4	〃	健康教育計画立案３	思春期や生産年齢期を対象にした マイクロティーチング	看４ 看実
第13回	令和５年１月30日㈪	5	〃	健康教育計画立案４	思春期や生産年齢期を対象にした マイクロティーチング	看４ 看実
第14回	令和５年２月９日㈭	3	〃	健康教育の実施１	成果発表	看４
第15回	令和５年２月９日㈭	4	〃	健康教育の実施２	成果発表	看４

6　授業形式・視聴覚機器の活用

助産師課程と保健師課程の合同で実施する。
一部は課程別に分かれて実施する。

7　評　価　方　法

実践状況 30%、記録及びレポート60%、グループワークへの貢献度10%で評価する。

8　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（喜多：nkita@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。あるいは各回担当の先生へe-mailで連絡してください。

9　主担当教員の実務経験

医師

第４学年

法 医 看 護 学

1 担 当 教 員 名

教　　授　一 杉 正 仁（社会医学講座（法医学部門））
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
准 教 授　中 村 磨 美（社会医学講座（法医学部門））
助　　教　高 相 真 鈴（社会医学講座（法医学部門））

非常勤講師
駒 井 和 子（滋賀県訪問看護ステーション協会　会長）
松 村 裕 美（おうみ犯罪被害者支援センター　副理事長）

2 配 当 学 年 等

第４学年　後期　１単位

3 学 修 目 標

法医学に関する知識をもとに、医療現場で活躍できる

4 授 業 概 要

法医学に関する知識をもとに、医療現場で活躍できることを到達目標とする。すなわち、死の判定、在宅看取りなどにおいて医療チームとして、被虐待者の早期発見と心のケア、大規模災害時などにおけるグリーフケアなどで円滑に行動できるよう基礎的な知識を教授する。

【準備学修・事後学修について】
・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授 業 内 容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月４日㈫	3	一　杉	わが国の死因究明制度	わが国の死因究明制度を理解し、現状の問題点を把握する	看4
第２回	令和４年10月４日㈫	4	駒井、一杉	死の判定と在宅看取り	死の判定と在宅看取りをめぐる背景を理解する	看4
第３回	令和４年10月11日㈫	3	一　杉	突然死とグリーフケア	突然死の背景と、グリーフケアの重要性を理解する	看4
第４回	令和４年10月11日㈫	4	高　相	外因死の現状と予防対策（大規模災害を含む）	外因死の背景と予防対策を理解するとともに大規模災害における医療者の役割を把握する	看4
第５回	令和４年10月18日㈫	3	立　岡	性暴力と看護診断	性暴力被害者に対する看護師の役割と実践法を学ぶ	看4
第６回	令和４年10月18日㈫	4	中　村	被虐待者へのアプローチ	被虐待児童・高齢者・障がい者への診断やケアの実践法を学ぶ	看4
第７回	令和４年10月25日㈫	3	森口、一杉	救急医療と看護学	救急医療現場における看護師の役割と実践法を学ぶ	看4
第８回	令和４年10月25日㈫	4	松村、一杉	犯罪被害者支援センターにおけるケア・予防対策	滋賀県の犯罪被害者支援センターにおいて実践されているケアや予防対策を学ぶ	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

各担当者がPCを用いて概説する。本科目は実際に社会で発生していることに基づいた内容である。したがって、現場の状況や死傷者の画像等をもとに講義が行われる。写真撮影および録音・録画は厳禁とする。

7 評 価 方 法

出席状況、聴講態度、筆記試験結果をもとに総合的に判定する。なお、不正行為があった場合には、単位取得を認めない。

8　オフィスアワー（授業相談）

アポイントをとってください。

9　主担当教員の実務経験

一杉：医師、日本法医学会法医指導医・認定医、社会医学系指導医・認定医、おうみ犯罪被害者支援センター副理事長
中村、高相：医師、日本法医学会法医認定医
立岡：アドバンス助産師、性暴力対応看護師
駒井：滋賀県訪問看護ステーション協会会長、訪問看護認定看護師
森口：集中治療認定看護師
松村：おうみ犯罪被害者支援センター副理事長、犯罪被害者支援相談員

看護統合実践特論

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美　（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希　（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　後期　１単位

3　学　修　目　標

これまでに学修した看護技術のブラッシュアップを行い、実践能力の向上を目指す。
また、臨床看護実践におけるジェネラリストとスペシャリストそれぞれの役割について理解し、自身の方向性を考える。

4　授　業　概　要

・ジェネラリストの役割について学ぶ
・専門分野に限らない幅広い分野で求められる基本的な推論、判断、看護技術について学ぶ。
・スペシャリスト（専門看護師、認定看護師）の役割について学ぶ。
・自身が臨床看護師として目指す将来像と卒前卒後の学修課題について考える。

準備学修：
成人保健看護学各論、成人保健看護学演習１、成人保健看護学演習２の講義資料の該当部分、およびwebclassへ掲載された講義資料を熟読すること。
事後学修：
各授業終了後に課された小レポートもしくは課題レポートを作成すること。
なお、これらの事前事後学修には90～120分程度を要するため、計画的に自己学習を進めること。

5　授　業　内　容

臨床看護実践で質の高い看護を持続的に提供し、また日々進歩する医療に即してケアの質を更に向上させるためには、オールラウンダーであるジェネラリストと各専門分野のスペシャリストの連携、さらにはスタッフナースとの協力・連携が重要である。
本科目では、ジェネラリストの教育に従事する臨床教育看護師や、専門分野に精通した専門看護師・認定看護師の講義および演習から、自身が看護基礎教育課程（学部）で修得すべき課題および卒後教育において重視すべき課題を明らかにするとともに、将来の臨床家として目指す方向性を考える。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年10月５日㈬	3	宮　松	ガイダンス 講義 「患者を支える看護の両輪：ジェネラリストとスペシャリスト」	様々な健康障害を抱えて入院・通院する患者へのケアを担う看護師の、ジェネラルリストとスペシャリストのそれぞれの役割や重要性について概説する。	看4
第２回	令和４年10月５日㈬	4	宮　松 舩　冨 （看護臨床教育センター・看護臨床助教・教育看護師）	講義 「優れたジェネラリストとなるために身につけるべき知識と技術」（仮）	ジェネラリストとは「経験と継続教育によって習得した暗黙知に基づき、その場に応じた知識・技術・能力が発揮できる者」と定義されている（日本看護協会）。臨床看護実践で重要な役割を果たすジェネラリストへと成長するために、卒前卒後に修得すべき知識と技術について概説する。	看4
第３回	令和４年10月12日㈬	3	宮　松 看護臨床教育センター教育看護師・清原	演習①	呼吸循環管理演習	看4
第４回	令和４年10月12日㈬	4	宮　松 看護臨床教育センター教育看護師・川原	演習②	輸液・栄養管理演習	看4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　容	教室
第５回	令和４年10月19日㈬	3	宮　松 看護臨床教育センター 教育看護師・清原	演習③	周術期管理演習	看4
第６回	令和４年10月19日㈬	4	宮　松 附属病院看護部・ 専門看護師	講義 「専門看護師の役割と発展性」（仮）	専門看護師の役割は、自身が高度な知識と技術に基づいて直接ケアを提供する実践活動だけでなく、患者の日常を支える看護スタッフへの教育、相談、調整､倫理調整などが含まれる。また、こうしたケアに関わる活動だけでなく、専門領域での臨床看護研究の推進も重要な役割である。これらの諸活動について、自身の経験を踏まえて教授する。	看4
第７回	令和４年10月26日㈬	3	宮　松 附属病院看護部・ 認定看護師	講義 「認定看護師の役割と発展性」（仮）	認定看護師制度の歴史は長く、数多くのエキスパート・ナースを輩出している。認定看護師は教育過程を経て、より高度な臨床推論・臨床判断を行うことで、各領域の臨床看護の向上を実現している。本講義では、自身の認定看護師としての経験から、その専門性および病棟看護師との連携の在り方について教授する。	看4
第８回	令和４年10月26日㈬	4	宮　松 清　原	グループワーク	自身の看護師としての将来像を描き、そのために必要な学修について学生同士で討論する。	看4

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習、グループワーク

7　評　価　方　法

授業態度（20%）、小レポート（30%）、課題レポート（50%）の総合評価により判定する。

8　テ　キ　ス　ト

特に指定しない。資料は授業前にwebclass上で配布する。

9　参　考　文　献

特に指定しない。

10　オフィスアワー（授業相談）

office hour：月~金曜日 12時～13時　509号室、516号室（看護学科棟５階）（教室全体で対応）

11　学生へのメッセージ

本科目は、臨床看護師を目指す学生へ提供される選択科目である。本授業は集中で開催され、各講義・演習の連動および学修の積み重ねの観点から、原則として全日程の出席が必要である。

助産師課程・保健師課程・訪問看護師コースの履修生は、講義日時が重複する場合があるので、本科目の履修登録前に単位認定者へメールで相談をすること。

12　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

看護師

看 護 学 研 究

1 担 当 教 員 名

教　　授　桑 田 弘 美（臨床看護学講座）
教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）
教　　授　佐々木 雅 也（基礎看護学講座）
教　　授　笠 原 聡 子（基礎看護学講座）
教　　授　宮 松 直 美（臨床看護学講座）
教　　授　河 村 奈美子（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
教　　授　伊 藤 美樹子（公衆衛生看護学講座）
教　　授　辻 村 真由子（公衆衛生看護学講座）
准 教 授　玉 木 朋 子（基礎看護学講座）
准 教 授　荻 田 美穂子（臨床看護学講座）
講　　師　山 下 敬（基礎看護学講座）
講　　師　土 川 祥（臨床看護学講座）
講　　師　輿 水 めぐみ（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第４学年　通年　２単位

3 学 修 目 標

目的：学部におけるこれまでの学習成果を基盤として、学生各自が看護学上の疑問・関心に基づいて積極的に先行文献を渉猟・検討し、研究課題を見出す。　得られた課題に関連の深い専門分野の教員による指導のもとで看護研究を実施する。それらの一連の過程を通して研究方法の基礎について学び、看護学の発展に寄与する素養を身につけることを目的とする。

4 授 業 概 要

看護研究方法論で学んだことを基礎とし、配属された卒業研究担当教員のもとで、研究計画を洗練し、看護研究論文を作成する。

5 授 業 内 容

決定しているゼミにおいて、看護研究担当教員の直接指導により卒業論文を作成する。文献の探索から調査や実験を経て、卒業論文の作成に至るまでの一連のプロセスについて詳細に学ぶ。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

それぞれのゼミおける看護研究担当教員の方針・方法に基づく。

7 評 価 方 法

論文作成過程および論文内容を総合的に評価する。
提出期限：2023年１月12日㈭

8 テ キ ス ト

教科書・参考書は各指導教員の指示を受けること。
なお、参考URLより「論文および抄録作成の手引き」を参照のうえ、規定の書式に基づいて卒業論文を作成し提出すること。

9 学生へのメッセージ

学生は受け身的な態度に終始することなく、積極的に教員と話し合いながら論文作成にあたって欲しい。

10 授業用URL

http://gakunai.shiga-med.ac.jp/hqgaku/soturon_tebiki.PDF

11 主担当教員の実務経験

看護師

国 際 看 護 実 践

1 担 当 教 員 名

教　　授　相 見 良 成（基礎看護学講座）
教　　授　佐々木 雅 也（基礎看護学講座）
教　　授　宮 松 直 美（臨床看護学講座）
教　　授　桑 田 弘 美（臨床看護学講座）
教　　授　河 村 奈美子（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　遠 藤 善 裕（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
准 教 授　荻 田 美穂子（臨床看護学講座）
講　　師　土 川 　 祥（臨床看護学講座）
教　　授　伊 藤 美樹子（公衆衛生看護学講座）
講　　師　輿 水 めぐみ（公衆衛生看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第４学年　通年　２単位

3 学 修 目 標

海外での研修を通じて他国の看護の実際を学び、看護領域における国際性を涵養する。

4 授 業 概 要

海外での研修により、現地の看護教育や看護実践の現場を経験する。事前に英語でのコミュニケーション能力を研いておくとこが望ましい。帰国後にレポートの提出と報告会での帰国報告を求める。

5 授 業 内 容

2022年度は開講しない。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

海外の施設における見学を主体とした学修。

7 評 価 方 法

研修終了後のレポートおよび報告会での発表内容を評価する。

8 オフィスアワー（授業相談）

質問などはますはメール（aimi@belle.shiga-med.ac.jp）で相見まで。

9 学生へのメッセージ

海外での貴重な経験が待っています。ふるって参加してください。

10 主担当教員の実務経験

医師

母 性 看 護 学 実 習

1 担 当 教 員 名

講　　師　土 川　　祥（臨床看護学講座）
教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
助　　教　舘 下 麻 美（臨床看護学講座）
助　　教　宮 武 美 佳（臨床看護学講座）
特任助手　大 江 良 子（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第４学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

1．周産期における妊産褥婦と新生児の生理的変化が理解できる
2．周産期における母児とその家族について、オレムのセルフケア理論を基に対象を包括的に理解し、ウエルネスの看護理論の視点からアセスメント、看護診断ができる
3．看護診断から優先順位を考え、看護目標を到達するための個別的な看護計画を立案することができる。
4．看護計画に基づいて周産期における母子へのケアを実践し、目標に沿って評価することができる
5．対象に必要な保健指導案を作成し、グループ間で共有し、対象者の個別性に合わせた保健指導について理解を深めることができる
6．妊産褥婦、新生児への看護を通して、母子相互作用について理解することができる
7．ハイリスクの妊婦及び褥婦のケアについて理解することができる
8．母性看護学の特徴を整理し、自己の母性に関する考え方を明確にできる
9．母子保健チームの一員として、周産期に携わる助産師・看護師の役割と責任について理解することができる
10．産科医療施設における周産期医療と看護の役割について、その特性を理解し、地域母子保健の視点から考えることができる

4 授 業 概 要

妊娠・分娩・産褥期の女性及び胎児期を含む新生児とその家族における身体的・心理的・社会的特性を理解し、看護診断をもとに必要な母性看護を実践するための能力を養う。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
・実習までに事前オリエンテーション（30分程度）のためリーダーが担当教員へアポイントをとること
・事前オリエンテーションで提示した課題学習を実施してから実習に臨むこと（180分程度）
・実習後、自己学習を行うこと（１日45分程度）
・看護技術については、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評 価 方 法

母性看護の理解（60％：記録30％、カンファレンスへの参加状況15％、面接評価15％）、２/３以上の出席（10％）、技術・姿勢・態度（30％）
面接評価は、最終日に個人面接を行う

7 テ キ ス ト

小林康江他編：母性看護の実践．メディカ出版，2019.
立岡弓子編著：新訂版　周産期ケア・マニュアル第３版．サイオ出版，2020.
立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック．サイオ出版，2022.

8 参 考 文 献

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス　日総研出版, 2013

9 オフィスアワー（授業相談）

実習前は担当教員へメールでアポイントを取ること
実習期間中は適宜担当教員に相談すること

10　学生へのメッセージ

周産期看護において、ウエルネス理論、オレムのセルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、必要な看護技術、保健指導を行います。ご協力いただく対象者の方への感謝の気持ちを忘れず、真摯に取り組んでください。

11　授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12　参考E-mail 1

mn411906@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 2

mmiyatak@belle.shiga-med.ac.jp

14　参考E-mail 3

ryoko55@belle.shiga-med.ac.jp

15　主担当教員の実務経験

臨床経験11年の助産師

小児保健看護学実習

1　担　当　教　員　名

教　　授　桑　田　弘　美　（臨床看護学講座）
講師(学内)　白　坂　真　紀　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

1．小児の発達段階の特徴や健康障害による影響を理解し、援助の必要性を考える。
2．小児の健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。
3．小児の健康障害が家族に与える影響を理解し、援助を考える。
4．小児の地域での生活を想定し、継続看護と多職種との連携について考える。
5．NICUの特徴と看護について考えることができる。
6．小児と家族に人権を尊重したケアの必要性を理解する。

4　授　業　概　要

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

5　授　業　内　容

実習場所：滋賀医科大学医学部附属病院、NICU/GCU病棟、小児科外来
実習方法：１名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。小児への看護の実践から、地域で生活する小児と小児を取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。

1．受け持ち患児への看護…看護過程を展開する。
2．小児科外来実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、検査・処置の介助。継続看護について考える。
3．NICU/GCU実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、ケアの実践、検査・処置の見学。ファミリーセンタードケア、ディベロップメンタルケアなど、看護の特徴を学ぶ。

詳細は、実習要項参照。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

1．１名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。
2．子どもへの看護の実践から､地域で生活する子どもと子どもを取り巻く環境についての視点を持ち､必要な援助について考える。
3．NICU/GCU、小児科外来では、診察場面の見学、指導者と一緒にケアを実践する。継続看護、家族看護について学ぶ。
4．新型コロナ感染症の状況による大学からの指針に従って、実習方法を臨機応変に対処する。

7　評　価　方　法

出席状況、実習態度、実習記録を総合的に評価する。

8　テ　キ　ス　ト

サイオ出版「母性看護　小児看護　実習あるあるお助けブック」

9　参　考　文　献

発達段階からみた小児看護過程　医学書院
小児看護学実習DVD 医学映像教育センター
　第１巻　小児看護学実習の特徴と看護学生の心得
　第２巻　小児病棟での実習の実際
　第３巻　小児科外来とNICU・GCU実習の実際

10　学生へのメッセージ

1．学生自身の小児期感染症の罹患状況を把握しておく。
　実習開始前に検温及び体調のチェックを必ず行う。
2．自分の健康管理を心がけ、感染症症状など異常がある場合は、速やかに受診し、担当教員・臨床指導者に連絡する（自己判断しない）。
3．子どもの安全を確保し、事故防止に留意する。
4．子どもたちは、受け持ちをする学生と遊んだり、勉強したりすることを、とても楽しみにしている。そのため、体調管理には十分に留意し、休まないこと、約束は必ず守ることを心がけてほしい。

11　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　４単位

3　学　　修　　目　　標

主として成人期の入院患者を受け持ち、健康問題を持つ対象者を疾患発症、急性増悪、慢性的な治療経過など療養の時期に応じたケアの基本を学ぶ。加えて対象者を精神的・身体的・社会的側面から理解し、個別性に応じた健康の維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。

また、対象者の療養支援上必要な種々の専門的介入方法について学び、健康障害の治療、回復にむけての過程における保健医療チームのかかわりと看護の役割を理解する。

4　授　　業　　概　　要

以下、詳細は実習要項を参照

5　授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6　評　　価　　方　　法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

8　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9　主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　宮　松　直　美（臨床看護学講座）
助　　教　川　原　瑞　希（臨床看護学講座）
助　　手　清　原　麻衣子（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　２単位

3　学　　修　　目　　標

主として成人期の入院患者を受け持ち、周手術期にある対象者を精神的・身体的・社会的側面から捉え、健康の回復および維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。また、周手術期における病態生理や治療に伴う合併症のリスク、生じうる問題について学び、多様なニーズに応じた看護を実践するために必要な能力を養う。

4　授　　業　　概　　要

以下、詳細は実習要項を参照

5　授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6　評　　価　　方　　法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7　オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

8　授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
特 任 助 教　　金　丸　恭　子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　１単位

3　学　　修　　目　　標

１．実習目的
　１）高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知り、高齢者個々に適した日常生活の在り方を思考するための基盤を培う
　２）高齢者の多様な特性を踏まえて交流し、日常生活援助・介助を実体験する
　３）様々な健康レベルにある高齢者の特徴を理解し、多様な療養の場での高齢者に対する看護師の役割について思考する

２．実習目標
　１）高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知ることができる
　２）高齢者の多様な特性が日常生活の様々な場面で影響していることを理解できる
　３）高齢者を取り巻く社会資源やその活用状況の実態、関係機関や多職種との連携・協働の実際を知ることができる
　４）高齢者を多様な特性を踏まえた姿勢や態度で交流することができる

4　授　　業　　概　　要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5　授　　業　　内　　容

１．実習期間
　実習ローテーションで配置された１週間（土日祝日を除く）

２．実習内容（概要）
　１）臨床実習
　　滋賀医科大学医学部附属病院の外来での実習（２日間）
　２）臨地実習
　　高齢者福祉施設（指定された１施設）での実習（２日間）
　３）臨地臨床実習での学びの共有・統合（１日）
　　グループワークと発表

6　授業形式・視聴覚機器の活用

臨地臨床実習は指定された施設内で実習指導者のもと実施する

7　評　　価　　方　　法

臨地臨床実習・発表会等の出席参加状況、実習記録、実習態度から総合的に評価する

8　参　　考　　文　　献

老年保健看護学概論・各論・演習での講義資料を参照すること

9　学生へのメッセージ

臨地臨床実習で求められている学生としての本質を念頭に、どのような姿勢で実習に臨むべきであるのか十分に考えて参加してください。また、多様な特性を持つ高齢者と交流するにあたって留意しなければならないことは何なのか、高齢者にとって受け入れやすい若輩者とはどのような姿であるのかについても十分に考えた上で実習に参加してください。

10　主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

准　教　授　　荻　田　美穂子　（臨床看護学講座）
特 任 助 教　　金　丸　恭　子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　２単位

3　学　　修　　目　　標

１．実習目的
　これまでに受講した老年保健看護学で修得した知識・技術を統合して老年看護過程を展開し、看護実践を通して老年看護の基礎的な臨床能力を身に付ける。

２．実習目標
１）受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性に関する情報を収集することができる
２）加齢や老化促進が高齢者の機能に及ぼす影響をアセスメントすることができる
３）残存機能や今後改善する見込みを考慮した具体的な看護目標設定ができる。また、患者本人または家族の顕在的・潜在的な希望に沿った価値ある目標設定ができる
４）残存機能の活用や機能維持・改善を意図した介助を実践することができる
５）療養・退院支援における他職種との連携状況を把握し、医療チーム内での看護職の役割を理解することができる
６）実習を通して老年看護観を語ることができる

4　授　　業　　概　　要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5　授　　業　　内　　容

１．実習期間
　実習ローテーションで配置された２週間（土日祝日を除く）
２．実習場所
　滋賀医科大学医学部附属病院　２D病棟（整形外科・泌尿器科）
　　６C病棟（糖尿病内分泌内科・腎臓内科・脳神経内科・放射線科）
３．実習内容（概要）
１）入院中高齢患者を原則１名受け持つ。
２）受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性を適切に把握し、入院中・退院後に生じている（もしくは生じ得る）看護上の問題を明らかにし、看護計画を立案し、看護介入する。
３）カンファレンスを通して受け持ち患者への看護展開に対してグループで検討するとともに、受け持ち患者以外の事例展開を共有することで自身の老年看護の質を高める。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

臨床実習は滋賀医科大学医学部附属病院の指定された病棟で教員及び実習指導者の指導のもと実施する

7　評　　価　　方　　法

老年看護過程の展開状況、実習記録、実習態度から総合的に評価する

8　参　　考　　文　　献

老年保健看護学議論・各論での講義資料を参照すること

9　学生へのメッセージ

臨床実習で求められている学生としての姿勢で実習に臨んでください。
また、高齢者の全体像を捉えるための方法論や看護展開方法を事前に十分学習し、円滑な看護展開が行えるよう努めてください。

10　主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学実習

1　担　当　教　員　名

教　　授　河　村　奈美子　（臨床看護学講座）
助　　教　坂　本　真　優　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

目的：精神を障害された個人およびその家族を理解し、精神の健康の回復に向けた治療的な関わりができる基礎的な能力を養う。
目標：１．精神障がい者をありのままに理解することができる。
２．精神障がい者と治療的患者―看護師関係を構築することができる。
３．対象の個別性にあった看護過程を展開することができる。
４．精神医療における看護の役割・機能を理解することができる。
５．看護学生として、治療チームの一員として責任ある行動や主体的な学習態度をとることができる。

4　授　業　概　要

詳細については実習要項をよく読んでおくこと。
実習期間中の日々の準備学習として実習における記録物の作成が求められる。

5　授　業　内　容

実習施設：滋賀医科大学医学部附属病院１C病棟／滋賀県立精神医療センター
実習方法：各施設において１名の入院患者を受け持ち、自我構造やオレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用いて、対象を理解し、必要な援助について学ぶ。
その他、詳細については実習要項を参照する。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

受け持つ患者の疾患や重症度などについては、実習施設や病棟により異なることがある。

7　評　価　方　法

２/３以上の出席があることを評価の対象とします。実習内容（記録物の提出状況やカンファレンスにおける発言、患者との関わりや実習に臨む際の態度、実習記録の内容）を評価表の項目に基づき客観的に評価する。60％以上を合格とする。

8　テ　キ　ス　ト

講義で使用したテキスト

9　参　考　文　献

参考文献：講義資料や、これまでの学習で用いた資料。その他参考文献は適宜提示します。

10　オフィスアワー（授業相談）

電話やメールによる事前連絡の上で、時間調整することを前提に随時対応します。

11　学生へのメッセージ

臨床における実践的な実習ではさまざまな不安や困難に遭遇すると思いますが、遠慮なく教員や指導者に相談し、適宜アドバイスをもらうことが大切になります。
また、精神科病棟は他の診療科の病棟とは異なり「精神保健福祉法」に基づく多くの規制があるため、オリエンテーションの内容に留意し、それらを遵守することが重要です。

12　授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13　参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14　主担当教員の実務経験

看護師

在 宅 看 護 学 実 習

1　担 当 教 員 名

教　　授　辻村　　真由子（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津田　　知　子（公衆衛生看護学講座）

2　配 当 学 年 等

第４学年　前期　２単位

3　学　修　目　標

1　在宅療養者とその家族への支援について、実践活動をしている訪問看護師から具体的に学ぶ。
2　在宅療養者とその家族を対象として看護過程を展開し、看護師に求められる態度、知識、技術について理解する。
3　訪問看護を取り巻く社会資源（フォーマル・サービスとインフォーマル・サポート）との連携のあり方について学ぶ。
4　訪問看護ステーションの法的基盤と運営の現状と課題を知り、考察を深める。

4　授　業　概　要

在宅療養者とその家族への在宅療養における看護の特徴及び看護師に必要な専門的知識と技能について理解する。また、地域ケアシステムの中で看護の果たす役割について学ぶ。

5　授　業　内　容

詳細は実習要項参照。滋賀県一円の訪問看護ステーションにおいて実習する。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

7　評　価　方　法

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって総合的に評価する。

8　参　考　文　献

・石垣和子、上野まり編：看護学テキストNiCE在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，改訂第２版，南江堂，2017.
・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き.
・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第２版，メヂカルフレンド社，2018.
・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第４版，メヂカルフレンド社、2021.
そのほか、授業中に適宜提示する。

9　学生へのメッセージ

・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。
・実習前に在宅看護学概論、在宅看護学各論、在宅看護学演習での学習内容について復習しておくこと。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

統 合 看 護 学 実 習

1 担 当 教 員 名

教　　授　宮 松 直 美（臨床看護学講座）
助　　教　川 原 瑞 希（臨床看護学講座）
助　　手　清 原 麻衣子（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第４学年　前期　２単位

3 学 修 目 標

1．看護管理の基礎となる組織管理、リーダーシップ等の諸理論を理解する。
2．看護管理実践を見学し、組織とシステムを理解して、看護の質を維持・向上させる看護管理の意義と役割を学ぶ。
3．さらに、医療における危機管理や、看護倫理、他部門とのコーディネートの必要性を学ぶ。
4．複数の患者を受け持つ看護スタッフに同行し、ケアの優先性の判断、他の看護職や他職種との連携、ケアの継続性等、看護のメンバーシップと役割を理解する。
5．看護管理者や看護スタッフの看護観や言動の意味を理解し、自己の人間的成長と看護観の育成を図る。
6．看護学を学ぶ者として必要な今後の自己の学習課題を明確にする。

4 授 業 概 要

看護管理、複数患者の看護、メンバーシップ等の見学実習を通して、看護サービスを効果的・効率的・継続的に提供する看護システムと機能を理解し、看護実践に参画する能力を育成することを実習目的とする。

5 授 業 内 容

以下、『実習要項』中の『統合看護学実習』参照

6 授業形式・授業形態

実習

7 評 価 方 法

実習記録（60%）、実習内容・実習への積極性（20%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。

8 参 考 文 献

必要時に適宜提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）
場所：509号室、516号室（看護学科棟５階）

10 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

看護師

地域医療展開論実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　辻　村　真由子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　津　田　知　子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　前期　３単位

3　学　修　目　標

1　訪問看護利用者を受け持ち、看護過程を主体的に展開できる。
2　訪問看護ステーションの看護職者等とともに活動し、また、退院前カンファレンス、サービス担当者会議、地域ケア会議等に参加することによって、訪問看護利用者を支える多職種連携のあり方について学ぶ。
3　訪問看護ステーションの管理者と活動を共にして看護管理の実際を見学し、組織の運営および、地域のニーズを反映した活動について学ぶ。
4　地域診断と看護活動を通じて、実習地域の地域医療の現状と課題について、考察を深める。

4　授　業　概　要

訪問看護ステーションの管理者やスタッフの活動に同行することを通して訪問看護ステーションの機能について理解を深めるとともに、療養者やその家族に提供される疾患や重症度、社会経済的背景や希望に応じた看護活動の実習を通して、在宅療養支援の特質と訪問看護に求められる専門性を踏まえ、個別支援計画を立案できる。

5　授　業　内　容

詳細は実習要項参照。市街県内の訪問看護ステーションを中心に実習する。

6　授業形式・授業形態

実習前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

7　評　価　方　法

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90％）、受講態度（10％）によって総合的に評価する。

8　参　考　文　献

・石垣和子、上野まり編：看護学テキストNiCE在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，改訂第２版，南江堂，2017.
・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き.
・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第２版，メヂカルフレンド社，2018.
・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第４版，メヂカルフレンド社、2021.
そのほか、授業中に適宜提示する。

9　学生へのメッセージ

・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。

10　オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村／津田：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11　主担当教員の実務経験

看護師、保健師

公衆衛生看護学実習Ⅰ

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年・編入第３学年　前期　４単位

3　学　修　目　標

地域特性や地域住民の生活を理解し、地域住民の健康の維持・増進を目指した公衆衛生看護活動を主体的に実践する基礎的能力を養う。

4　授　業　概　要

1．保健所・市町・中核市で行われている地域保健活動の課題や強みについて根拠を用いて説明することができる。
2．公衆衛生看護過程の展開に必要な計画の立案と保健師に求められる役割が説明できる。
3．個人・家族・集団の健康ニーズにそった公衆衛生看護活動の実際とその成り立ちについて説明することができる。
4．公的責任のもとで行われる保健活動の意義や特徴について説明することができる。
5．グループ実習においてグループダイナミックスの学びを深める。

5　授　業　内　容

詳細は実習要項を参照

6　授業形式・視聴覚機器の活用

COVID-19の流行状況によって、適宜実習方法や内容を変更する可能性がある。

7　評　価　方　法

課題の達成状況（85％）、平常点（受講態度、記録物提出）（15％）。

8　オフィスアワー（授業相談）

履修に関する相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

9　学生へのメッセージ

実習期間中は移動の負担もありますので体調管理と安全面に気をつけてください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護学実習Ⅱ

1　担　当　教　員　名

教　　授　伊　藤　美樹子　（公衆衛生看護学講座）
助　　教　田　渕　紗也香　（公衆衛生看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年・編入第３学年　通年　１単位

3　学　　修　　目　　標

産業保健における健康題を把握し、その展開方法を学ぶとともに、産業保健師の役割・機能を理解する。

4　授　　業　　概　　要

1．産業保健における特徴的な健康 題及び、労働衛生管理方法の実際を知り、その意義について理解を深めることが出来る。
2．健康と労働の調和の視点から、対象事業場の健康課題について考えることができる。
3．産業保健における健康診断、健康相談 、健康教育等の活動方法を説明できる。
4．産業保健と地域保健との連携についての意義と効果、課題について説明できる。
5．産業保健における保健師の位置づけや職務の実際について知り、体験から得られた情報の資料化と既存資料の分析を通じて、その役割・機能を理解する。

5　授　　業　　内　　容

実習要項を参照のこと。

6　授業形式・視聴覚機器の活用

COVID-19の流行状況及び実習施設の状況によって、実習内容を適宜変更する。

7　評　　価　　方　　法

課題の達成状況（85％）、平常点（受講態度、記録物提出）（15％）。

8　オフィスアワー（授業相談）

相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

9　学生へのメッセージ

実習期間中は移動の負担もありますので体調管理と安全面に気をつけてください。

10　主担当教員の実務経験

保健師

助産診断・技術学Ⅱ

1　担当教員名

講　　師　土川　　祥（臨床看護学講座）
教　　授　立岡弓子（臨床看護学講座）
教　　授　喜多伸幸（臨床看護学講座）
助　　教　舘下麻美（臨床看護学講座）
助　　教　宮武美佳（臨床看護学講座）
講師(学内)　柳　　貴英（小児科）
特任助手　大江良子（臨床看護学講座）

2　配当学年等

第４学年　前期　２単位

3　学修目標

分娩期・新生児期における助産診断・技術を学ぶ。
分娩期・新生児期に必要なアセスメントの視点と助産ケアを学ぶ。
分娩介助技術を習得する。
妊娠期に必要な健康教育を学ぶ。
妊娠期・産褥期に必要な保健指導を学ぶ。

4　授業概要

分娩介助と新生児ケアを通して分娩期・新生児期における助産診断・技術を教授する。
分娩期・新生児期における事例のアセスメントと診断を行い、助産ケアについて考える。
妊娠期の母親（両親）教室を企画し、ロールプレイを行う。
妊娠期・産褥期の事例をアセスメントし、必要な保健指導をロールプレイにて行う。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）
・各回の演習までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと
・技術演習に関する動画をwebclassで視聴し、予習復習に取り組むこと
・演習後、自己学習をしてください（講義回数16回×90分程度）
・特に分娩介助技術は、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5　授業内容

1．分娩期・新生児期の助産診断と技術
2．保健指導・健康教育に関する援助技術

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　目	内　容	教室
第１回	令和４年４月４日㈪	2	土川、舘下 宮武、大江	新生児訪問	新生児訪問の方法とロールプレイ	看実
第２回	令和４年４月４日㈪	3	〃	分娩介助	分娩室の整備・薬品の管理、清潔物品の準備	看実
第３回	令和４年４月４日㈪	4	〃	分娩介助	分娩室の整備・薬品の管理、清潔物品の準備	看実
第４回	令和４年４月５日㈫	2	立　岡	臍帯血の評価	臍帯血の採取・評価、早期母児接触	看実
第５回	令和４年４月５日㈫	3	喜　多	骨盤位分娩 麻酔分娩	・ファイトスメリー法 ・Bracht法 ・硬膜外麻酔分娩 ・バランス麻酔	看実
第６回	令和４年４月６日㈬	2	土川、舘下 宮武、大江	分娩期事例	初期診断・助産計画立案、場面ごとの助産診断	看実
第７回	令和４年４月６日㈬	3	土川、立岡 喜多、舘下 宮武、大江	分娩介助	分娩介助デモンストレーション	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項　　目	内　　容	教室
第８回	令和４年４月７日㈭	2	土川、舘下 宮武、大江	分娩介助	肛門保護と会陰保護、児娩出	看実
第９回	令和４年４月７日㈭	3	〃	分娩介助	臍帯血採取、臍帯切断、胎盤娩出、創部観察	看実
第10回	令和４年４月８日㈮	2	〃	妊娠期の健康教育	出産準備教育の保健指導案作成	看実
第11回	令和４年４月11日㈪	2	〃	分娩介助	清潔野作成～創部観察までのケア	看実
第12回	令和４年４月11日㈪	3	柳、立岡 土川、舘下 宮武、大江	分娩介助	人工破膜、導尿、胎盤・出血量計測、 分娩後２時間までのケア	看実
第13回	令和４年４月11日㈪	4	土川、舘下 宮武、大江	分娩介助	分娩後２時間までのケア （恥骨離開、血腫形成）、帰室	看実
第14回	令和４年４月13日㈬	2	土川、柳 舘下、宮武 大江	新生児蘇生法	NCPRの実践	看実
第15回	令和４年４月13日㈬	3	土川、喜多 舘下、宮武 大江	出生直後の 新生児ケア	NCPR一連、児受け	看実
第16回	令和４年４月14日㈭	2	土川、舘下 宮武、大江	分娩介助	新生児ケア （New Ballard法、新生児の保育器管理、ハイリスク新生児管理）	看実
第17回	令和４年４月15日㈮	2	土川、舘下 宮武	分娩介助技術	分娩介助技術練習	看実
第18回	令和４年４月18日㈪	2	土川、大江	妊娠期の保健指導	GDMに対する保健指導ロールプレイ	看実
第19回	令和４年４月18日㈪	3	土川、舘下 宮武、大江	妊娠期・産褥期の 保健指導	保健指導案・媒体作成	看実
第20回	令和４年４月18日㈪	4	〃	妊娠期・産褥期の 保健指導	保健指導のロールプレイ	看実
第21回	令和４年４月19日㈫	3	土川、舘下	妊娠期の健康教育	出産準備教育の保健指導案・媒体作成	看実
第22回	令和４年４月20日㈬	4	土川、舘下 宮武、大江	分娩期の事例	事例の助産診断発表	看実
第23回	令和４年４月20日㈬	5	〃	分娩期の事例	事例の助産診断発表	看実
第24回	令和４年４月22日㈮	4	〃	妊娠期の健康教育	出産準備教育のロールプレイ	看実
第25回	令和４年４月22日㈮	5	〃	妊娠期の健康教育	出産準備教室のロールプレイ	看実
第26回	令和４年４月25日㈪	1	〃	技術試験	分娩介助技術試験	看実
第27回	令和４年４月25日㈪	2	〃	技術試験	分娩介助技術試験	看実
第28回	令和４年４月25日㈪	3	〃	技術試験	分娩介助技術試験	看実
第29回	令和４年４月26日㈫	1	〃	筆記試験	総合試験	看実
第30回	令和４年４月26日㈫	2	土川、立岡 喜多、舘下 宮武、大江	筆記試験	総合試験	看実

6　授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式、演習形式、グループワークの形式を取る。
スライド・DVDなど適宜使用する。

7　評　価　方　法

演習終了後に分娩介助の技術試験を実施する。
ロールプレイ20％、筆記試験50％、技術試験20％、グループワークや演習への取り組む姿勢10%により評価する。
全回出席を前提とする。
やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

8　テ　キ　ス　ト

仁志田博司著；新生児学入門　第５版，医学書院，2018.
立岡弓子編：周産期ケアマニュアル　第２版，サイオ出版，2014.
北川眞理子他編：今日の助産　改訂第３版，南江堂，2013.

9　参　考　文　献

細野茂春監修：新生児蘇生法テキスト　改訂第３版，メジカルビュー，2016.
これまで学習した助産師課程の講義資料

10　オフィスアワー（授業相談）

講義日は18時ごろまでいます。技術の自主練習をしたい場合は声をかけてください。

11　学生へのメッセージ

みなさんがこれから分娩介助の実践ができるように、予習復習を行い授業に臨んでください。
助産実習でより学びを深められるよう基礎的な知識技術を習得していきましょう。

12　授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

13　主担当教員の実務経験

大学病院産婦人科病棟にて臨床経験11年の助産師

助 産 学 実 習

1 担 当 教 員 名

教　　授　立 岡 弓 子（臨床看護学講座）
教　　授　喜 多 伸 幸（臨床看護学講座）
講　　師　土 川　　祥（臨床看護学講座）
助　　教　中 井 抄 子（臨床看護学講座）
助　　教　井 谷 芙 雪（臨床看護学講座）
助　　教　舘 下 麻 美（臨床看護学講座）
助　　教　宮 武 美 佳（臨床看護学講座）
特任助手　大 江 良 子（臨床看護学講座）

2 配 当 学 年 等

第４学年　前期　６単位

3 学 修 目 標

1．妊産褥婦と胎児・新生児、及びその家族の生理的な変化と対象の特性を理解することができる。
2．分娩期にある対象のフィジカルアセスメントから分娩経過診断、健康生活診断を行い、統合的助産診断を展開した上で、助産ケアを実践することができる。
3．母体と胎児の生理的機能を促進しながら、安全、安寧な分娩介助を実践することができる。
4．分娩後の母体の生理的年化について、産褥早期を中心とした助産診断過程を展開し、必要な助産ケアを実施することができる。
5．新生児の特性を理解し、出生直後の新生児の胎外生活適応状態を診断しながら、健康状態を維持するためのケアが実践できる。
6．助産師の業務範囲と義務、法的責任を理解した上で、助産業務管理の実際について理解することができる。

4 授 業 概 要

助産ケアの主たる対象となる妊産褥婦と胎児・新生児、及びその家族の特性を理解し、助産診断に基づいた適切な助産ケアの提供と分娩介助を実践するための基本的な能力を養う。

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評 価 方 法

1．妊娠期の助産診断過程　20％
2．分娩期の経過過程　　20％
3．分娩介助技術　　40％
4．産褥期の助産診断　　10％
5．助産師の役割と業務・周産期医療現場への関心　５％
6．実習態度　　５％

7 参 考 文 献

本学助産師課程にてオリジナルで作成した分娩介助マニュアルを参考書として活用してください。

8 学生へのメッセージ

助産師を志し、選抜試験に合格したのち約１年半の学内で履修した講義と演習内容の集大成して、いよいよ分娩介助技術演習に臨みます。１件１件の分娩経過は異なりますが、産婦（母親）と胎児の大切な２つの命を守り安全で安寧な分娩となるよう、助産学生として精一杯の関わりをしていきましょう。
人の誕生に添える、とても貴重な実習です。
臨床経験が豊富な教員が、しっかりと指導・教育にあたります。

9 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

10 主担当教員の実務経験

助産婦の実務経験（大学病院　産科単科病院　産科クリニック）があります。また、SAME（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

マタニティサイクル支援実習

1　担　当　教　員　名

教　　授　立　岡　弓　子　（臨床看護学講座）
講　　師　土　川　　祥　（臨床看護学講座）
助　　教　舘　下　麻　美　（臨床看護学講座）
助　　教　宮　武　美　佳　（臨床看護学講座）
特任助手　大　江　良　子　（臨床看護学講座）

2　配　当　学　年　等

第４学年　通年　２単位

3　学　　修　　目　　標

1．妊娠末期から産後１ヵ月にかけて１母子を受け持ち、経過に応じた継続的な助産診断とケアを実践することができる。
2．継続事例の経過や生活を総括的にアセスメントし、対象に必要な保健指導を実践できる。
3．妊婦とその家族を対象とした出産準備教育を実践できる。
4．地域で子育てをする母親とその家族のニーズを理解し、対象への支援と助産師としての役割を理解することができる。

4　授　　業　　概　　要

1．継続事例実習：助産学実習を行う施設の産科外来でローリスクの初産婦を受け持ち、妊婦健診の見学・実施と保健指導、分娩介助、産褥・生後入院時ケア、退院後のフォローアップ、１ヶ月健診の実施と保健指導を行う。
2．出産準備教育の見学と実施：市町村や協力医療機関内で実施されている出産準備教育、卒業した助産学生が実施した出産準備教育を見学した後、同医療機関内での教室を企画立案、実施し、評価する。
3．子育て支援実習：新生児訪問事業、乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）、および子育て支援団体（自助サークルやNPOなど）が行う事業を見学する。

5　授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6　評　　価　　方　　法

継続事例の事例記録（50%）、継続事例以外の実習記録（10%）、妊娠期集団指導の展開（30%）、実習態度（10%）

7　参　　考　　文　　献

講義にて使用した資料、教科書、および参考書

8　学生へのメッセージ

継続事例実習では、妊娠期から産後・生後１ヶ月までの対象を継続的に受け持ち、深く関わらせて頂きます。対象が肯定的な出産体験をされ、母親として成長し育児を楽しまれるよう、個別性を十分に踏まえた助産ケアを提供していきましょう。
出産準備教育では、今まで学んできたことをもとに、対象のセルフケア能力の査定を行い、みなさんオリジナルのものを考案し、対象の妊婦さんへ必要な情報が届くようにしましょう。

9　授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

10　主担当教員の実務経験

大学病院にて臨床経験11年の助産師

ウィメンズヘルス実習

1　担当教員名

教　　授　立岡弓子（臨床看護学講座）
教　　授　喜多伸幸（臨床看護学講座）
講　　師　土川　祥（臨床看護学講座）
助　　教　舘下麻美（臨床看護学講座）
助　　教　宮武美佳（臨床看護学講座）
特任助手　大江良子（臨床看護学講座）

2　配当学年等

第４学年　前期　１単位

3　学修目標

1．思春期の健康問題とニーズを把握し、健康教育の理論を用いて集団を対象とした健康教育を企画することができる。
2．思春期を対象としたプレコンセプショナルヘルス・ケアの概念を取り入れた健康教育を通して、効果的な健康教育の実践を理解することができる。
3．乳腺外来を受診する女性の診療を通して、対象の健康問題と必要なケアについて理解することができる。
4．妊孕外来において治療を受ける女性とその家族の身体的･精神的状態を把握し、助産師としての役割について理解することができる。
5．各ライフステージにある女性の健康問題を理解し、助産師としての支援について考えることができる。

4　授業概要

1．思春期の性に関する健康問題とニーズを把握し、健康教育の理論を用いて集団を対象とした健康教育を企画する。また、思春期を対象としたコンセプショナルヘルス・ケアの概念を取り入れた健康教育を通して、効果的な健康教育の実践を学ぶ。
2．乳腺外来を受診する女性の診療を通して、対象の健康問題と必要なケアについて考える。
3．生殖補助医療の実際を学び、治療を受ける女性とその家族の身体的・精神的状態を把握し、助産師としての役割について学ぶ。
4．各ライフステージにある女性の健康問題と助産師としての支援について学ぶ。
（詳細は実習要項参照）

5　授業内容

1．思春期を対象とした性教育の見学、企画、実施
2．乳腺外来、妊孕外来での実習

6　授業計画表

ウイメンズヘルス実習

7　授業形式・視聴覚機器の活用

産婦人科妊孕外来、乳腺外科外来、高等学校での集団健康診断指導を経験します。

8　評価方法

学生の自己評価・教員評価から行う。
思春期の健康教育企画・実施（50%）、妊孕外来、乳腺外科での学び（40%）、実習態度（10%）

8　参考文献

ユネスコ編；国際セクシャリティー教育ガイダンス　科学的根拠に基づいたアプローチ、明石書店、2020.
公益社団法人日本助産師会；助産師による思春期の健康教育、日本助産師会、2020.

9　オフィスアワー（授業相談）

健康教育の企画に際し、グループワークも取り入れていますので、適宜相談に応じます。

10　学生へのメッセージ

女性のライフステージにおける健康課題への解決に、助産師学生としてどのように取り組むか、ピアエデュケーターとしての役割を理解しながら、女性の発達課題に合わせて具体的でわかりやすい集団指導方法を実践できる貴重な学習機会です。
これまでの卒業した助産学生たちも“やってよかった”と、達成感でいっぱいの気持ちで学修できています。
意欲的に取り組める助産師課程のひとつの実習です。

11　授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

12　主担当教員の実務経験

助産婦の実務経験（大学病院　産科単科病院　産科クリニック）があります。また、SAME（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。